木古内町（きこないちょう）

幸連５遺跡（こうれんいせき）

―高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―

第２分冊

遺構（東側）編

令和４年度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

木古内町（きこないちょう）

幸連５遺跡（こうれん　いせき）

―高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―

第２分冊

遺構（東側）編

令和４年度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

目　　次

【第２分冊】遺構編

目　次

Ⅵ　幸連５遺跡の東側遺構群

1　東側遺構群の概要 1

2　盛土遺構 9

3　竪穴住居跡 39

4　フラスコ状土坑 133

5　柱穴状およびその他の土坑 160

6　焼　土 177

報告書抄録

挿図目次

図Ⅵ-1　東側遺構群位置図 …… 2

図Ⅵ-2　東側遺構群竪穴住居跡位置図 …… 3

図Ⅵ-3　東側遺構群竪穴住居跡位置図(等高線あり) …… 4

図Ⅵ-4　東側遺構群フラスコ状土坑位置図 …… 5

図Ⅵ-5　東側遺構群柱穴状土坑位置図 …… 6

図Ⅵ-6　東側遺構群その他の土坑位置図 …… 7

図Ⅵ-7　東側遺構群焼土位置図 …… 8

図Ⅵ-8　H-6(1) …… 39

図Ⅵ-9　H-6(2) …… 40

図Ⅵ-10　H-6(3) …… 41

図Ⅵ-11　H-6(4) …… 42

図Ⅵ-12　H-6(5) …… 43

図Ⅵ-13　H-7･50(1) …… 44

図Ⅵ-14　H-7･50(2) …… 45

図Ⅵ-15　H-7･50(3) …… 46

図Ⅵ-16　H-13 …… 47

図Ⅵ-17　H-14(1) …… 48

図Ⅵ-18　H-14(2) …… 49

図Ⅵ-19　H-14(3) …… 50

図Ⅵ-20　H-14(4) …… 51

図Ⅵ-21　H-14(5) …… 52

図Ⅵ-22　H-14(6) …… 53

図Ⅵ-23　H-14(7) …… 54

図Ⅵ-24　H-15A･B(1) …… 55

図Ⅵ-25　H-15A･B(2) …… 56

図Ⅵ-26　H-15A･B(3) …… 57

図Ⅵ-27　H-15A･B(4) …… 58

図Ⅵ-28　H-20(1) …… 59

図Ⅵ-29　H-20(2) …… 60

図Ⅵ-30　H-21(1) …… 61

図Ⅵ-31　H-21(2) …… 62

図Ⅵ-32　H-21(3) …… 63

図Ⅵ-33　H-21(4) …… 64

図Ⅵ-34　H-21(5) …… 65

図Ⅵ-35　H-22 …… 66

図Ⅵ-36　H-62(1) …… 67

図VI-37 H-62(2) …… 68
図VI-38 H-27(1) …… 69
図VI-39 H-27(2) …… 70
図VI-40 H-27(3) …… 71
図VI-41 H-28(1) …… 72
図VI-42 H-28(2) …… 73
図VI-43 H-36(1) …… 74
図VI-44 H-36(2)・H-37 …… 75
図VI-45 H-41 …… 76
図VI-46 H-42 …… 77
図VI-47 H-44(1) …… 78
図VI-48 H-44(2) …… 79
図VI-49 H-46・H-47(1) …… 80
図VI-50 H-47(2) …… 81
図VI-51 H-51 …… 82
図VI-52 H-52 …… 83
図VI-53 H-53 …… 84
図VI-54 H-59(1) …… 85
図VI-55 H-59(2) …… 86
図VI-56 H-63(1) …… 87
図VI-57 H-63(2) …… 88
図VI-58 H-74 …… 89
図VI-59 H-78 …… 90
図VI-61 H-79(2) …… 92
図VI-62 H-83 …… 93
図VI-63 H-84 …… 94
図VI-64 H-88 …… 95
図VI-65 H-89A・B(1) …… 96
図VI-66 H-89A・B(2) …… 97
図VI-67 H-89A・B(3) …… 98
図VI-68 H-89A・B(4) …… 99
図VI-69 H-90 …… 100
図VI-70 H-93 …… 101
図VI-71 H-94・H-95・H-98 …… 102
図VI-72 H-101・H-102 …… 103
図VI-73 H-103(1) …… 104
図VI-74 H-103(2) …… 105
図VI-75 H-104・H-105 …… 106
図VI-76 H-106 …… 107
図VI-77 H-107・H-111 …… 108
図VI-78 H-108(1) …… 109
図VI-79 H-108(2) …… 110
図VI-80 H-108(3) …… 111
図VI-81 H-113・114 …… 112
図VI-82 H-123 …… 113
図VI-83 H-125(1) …… 114
図VI-84 H-125(2) …… 115
図VI-85 H-125(3) …… 116
図VI-86 H-125(4) …… 117
図VI-87 H-125(5) …… 118
図VI-88 H-129 …… 119
図VI-89 H-130 …… 120
図VI-90 H-132 …… 121
図VI-91 H-133(1) …… 122
図VI-92 H-133(2) …… 123
図VI-93 H-133(3) …… 124
図VI-94 H-134(1) …… 125
図VI-95 H-134(2) …… 126
図VI-96 H-134(3) …… 127
図VI-97 H-137 …… 128
図VI-98 H-138 …… 129
図VI-99 H-140(1) …… 130
図VI-100 H-140(2) …… 131
図VI-101 H-141 …… 132
図VI-102 P-1 …… 181
図VI-103 P-2・P-9 …… 182

図Ⅵ-104　P-15 …… 183
図Ⅵ-105　P-16 …… 184
図Ⅵ-106　P-22 …… 185
図Ⅵ-107　P-24 …… 186
図Ⅵ-108　P-25(1) …… 187
図Ⅵ-109　P-25(2)・P-40 …… 188
図Ⅵ-110　P-109・P-111(1) …… 189
図Ⅵ-111　P-111(2)・P-117・P-119(1) …… 190
図Ⅵ-112　P-119(2)・P-124・P-126 …… 191
図Ⅵ-113　P-130(1) …… 192
図Ⅵ-114　P-130(2) …… 193
図Ⅵ-115　P-131・P-148 …… 194
図Ⅵ-116　P-160 …… 195
図Ⅵ-117　P-161 …… 196
図Ⅵ-118　P-167・P-171 …… 197
図Ⅵ-119　P-172・P-174 …… 198
図Ⅵ-120　P-186 …… 199
図Ⅵ-121　P-192・P-196 …… 200
図Ⅵ-122　P-198・P-199 …… 201
図Ⅵ-123　P-200・P-204 …… 202
図Ⅵ-124　P-209 …… 203
図Ⅵ-125　P-210・P-211 …… 204
図Ⅵ-126　P-213・P-217 …… 205
図Ⅵ-127　P-218・P-220 …… 206
図Ⅵ-128　P-227・P-228 …… 207
図Ⅵ-129　P-229・P-231 …… 208
図Ⅵ-130　P-232・P-233(1) …… 209
図Ⅵ-131　P-233(2) …… 210
図Ⅵ-132　P-241・P-242 …… 211
図Ⅵ-133　P-244・P-246 …… 212
図Ⅵ-134　P-248・P-261 …… 213
図Ⅵ-135　P-259 …… 214
図Ⅵ-136　P-267・P-276 …… 215
図Ⅵ-137　P-282・P-284・P-323(1) …… 216
図Ⅵ-138　P-323(2)・P-342・P-343 …… 217
図Ⅵ-139　P-351・P-352 …… 218
図Ⅵ-140　P-364・P-389 …… 219
図Ⅵ-141　P-403・P-404 …… 220
図Ⅵ-142　P-409・P-418 …… 221
図Ⅵ-143　P-413 …… 222
図Ⅵ-144　P-441 …… 223
図Ⅵ-145　P-442・P-444 …… 224
図Ⅵ-146　P-465・P-466 …… 225
図Ⅵ-147　P-475・P-477 …… 226
図Ⅵ-148　P-478・P-479 …… 227
図Ⅵ-149　P-482・P-488 …… 228
図Ⅵ-150　P-494・P-502 …… 229
図Ⅵ-151　P-505・P-506 …… 230
図Ⅵ-152　P-508 …… 231
図Ⅵ-153　P-511 …… 232
図Ⅵ-154　P-564 …… 233
図Ⅵ-155　P- 8・P-10・P-11 …… 234
図Ⅵ-156　P-17・P-21 …… 235
図Ⅵ-157　P-23・P-28 …… 236
図Ⅵ-158　P-29・P-32 …… 237
図Ⅵ-159　P-35・P-36 …… 238
図Ⅵ-160　P-39・P-50 …… 239
図Ⅵ-161　P-51・P-55 …… 240
図Ⅵ-162　P-61・P-62・P-90 …… 241
図Ⅵ-163　P-92・P-108 …… 242
図Ⅵ-164　P-110・P-116・P-118 …… 243
図Ⅵ-165　P-125・P-127・P-135 …… 244
図Ⅵ-166　P-141・P-152・P-153 …… 245
図Ⅵ-167　P-154・P-155 …… 246
図Ⅵ-168　P-168・P-170・P-175 …… 247
図Ⅵ-169　P-177・P-178・P-190 …… 248

図Ⅵ-170　P-193・P-195・P-201 …… 249
図Ⅵ-171　P-212・P-214・P-215 …… 250
図Ⅵ-172　P-216・P-219・P-221 …… 251
図Ⅵ-173　P-222・P-224・P-225 …… 252
図Ⅵ-174　P-230・P-236・P-243 …… 253
図Ⅵ-175　P-260・P-262・P-263 …… 254
図Ⅵ-176　P-269・P-270・P-271 …… 255
図Ⅵ-177　P-272・P-273・P-274 …… 256
図Ⅵ-178　P-359・P-360 …… 257
図Ⅵ-179　P-376・P-391 …… 258
図Ⅵ-180　P-472・P-597 …… 259
図Ⅵ-181　F-5・F-6 …… 260
図Ⅵ-182　F-7～9 …… 261
図Ⅵ-183　F-10～12 …… 262
図Ⅵ-184　F-14～17 …… 263
図Ⅵ-185　F-22・F-24 …… 264
図Ⅵ-186　F-26・F-27 …… 265

表　目　次

表Ⅵ-1　遺構集計表　1

図版目次

図版Ⅵ-1　東側遺構群俯瞰写真　266

Ⅵ　幸連５遺跡の東側遺構群

1　東側遺構群の概要

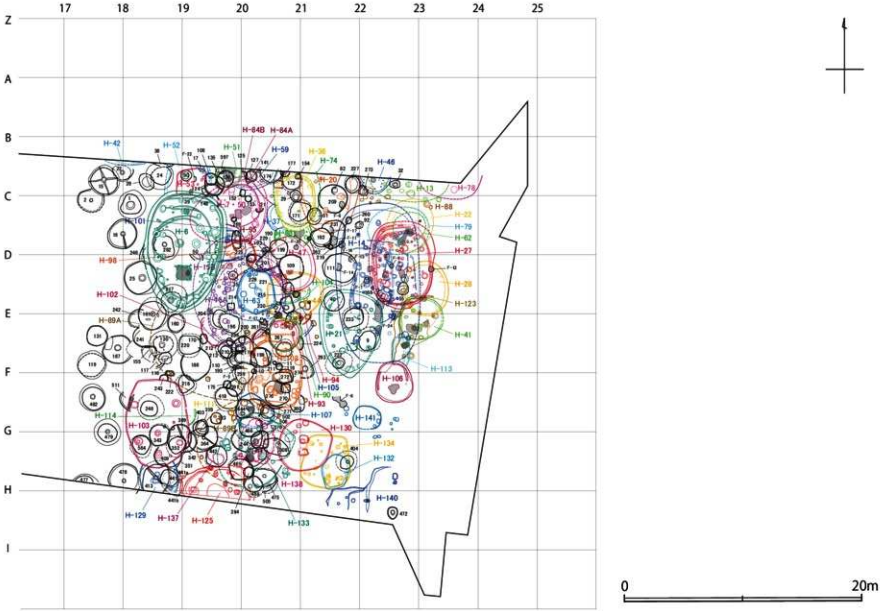
17 ラインから東側の調査範囲で検出した遺構群を東側遺構群として報告する。平成 28～令和元年度の４年間の調査で、東側調査区からは台地上の盛土遺構１条（東盛土）、斜面盛土層、竪穴住居跡 60 軒、土坑 152 基（うちフラスコ状土坑 85 基、柱穴状土坑 26 基、その他の土坑 41 基）、焼土 16 か所を検出した。時期は縄文時代前期後半～後期前葉のものである。時期別では前期後半（土坑 44 基）、前期後半～中期前葉（竪穴住居跡１軒、土坑 15 基）、前期後半～中期中葉（斜面盛土層、竪穴住居跡５軒、土坑 10 基、焼土２か所）、前期後半～中期後葉（竪穴住居跡２軒）、中期（土坑１基）、中期前葉（竪穴住居跡２軒、土坑 37 基）、中期前葉～中葉（竪穴住居跡６軒、土坑４基）、中期中葉（竪穴住居跡 12 軒、土坑 15 基、焼土２か所）、中期中葉～後葉（竪穴住居跡３軒）、中期中葉～後期前葉（土坑３基）、中期後葉（竪穴住居跡 26 軒、土坑 10 基、焼土３か所）、中期後葉～後期前葉（盛土遺構１条、土坑１基）、後期前葉（竪穴住居跡２軒、土坑 12 基、焼土８か所）、不明（竪穴住居跡１軒）となっている。また、B18・19 区で大型～中型の柱穴状土坑を検出している。西側遺構群で確認している後期前葉の掘立柱建物跡があった可能性がある。

東盛土は 20 ライン付近をピークに南北に土手状に形成されている。遺物は縄文時代中期後葉～後期前葉の遺物が出土している。斜面盛土層は調査区東側の斜面から東側の無名の沢に向かって堆積している。遺物は主に縄文時代前期後半～中期中葉の遺物が出土している。

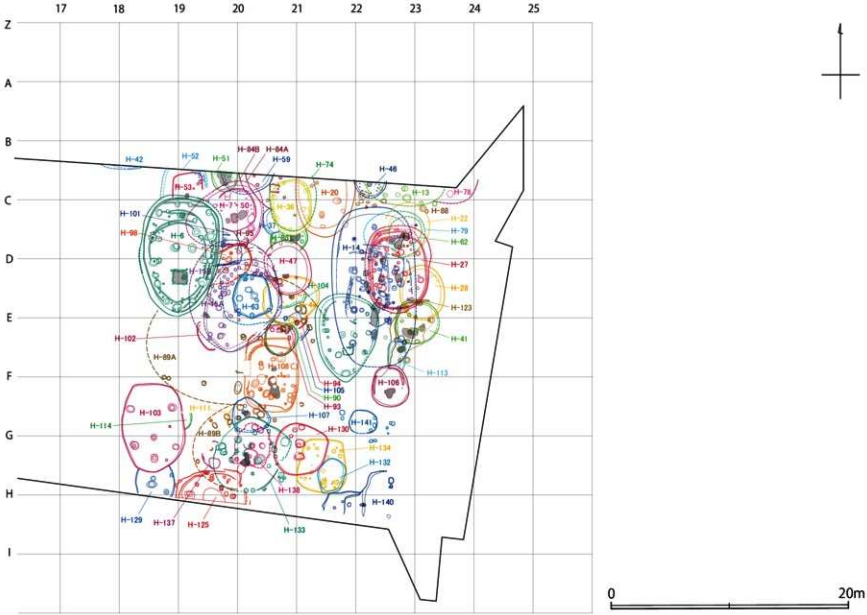
なお、各遺構の出土遺物については、土器・土製品は第３分冊、石器・石製品は第４分冊、動物遺存体・植物遺存体は第５分冊に記載している。（酒井）

表Ⅵ-１　遺構集計表

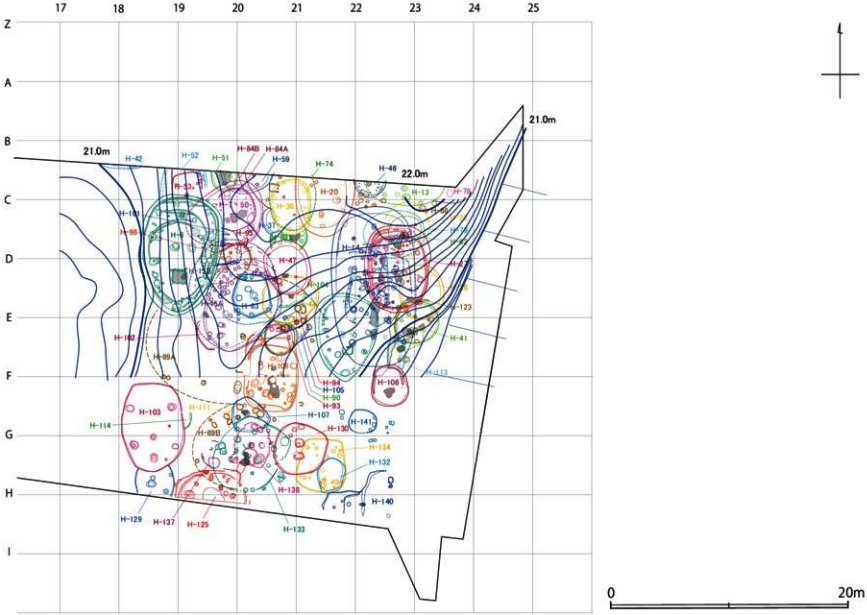
			前期後半	前期後半～中期前葉	前期後半～中期中葉	前期後半～中期後葉	前期～中期	前期後半～後期前葉	中期	中期前葉	中期前葉～中葉	中期中葉	中期中葉～後葉	中期中葉～後期前葉	中期後葉	中期後葉～後期前葉	後期前葉	近世並行期	近代	不明	合計
盛土遺構	西側	西盛土																			
	東側	東盛土																			
		斜面盛土																			
竪穴住居跡	西側						2		6	1	1	7	4		47	3	4				75
	東側			1	5	2				2	6	12	3		26		2			1	60
	小計			1	5	2	2		6	3	7	19	7		73	3	6			1	135
フラスコ状土坑	西側	大型	20	9						15	3	4			3	1					55
		中型	24	1	3					19					3						50
		小型	7		2	1				4	2	1	1								18
		不明	2		4	1				3											10
		小計	53	10	9	2				41	5	5	1		6	1					133
	東側	大型	27	5	1					9	2	1									45
		中型	10	3						18											31
		小型	1	1						3	1	2									8
		不明		1																	1
		小計	38	10	1					30	3	3									85
	小計		91	20	10	2				71	8	8	1		6	1					218
柱穴状土坑	西側	大型									1				4	9	2				16
		中型	7							1	7	3	24		10	12					64
		小型	2			1		2		21	41	4	34		14	6					125
		極小型								3	19	1	7		3	1					34
		小計	9			1		2		25	68	8	65		31	28	2				239
	東側	大型								1					1		3				5
		中型	1		2							3			3		6				15
		小型							1	1		2		2							6
		小計	1		2				1	2		5		2	4		9				26
	小計		10		2	1		2	1	27	68	13	65	2	35	28	11				265
その他の土坑	西側	大型			1			1							3						5
		中型	1	2						1			1		1						6
		小型	5		9	1		2		7	7	3	6		11	1					52
		不明		1																	1
		小計	6	3	10	1		3		8	7	3	7		15	1					64
	東側	大型			1					1											2
		中型			2					1		1			1		2				7
		小型	5	5	4					3	1	6		1	5	1	1				32
		小計	5	5	7					5	1	7		1	6	1	3				41
	小計		11	8	17	1		3		13	8	10	7	1	21	2	3				105
焼土	西側											6	2			20					28
	東側				2					1		2			3		8				16
	小計				2					1		8	2		3	20	8				44
小礫集中	西側														2	2					4
石棒ピット	西側												1								1
倒立土器	西側									2											2
畑跡	西側																	1	1		2
合計			112	29	36	6	2	5	7	117	91	58	83	3	140	56	28	1	1	1	776



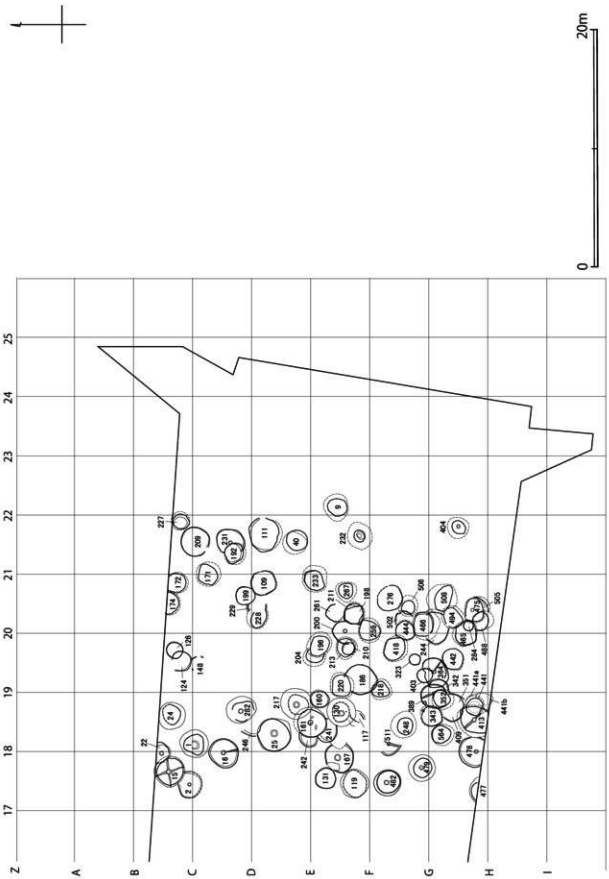
図Ⅵ-1　東側遺構群位置図



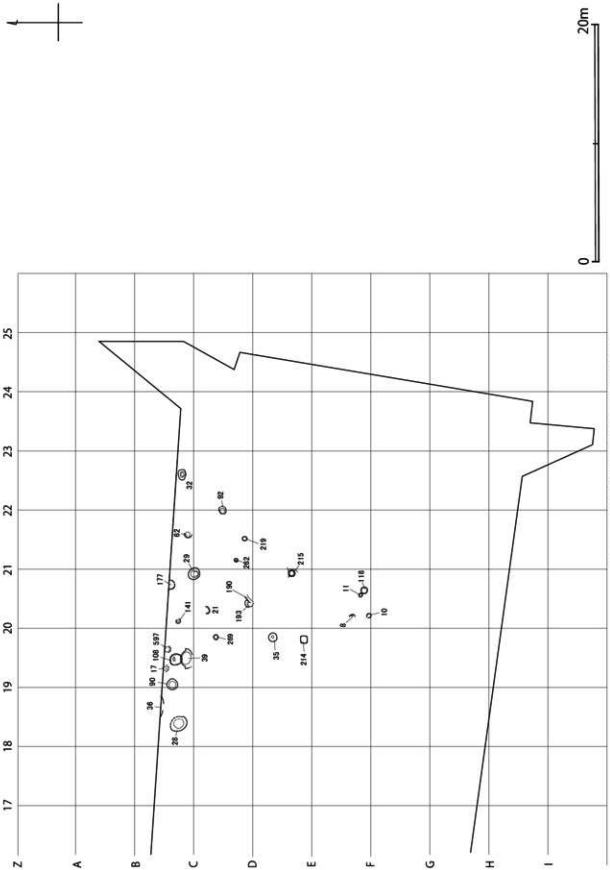
図Ⅵ-2 東側遺構群竪穴住居跡位置図



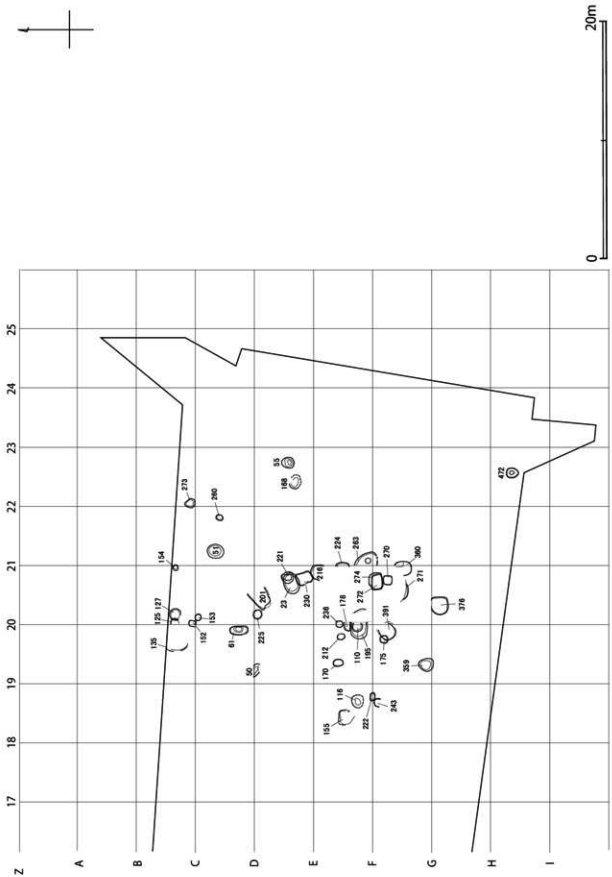
図Ⅵ-3　東側遺構群竪穴住居跡位置図（等高線あり）



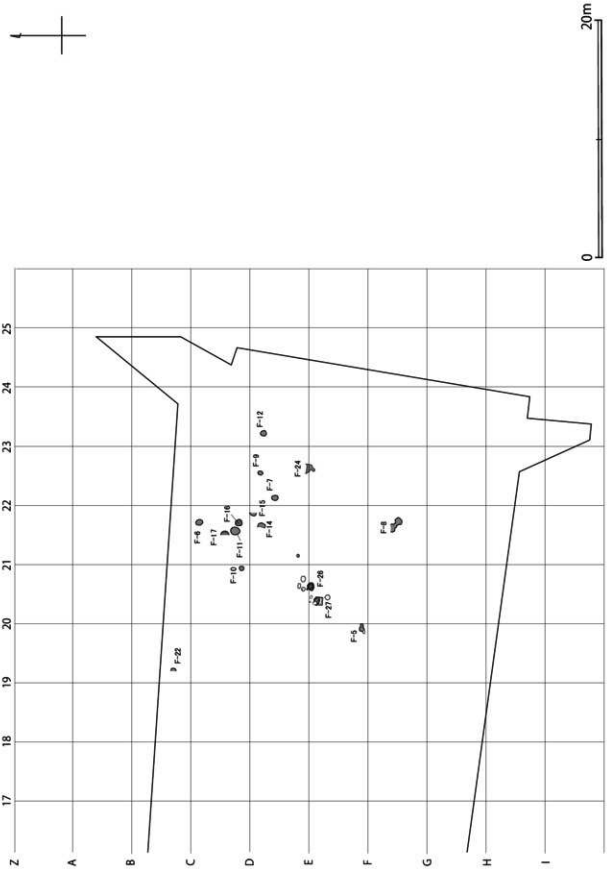
図Ⅵ-4 東側遺構群プラスコ状土坑位置図



図Ⅵ-5　東側溝構群柱穴状土坑位置図



図Ⅵ-6 東側遺構群その他の土坑位置図



図Ⅵ-7　東側遺構群焼土位置図

2 盛土遺構

東側調査区からは、東盛土とした台地上の 20 ライン付近をピークとした幅約 20～25mの土手状の盛土遺構が１条と、斜面盛土層とされる遺跡東側の斜面から無名の沢に向かって拡がる盛土層を検出している。東盛土からは主に縄文時代中期後葉～後期前葉、斜面盛土層からは主に縄文時代前期後半～中期中葉の遺物が多量に出土している。斜面盛土層の南側からは前期前半の遺物も出土しているが主な出土とは言えないことから時期には含めていない。盛土遺構については、Ⅴ章－２においてまとめて報告していることから、東盛土および斜面盛土層の詳細についてはここでは省略する。 （酒井）

3 竪穴住居跡（図Ⅵ－８～101、表Ⅴ－１、図版 54～216）

調査区東側の範囲において竪穴住居跡は 60 軒を確認している。切り合いも多く確認しきれない竪穴住居跡もあったと思われる。また、北側では遺物の出土状況から後期前葉の竪穴住居跡があった可能性が考えられる。外形は楕円形や方形、卵形などがみられる。長軸方向は南-北 28 軒、東-西 10 軒、北西-南東３軒、北東-南西５軒、不明 14 軒である。覆土は自然堆積のほか、他の遺構の掘上土や盛土層と考えられる堆積などによってなされていた。竪穴住居の造成に伴い削平された遺構も多く、床面や壁面に竪穴住居や土坑の断面などを確認することもあった。確認した竪穴住居跡の時期は縄文時代前期後半～後期前葉のものである。時期別では前期後半～中期前葉１軒、前期後半～中期中葉５軒、前期後半～中期後葉２軒、中期前葉２軒、中期前葉～中葉６軒、中期中葉 12 軒、中期中葉～後葉３軒、中期後葉 26 軒、後期前葉２軒、不明１軒となっている。炉跡を確認したものが 32 軒、うち石囲炉を検出したものが 11 軒、埋甕炉を検出したものが１軒である。石囲炉を検出した竪穴住居跡は、中期中葉２軒、中期中葉～後葉１軒、中期後葉７軒、後期前葉１軒ある。埋甕炉を検出した竪穴住居跡は中期中葉になる。周溝を検出したものは 14 軒で、前期後葉～中期前葉３軒、中期中葉５軒、中期後葉５軒、不明１軒である。 （酒井）

H－６（図Ⅵ－８～12、表Ⅴ－１、図版 70～72）

位 置 Ｂ～Ｄ14・15 **立 地** 標高 20.7m付近の平坦地

平面形 卵形 **長軸方向** 南-北 **規 模** 10.28/9.64×(7.12)/6.40×1.054m

確認・調査 H29 年度にＣライン東西セクションの調査で掲色土の拡がりを検出した。竪穴住居跡であることが考えられたことから、Ｃ・Ｄ14・15 区の盛土遺構の調査終了後、南北および東西にベルトを設定し、調査を行った。北東側はＨ－７の調査終了後に掘り進めた。壁面の立ち上がりや石囲炉を検出したことから、竪穴住居跡であることを確認した。H30・Ｒ元年度はＨＰ、石囲炉（ＨＦ１・２）、周溝の調査を行った。床面中央南側に石囲炉（ＨＦ１）、床面中央北側に石囲炉（ＨＦ２）、ＨＰが 82 基、周溝を検出した。柱穴の配置や切り合い、周溝の状況から少なくとも３回の改築が考えられる。

古い順に①ＨＰ２・５・17・20・22・49 を主柱穴とする６本柱の竪穴住居跡である。最も内側の周溝から判断して、ＨＰ48 の柱穴を含まない規模の竪穴住居跡があると考えられる。周溝の形状から床面形状は卵形～楕円形と考えられる。

②ＨＰ２・５・17・20・22・48・49 を主柱穴とする７本柱の竪穴住居跡である。主柱穴の間には小柱穴を 16 本（ＨＰ24・37～39・50～59・63・79）検出している。周溝の形状から床面形状は卵形～楕円形と考えられる。

③ＨＰ２～６・８・15・21・25・82 を主柱穴とする９本柱の卵形の竪穴住居跡である。主柱穴

の間には小柱穴を 16 本（ＨＰ10・16・24・27・32・35・44・45・64・65・66・67・71・73・76・80）検出している。ＨＰ18・23 は中央ピットと考えられる。この２本は主柱穴の可能性も考えられるが、H-21 にも同様の構造がみられる。壁際には周溝がめぐり、ＨＰ１が先端ピットでＨＰ44・45 とともに出入り口構造に起因するものと考えられる。

④ＨＰ２～５・７～９・11～15 を主柱穴とする 12 本柱の卵形の竪穴住居跡である。主柱穴の間には小柱穴を 24 本（ＨＰ26・28～31・33・34・36・40・42・43・60～62・68～70・72・74・75・77～79・81）検出している。ＨＰ18・23 は中央ピットと考えられる。この２本は主柱穴の可能性も考えられるが、H-21 にも同様の構造がみられる。壁際には周溝がめぐり、ＨＰ１が先端ピットでＨＰ46・47 とともに出入り口構造に起因するものと考えられる。ＨＰ82 の上に作られたＨＦ２は、この改築時に作られたものと考えられる。

この住居跡はH-15・52・53・91・101、Ｐ-25・148・161・217・246・282 を切って構築され、H-7 に切られている。構築当初、長軸が８ｍほどであったが改築のたびに広げていき、最終的に長軸 10ｍを超える大きな住居になったと考えられる。

覆　　土　覆土は、25 層に分けた。１～12 層は盛土遺構の堆積、13～18 層は屋根土の崩落土、19 層は壁面崩落土、20 層は貼床と考えられる。竪穴住居の廃絶後、屋根土が落ちた窪みに遺物を含む土を入れたと考えられる。覆土出土の炭化材の放射性炭素年代測定では、4,460±20yrBP の測定結果を得た。出土遺物などから推定できる年代からはやや古い測定結果となっている。

形　　態　数度の改築が行われていると思われるが、平面形は楕円形から卵形になっていると考えられる。最終的に、床面中央南側に石囲炉（ＨＦ１）と北側に石囲炉（ＨＦ２）、南端に先端ピット（ＨＰ１）のある、卵形の大型竪穴住居跡になっている。

付属遺構　**ＨＦ：**２か所を検出した。長軸北側と南側に石囲炉を各１か所検出した。

ＨＦ１は床面中央南側にある石囲炉である。形状は正方形で四隅から放射状に飾り石が施されている。長さ 1.32ｍ、幅 1.28ｍである。炉は浅く方形に掘り込んだところに、炉石を配置するための溝が掘られている。炉石は北辺が２列 12 点、東辺が１列５点、南辺が１列４点、西辺が１列４点、北東と南西の飾り石各２点、北西と南東の飾り石各１点の合計 31 点である。石材は安山岩 27 点、砂岩３点、青色チャート１点である。炉石№11・26 は接合することから、折れたもしくは折った石も使っている様子が伺える。炉石は長辺を横に置いているものが多いが、北西・南東・南西の隅に配置された炉石№４・13・17 は長辺が縦位置になっている。南辺には炉石が１点抜けた跡があることから、もともと５点であったと考えられる。住居の廃絶の際に抜かれたと推測される。断面の観察から、掘り込み面で焼土面を形成したのち、さらに浅く小砂利を含む土を入れて焼土面を形成している。炉石は長さ 12.43～32.90 ㎝、幅 8.74～18.50 ㎝、厚さ 3.45～11.42 ㎝、重さ 0.46～7.25 ㎏の礫で構成されている。平均は長さ 22.38 ㎝、幅 14.04 ㎝、厚さ 7.14 ㎝、重さ 3.05 ㎏で、長さ 20～25 ㎝、重さ２～３㎏の扁平礫が主に使われている。

ＨＦ２は、床面中央北側にある石囲炉である。形状は正方形で、長さ 0.44ｍ、幅 0.40ｍである。炉石は南北辺各２点、東西辺各３点の合計 10 点である。ＨＰ82 の上面に作られており、浅く掘り窪めたところに炉石を正方形に配置している。炉石は長さ 11.89～19.20 ㎝、幅 7.90～12.11 ㎝、厚さ 3.99～7.05 ㎝、重さ 0.67～1.78 ㎏の礫で構成されている。平均は長さ 15.49 ㎝、幅 9.98 ㎝、厚さ 5.15 ㎝、重さ 1.07 ㎏で、長さ 15 ㎝前後、重さ１㎏前後の扁平礫が主に使われている。

ＨＰ：82 基を検出した。

ＨＰ２～９・11～15・17・20～22・25・48・49・82 は主柱穴、ＨＰ１は先端ピット、ＨＰ18・

23は中央ピットもしくは主柱穴、そのほかのＨＰは小柱穴または杭孔と考えられる。ＨＰ７・８の坑底面には鉄分の付着した赤褐色の範囲が見られる。

周溝：壁際床面を廻るもののほか数条を検出した。古い住居跡の周溝跡と考えられる。幅５～10㎝、深さ２～７㎝である。

遺物出土状況　床面から土器、たたき石やすり石などの石器が出土している。北側の周溝部分からミニチュア土器248が出土している。覆土中から多量の遺物が出土している。覆土１～12層は盛土遺構の堆積であり、そこからの出土が大半を占める。土器（大安在Ｂ式）、石鏃やスクレイパー、たたき石や扁平打製石器などの石器が出土している。また、石製品も出土しており、とくに三脚石器が11点出土している。

時　　期　H-７（ノダップⅡ式期）に切られていること、出土遺物（大安在Ｂ式土器）と住居形態から縄文時代中期後葉と考えられる。　（酒井）

H-７・50（図Ⅵ-13～15、表Ⅴ-１、図版73・74）

位　置　B・C19・20　　立　地　標高21.1m前後の平坦地

平面形　不明　　長軸方向　東-西　　規　模　－/(6.70)×－/(5.30)×0.50m

確認・調査　Ｃラインのトレンチ掘削中、炭化材の集中が現れたことで焼失住居址を確認した。トレンチ調査を進めるため、炭化物を検出、測量し、北側の壁の住居址の断面を測量した。その後トレンチの南側の炭化物範囲を広げて炭化物の範囲を確認しつつ住居址の形状を追った。

覆　　土　覆土は全般にＶ層起源の黄褐色土層が落ち込む。上部に遺物を含む腐植混じりの灰褐色土層が皿状に堆積する。これは住居址がほぼ埋まった後に流れ込んだ土層とみられる。住居の床面には、炭粒が堆積した炭層が１枚入り、材の形状で残る炭化物は、覆土を挟んで炭層から浮いた状態で覆土下位に入る。炭層上には焼土層もみられる。炭層両端は住居の床面から離れ、壁際の三角堆積層の上に重なる。

形　　態　調査期間終了が迫った時点の調査であったため、炭化物層範囲を測量時で、すでに壁面は失われてしまったため、形状は不明。北側壁面がやや膨らむのは、本住居床面から周溝が検出されたH-50の立ち上がりだったかもしれない。

付属遺構　ＨＦ：方形の石囲炉が炭化材下から検出した。また、炉の東西から過去の炉跡が２か所検出した。東側の炉には石囲炉の礫が５点残されていた。西側の炉はやや方形の焼土層跡であった。

ＨＰ：主床面から検出した方形や円形の土坑は、中期前半の建物跡の柱穴とみられ、遺物はほとんど入っていなかった。また、H-６上に重なる部分は土坑確認が困難であったため、柱穴調査より下位の住居の調査を優先させた。土坑には番号を付し合計21か所調査したが、調査期限が迫っていたため遺物を回収するにとどまった。そのほかの小さい柱穴は平面形のみおさえた。

周溝：H-７の床面に周溝は見えなかったが、床面に収まる円形の周溝を検出した。本住居に削平された古い住居の痕跡で、H-50とし、周溝内から検出された遺物はH-50の遺物とした。

遺物出土状況　遺物は炭層と炭化物に挟まり検出されている。トレンチからはノダップⅡ式の大型の深鉢258が出土した。破片の一部は２次的に焼けており、本住居が焼失した際に一緒に焼けたものとみられる。炉付近からは258の破片と並び大型の最花式土器260の破片を検出した。床面西側では黒曜石製の両頭石槍や小さ目の深鉢、南壁面付近には無文のミニチュア土器255や小型の深鉢253、最花式模倣品254が炭化物に挟まれて出土した。出土した礫石器は被熱しているものが目立つ。

時　　期　出土土器と住居形態から縄文時代中期後葉のノダップⅡ式期とみられる。　（土肥）

H-13（図Ⅵ-16、表Ⅴ-１、図版 105）

位　置　B・C22・23　　**立　地**　標高 21.5m前後の平坦地

平面形　不明　　**長軸方向**　東-西　　**規　模**　－/(6.50)×－/-×0.53m

確認・調査　Cラインのトレンチの壁面に現れた断面で確認された住居址。トレンチの北側は幅 1.5 mほどしか残らないことと、掘り終えたトレンチがメインの廃土ルートとして使われたため、調査は後半になった。トレンチ図化後、グリッド 23 ラインに壁面を残し、北の調査区境まで掘削した。西側からはこの住居に重なるH-46 が、東側からは、H-78 の床面を検出した。柱穴の調査は主に２年目に行った。

覆　　土　覆土は全般にⅤ層起源の黄褐色土層に炭化物や腐植が混じる灰黄褐色土層が主体で、部分的にⅤ層の混じりが多く、やや明るい色の土層に見える部分もある。上部には遺物や腐植が混じる盛土層が重なる。

形　　態　平面形は長円形と推測されるが、半分以上が調査区外に出ている。床面から柱穴や焼土を検出しているが、焼土は他の住居のものとみられ、柱穴も伴うものか不明である。

付属遺構　ＨＦ：焼土を１か所検出したが、H-13 のものではないとみられる。

ＨＰ：主床面で本住居の柱穴としたものは６か所あるが、調査期限が迫っていたため遺物を回収するにとどまった。測量は翌年改めて実施した。

周溝：南側に１条の周溝がみられた。西側はH-46 に切られ、東側は清掃の繰り返しで見えなくなった。

遺物出土状況　床面付近からサイベ沢Ⅶ式の 347 が一括出土した。同じ層位で円筒土器上層 a 式の大型片 349 が、ＨＰ２からは円筒土器上層ｂ式の 348 が出土した。覆土上位からは榎林式の大型片を検出している。出土した礫石器は被熱しているものが目立つ。

時　　期　床面付近で出土した一括土器からサイベ沢Ⅶ式期がこの住居の時期と考えた。　（土肥）

H-14（図Ⅵ-17～23、表Ⅴ-１、図版 106～108）

位　置　C～E21・22　　**立　地**　標高 21.2m前後の平坦地

平面形　長円形　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　－/(13.50)×－/(6.60)×0.72m

確認・調査　グリッド 22 ラインのトレンチの壁面に現れた断面で確認した住居址で、このトレンチではノダップⅡ式の住居址と本住居が切りあっていたが、先に床面検出の遺物を取り上げたため、この住居を切るH-21 より若い番号になった。床面はH-21 より深く、床面付近から中期中葉の一括土器を多数検出し、同時期の住居と確認した。しかし時期的に古い住居のため、調査着手は９月下旬となった。調査では、調査中のH-21・28 から離れた北西側の壁面検出作業を実施、南北に延びる約５ｍの壁面を検出し、次に北側の立ち上がりを一部確認した。また、H-21 の床面検出の柱穴跡がこの住居址の主柱穴になるとみられ、この時点で大型の住居址であることが解った。しかし、本住居に重なるH-27 の調査終了を待つことになる。途中調査方針の変更もあり、H-27 との切りあいを押さえた東西方向と、H-21 に切られる南北セクションの図化まで終え、本住居の床面や南側は次年度調査になった。翌年の７月中旬、H-21 の付属遺構の調査が進むと、床面検出の柱穴の２本がこの住居址の主柱穴と考えられるようになり、長軸が 10ｍを超える住居になると推測した。この時点で、住居址南東側は掘削が進んでおり、南東側の壁面は失われた。また、床面の精査をすると、複数軒の住居址の痕跡を検出したが、これは本住居址の枝番として扱った。

覆　　土　榎林期には完全に埋められていた住居址で、短期間で人為的に埋められたとみられる。東西の断面壁際にはⅤ層にわずかにⅥ層が混じる三角堆積があり、この住居が営まれた時にすでに台地

上にⅡ層は無かったと見られる。最初の土砂はⅥ層土にわずかにⅤ層の混じる層で、堆積は住居址中央に達していない。この層の上に比較的炭化物を多く含む層が堆積し、その範囲は住居址全般に及んでいたとみられる。その後の堆積は、薄い炭層を挟んで繰り返されており、土砂を捨てる時期と安定期を短期間で繰り返していたとみられる。

形　　態　南北に４本並ぶ柱穴が２列（ＨＰ２・３・55・56・57・58・59・28）ある平面形が長円形の住居址、北側には、柱穴列の外側中央に（ＨＰ１、31）がある。床面から完全に削平された長軸７ｍほどの住居址（H-14Ｂ）を検出している。また、周溝跡から想定したH-14Ｃを検出している。

付属遺構　ＨＦ：焼土は５か所検出した。H-14のものとみられるのはＨＦ２で、H-21床面から検出したＨＦ５もＨＦ２の続きとみられる。ＨＦ１・２は枝番住居に付属する焼土とみられる。ＨＦ１は方形で炉面に小砂利が敷かれている。

ＨＰ：本住居の柱穴としたものは52か所あるが、H-14の主柱穴とみられるものは10か所に留まった。小さい柱穴は枝番住居のエリアに集中分布しており、それに伴うものとみられるが、当てはまらないものもあり、これ以外にも住居址があった可能性は十分ある。

周溝：北西壁際に１条の周溝がみられた。東側のもっとも外側から検出した周溝もH-14のものとみられる。H-14Ｂの周溝は一部が三重になる。H-14Ｃの周溝は北側と東側のみ確認した。これらに当てはまらない周溝もあり、見えない住居跡はまだあったと考えられる。

遺物出土状況　床面付近からサイベ沢Ⅶ式、覆土中位から見晴町式が出土しているが、ＨＦ２の上部において本遺跡で最も高さのある深鉢368が一括出土し、間層を挟んだ上から見晴町式352の破片が出土した。しかし、住居址の中央付近のせいもあり、368の並びで見晴町式の353や399が同レベルの出土並びで出土している。このような例はほかでも見られるが、遺物の密集度が低いため並びで検出したとみられる。全般の傾向としては、南東部側に見晴町式が流れ込み、北西部側からサイベ沢Ⅶ式の新旧が流れ込んでいる。出土状況としてはサイベ沢Ⅶ式のほうが一括で出土する傾向がある。また、H-14の主柱穴ＨＰ２・55・56内からサイベ沢Ⅶ式の小型土器383、373，393が出土している。

時　　期　広く床面付近で一括出土する土器からサイベ沢Ⅶ式期と考えられる。　（土肥）

H-15Ａ（図Ⅵ-24～27、表Ⅴ-１、図版109）

位　置　Ｃ・Ｄ・Ｅ19・20　　**立　地**　標高20.7ｍ前後の平坦地

平面形　推定小判型　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　－/(9.30)×－/(4.72)×0.90ｍ

確認・調査　C20ラインのトレンチの断面で確認した住居であり、当初Ｄ20の杭までの測量で、最も厚く堆積する炭層もＤ20　区で立ち上がったため、H-15Ｂの形状となった。炭層の下には数条の炭まじりの層が堆積し、その範囲はＤ20 区を超え北に位置するＨ－７の範囲に達した。西側はＨ－６に切られ、住居址壁面に断面が現れていた。南側には土坑群が掘られ、立ち上がりの範囲ははっきりしなかった。西側はH-44に切られる。壁面を検出できたのはH-47を切る範囲のみであった。

覆　　土　覆土は全般にⅤ層起源の黄褐色土層に炭化物や腐植が混じる灰黄褐色土層が主体で、部分的にⅤ層の混じりが多く、やや明るい色の土層に見える部分もある。上部には遺物や腐植が混じる盛土層が重なる。

形　　態　平面形は小判形をしていたと推測される。

遺物出土状況　覆土中位の厚い炭層上から2017年のトレンチ調査で榎林式の新しい時期の資料の419が一括で出土したが、これより南側では、炭層下から榎林式の415を検出している。翌年のトレンチ東側では、この層中から、大安在Ｂ式の406が出土している。北側のＨ－６・７に切られるＤ20の杭周辺

では、炭層よりも上層から石皿が、炭層より下位の層で、榎林式 414、416 が同じ層位で出土、床面付近では榎林式の古い時期とみられる 424 がやや散らばって検出され、間層を挟んで注口土器の口縁部 408 と、小型の鉢型土器 418 が完形の状態で出土している。

時　　期　床面付近で出土し復元された榎林式土器の古段階の時期と考えられる。　（土肥）

H-15B（図Ⅵ-24～27、表Ⅴ-１、図版 109）

位　置　D・E19・20　　**立　地**　標高約 20.80mの平坦面。盛土１層を掘り込んでいる。

平面形　いびつな楕円形　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　8.00/7.00×6.40/5.76×0.88m

確認・調査　2017 年にすでに覆土南側は床面まで掘り下げられており、北側残存部分を引き継いだ。東西のメインセクションを掘り下げた。南側の床まで下がっていた部分は柱穴も 2017 年に完掘されておりエレベーションのみの記録となった。白色粘土の分布と焼土の分布もみられたが、F-26 とF-27 のような存在から廃絶後の使用も複数回にわたると考える。

覆　　土　覆土上半分は盛土２層相当が拡がっていた。その下から床面までの間には炭化物層を伴う廃棄層（現場で盛土 2.5 と仮称）が堆積していた。覆土３層から検出した炭化材の放射性炭素年代を行ったところ、4,400±20yrBP の測定結果を得ている。

形　　態　いびつな楕円形で、平面形から二軒の住居の可能性もあったが 2017 年の南北メインセクションから、H-63 廃絶後に上から掘られた、もともと大きな一軒が埋没過程で窪みを複数回活用された結果いびつになった可能性が高い。

付属遺構　地床炉が１か所とＨＰが 47 基を検出している。

遺物出土状況　炭化物層下位から土器（榎林２式）が出土し、覆土から土器（見晴町式）などのほか、石槍や石斧・たたき石、大型の石皿などの石器が出土し、三脚石器や三角形石製品が出土している。

時　　期　炭化物層下位から榎林２式の三単位の深鉢が出土している。そのため直前期の可能性が高く、縄文時代中期中葉と考えられる。　（大泰司）

H-20（図Ⅵ-28・29、表Ⅴ-１、図版 120）

位　置　B・C21　　**立　地**　標高 21.1m前後の平坦地

平面形　推定楕円形　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　－/－×－/4.00×0.68m

確認・調査　2017 年度の調査を着手して間もなく、C22 付近のトレンチ調査で大きく落ち込む段差が現れ、竪穴の存在を確認しH-20 とした。覆土中位ほどまでトレンチを下げた際、空洞になっていた柱穴ＨＰ６が陥没した。柱穴の近くには榎林式の一括土器が出土した。さらに約 20 ㎝下げると、円筒土器下層式の一括遺物が出土したため南北を拡張して調査したところ、床面にフラスコ状土坑Ｐ-209 が重なり、覆土の一部を掘り下げたことを確認した。調査は２年目に続き、床面の付属遺構の調査が主となった。

覆　　土　調査区北壁を観察すると、本住居址の上部には別な住居址やH-74 のⅥ層がブロック状に混じる廃土層が重なる。その下はⅤ層土起源の層で、床面から 30 ㎝ほどのレベルから下位にかけ３～４枚の炭まじりの層が水平堆積する。その西側はH-74 に切られ、東側は上下に散るように曖昧に消える。床面直上には６層粒を含む土層と炭化物粒を含む層が薄く互層に堆積する。

形　　態　平面形は小判形をしていたと推測される。

付属遺構　ＨＦ：確認されなかったが、トレンチ調査の際に上面を削ったフラスコ状土坑Ｐ-209 検出面上中央に焼土粒や炭化物流が集中する範囲があり、これが地床炉であった可能性は高い。

ＨＰ：本住居の柱穴としたものは７か所ある、このうち主柱穴とみられるものは陥没した柱穴ＨＰ６で、そのセットとみられる柱穴は、隣で本住居を切るH-36のＨＰ７とみられる。中心軸上に並ぶＨＰ３・４・７も住居の構造を補助する柱穴とみられる。

遺物出土状況 トレンチ調査で本住居の拡がりが確認され始める部分にはサイベ沢Ⅶ式の大型破片がしばしばみられた。これらの破片の中に 481 も入っており覆土の上部から出土した。同じような層位から岩偶も出土している。この住居に重なる位置に、覆土中位より下で、陥没した柱穴脇から出土したのが 484 で、破片の薄さや文様から、搬入品とみられる。胴部に大きな渦巻文が付されることから古手の榎林式とみられ、出土状況を観察すると、薄く堆積した炭層から出土していることが確認できた。同様に炭層から出土したとみられる土器が 483 で、この２個体は榎林式の中では古手に属するとみられるものである。

時　　期 住居址の床面よりやや高い位置から出土しているが、榎林式期にこの住居址の窪みを一時利用していた可能性はある。（土肥）

H-21（図Ⅵ-30～34、表Ⅴ-１、図版 121～123）

位　置 Ｄ・Ｅ21・22　　**立　地** 標高 21.1ｍ前後の平坦地

平面形 卵形　　**長軸方向** 南-北　　**規　模** 7.50/7.16×5.15/5.00×0.59ｍ

確認・調査 2017 年度の表土除去をした際にⅡ層の黒色土層が落ち込むことで竪穴の存在は知れた。のちのトレンチ掘削で大量の土器が上部に落ち込む断面を確認した。メイントレンチを残し、周囲のⅡ層を掘削したところ、住居址の形に落ち込む大量の遺物を伴う盛土層が見えたため、この時点で残すベルトの位置を決め調査を始めた。検出状況からこの付近で最も新しい住居址とみていたが、調査を進めると卵型の竪穴で、床面付近からは長方形の石囲炉、先端ピットを検出し、時期はノダップⅡ式とわかった。同時に壁際の周溝や柱穴も見つかったが、2017 年度の調査計画変更のため、付属遺構の調査は翌年に持ち越した。翌 2018 年度の調査では、本住居址の下に別な住居址の床面が重なることや、清掃を繰り返したことから、周溝はほぼ失われたが、石囲炉や 15 か所の柱穴の調査を行った。

覆　　土 覆土上部の覆土は大きく３つに別けられる。上部は基本土層のⅡ層で厚いところで 30 ㎝近く落ち込こみ、駒ケ岳ｄテフラの堆積が風倒木跡のⅡ層の拡がり中にみられた。Ⅱ層にはほとんど遺物は含まれず、あったとしても下位層からの紛れ込みであった。中間の層は後期前葉の煉瓦台式を伴う暗褐色土層で、層厚は石囲炉付近の厚いところで 50 ㎝ほどに達する。堆積層下位は凹凸があり、住居として再利用したような平坦な状況は確認できなかった。多くの遺物は深いところに向かって流れ込む状況で検出され、床面の炉付近の上層に最も多い遺物の集積がみられた。下位の層は壁際の三角堆積や覆土下位に堆積する暗褐色土層で、住居址の年代に近いノダップⅡ式の遺物が入る層である。

形　　態 先端ピット、方形の石囲炉をもった卵形の住居。

付属遺構　ＨＦ：方形に石を並べた石囲炉を１か所確認した。石囲炉の中央は焼土が明瞭に残されていた。先端ピット中には小さな柱穴が２つみられたが、２年目の調査では先端ピットの形状から怪しくなる状況だった。

ＨＰ：柱穴を 15 か所調査したが、このうちのＨＰ８・13 は下位に床面が重なるH-14 の主柱穴と判断し、H-14 のＨＰ56・55 とした。また、ＨＰ15 は調査の過程で掘削した壁面より外に位置していたため除外し、H-14 で扱った。残る柱穴の位置を観察すると長軸の中央よりの東西壁際に約 1.8ｍ間隔で３本ずつの柱穴が並ぶのが確認できる。また方形の炉の北側約１ｍのところに、太めの柱穴が１ｍほどの間隔で２本並ぶのはH-６と同様である。

周溝：構築以前のH-14の床面やフラスコ状ピット（P－９・40・232）があり、周溝が確認しづらい状況にあったが、調査の間を空けたことによる清掃作業などで、周溝は失われてしまった。

遺物出土状況　住居址覆土下位からはノダップⅡ式の破片やミニチュア土器の完品 487・488 が出土したほか、最花式の破片 490 が出土している。覆土中位では煉瓦台式が大量に出土した。上位と下位出土の破片には時期差があるものとみられる。破片の堆積は石囲炉よりやや北よりの２m四方ほどの範囲にピークがあった。

時　　期　出土土器と住居形態からノダップⅡ式期・縄文時代中期後葉である。覆土出土の炭化材の年代測定結果は、3970±20yrBP(PLD-44900)であった。これは覆土１層の炭化材なので煉瓦台式期の数値が出たものとみられる。（土肥）

H-22（図Ⅵ-35、表Ⅴ-１、図版 124・125）

位　置　C22・23　　**立　地**　標高　21.2m前後の平坦地

平面形　楕円形　　**長軸方向**　南西-北東　　**規　模**　3.82/3.36×3.44/3.12×0.42m

確認・調査　トレンチ調査で住居址が存在することは認識していたが、当該区の盛土遺構を掘削調査したところ、出土する煉瓦台期の遺物がC22・23 区の境で西側に沈んで検出される状況に気づき、落ち込みの中心とみられる 23 ラインから 1.5m西側に南北ベルト、これに直交するベルトを残し、四分割で掘削を進めた。掘削開始後間もなく南東部で焼土が検出した。煉瓦台期の焼土で、当住居址はそれより下位に床面があるとみていたため、焼土を測量し、下位の掘削をすすめた。北東側から中期後葉の 555 の破片がまとまって出土した。遺物を取り上げてさらに掘削をすすめたところ、ほどなく北東側にⅥ層の壁面の立ち上がりが現れた。これに対し南北のベルトの西側は遺構の形状がはっきりせず、土層まで変わってきたため、幅 50 ㎝ほどのトレンチ状に掘削し深さをそろえた。焼土を検出した南東エリアも一部壁面が確認できたが、南側に重なる住居を確認した。北東エリアは順調に進むと見られたが、中央に落ち込みを確認した。そのため先行して下位の掘削をすすめ、下位に重なる住居址の床面を検出した。南東エリアの床面を北東側の高さに合わせた際、一括土器 558 が出土した。周囲に破片の分布がまだ続くため、遺物を追いかけて壁面を追うこととした。一方、西側も形状を確認するためトレンチの壁を拡幅したところ、中期中葉の一括遺物が立て続けに出土した。すでに掘りすぎであることと、西に重なる住居の時期が判明した。南側壁面は、出土遺物を追いかけたところ、住居址の窪みに落ち込む状況で検出されはじめた。南北断面で住居の立ち上がりを検出し、南側の壁面を確認した。

覆　　土　上部覆土は全般に黒ずみ煉瓦台式の破片を含む土層となっており、これは後にH-79 として扱うこととした。この層の直下に厚く焼けた焼土があり、煉瓦台式の住居址に伴うものとみられる。上位の住居址を切る土坑が１基重なるが、調査時は気づかずに掘削してしまった。時期的には天祐寺式に伴う土坑であったとみられる。その層の下位に堆積する褐色土層が本住居址の覆土の土層とみられる。北側の一部はⅥ層上に堆積し、南側の多くはさらに下位の住居址上に重なっており、Ⅵ層上に堆積する部分と床面に段差が生じている。床面付近に炭層の堆積層がみられる。

形　　態　長軸をやや東に振る楕円形の住居址とみられる。

付属遺構　ＨＦ：床面中央付近で炉跡を検出した。

ＨＰ：下位の住居址に重なるため、柱穴は見つけられなかった。

周溝：下位の住居址に重なるため、周溝は見つけられなかった。

遺物出土状況　住居址覆土からは大安在Ｂ式の 555、558、559 が出土している。

時　　期　出土土器から大安在B式期の縄文時代中期後葉が近い時期とみられる。（土肥）

H-27（図Ⅵ-38～40、表Ⅴ-１、図版 132・133）

位　置　C・D22・23　　立　地　標高　21.1m前後の平坦地

平面形　小判形　　長軸方向　南-北　　規　模　(7.40)/－×(5.50)/5.46×0.74m

確認・調査　D22ラインに南北のトレンチを掘削したさい、北側の壁に住居址の切りあう断面が現れ、存在を確認した。その後周辺の住居址調査で一部掘削した際にH-27 とした。この住居址の上に重なるH-28 の床面を検出した際に、東側の輪郭が現れたため、セクション位置を決め４分の１の掘削から始め、のちに形状がはっきりしたのち、セクションベルトを残して掘削した。

覆　　土　覆土上部はⅤ層起源の盛土層が拡がり、中位から下位には炭化物を含む筋状の堆積が複数枚入る。覆土上層には目立った遺物は含まれない。本住居址を切る住居にH-62 があるが、その生活面にやや新しい時期の榎林式の面があることから、比較的短い期間で埋められたとみられる。東西セクション東側の壁面には、盛土層下のⅡ層の堆積が残るため、住居壁際にはⅡ層が混じるとみられる暗褐色の三角堆積層がみられる。

形　　態　先端ピット、東西の長軸壁面付近に４本、南北の壁際にそれよりも内側に並ぶ４本の合計８本の主柱穴をもち、その中心南寄りに炉、炉の南に土坑を持つ小判形の住居。

付属遺構　ＨＦ：方形の地床炉を１か所確認した。また、炉の南側床面から検出した土坑はP-55 として扱ったが、住居の中心軸上に収まる。同時期の遺物が入ることから近い時期と考えたが、同じエリアの同時期の住居であるH-103 にも同じ位置に土坑があることから付属遺構と考えた。

ＨＰ：主柱穴の８か所のほかに目立つ柱穴に番号を付し合計 21 か所調査したが、調査期限が迫っていたため遺物を回収するにとどまった。

周溝：構築西側に二重の周溝があり、北側には拡張範囲と元の範囲それぞれに二重の周溝がみられた。東側は台地の縁が迫っているためか周溝は１本のみで、拡張の痕跡がない。

遺物出土状況　住居址西側からは流れ込みとみられる遺物が入り込むが、覆土下位や床面付近から榎林式相当の一括土器が出土した。復元した土器の頸部には２条の沈線の間に短刻線文を加えた特徴のある文様が付される土器が５個体（601、604、605、612、613）出土しており、同時期の土器とみられる。床面からは溝を切った礫や、長野県産の黒曜石製石鏃も覆土から出土している。P-55 上には大型の礫があり、その上に 1213 が、また土坑中に 1216 が入っていた。608 はH-106 出土の破片と接合した。

時　　期　出土土器と住居形態から縄文時代中期後葉の榎林式期の前半段階とみられる。　（土肥）

H-28（図Ⅵ-41・42、表Ⅴ-１、図版 134・135）

位　置　C・D22・23　　立　地　標高 21.1m前後の平坦地

平面形　小判形　　長軸方向　南-北　　規　模　(4.60)/3.82×3.80/3.70×0.36m

確認・調査　2017 年７月下旬に斜面縁のD23 区の盛土層を掘削中、大安在Ｂ式の大型土器を並んで検出した。土器の脇には木根があり、その下にも小型土器の一括資料が挟まっていた。付近の遺物は下に落ち込む様に検出された。木根を丁寧に取り除くとさらに一括土器が出土、よく観察すると大型の土器はもともと立っていたものが倒れたものと推測された。何らかの遺構である可能性もあり、８月上旬に土器を取り上げたのちに、十字にベルトを残し、掘削をすすめ下位の遺構調査を行った。下旬には十字ベルトの北東側に住居の輪郭が現れ、その上面に焼土が現れた。これをF-12 として実測し、さらに下げると十字ベルトの中央がⅤ層に達し、付近から地床炉が見え始めた。この時点で断面を実測し、ベルトを落とした。床面東側は、斜面際のためⅤ層から盛土下に堆積するⅡ層までが現れ、西側、北側では別の住居址の輪郭が現れた。南側の壁面には礫が顔を出していたため、その周囲を拡げると、

古い土器が検出され始め、掘りすぎを確認した。

覆　　土　断面中央は一括土器を取り上げた後のため、なだらかに窪む。Ⅴ層起源の土層で埋まるが、上部にはやや腐植を含んだⅤ層起源の盛土層が拡がり、中位から下位には濁りの少ないⅤ層起源の層が堆積する。

形　　態　平面形は小判形。

付属遺構　ＨＦ：床面中央より南側に地床炉を１か所確認した。

ＨＰ：柱穴は下位に住居址覆土範囲が広がるため確認しづらく、３か所のみ検出した。

周溝：周溝は確認されなかった。

遺物出土状況　住居址上部に一括で出土した土器は本住居址よりも新しい時期のものだが、接合状況から 619 と 625 は底部が大きい土器 628 の北側にあり、625、619、628、622、623 の順に１列に並んでいたのかもしれない。北側の覆土上部からは大型の三脚石器も出土している。住居址が埋まりかけたくぼ地で何らかの祭司的な行為が行われていたのかもしれない。床面からは、フジツボ型のミニチュア土器 620 が出土している。榎林式相当の一括土器が出土している。復元された土器の頸部には２条の沈線の間に短刻線文を加えた特徴のある文様が付される土器が５個体（601、604、605、612、613）出土しており、同時期の土器とみられる。

時　　期　この住居址の下に榎林式の住居が重なっていること、床面出土のミニチュア土器では時期決定が難しい点があるが、覆土上位の土器より古い段階の大安在Ｂ式期と考えるのが妥当である。　（土肥）

H-36（図Ⅵ-43・44、表Ⅴ-１、図版 141）

位　置　Ｂ・Ｃ20・21　　**立　地**　標高 20.80m前後の平坦地

平面形　小判形　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　4.72/4.12×3.46/3.24×0.72m

確認・調査　2017 年９月上旬にＣラインのトレンチのH-20 西側で見つかった住居址である。深さのあるH-20 と同じレベルの床面で、H-20 を切る。調査はトレンチ調査以降、この住居址に着手できたのは 10 月中旬となった。南北のセクションに着手しＣ20 区の掘削をすすめたところ、Ⅵ層を掘り込む壁面を検出した。同時に、この壁面に本住居に切られるH-37・83 を検出した。床面には柱穴や炉、一括出土する土器を検出した。トレンチの南側では、上から掘り込まれたＰ-29 の調査範囲を避けつつＢ19 区を掘削すると、H-36 上に重なるH-74 の石囲炉を検出した。この時点においてすでに南側ではH-74 の床面を掘り下げていた。その後、H-74 西側に、上に重なるH-84 の方形の石囲炉を検出し、2017 年度の調査を終えた。翌年の調査は上に重なる住居を先行したため、７月中旬より着手、床面全体の検出を行った。

覆　　土　2017 年調査の断面は、ほとんどがH-74 のものとみられる。H-36 の覆土はⅤ・Ⅵ層の汚れた混土層が下位に堆積していた。

形　　態　長軸壁際に４本の柱穴を持つ小判形の住居。

付属遺構　ＨＦ：床面中央より南側に地床炉を１か所確認した。

ＨＰ：主柱穴は、外ふんばりの深い４本を長軸壁際で検出した。このほか、南北に浅い円形の柱穴を２本検出した。主柱穴とみられる傾く方向が逆のＨＰ７を住居の中央寄りで検出しているが、これはH-20 の主柱穴である可能性がある。

周溝：２列の周溝が部分的に見えたが、調査が翌年になったため、はっきりしなかった。

遺物出土状況　床面炉の付近で４つ突起の榎林式の深鉢 659 が出土、少し北側では器面に渦巻文が施される。２つ突起の小型土器が出土している。覆土下からは見晴町式の大型片も出土しているが、この住

居址の南側にはその時期の住居址が多い。主柱穴の中から扁平打製石器も出土している。
時　　期　床面出土の土器から榎林式期の住居と考える。　（土肥）

H-37（図Ⅵ-44、表Ⅴ-１、図版 141・142）
位　置　C20　　立　地　標高 20.80m前後の平坦地
平面形　不明　　長軸方向　不明　　規　模　—/—×—/—×0.64m
確認・調査　2017 年 11 月のH-36 掘削時に壁面に現れた住居址。床面はH-36 と同一面で、一部トレンチに切られる。確認時には３分の１は掘られていたが、残りの部分にできるだけ長い断面を設定し記録、その日のうちに完掘した。規模はフラスコ状土坑と同じだが、壁の立ち上がりが 60 度ほどあるため、住居址と認定した。
覆　　土　覆土の中央に、混入物のないⅤ層土の堆積があり、上下はⅤ・Ⅵ層の混土層の堆積。
形　　態　全体の形状は不明。
付属遺構　ＨＦ：不明　　ＨＰ：関連する柱穴は見つかっていない。　**周溝**：なし
遺物出土状況　覆土からサイベ沢Ⅶ式から見晴町式の破片が出土している。
時　　期　覆土出土の土器からサイベ沢Ⅶ式から見晴町式期の住居と考える。　（土肥）

H-41（図Ⅵ-45、表Ⅴ-１、図版 145）
位　置　D・E22・23　　立　地　標高約 20.30mの平坦面。盛土２層上面での確認。
平面形　不整な円形　　長軸方向　南-北　　規　模　3.64/3.40×3.60/3.40×0.32m
確認・調査　D・E23 区付近で、盛土２層において土器が集中して出土している場所があった。ここを調査している際、遺構の窪みに対する廃絶と考えられた。Ｅラインにそって盛土の堆積を確認するようにトレンチを入れてあったのを利用して土層確認用の土手を設定し、加えてこれとE23 杭で直交するように土層確認用土手を設定した。
覆　　土　覆土１層およびこれより上位の焼土と炭層を主とする土層は盛土２層に伴うものと考える。覆土１層より下の覆土２層は覆土中への廃棄層である。覆土３層はH-123 削平時の撹乱と考える。
形　　態　不正な円形をしている。
付属遺構　一本の主柱穴ＨＰ２と地床炉ＨＦ１が明確な付属遺構として確認できた。他に浅い土坑ＨＰ１を検出した。
遺物出土状況　北側壁面に土器（円筒土器上層ｂ式）や礫がまとまって廃棄されていた。覆土から石鏃・スクレイパー・石のみ・たたき石・大型石皿などの石器が出土している。
時　　期　覆土でまとまっていた点取り№10 の円筒土器上層ｂ～ｃ式が一個体ほどの廃棄であり、この直前の住居であり縄文時代中期前葉のころと考える。　（大泰司）

H-42（図Ⅵ-46、表Ⅴ-１、図版 145）
位　置　B17・18　　立　地　標高 20.7m付近
平面形　不明　　長軸方向　不明　　規　模　(3.44)/(3.06)×(0.66)/(0.44)×0.177m
確認・調査　P-22 を半截した際に断面セクションに壁面の立ち上がりを確認した。周辺を精査し調査区北側壁面を確認したところ、褐色土の拡がりと住居跡の断面を検出したことから、竪穴住居跡であることを確認した。検出した範囲は調査区北側壁際にわずかに確認できるだけなので、形状や付属遺構についてはＨＰ１を除き不明である。

覆　　土　覆土は、15層に分けた。自然堆積と考えられる。
形　　態　わずかな部分のみの検出のため不明である。
付属遺構　ＨＰ：１か所を検出した。
　ＨＰ１は柱穴と考えられるが、土層の状況から別遺構の柱穴の可能性もある。
遺物出土状況　遺物は出土していない。
時　　期　P-22（サイベ沢Ⅶ式期）を切っていること、盛土遺構に切られていることから縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。（酒井）

H-44（図Ⅵ-47・48、表Ⅴ-１、図版147）
位　置　D・E20・21　　**立　地**　標高21.10m前後の平坦地の
平面形　楕円形　　**長軸方向**　東-西　　**規　模**　5.12/4.60×4.08/3.60×0.14m
確認・調査　2017年７月に住居址の位置する場所には青竜刀形石器を含む煉瓦台式の集中区が広がっていた。すぐ東側では、H-21上に落ち込む煉瓦台式の集中区を測量中で、それよりやや高いレベルで検出した。今から考えると、これらは住居址の窪みに落ち込む遺物とみられる。この遺物の落ち込みは、西側の住居址H-15上に堆積する黄褐色の盛土層の上に重なる層だったとみられる。H-15の輪郭を検出していた９月、覆土中位に堆積する厚い炭層（榎林式新段階）の輪郭が見えたとき、それを切る住居址H-44と、さらにそれを切る煉瓦台式期の土坑P-23を検出した。P-23の調査終了後、住居址の調査に着手し、東側の壁面は自然堆積層のⅤ～Ⅵ層にあたって明確に立ち上がった。東に並ぶH-21との間は最短20㎝と近い。南側壁面は下に重なる住居址H-４の覆土、西側はH-15覆土と重なり、全般に大きく掘られたとみられる。2017年度の目標である調査区北側10m圏内を優先させたため、東西断面とそれに直交する北側の断面までを調査し、南側は翌年に繰り越した。翌年南側を掘削すると、E21杭の脇で石囲炉を検出した。南側壁面のすぐ隣のため不自然な位置で、南側はまだ拡がった可能性もある。
覆　　土　覆土は全般に濁ったⅣ・Ⅴ層の混土層で炭化物粒を含む。
形　　態　小さい柱穴が中央付近に分布する楕円形の窪み。
付属遺構　ＨＦ：中央付近に地床炉が２か所、南壁面付近に石囲炉を検出した。ＨＦ１は石囲炉で明確な焼土を伴う。炉石は15点で、長さ10.24～13.53㎝、重さ0.33～0.67㎏の礫で構成されている。ＨＰ：中央付近に浅く小さな柱穴を６基、小さく深い柱穴を１基確認した。ＨＰを７基検出した。
遺物出土状況　2018年調査範囲から大安在Ｂ式の新しい段階の土器がややまとまって出土し、その間からすり石が１点出土している。石囲炉西側からは、分かれた頂部に穿孔が施される斧状土製品の基部と石錘を検出した。
時　　期　住居址の上部に煉瓦台式期の遺物が落ち込むことからみて、床面付近から出土した大安在Ｂ式期の新段階の住居と考える。（土肥）

H-46（図Ⅵ-49、表Ⅴ-１、図版148・149）
位　置　B22　　**立　地**　標高　21.8m前後の平坦地
平面形　推定円形～楕円形　　**長軸方向**　不明　　**規　模**　(1.50) /—×2.72/2.32×0.72m
確認・調査　2017年９月下旬、作業員の増加によりＣトレンチ北側のＢ21～23区の調査に着手した。トレンチ断面にH-78がかかる範囲で掘削を進めたところ、Ｃラインよりやや北側により新しい住居址の落ち込みを確認した。大部分は北側の調査区外に出ているとみられ、検出した東側４分の１を掘削

した。まもなく、H-78 床面よりも 20 cmほど下位に床面を検出、付近から大安在B式の口縁片が出土した。南北の断面測量後、西側の掘削を進めたが、柱穴などの土坑と重なり、西側の壁面はきれいに検出できなかった。

覆　　土　覆土上位には根穴とみられるⅡ層の貫入が入るほか、黒褐色の煉瓦台式の破片を含む盛土が落ち込むが、覆土全般はⅣ・Ⅴ層の混土で、下位には少量のⅥ層粒が入る。この層は上下とも大安在B式の破片が出土する。

形　　態　全体はおそらく長円形で、壁付近に小さく細い柱穴が並ぶ。

付属遺構　ＨＦ：焼土の厚みは薄いが、炭化物を多く含む焼土を中心より南の位置で検出。

ＨＰ：壁面の立ち上がりより 20～30 cmほど中寄りに小さい柱穴を７か所検出した。

遺物出土状況　覆土や床面炉のまわりから大安在B式土器の破片が出土している。

時　　期　下位の覆土出土の土器から大安在B式期の住居と考える。　（土肥）

H-47（図Ⅵ-49・50、表Ⅴ-１、図版 149）

位　置　C・D20・21　　**立　地**　標高 21.0m前後の平坦地

平面形　楕円形　　**長軸方向**　北西-南東　　**規　模**　4.70/4.86×3.80/3.32×0.78m

確認・調査　2017 年９月 25 日、H-15 を切る住居址H-44 を調査していたところ、H-44 北側に広がる住居址の平面を検出した。H-15 に切られているのを確認してH-47 とした。隣接するH-15・44 はともに掘削中のため、周囲の住居に重ならない範囲に断面を設定したのちに掘削を始め、形状をおおむね確認した。その後、周囲の新しい住居址の調査を優先し作業を中断した。再び着手できたのは 10 月下旬となった。東西方向に設定したB-B´ラインの南北を掘削し、断面の確認を行った。その際、この住居の下に重なるフラスコ状土坑も掘ったことで、床面の一部が失われた。断面の測量後、H-44 の下に重なる部分と、残した断面を床面まで下げたところ、床面から焼土や一括土器を検出した。

覆　　土　床面直上には炭化物粒などを含むⅤ層起源のローム質土層が、主に北側や東側から流れ込んでいる。その上に近隣の住居址の堀上げ土とみられる灰白色のⅥ層土のブロック堆積と、その上層には混じりの少ないⅣ・Ⅴ層の堆積が重なる。その上層には床と同じ汚れたⅤ層の堆積が重なる。

形　　態　深い柱穴が見つかっておらず、楕円形をしている。

付属遺構　ＨＦ：H-44 側の床面で炉跡を半分検出した。

ＨＰ：浅い柱穴状の土坑を２か所検出した。断面に入った深い柱穴の平面は得られていない。

遺物出土状況　床面付近や覆土から見晴町式の土器がまとまって検出している。

時　　期　出土土器から縄文時代中期中葉の見晴町式期の住居とみられる。　（土肥）

H-51（図Ⅵ-51、表Ⅴ-１、図版 155）

位　置　B19　　**立　地**　標高 20.7m前後の平坦地

平面形　推定小判形　　**長軸方向**　北-南　　**規　模**　(1.64)/(1.40)×2.16/2.08×0.64m

確認・調査　2017 年 11 月にH-52 やP-108 の調査の過程で検出した住居址。番号の振替でH-51 を設定し、調査最終日前日まで掘削した。床面全体に広がる炭層を検出したところで越冬した。翌年は炭層を除去し、床面を検出した。床面の中心軸上から炭層が落ち込む炉跡を２か所検出したほか、円筒土器上層期のP-126 を検出した。断面は調査区北側の壁面で記録した。本住居址の上には煉瓦台式期の住居址H-59 と同時期の土坑P-597 が重なる。断面右上の礫はH-59 の石囲炉の炉石である。床面の炭層は２枚重なり、間層にはⅤ層とⅥ層の混土層が挟まる。

覆　　土　覆土は全般にⅥ層主体の層で、混入物が混じる。
形　　態　主柱穴は見つからなかった。小判形の窪みである。
付属遺構　ＨＦ：中心軸上に床面付近の炭層が落ち込む窪みを２か所検出。炉跡とみられる。
ＨＰ：小さい窪みを床面東側で３か所検出するが、柱穴かは不明。
遺物出土状況　覆土から円筒土器上層期の破片が出土している。
時　　期　覆土出土の土器から円筒土器上層期の住居と考える。　（土肥）

H-52（図Ⅵ-52、表Ⅴ-１、図版155）
位　置　B・C18・19　　立　地　標高20.9m付近の平坦地
平面形　不明　　長軸方向　南-北？　　規　模　—/—×(4.08)/(3.66)×0.204m
確認・調査　B19区をCライントレンチの北側にベルトを残しながらの調査中、P-39の褐色土の拡がりを検出した。周辺を精査したところやや締まった床面と調査区北側壁面に住居の壁の立ち上がりを確認した。調査が進んでいたことから、住居の上端は削平してしまい、下端については土質の硬化が見られた範囲を床面としている。ベルト北側面をセクションとして調査を行った。炉跡は検出されなかった。北側の一部は調査範囲外、南側はH-６、東側の一部壁面はP-39に切られている。
覆　　土　覆土は、１層である。自然堆積と考えられる
形　　態　切り合いや削平によって上端・下端を検出できなかったため、形状は不明である。
付属遺構　ＨＰ：９か所を検出した。北東側床面から固まって検出した。柱穴と考えられる。
遺物出土状況　床面からたたき石や剝片、覆土から剝片や礫が出土している。
時　　期　H-６（大安在Ｂ式期）に切られていることから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。　（酒井）

H-53（図Ⅵ-53、表Ⅴ-１、図版155）
位　置　B18・19　　立　地　標高20.6m付近の平坦地
平面形　隅丸方形？　長軸方向　南-北　　規　模　(2.62)/(2.54)×(2.44)/(2.36)×0.159m
確認・調査　H-52を調査中、床面に隅丸方形と思われる拡がりを検出した。H-52の調査終了後、ベルト北側面をセクションとして調査を行ったところ、住居の壁の立ち上がりと地床炉（ＨＦ１）を検出した。住居の上部はH-52によって削平され、南側はH-６に切られている。床面に薄い炭化物の層が拡がっていることから、焼失住居の可能性がある。
覆　　土　覆土は、１層である。埋め戻しと考えられる。床面に薄い炭化物の層が見られる。
形　　態　床面中央に地床炉のある、隅丸方形の住居跡と考えられる。
付属遺構　ＨＦ：１か所を検出した。ＨＦ１は床面中央とみられる位置にある地床炉である。形状は楕円形、長さ0.40m、幅0.32mである。南側はH-６に一部削平されている。
ＨＰ：４か所を検出した。柱穴と考えられる。
遺物出土状況　床面から剝片と礫、覆土から石鏃・つまみ付ナイフなどの石器が出土している。
時　　期　H-６（大安在Ｂ式期）に切られていることから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。　（酒井）

H-59（図Ⅵ-54・55、表Ⅴ-1、図版 160）

位　置　B19・20　　**立　地**　標高 21.6m前後の平坦地

平面形　推定楕円形　　**長軸方向**　北東-南西　　**規　模**　—/—×—/—×0.42m

確認・調査　2017 年 10 月中旬、B20 区を掘削時に出土遺物の少ないなか土器 794 を一括で検出した。その後も付近で一括遺物が次々と出土することから住居址の覆土と判断し、H-59 を設定した。10 月末には床面付近まで出土遺物の計測を終え、B20 ラインで南北、壁面で東西の断面を測量した。調査終了前日に確認できた平面を計測後、すぐに掘削し下位の遺構調査に入った。本住居址は、東側でH-74 を切り、下位にH-7・51・84 が重なる。翌年北壁に残る断面を再清掃し確認したところ、床面下にあるH-51・84 の間に幅 20 cmほど自然層のⅥ層が挟まり、それに刺さる礫が石囲炉の炉石と確認した。精査したところ炉の南側に並ぶ5点の礫を検出、そのうちの東西の2点は外れなかったため、現地に残した。この住居址の西側には、上部に小礫集中のある同時期の土坑が2基ならび、その開口部は現地表面に達することから、本住居址も地表付近から掘り込まれていたとみられる。

覆　　土　炉の付近は抜根により乱れもあるが、覆土上部に黒色土が落ち込み、下位は主に濁ったⅣ・Ⅴ層の混土層に2条の黒褐色土層の薄い堆積が挟まる。

形　　態　全体の形状は不明だが、楕円形だった可能性がある。

付属遺構　**ＨＦ**：石囲炉の南端を検出した。　　**ＨＰ**：調査していない。

遺物出土状況　遺物の多くは覆土中に入る黒褐色土層の下位側とその下層から検出され、煉瓦台式土器の古段階に混じり大木 10 式土器を2個体検出した。

時　　期　出土遺物から煉瓦台式期の住居と考える。　　（土肥）

H-62（図Ⅵ-36・37、表Ⅴ-1、図版 163）

位　置　C22・23　　**立　地**　標高 21.1m前後の平坦地

平面形　円形　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　(2.80)/—×(2.40)/—×0.56m

確認・調査　C22・23 区で確認されたH-22 の下に重なる住居址、H-22 調査の過程で確認した。調査は 2017 年 10 月下旬から着手した。覆土はローム質のⅤ層土の堆積中に炭化物混じりの黒褐色土層の薄い堆積面が挟まるもので、一番上部の炭層面付近から一括で土器石器が出土した。それより下位でまとまった遺物は出土しなかったが、床面付近では地床炉、柱穴も確認した。2017 年度の調査では柱穴断面の記録がないほか、床面の付属遺構はH-27 にまとめて記録した。しかし、確認された地床炉はH-27 の周溝の上に重なっていたことから、本住居址はH-27 より新しいと考えられる。

覆　　土　ローム質のⅤ層主体の覆土に炭まじりの黒褐色土層が筋状に5層入り、そのうちの3層は床面付近で重なる。

形　　態　円形に近い床面の壁際に6か所の柱穴をもつとみられる。

付属遺構　**ＨＦ**：床面中央の南寄りで地床炉を検出。

ＨＰ：H-27 内の柱穴 12 と 15 は本住居址のものと考えられる。このほか関連する柱穴4か所を検出している。

周溝：2017 年度の調査で壁際に周溝を確認したが、翌年の清掃作業で不明になった。

遺物出土状況　覆土上部で6個体の土器 821・823～827 が出土したほか、扁平打製石器が出土している。

時　　期　出土遺物からH-27 より新しい段階の榎林式期の住居址と考えられる。　　（土肥）

H-63（図Ⅵ-56・57、表Ⅴ-１、図版 164）

位　置　D・E19・20　　**立　地**　標高約 20.50mの平坦面。H-15 の下に位置する。

平面形　いびつな楕円形を推定　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　3.76/3.56×3.48/2.92×(0.14)m

確認・調査　H-15 の調査後、土層観察時に断面に一部観察できた黄褐色土層が平面的にも確認できた。まず炭化物が密に入り込んでいたため検出、記録した。壁面から中心方向に倒れるように分布する。次に炭化物を取り除き、床面を確認した。

覆　　土　周囲のⅥ層由来の土で埋まっていた。

形　　態　おおよそ六角形でいびつな楕円形を推定している。

付属遺構　おおよそ六角形で中心にはＨＦ１・２といった地床炉を確認できた。ＨＰは９基検出した。長軸両端に位置するＨＰ１・２は深く、内踏ん張りの柱穴と思われ、これに対応する構造があるとすると、検出したおおよそ六角形の平面形はベンチを有する竪穴式住居のベンチ内側と考えられた。小穴群とした細い棒状の穴が並んでいた痕跡が 14 か所あり、内部の施設を示している可能性があった。また壁際には板材単位なのか長楕円形の穴が巡り土留めないしは壁状のものが上屋構造を支えている可能性がある。

遺物出土状況　覆土から土器・石鏃・スクレイパー・たたき石・石鄂などの石器が出土している。

時　　期　H-15 より古く、縄文時代前期後半～中期中葉である。　（大泰司）

H-74（図Ⅵ-58、表Ⅴ-１、図版 175）

位　置　B・C20・21　　**立　地**　標高 21.1m前後の平坦地

平面形　楕円形　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　(5.50)/―×3.90/2.32×0.74m

確認・調査　2017 年 10 月下旬、調査区北側に位置するH-36 の調査中、B20 区でH-36 を掘りぬくP-29 の周りを掘り下げていたところ、直径約 50 ㎝の円形の石囲炉を検出し、H-36 上に住居址が重なることを確認した。本住居址の南北断面を確認すると、H-36 とほぼ重なり、北側の立ち上がりは調査区外に出ている。推定の規模は長径 5.5m、幅 3.9mで、炉は床面中央より北側に寄る。調査も終盤で、付属遺構の調査はしていない。

覆　　土　南北の断面から、北側は覆土の堆積が上がり始め壁面が近づいていることがわかる。覆土中位にローム質主体の土層に特徴的なⅥ層ブロックを含む層が堆積し、調査区北側に残る断面では、その層がH-20 の上部に伸びる様子がみられる。西側はH-59 に切られる。

形　　態　平面が推定楕円形で、円形の石囲炉を持つこと以外は不明である。

付属遺構　ＨＦ：床面中央の北寄りに石囲炉を検出。　　ＨＰ：未確認

周溝：壁面に残る断面からも確認できない。

遺物出土状況　時期を考える手がかりのある遺物はトレンチから出土し、当初H-36 の遺物としていたため、658、660、661 がそちらに掲載しているが、その続きの遺物を出土状況と照合し、本住居址の遺物と確認した。また、続きの遺物を検出中に細かい破片が多かったため出土データがない 885 が出土している。床面付近の北側からは大型の砂岩が出土、石囲炉使用の礫にはたたき石、凹み石が混じる。

時　　期　榎林式の住居に重なり、煉瓦台式の住居に切られる。出土した土器に、口縁部に粘土紐を折り返した無文の隆帯が巡る土器が混じることから榎林式の新段階の住居址と考える。　（土肥）

H-78（図Ⅵ-59、表Ⅴ-1）

位　置　B・C23・24　　立　地　標高 20.9m前後の平坦地

平面形　推定楕円形　　長軸方向　不明　　規　模　—/(7.60)×(1.64)/—×0.63m

確認・調査　Cラインのトレンチ調査で断面に現れた最も東側に位置する住居址。南側の立ち上がりはトレンチにより失われ、西側はH-13 に切られ、北側は幅約 1 mが残っている。調査は 2017 年 9 月から着手、東西断面はトレンチで測量されていることから、調査は掘削からはじめ、東側の立ち上がりを検出することを目標に床面まで下げた。床面からは柱穴を 1 か所検出した。

覆　　土　ローム質のⅤ層主体の覆土。

形　　態　部分的な検出のため不明。

付 属 遺 構　ＨＦ：確認されていない。　　ＨＰ：直径 53 ㎝・深さ 70 ㎝の柱穴を 1 基確認した。

周溝：2017 年度の調査で東側の壁際に周溝を確認したが、翌年の清掃作業で不明になった。

遺物出土状況　覆土から中期前葉の破片が 37 点出土している。

時　　期　出土遺物から円筒土器上層式期の住居址と考えられる。　　（土肥）

H-79（図Ⅵ-60・61、表Ⅴ-1 、図版 176）

位　置　C22・23　　立　地　標高 21.1m前後の平坦地

平面形　推定楕円形　　長軸方向　北東-南西　　規　模　(5.20)/—×(4.00)/—×0.50m

確認・調査　C22・23 区で大量に出土した煉瓦台式土器の分布がC23～22 区にかけてなだらかに落ち込むように検出された。住居址が存在する可能性があるため、断面を十字に設定し掘削した。このとき狙った住居址は煉瓦台式期より古い時期であり、掘削の結果H-22 を確認した。その断面を改めて確認すると、表土除去後に現れる煉瓦台式土器を含む黒褐色土層の落ち込みと、その平坦な下面で焼かれた炉跡を確認した。実態はほとんど失われたが記録が残ったため、遺物の分布から推定で規模を出した。深さは地床炉上面のレベルと、C23 区の高い位置で出土する遺物の主な出土レベル 21.7mとの差である。

覆　　土　ローム質のⅤ層主体の覆土に炭や腐植の入る土層が混じり、全般に黒褐色の土層に大量の土器片が混じる。

形　　態　平面はおおむね楕円形と推測される。

付 属 遺 構　ＨＦ：床面中央の南寄りで地床炉を検出。　　ＨＰ：未確認

遺物出土状況　覆土からは比較的古手の煉瓦台式土器が出土している。

時　　期　出土遺物から後期前葉の煉瓦台式期の住居址と考えられる。　　（土肥）

H-83（図Ⅵ-62、表Ⅴ-1 、図版 177）

位　置　C20・21　　立　地　標高 21.1m前後の平坦地

平面形　不明　　長軸方向　北東-南西　　規　模　3.20/2.92×(1.24)/(1.24)×0.38m

確認・調査　2017 年 11 月の調査最終週にH-83 とされた住居址である。H-36 掘削時に南側壁面に現れた浅い住居で、その後H-46 の南北断面を調査する際、関係を調べるため断面中央を掘りぬいた。その後長軸で断面実測し、それを図化したところで調査は次年度に送りになった。翌年残した断面を丁寧に下げると、中央付近に炭層の広がりを確認し、ベルトの中から側縁有溝石器が出土した。中央の炭層はより拡がっていたとみられるが、2017 年度末は丁寧に掘る余裕が無く掘り飛ばしたようだ。床面からは様々な柱穴を検出したが、本住居に直接伴うものはないと考える。

覆　　土　覆土はⅣ・Ⅴ層起源のローム質土の堆積層。

形　　態　全体の形状は不明。

付属遺構　ＨＦ：不明　　ＨＰ：狭い床面に８か所の柱穴を確認したが、直接本住居の柱穴とみられるものは見つかっていない。ＨＰ１はより古い時期の方形柱で、周囲はこれより掘り下げられているため関連する柱穴は見つかっていない。同様の柱穴がH-７の床面から多数検出している。ＨＰ４などはよい位置だが、この住居址より新しい柱穴である。

遺物出土状況　覆土から側縁有溝石器や石斧が出土したが、土器の出土量は少なく、円筒土器上層式の胴部破片が出土している。

時　　期　覆土出土の土器から円筒土器上層式期の住居と考える。　（土肥）

H-84（図Ⅵ-63、表Ｖ-１、図版 177）

位　置　Ｂ・Ｃ20　　**立　地**　標高 21.0m前後の平坦地

平面形　不明　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　(4.90)/(2.40)×(3.20)/—×0.38m

確認・調査　2017 年の調査最終日前日にＢ・Ｃ20 区で確認した。H-74 の床面を下げ、下位のH-36 の床面検出に入ったところ、H-74 の石囲炉から約 80 cm西側で長方形の石囲炉を検出した。これをH-84 とした。床面はH-74 とほぼ同一面で、調査区北の断面で確認すると、東側はH-74 に切られ、上にH-59 が重なる。H-36 の覆土下位に石囲炉を検出したことと、周溝のつづきを確認していることから、H-36 の上に重なる。ここまで確認し、調査は翌年に繰り越した。翌年は床面を調査し、５か所の柱穴や周溝を確認した。さらに、Ⅵ層を掘り込む立ち上がりと周溝の位置が合わないことからＡ・Ｂの枝番で分けた。また、H-84Ａの西側には炭層の拡がりを検出した。

覆　　土　周囲の住居とほぼ同じローム質のＶ層主体の覆土である。

形　　態　周溝上に並ぶ小柱穴を確認しているが、主柱穴は見つからなかった。

付属遺構　ＨＦ：床面中央の南寄りで長方形の石囲炉を検出、炉には薄く焼土が堆積していた。

ＨＰ：周溝のやや内側に小柱穴が並ぶのを確認。主柱穴は未確認。

周溝：H-84Ａに２列の周溝のほか、一回り小さな周溝を確認している。

遺物出土状況　目立った土器の出土状況はない。床面で炭層を検出した西側では剥片石器や礫石器が出土している。

時　　期　周囲の住居址の切り合いから榎林式期の住居址と考えられる。　（土肥）

H-88（図Ⅵ-64、表Ｖ-１）

位　置　Ｂ・Ｃ22・23　　**立　地**　標高 21.1m前後の平坦地

平面形　不明　　**長軸方向**　北東-南西　　**規　模**　(6.90)/—×(1.00)/—×—m

確認・調査　2017 年のＣライントレンチで検出した柱穴を処理するために付した仮設の住居番号。このエリアに住居址があったことは確かだが、トレンチ北側の断面にはH-13・78 が、南側にはH-14・22 掘り込みが重なり、その両方に当てはまらない柱穴群で、何軒分の柱穴なのかも不明である。

覆　　土　柱穴覆土の大半はＶ～Ⅵ層土である。

形　　態　住居の形は失われている。

付属遺構　ＨＦ：なし

ＨＰ：当該域で検出した柱穴は 13 か所、そのうち記録したものは 10 か所。

遺物出土状況　目立った土器の出土状況はない。

時　　期　周囲の住居址の切り合いから、円筒土器下層式期～円筒土器上層式期の住居の痕跡と考えられる。　（土肥）

H-89Ａ・Ｂ（図Ⅵ-65～68、表Ⅴ-１、図版 178・179）

位　置　Ａ：Ｄ・Ｅ18～21　Ｂ：Ｆ・Ｇ19～21　　**立　地**　標高約 21.00mの平坦面

平面形　Ａ・Ｂいずれも、いびつな楕円形を推定　　**長軸方向**　Ａ：東-西　　Ｂ：東-西

規　模　Ａ：(15.80)/—×(10.96)/—×0.36m　　Ｂ：(11.52)　/—×(7.52)/—×—m

確認・調査　H-44 調査後、土層観察時に断面に一部観察できた褐色土層が平面的にも確認できた。色調の異なる部分をとり除き、床面を確認した。どの住居にも属さない柱穴をH-89とした。最終的な検討の結果、ＡとＢの二つに分けることとした。Ａについては一部だがおおよそ平坦な床面の可能性がある部分を検出した。Ｂについては広範囲から盛土１層と時期を同じくすると考える柱穴を確認した。これを一旦、H-89 に関連するものとして記録した。

覆　　土　周囲のⅥ層由来の土で埋まっていた。

形　　態　Ａ・Ｂいずれも、いびつな楕円形を推定している。

付属遺構　ＡからはＨＰを 18 基、ＢからはＨＰを 14 基検出している。Ｂの床面の広範囲から盛土１層と時期を同じくすると考える柱穴を確認した。

遺物出土状況　Ａの床面から礫、覆土から土器、石鏃・スクレイパー・たたき石・扁平打製石器などの石器が出土している。

時　　期　ＡはH-44 より古く、縄文時代前期後半～中期後葉である。Ｂは不明だが、Ａ・Ｂいずれも縄文時代前期後葉～中期前葉のフラスコ状土坑群よりは新しい。　（大泰司）

H-90（図Ⅵ-69、表Ⅴ-１、図版 179）

位　置　Ｅ20　　**立　地**　標高約 20.80mの平坦面。盛土１層下位～２層上面でH-93 の上位。

平面形　不整な円形　　**長軸方向**　不明　　**規　模**　3.00/2.84×2.88/2.72×0.08m

確認・調査　H-44 の調査時、南隣に周辺より黄色味の薄い、にぶい褐色土の拡がりを検出した。平面形中央に十文字に土層観察用土手を残して掘り下げたところ堅く締まった面を検出した。そこから壁面が立ち上がったため、小型住居とした。

覆　　土　炭化物や周辺のⅥ層がブロック状に混在する。

形　　態　不整な円形をしており、床面はおおよそ平坦である。

付属遺構　検出されていない。

遺物出土状況　覆土から土器（円筒土器上層ｄ式）、剥片・礫が出土している。

時　　期　下位のH-93 覆土から円筒上層ｄ式がまとまって出土し、盛土１層上面に位置し、周囲が盛土１層というよりⅥ層によって構成されるため盛土２層と近い時期の可能性がある。総合的にみて縄文時代中期後葉の可能性があった。　（大泰司）

H-93（図Ⅵ-70、表Ⅴ-１、図版 187）

位　置　Ｅ20　　**立　地**　標高約 20.30mの平坦面。盛土２層の上面。

平面形　隅丸五角形　　**長軸方向**　不明　　**規　模**　2.63/2.35×2.56/2.30×0.36m

確認・調査　H-90 の調査終了後、その下に周辺より黄色味が薄い、にぶい褐色土の拡がりを検出した。H-90 とほぼ同じ位置に南北方向の土層観察用土手を残して東側と西側を掘り下げた。円筒土器上層ｄ式ころの土器がまとまっていた。北側に締まった面を確認し、住居と判断した。南側は白い粘土質のⅥ層が流れ込んでおり、堅く締まっていた。そのためスコップを用いて、同系色の覆土を取り除いたところ、北側と連続する平坦面が連続していたことから床面と判断した。H-90 より若干小ぶりである。

P-195やP-259の上位。H-90の下位にあたる。周辺がⅣ・Ⅴ層のため、盛土２層主体部が形成される以前の自然地形の高まり部分に掘り込んだ可能性がある。

覆　　土　炭化物と周辺のⅥ層がブロック状に混在した覆土を主体とする。一部に掘上土のまとまった流入があるが、北隣のH-44の覆土にも同様の流入がまとまっており、他遺構の掘上土という可能性がある。

形　　態　隅丸五角形をしている。

付属遺構　ＨＦ１は床面より高い覆土中の焼土で、覆土遺物廃棄に伴う可能性がある。おおよそ平坦な床面の北側からＨＰを３基検出した。ＨＰ３の底面には二か所の微弱な窪みがあり二本の柱の掘り方であった可能性もある。

遺物出土状況　覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式や大安在Ｂ式）が、まとまって出土した。大安在Ｂ式は復元されている。また、石鏃・スクレイパー・たたき石・扁平打製石器などの石器、三脚石器が出土した。

時　　期　覆土でまとまって出土した大安在Ｂ式の縄文時代中期後葉の可能性がある。（大泰司）

H-94（図Ⅵ-71、表Ⅴ-１、図版187）

位　置　Ｄ・Ｅ20・21　　**立　地**　標高約20.80ｍの平坦面。盛土１層下位～２層上面。

平面形　円形？　**長軸方向**　不明　　**規　模**　(1.84)/(1.76)×(0.88)/(0.84)×(0.12)ｍ

確認・調査　H-89、H-47、H-44に切られていた。H-47の石囲炉の調査終了後、周辺を精査したところ、浅黄褐色土のⅤ層に褐色土が拡がっていた。H-89に切られていた側を精査し、土層を記録後、完掘した。P-195やP-259の上位になる。

覆　　土　周辺のⅥ層がブロック状に入り込んだ覆土で炭化物が混じる。

形　　態　残存部から円形を推定している。

付属遺構　この住居の柱穴と思われるＨＰ１を検出した。

遺物出土状況　覆土から礫が出土している。

時　　期　H-44より古く、縄文時代前期後半～中期後葉と考える。（大泰司）

H-95（図Ⅵ-71、表Ⅴ-１、図版187）

位　置　Ｃ20　　**立　地**　標高約20.80ｍの平坦面。

平面形　楕円形か　**長軸方向**　不明　　**規　模**　(0.70)/(0.66)×(0.64)/(0.64)×(0.20)ｍ

確認・調査　H-15とH-101の調査終了後、壁面を精査していたところ、周囲のⅣ層より褐色味が強い明褐色土層があった。H-15とH-101に南～西側が切られており、2017年の調査でH-７を主とする掘り込みに北～西側が壊されていた。H-15側の残存部覆土を土層観察用に垂直に削り直した。床面とそれに連続する壁面を確認した。平面形の残存部から大きな掘り込みを想定し、住居とした。盛土１層や盛土２層にかからないⅥ層からの掘り込みでH-15やH-101より古い。

覆　　土　周辺のⅥ層がブロック状に入り込む覆土で、壁際から床面に連続する２層には炭化物が入り込む。

形　　態　楕円形とみられる。

付属遺構　床面は若干の凹凸があるがほぼ平らである。ＨＰが１基確認できた。覆土２層の土が入り込んでいた。

遺物出土状況　覆土から剝片・礫が出土している。

時　　期　H-15より古いため、縄文時代前期後半～中期中葉である。H-７よりも古い。（大泰司）

H-98（図Ⅵ-71、表Ⅴ-１、図版 189）

位　置　C・D19・20　　立　地　標高約 20.50mの平坦面。H-15・101 と同一床面。

平面形　楕円形　　長軸方向　北東-南西　　規　模　(3.68)/(3.60)×(3.08)/(2.96)×―m

確認・調査　2018 年、H-15 の北半分はすでに掘りあがっていた。そこに連続しておおよそ楕円形に二面、楕円形に溝が回っていたと考えられる。東側はH-６に切られて無くなっていた。新旧は不明だったが、おおよそ北側のまとまりをH-98、南側をH-101 として便宜上名付けた。

形　　態　楕円形と考えられ、壁際に溝が廻っている。

付属遺構　H-98 としてまとまっていた溝と、周辺にまとまっていた柱穴をH-98 のものとして記録した。ＨＰが７基、周溝が１条確認できている。

遺物出土状況　覆土からナイフと礫が出土している。

時　　期　H-６・H-15 より古いので縄文時代前期後半～中期中葉である。土留め板痕跡様の周溝は、中期後半にもあるが、前期後半～中期前葉の円筒土器文化にもある。　（大泰司）

H-101（図Ⅵ-72、表Ⅴ-１）

位　置　C・D19・20　　立　地　標高約 20.50mの平坦面。H-15・98 と同一床面。

平面形　楕円形　　長軸方向　東-西？　　規　模　(2.04)/(2.04)×(3.52)/(3.40)×―m

確認・調査　2018 年、H-15 の北半分はすでに掘りあがっていた。そこに連続しておおよそ楕円形に二面、楕円形に溝が回っていたと考えられた。東側はH-６に切られて無くなっていた。新旧は不明だったが、おおよそ北側のまとまりをH-98、南側をH-101 として便宜上名付けた。

形　　態　楕円形と考えられ、壁際に溝が廻っている。

付属遺構　H-101 としてまとまっていた溝と、周辺にまとまっていた柱穴をH-101 のものとして記録した。ＨＰが３基、北側と南側に溝を確認している

遺物出土状況　覆土から土器、剝片・礫が出土している。

時　　期　H-６・H-15 より古いので縄文時代前期後半～中期中葉である。土留め板痕跡様の周溝は、中期後半にもあるが、前期後半～中期前葉の円筒土器文化にもある。　（大泰司）

H-102（図Ⅵ-72、表Ⅴ-１、図版 193）

位　置　E19　　立　地　標高約 20.70mの平坦面。盛土１層より下。

平面形　隅丸方形か　　長軸方向　不明　　規　模　(0.24)/(0.20)×(2.60)/(2.32)×(0.12)m

確認・調査　H-15 調査終了後に壁面を精査したところ、北西壁に周囲のⅥ層より暗い灰褐色土の拡がりがあった。中央に土層観察用の土手を残し掘り下げた。おおよそ平坦な床面とそこから立ち上がる壁を確認した。残存部両端の壁面際はやや高くなっている。H-15 の付属遺構、壁材を配置したテラス部分等の可能性も考えたが、対応する土層が無い。その規模からH-15 に切られた古い住居とした。

覆　　土　覆土１層はⅥ層がやや腐植したもの。覆土２層は現生の根が入り込んだ痕跡と考える。

形　　態　隅丸方形と考えられ、おおよそ平坦な床面をしている。

付属遺構　とくに確認できなかった。

遺物出土状況　目立つもので礫が３点床面から出土した。

時　　期　H-15 より古いので縄文時代前期後半～中期中葉である。　（大泰司）

H-103（図Ⅵ-73・74、表Ⅴ-１、図版 193）

位　置　F・G18・19　　**立　地**　標高約 20.30mの平坦面。調査区壁面から盛土１層中位。

平面形　不整な五角形　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　7.48/7.32×5.28/5.00×0.80m

確認・調査　盛土１層下位を掘り下げて下位に差し掛かったところ、周囲より暗い暗褐色土の拡がりが明瞭になってきた。南脇に残した調査区壁面から盛土２層中位から掘り込まれている事がわかったが、平面的にはほぼ地山まで下げた段階での判明である。F17～19 区において、2018 年はFラインより３m南側で一旦調査範囲を区切った。盛土とそれに付随する遺構を調査して、盛土１層下位を地山まで掘り下げた段階で検出した。調査区壁面を土層観察用とし遺構半截を意識したが大型であるため、これと直交してもう一か所に土層観察用土手を残して掘り下げた。明瞭な床面とこれに続く壁面を検出したため住居とした。H-114・P-243・244 より新しい。

覆　　土　盛土２層および地山の土層が主体の覆土２層が主体である。床面近くになると大型の炭化物№１を検出し、周辺からも細かい炭化物がまとまって検出された。

形　　態　不整な五角形をしており、床面の中央が浅く窪む。

付属遺構　ＨＦを７か所、ＨＰを７基検出している。ＨＦ１は円礫の詰まった地床炉と考えた。ＨＰ６は 2018 年当初、盛土１層下位以前の土坑Ｐ-244 としたが長軸を対称軸にしてＨＰ５と対になった。またＨＰ３とＨＰ４が四本の主柱穴として線対称の配置となった。長軸上にＨＰ２があり、掘り方のある柱穴という可能性を考えた。ＨＰ７は垂直に掘りこまれており補助的な柱穴の可能性がある。

遺物出土状況　覆土下位から土器（榎林式）がまとまった状態で３個体（993・994・995）と同一個体の底部破片のまとまりがあった。覆土から石鏃・スクレイパー・つまみ付ナイフ・たたき石などの石器のほか、石冠様石器や線刻礫が出土している。

時　　期　覆土中に廃棄された遺物が縄文時代中期後葉であり、その前と考える。盛土１層以前の住居である事からも、縄文時代中期後葉と考える。　（大泰司）

H-104（図Ⅵ-75、表Ⅴ-１、図版 193）

位　置　D20・21　　**立　地**　標高約 20.70mの平坦面。H-44 の下。

平面形　いびつな楕円形？　　**長軸方向**　東-西

規　模　(2.32)/(2.12)×(0.92)/(0.78)×(0.32)m

確認・調査　H-44 の調査終了後、Ⅵ層に褐色土の拡がりを検出した。H-15・47 にきられており残存部分の東側を掘り下げた。床面とそこから連続してやや開きながら立ち上がる壁面から遺構と確認し、完掘した。

覆　　土　覆土１層はⅣ層がずれてきたもので、H-44 の床面による作用と考える。覆土２層はⅥ層由来で若干腐植したもので、炭やⅣ層が細かなブロック状に混在する。

形　　態　いびつな楕円形と考えられる。床面はおおよそ平坦である。

付属遺構　ＨＰ１の平面形は円形だが、浅く、底面はいびつである。橙色の覆土は炭が混在する。

遺物出土状況　覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、たたき石・剥片が出土している。

時　　期　H-15・47 より古く、出土遺物から縄文時代中期中葉の可能性がある。　（大泰司）

H-105（図Ⅵ-75、表Ⅴ-1、図版 194）

位　置　D・E20・21　　**立　地**　標高約 20.70mの平坦面。H-44 の下。

平面形　いびつな方形を予想　　**長軸方向**　南-北

規　模　(3.16)/(3.04)×2.32/2.06×0.30m

確認・調査　H-44 調査終了後、Ⅳ層に褐～暗褐色土の拡がりを検出した。H-90 に切られており残存部分の北西側を掘り下げた。床面と、そこから連続して開きながら立ち上がる壁面から、遺構と確認し、完掘した。

覆　　土　覆土４層は検出時に観察できた焼土である。H-44 のＨＦ１によるものと考える。覆土１層はⅣ層とⅥ層の細かなブロックが混在する。覆土２層はⅣ層の細かなブロックが目立ち、覆土３層はⅥ層の細かなブロックが目立つ。いずれもやや腐植が進み、炭が混じる。覆土２層の腐植がやや顕著である。覆土５層はⅥ層のブロックを多く含む。覆土１～３・５層は掘上土が流入した可能性がある。

形　　態　いびつな方形と考えられる。床面はおおよそ平坦であるが、中央に向かって窪む。

付属遺構　ＨＰ１～３は柱穴様である。平面形は円形でＨＰ１・３、ＨＰ２・３は一直線上に並ぶ。ＨＰ１・２の覆土はⅣ層由来の可能性があり、若干炭が混じる。ＨＰ３はⅥ層由来の土と炭化物の薄層が互層をなす。

遺物出土状況　覆土から土器（榎林式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　H-90・94 より古く、出土遺物から縄文時代中期後葉である。　（大泰司）

H-106（図Ⅵ-76、表Ⅴ-1、図版 194）

位　置　E・F22

立　地　標高約 20.30mの平坦面。不明瞭だが盛土２層下位～Ⅳ・Ⅴ層を掘り込んでいる。

平面形　卵形に近い楕円形　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　3.48/3.14×3.12/2.98×0.24m

確認・調査　E・F22 区の盛土２層を掘り下げていたところ、灰白色～浅黄褐色をしたⅣ層に暗褐色土の拡がりを確認した。南北方向に土層観察用土手を設定して掘り下げたところ炭化物が面的に広がっていた。記録後さらにその下へ続く暗褐色土を掘り下げたところ、床面とそこから連続して立ち上がる壁面を確認し、住居と判断した。炭化物の下は斜面側の崩落部分以外は一枚の覆土３層から構成されており、炭化物層は住居上屋構造の焼失等と判断した。窪みへの廃棄に伴うもので取り上げ№1 の土器（榎林式）およびHFC１と関連すると考えられた。また№1 下に分布する炭化物層も床面より上位で上位炭化物と連続性のあるもの、廃絶時一番窪んでいた場所と想定する。

覆　　土　炭化物層の上下にはよく似た暗褐色土が入り込んでいる。溝にも覆土３層または類似の覆土５層が入り込むが炭化物が少ない。覆土４層は崖際の土層で崩落部分である。ここのフレイクチップはHFC２が流出したものか、別途の廃棄かは不明瞭であった。

形　　態　卵形に近い楕円形をしており、壁際に溝が廻る。

付属遺構　周溝が北側にある。南西側は廃絶時の崩落によるものか溝が途切れている。壁と床の境が不明瞭で、ほかと比較すると不整な状況であった。床面直上と覆土からHFCを３か所確認している。

遺物出土状況　覆土から土器 608（榎林式）、石槍・スクレイパー・石斧・たたき石などが出土している。

時　　期　№1 の土器 608（榎林式）や周辺の遺物出土状況から縄文時代中期後葉と考えられる。周辺から前期の遺物が出土しているが強く関連するものは無い。　（大泰司）

H-107（図Ⅵ-77、表Ⅴ-１、図版 194）

位　置　F19・20　　**立　地**　標高約 20.60mの平坦面。

平面形　いびつな楕円形　　**長軸方向**　北西-南東　　**規　模**　3.20/3.02×2.84/2.59×0.58m

確認・調査　盛土２層下位まで掘り下げたところ、周囲より暗い色調の暗褐色土の拡がりを検出した。F20 区およびF19 区の 1.2mライン側はFラインより 3.4m南側までを 2018 年は掘削した。そこで調査区南側壁面で掘り込みを確認し、規模から住居とした。2019 年に継続して調査を行った。H-133 や H-138 により南側壁面は不明瞭であった。調査区壁面で土層断面を確認観察し、検出した平面形から推定される長軸に土層観察用の土手を残し覆土を掘り下げた。H-111 より新しい。

覆　　土　Ⅳ層と盛土２層の境界は不明瞭だが、周囲の土層との対比により、盛土２層下位以下からの掘り込みと考える。上位に流入層が連続するが、掘り込みはⅣ層からと考えられる。

形　　態　いびつな楕円形をしている。

付属遺構　ＨＦを２か所、ＨＰを２基検出している。ＨＦ１は長軸上に焼土と炭の分布が見られ、床面の焼土分布から地床炉と考える。ＨＦ１を取り囲む小さな窪みは石囲炉の抜き取り痕という可能性がある。その 80 cmほど東から検出した焼土と炭化物が覆土に入り込んだ小土坑をＨＦ２とした。床面は盛土やⅣ層と異なる土色が見えており、ＨＰ１は 2018 年に、石や土器で囲まれた黄褐色土の入り込みとして検出した。より下位にある遺構の付属遺構という可能性を考えたが、2019 年にＨＰ１として調査した。検出面から覆土にかけて９点の礫や土器（円筒上器上層式）が詰まっていた。割栗石のようなものかもしれないが、土坑自体が浅く不明である。炉をはさんでＨＰ２と対になり炉とやや鋭角的な角を結んだ線を対称軸とすると丁度その上に土坑状のＨＦ２が位置する。この三か所で上部構造を支えた可能性がある。

遺物出土状況　覆土から土器（見晴町式）、石鏃・スクレイパー・たたき石・扁平打製石器などの石器が出土している。

時　　期　出土遺物から縄文時代中期中葉という可能性がある。　（大泰司）

H-108（図Ⅵ-78～80、表Ⅴ-１、図版 195）

位　置　E・F20～21　　**立　地**　標高約 20.50mの平坦面

平面形　いびつな楕円形　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　6.16/5.36×4.52/4.21×0.56m

確認・調査　盛土１層と２層を調査中、暗褐色土の拡がりを検出した。東 - 西と南 - 北に土層観察用土手を直交するように残した。土層観察を行いながら、覆土上位に入り込んでいた盛土２層と覆土下位の住居に関連すると思われた遺物にわけて取り上げながら掘り下げた。おおよそ平坦な床面とそこから広がりながら立ち上がる壁面を確認した。北側からはベンチ構造、西側と東側に溝を検出した。

覆　　土　周囲のⅥ層由来の土で埋まっていた。

形　　態　いびつな楕円形をしており、おおよそ平坦な床面をしている。

付属遺構　ＨＰが 29 基、北側からベンチ構造、西側と東側に溝を検出した。床面から HFC１・２を検出した。

遺物出土状況　床面直上からミニチュア土器(1006)や石棒とみられる大型の棒状礫(8)、覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式新）や篦状石器・石斧・たたき石・扁平打製石器などの石器が出土している。

時　　期　盛土１層より古く、出土遺物から縄文時代中期中葉である。　（大泰司）

H-111（図Ⅵ-77、表Ⅴ-１、図版 199）

位　置　F19　　**立　地**　標高約 20.60mの平坦面。盛土１層下位でH-107 より古い。

平面形　楕円形？　　**長軸方向**　不明　　**規　模**　(1.88)/(1.46)×(0.44)/(0.26)×0.34m

確認・調査　H-107 検出時に平面形を精査したところ、橙色味の強いにぶい橙色土の拡がりがH-107 によって東側が無くなっていた。南側は調査区壁面の外側であり、土層断面が壁面に現れていた。残存する平面形の湾曲具合から大型の掘り込みが想定でき、住居とした。断面のみの確認となった。

覆　　土　F19 区側に分布するⅥ層に近い土色であり、Ⅳ層を掘り込んだものと考える。

形　　態　楕円形の可能性がある。床面は断面からおおよそ平坦と判る。

付属遺構　特に検出されていない。

時　　期　H-107 より古く、盛土１層の下位を掘り込んでおり、縄文時代中期前葉～中葉という可能性がある。　（大泰司）

H-113（図Ⅵ-81、表Ⅴ-１、図版 201）

位　置　E22　　**立　地**　標高約 20.30mの崖際に近い平坦面。

平面形　楕円形　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　(2.32)/(2.24)×1.52/1.38×0.16m

確認・調査　H-106 調査終了後に壁際を精査し包含層を清掃したところ、周囲の褐色土より暗い暗褐色土の拡がりを検出した。長軸方向に土層観察用の土手を南北方向に残し、掘り下げた。床面と壁面を検出した。床面は平坦で、東側にベンチ構造を持つ。この構造から単純に土坑とせずに住居とした。検出標高がやや低いのは傾斜のためである。盛土２層下のⅡb 層を掘り込んでいる。H-106 に壊され、H-123 の中に掘り込まれている。H-14 の柱穴ＨＰ５に壊されている。

覆　　土　覆土２層としたH-123 の覆土がより腐植したものの流入と考える。

形　　態　楕円形をしていて、床面は平坦、東側にベンチ構造がある。

付属遺構　東側にベンチ構造がみられる。

遺物出土状況　検出面から土器（円筒土器上層ｂ～ｃ式）が出土している。

時　　期　H-14 より古い為、縄文時代中期前葉である。　（大泰司）

H-114（図Ⅵ-81、表Ⅴ-１、図版 201）

位　置　F19　　**立　地**　標高約 20.30mの平坦面。

平面形　楕円形に近い形状　　**長軸方向**　不明　**規　模**　(1.36)/(1.26)×(0.80)/(0.66)×0.34m

確認・調査　H-103 を調査中、南側壁面にH-103 が切っている遺構の土層断面を確認した。F17～19 区において、2018 年はＦラインより３m南側で一旦調査範囲を区切ったが、F19 区について、出入口としてＦラインからさらにもう１m分について 40 ㎝掘り下げていた。この部分を改めて精査すると、断面に対応する平面形が確認できた。北側の一部は不明瞭だった。残存する平面形の湾曲具合から大型の掘り込みが想定されたため住居とした。2018 年は確認部分の記録にとどめ、2019 年に完掘した。Ⅳ層を掘り込んでいる。H-103 より古い。

覆　　土　Ⅵ層が掘り込まれた遺構で、覆土もこれに由来している。

形　　態　楕円形に近い形状を想定している。断面に平坦な床面が現れている。

付属遺構　特に検出されていない。

時　　期　盛土１層より古い。榎林式土器が出土していることから縄文時代中期後葉と考える。

（大泰司）

H-123（図Ⅵ-82、表Ⅴ-１、図版 203）

位　置　D・E22・23　　**立　地**　標高約 20.40mの平坦面の崖際。

平面形　台地側は不整な隅丸方形、崖側は削平されている。　**長軸方向**　南-北？

規　模　(6.30)/(6.16)×2.96/2.68×0.38m

確認・調査　H-113 調査終了後、断面および周辺を精査したところ、H-113 から北側に向かって住居を思わせる暗褐色から褐色の土が拡がっているのを確認した。住居あるいは人為的な削平の可能性を考えた。平面形の南側を垂直にして土層観察したところⅡb 層（図の覆土２層もⅡb 層）を削平している可能性があった。平面形を掘り下げたところ、炉および柱穴を思わせる付属遺構があった。斜面際の削平および人為的な痕跡が上屋構造の可能性を示していたため住居として扱うものとした。作業場と柵のようなものという可能性もある。H-106・113 より古い。

覆　　土　Ⅱb 層（覆土２層）を削平後、炭とⅥ層混じりの覆土１層が堆積し、その後斜面下側に向かって炭とⅣ層混じりの土が斜面下側へ向かって流れるように積もっている。

形　　態　台地側は不整な隅丸方形、崖側は削平されている。

付属遺構　床面に炭化物の集中が３か所あり、いずれも焼土（ＨＦ１～３）を伴う。ＨＰを９基検出し、ＨＰ１・５・８・９といった柱穴と考えられるものもある。床面を貼ったような痕跡が SP-C～D に現れているが、生活面の可能性もある。この床面の分布を平面形として示している。これより下の標高にフレイクチップの集中がある。

遺物出土状況　覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、石鏃・石錐・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　H-113 がH-14 より古く、H-123 はさらに古いため、縄文時代中期中葉である。

（大泰司）

H-125（図Ⅵ-83～87、表Ⅴ-１、図版 205・206）

位　置　G・H19・20　　**立　地**　標高約 20.70m前後の平坦面。盛土２層を掘り込む。

平面形　楕円形か　**長軸方向**　北東-南西　　**規　模**　(5.92)/(5.20)×(2.52)/(2.06)×(1.04)m

確認・調査　盛土を調査中、調査範囲の南端に、にぶい黄褐色土の拡がりを検出した。この平面形内部には焼土と炭、大きな土器破片のまとまりが分布していた。住居を想定し、ベルトを設定し、掘り下げたところ、床面と壁面を検出し、床面および調査範囲壁面から柱穴の可能性がある付属遺構を検出した。覆土上半部の東側は風倒木に由来するものか平面形が不明瞭であった上に、そこには小規模な配石を伴うＨＦ１や、埋設土器№19 を伴うＨＰ14 があった。埋没途中に住居廃絶窪みで、なんらかの儀式的な行為がなされていた可能性、もしくは別の住居であった可能性が考えられる。

覆　　土　盛土１層下位を掘りこんでおり、覆土はこれに由来すると考える。

形　　態　楕円形と考えられ、床面は明瞭で、おおよそ平坦である。

付属遺構　ＨＰを 14 基、ＨＦを３か所検出した。付属遺構としたもののうち、掘り方がある、断面が打ち込み柱の形状である等、柱穴の可能性があるものを考察したところ、ＨＰ１・２・３・６・11 がこれにあたる。ＨＰ８は炉のＨＦ２に伴うものである。中央の窪みにも焼土ＨＦ３を伴い炉の可能性があった。西側の壁面直下には溝が巡り、壁材を据え付けた痕跡の可能性を考えた。覆土上半部の東側に小規模な配石を伴うＨＦ１や、埋設土器№19 を伴うＨＰ14 があった。

遺物出土状況　覆土の土器は、縄文時代中期中葉の見晴町式のものが主体と思われる。石器は石鏃・石錐・スクレイパー・扁平打製石器・たたき石などのほか三脚石器が出土している。

時　　期　覆土中、埋没途中に土器（見晴町式）の埋設遺構ＨＰ14 があるのでそれよりは古い。縄文時代中期中葉頃と考える。　（大泰司）

H-129（図Ⅵ-88、表Ⅴ-1）

位　置　G・H18　　**立　地**　標高約20.50mの平坦面。Ⅳ・Ⅴ層を掘り込む。

平面形　楕円形に近い形状　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　3.33/3.17×(1.95)/(1.95)×0.62m

確認・調査　H-103を調査中、南側壁面が不明瞭であった。G18区を精査して褐色土の拡がりを確認した。平面形の北側はH-103に切られており南側は調査範囲外である。平面形が大型の楕円形に近い形状で、調査範囲壁面に床面が見え、住居とした。2018年は確認部分の記録にとどめ、2019年に完掘した。H-103より古い。

覆　　土　Ⅳ・Ⅴ～Ⅵ層が掘り込まれた遺構で、覆土もこれらに由来する。

形　　態　楕円形に近い形状で、平坦な床面がある。

付属遺構　ＨＰが４基検出されている。ＨＰ１では柱穴とその掘り方が検出された。ＨＰ２は覆土下位の礫層によって下半分の形状が不明瞭である。ＨＰ３はＨＰ２と近接するH-89Ｂの一部とも考えたが、まとまりと距離があるためH-129のものとした。

遺物出土状況　覆土から土器（榎林式）、石錐・スクレイパー・扁平打製石器・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　H-103や盛土１層より古い。出土遺物から縄文時代中期後葉と考える。　（大泰司）

H-130（図Ⅵ-89、表Ⅴ-1、図版207・208）

位　置　F・G20・21　　**立　地**　標高約20.50mの平坦面。盛土１層を掘り込む。

平面形　隅丸五角形　　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　4.44/4.24×4.36/4.16×(0.64)m

確認・調査　盛土を調査中、長方形に近い礫の配列を検出した。石囲炉の可能性を想定して周囲を精査したところ、にぶい褐色土の拡がりを確認した。掘り下げて床面と礫配列中の焼土も確認した。石囲炉のある住居とした。

覆　　土　盛土１層から掘り込まれ、覆土もこれに由来すると考える。

形　　態　隅丸五角形をしており、床面の東西方向はほぼ平坦だが南北方向がいびつで、おおよそ北側に傾斜する。

付属遺構　皿状の浅い土坑（ＨＰ１～４）が床面北側に分布する。石囲炉（ＨＦ１）の礫は浅い掘り方を持つ。炉石は11点で、長さ11.34～18.60㎝、重さ0.21～1.64㎏の礫で構成されている。うち２点はすり石を転用している。

遺物出土状況　床面から石鏃・たたき石・石皿、覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式～榎林式）、石鏃・スクレイパー・たたき石・凹み石などの石器が出土している。

時　　期　盛土１層下位より新しい。出土遺物から縄文時代中期中葉～後葉と考える。　（大泰司）

H-132（図Ⅵ-90、表Ⅴ-1、図版209）

位　置　G20　　**立　地**　標高約20.30mの平坦面。Ⅳ層を掘り込む。

平面形　楕円形的不整隅丸五角形　　**長軸方向**　南-北　**規　模**　2.96/2.46×2.30/2.00×0.38m

確認・調査　盛土を調査中、にぶい褐色土の拡がりを検出した。その範囲からの遺物(G21№6～7盛土2・H-134覆土№1～3)出土も目立った。さらにその中に暗褐色土の拡がりも検出した。入れ子状になった複数の遺構を想定し、まず暗褐色土の拡がりを調査した。床面と壁面から小型住居とした。

覆　　土　後にH-134とされた住居覆土が掘り込まれた遺構で、覆土はこれに由来すると考える。

形　　態　楕円形的不整隅丸五角形をしており、床面はおおよそ平坦である。

付属遺構　付属遺構は無いが、床面直上にHFC１としたフレイクチップの集中がある。
遺物出土状況　覆土から土器（榎林式）、スクレイパー・たたき石・砥石などの石器が出土している。
時　　期　盛土１層下位より新しい。縄文時代中期中葉後半の土器を転用した埋甕炉があるH-134より新しいことや出土遺物から縄文時代中期後葉と考える。　（大泰司）

H-133（図Ⅵ-91～93、表Ⅴ-１、図版 209）
位　置　F・G19・20　　**立　地**　標高約 20.30mの平坦面。盛土２層を掘り込む。
平面形　隅丸五角形？　**長軸方向**　北東-南西　**規　模**　(4.84)/(4.70)×5.44/5.28×0.28m
確認・調査　盛土を調査中、暗褐色土の拡がりを検出した。この平面形のほぼ中心に焼土と炭が分布していた。また、炭のまとまりはほかにも大きく四か所あった。住居を想定し、ベルトを設定し、掘り下げたところ、漠然とした平面形とその範囲を中心に柱穴と思われる付属遺構のまとまりを検出した。この一連のものをH-133としたが規則性に乏しく、明確ではない部分もある。
覆　　土　盛土２層を掘りこんでおり、覆土はこれに由来すると考える。
形　　態　隅丸五角形と考えられ、床面は不明瞭だが、おおよそ平坦と考える。
付属遺構　ＨＦは３か所検出している。ＨＦ１・２は床面より標高が若干高いため、構築当初のものではないと考える。ＨＰを 29 基検出した。掘り方が有る、断面が打ち込み柱の形状であるなど、柱穴の可能性があるものを考察したところ、長軸の西側にＨＰ１・２・12・13・19 があり東側にＨＰ６・７・８・21・26・25・29 がある。ＨＰ25・27・28・29 は平面形外側、東隣に集中する小土坑群であり、便宜的にH-133 に属するものとした。ＨＰ２から出土した炭化種実（クリ）の放射性炭素年代測定を行ったところ、4,605±20yrBP の測定結果を得ている。住居覆土から円筒土器上層ａ式の土器が出土していることから、古い時期の柱穴の可能性がある。ＨＰ25 からは２点の似たような大きさの石斧が刃を西に向け重ねた状態で出土した。埋納の可能性がある。
遺物出土状況　床面から土器（大安在Ｂ式）やスクレイパー・たたき石・扁平打製石器などの石器が出土している。覆土からは土器（円筒土器上層ａ式・大安在Ｂ式）、石鏃・石槍・スクレイパー・たたき石・扁平打製石器・すり石などの石器が出土している。
時　　期　盛土１層下位より新しい。出土遺物や年代測定の結果から、縄文時代中期後葉と考える。
（大泰司）

H-134（図Ⅵ-94～96、表Ⅴ-１、図版 210）
位　置　G21　　**立　地**　標高約 20.30mの平坦面検出。Ⅳ層を掘り込む。
平面形　隅丸五角形に近い四角形　**長軸方向**　南-北
規　模　4.50/4.38×4.20/4.05×0.42m
確認・調査　盛土を調査中、にぶい褐色土の拡がりを検出した。その範囲からの遺物（G21 区№6～7、盛土２・H-134 覆土№1～3）出土も目立った。さらにその中に暗褐色土の拡がりも検出した。これを調査しH-132 とした。次に、にぶい褐色土の拡がりを調査した。平面形の南側縁は中央が張り出し、五角形、船の舳先側を思わせる。掘り下げると、床面を思わせる引き締まった面を検出した。その面で平面形長軸上中心よりやや舳先側に、焼土と炭のまとまりがあり、それを切るようにして褐色土がいびつな円形に入り込んでいた。この面ですでに西壁に立てかけられるように出土した。石棒を思わせる自然礫№4 が見えていた。この炭や焼土より北側、艫側にはやや高まりがある。この締りのある面を更に掘り下げるとⅣ層が掘削された床面・壁面を検出した。
覆　　土　Ⅳ層を掘りこんでおり、覆土はこれに由来すると考える。覆土上位にH-132 が掘りこま

れていた。

形　　態　船の舳先を思わせる隅丸五角形に近い四角形をしており、床面はおおよそ平坦である。北西隅壁際には溝が巡っている。

付属遺構　柱穴のような付属遺構と思われる明褐色の円形をした入り込みが床面に大小27カ所あった。柱穴は長軸を対称軸としておおよそ線対称に配置される。主柱穴と思われる比較的大型のものはＨＰ１とＨＰ５・６・14また、ＨＰ-３・17とＨＰ２・９が対応していると考える。細かい補助的なものもあると思われ、複数回の建て替えか改築の可能性がある。北西隅壁際には溝が巡り、壁を支える材があった可能性がある。覆土下位で検出した炭と焼土に対応して炉があった。褐色土の入り込みの下には礫が詰まったＨＰ７があり、これは炉の一種であった可能性が高い。これはＨＰ10の埋設土器（見晴町式）を壊して作られており、ＨＰ10はＨＰ７以前の埋甕炉であった可能性が高い。ＨＰ７の南北に一か所ずつ円形をした焼土を検出しており、地床炉の可能性がある。火を使う場所として複数回、焼土が形成される期間用いられた場所と思われる。なお、検出状況からＨＰ10は床面より上の締まった面に伴うもので、最後に埋め戻された可能性がある。炉と北壁の間に高まりがあり、その裾あたりで、あ～おで示した５か所の杭穴状のものを検出したが、用途は不明である。

遺物出土状況　覆土から土器（見晴町式・榎林式）、石鏃・スクレイパー・石斧・扁平打製石器・たたき石などの石器や石棒が出土している。

時　　期　見晴町式土器を転用した埋甕炉があるので、縄文時代中期中葉後半頃と考える。

（大泰司）

H-137（図Ⅵ-97、表Ⅴ-１、図版211・212）

位　置　G19　　**立　地**　標高約20.60mの平坦面。盛土２層を掘り込む。

平面形　楕円形？　　**長軸方向**　北西-南東？

規　模　(2.27)/(2.27)×(1.01)/(0.93)×(0.20)m

確認・調査　盛土を調査中、褐色土の拡がりを検出した。H-133より古い。この平面形の南側には炭化物が分布していた。平坦な床面が想定されることから住居とした。

覆　　土　盛土１層下位を掘りこんでおり、覆土はこれに由来すると考える。

形　　態　楕円形をしていると考えられ、平坦な床面をしている。

付属遺構　ＨＰを１基検出している。ＨＰ１は開口部平面形が床面に収まっており、底面と壁面が完結していたためH-137の付属としたが、P-442上面の炭化物層の可能性もある。炭化物層からは石斧などが出土している。

遺物出土状況　覆土から土器（円筒土器上層ａ式）、スクレイパー・石斧・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　ＨＰ１については属性の解釈により変わってくるが、H-137そのものは盛土１層下位より新しい。縄文時代中期中葉後半以降と考える。　（大泰司）

H-138（図Ⅵ-98、表Ⅴ-１、図版212）

位　置　F・G19・20　　**立　地**　標高約20.20mの平坦面。H-133の直下。

平面形　不整な四角形　　**長軸方向**　不明　　**規　模**　(4.04)/(3.90)×(2.92)/(2.80)×(0.12)m

確認・調査　H-133の調査後、床面からにぶい褐色土の拡がりを検出した。そこには楕円礫がコの字型に並んでいた。石囲炉のある住居跡を想定して掘り下げたところ、いびつな窪みの中央よりやや東

側に石囲炉があることがわかった。盛土２層を掘り込んでいる。

覆　　土　盛土２層を掘りこんでおり、覆土はこれに由来すると考えられる。

形　　態　不整な四角形をしており、床面は不明瞭だが、おおよそ平坦と考えられる。

付属遺構　ＨＦは１か所検出した。ＨＦ１は掘り方に楕円礫がはめ込まれており、囲まれた部分を掘り下げたところ焼土を検出したことから、石囲炉と判断した。炉石は８点で、長さ 9.82～14.19 ㎝、重さ 0.25～0.80 ㎏の礫で構成されている。ＨＰは７基検出した。掘り方があるまたは断面が打ち込み柱の形状であるなど、柱穴の可能性があるものを考察したところ、ＨＰ６が該当した。

遺物出土状況　ＨＰ４の覆土上面から土器（大安在Ｂ式）が出土している。床面から石鏃、覆土から土器、石鏃・スクレイパー・扁平打製石器などの石器が出土している。

時　　期　盛土１層下位より新しい。縄文時代中期後葉と考える。　（大泰司）

H-140（図Ⅵ-99・100、表Ｖ－１）

位　置　Ｇ・H21・22　　**立　地**　標高約 20.00ｍの平坦面縁の斜面際。

平面形　隅丸五角形　**長軸方向**　不明　**規　模**　(6.21)/(6.12)×(4.08)/(4.06)×(0.88)ｍ

確認・調査　盛土を調査中、炭や焼土のまとまりを検出した。Ⅵ層に由来すると考えられる白色粘土もまとまって検出した。明瞭な床面があるが、壁面は斜面上側のみである。調査範囲の土層から明瞭である。性格は不明な部分が多いが、柱穴の可能性がある付属遺構を伴うため、一時的な上屋構造を持つ時期があったと考えられた。そのため、この一連のものをH-140 とした。盛土２層として当初調査していた土を盛る前に削平が三回行われた痕跡を検出したと考えた。

形　　態　隅丸五角形をしており、床面は不明瞭だが、おおよそ平坦と考える。

付属遺構　ＨＰは７基検出した。おおよそ一列に並ぶが不明瞭である。P-472 はこの遺構に伴う可能性があるが、判然としないためP-472 の項目を別に設ける。

遺物出土状況　床面からスクレイパー・たたき石・砥石などの石器、覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式など）、石鏃などの石器が出土している。

時　　期　盛土１層下位より古い。縄文時代中期中葉頃か。覆土出土遺物を参照したがサイベ沢Ⅶ式前後が多い。　（大泰司）

H-141（図Ⅵ-101、表Ｖ－１、図版 214）

位　置　F21・22　　**立　地**　標高約 20.10ｍの平坦面。この部分の盛土２層の基底部より下。

平面形　隅丸五角形に近い楕円形　**長軸方向**　東-西

規　模　2.40/2.36×(1.52)/(1.46)×(0.26)ｍ

確認・調査　盛土を調査中、褐色土の拡がりを検出した。南側が一部伐根で壊されていたが、床と壁を確認した。盛土２層のための削平より下位である。

覆　　土　Ⅵ層を掘りこんでおり、覆土はⅥ層に由来すると考える。

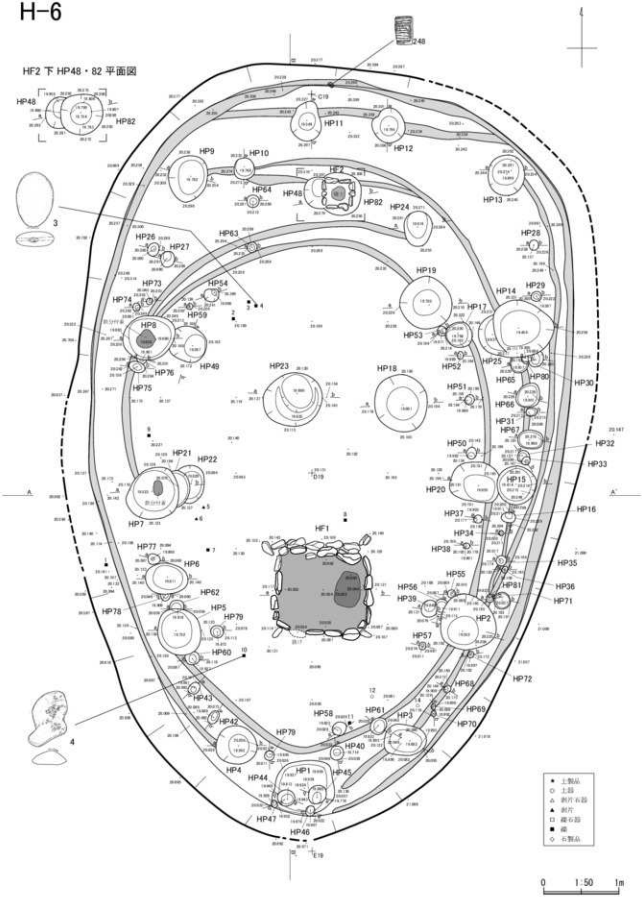
形　　態　隅丸五角形に近い楕円形をしており、床面は一部壊されているが、おおよそ平坦と考える。

付属遺構　ＨＰは 10 基検出した。住居内にあるＨＰ１～３は比較的浅い。この住居周辺に人為的な、あるいは自然のものかどうか判然としない掘り込みがあった。これらをＨＰ４～10 として外柱穴のような住居に伴う可能性を考えて記録した。

遺物出土状況　覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、剥片・礫が出土している。

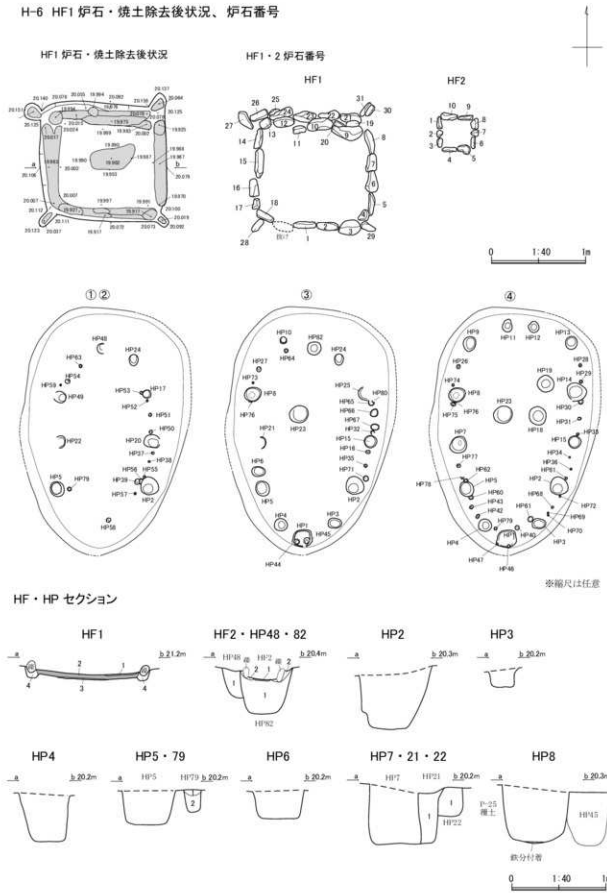
時　　期　盛土１層下位より古い。出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。　（大泰司）

H-6

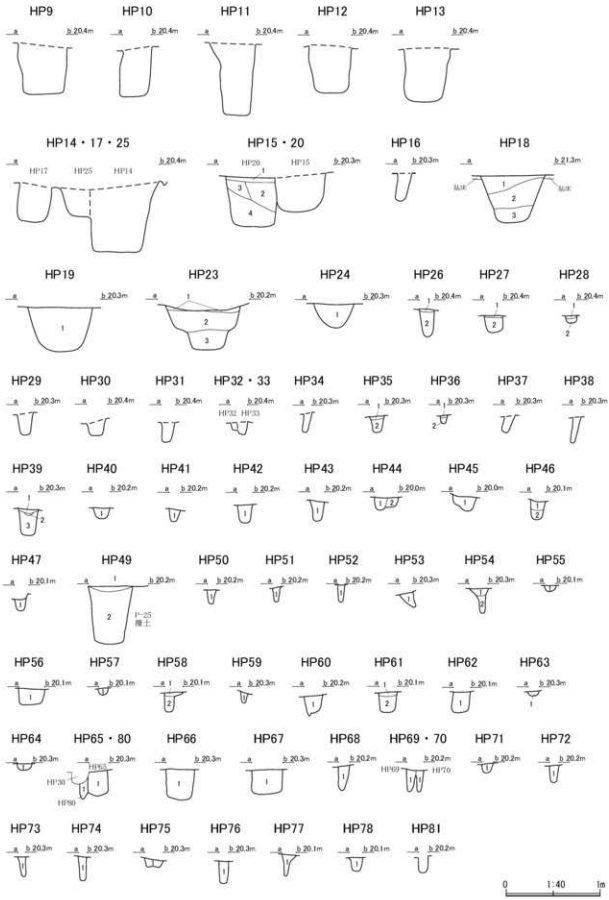

HF2 下 HP48・82 平面図
HP48
HP82
HP11
HP12
HP9
HP10
HP2
HP64
HP48
HP82
HP24
HP13
HP26
HP27
HP63
HP28
HP19
HP73
HP54
HP29
HP14
HP74
HP17
HP59
HP8
HP53
HP25
HP52
HP76
HP49
HP23
HP18
HP65
HP80
HP30
HP75
HP51
HP66
HP31
HP67
HP32
HP21
HP22
HP50
HP33
HP15
HP20
HP16
HP37
HP7
HP1
HP34
HP77
HP38
HP6
HP35
HP55
HP81
HP36
HP62
HP56
HP71
HP39
HP78
HP5
HP79
HP2
HP57
HP60
HP72
HP68
HP43
HP69
HP58
HP61
HP3
HP70
HP42
HP79
HP40
HP4
HP44
HP1
HP45
HP47
HP46
A
A'
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1m
1:50
0

図Ⅵ-8 H-6(1)

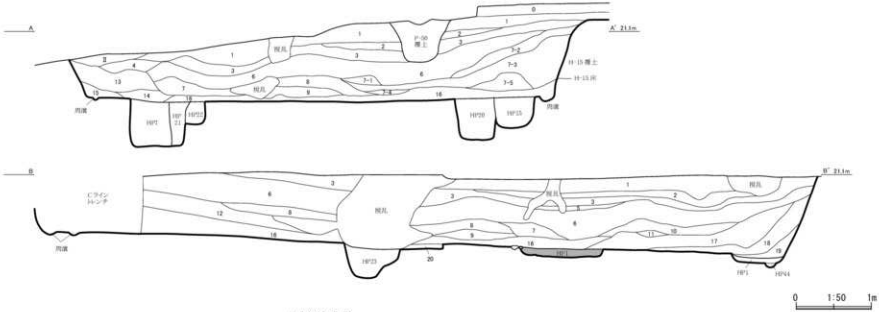
H-6 HF1 炉石・焼土除去後状況、炉石番号



図Ⅵ-9　H-6（2）


HP9
HP10
HP11
HP12
HP13
HP14・17・25
HP17
HP25
HP14
HP15・20
HP20
HP15
HP16
HP18
HP19
HP23
HP24
HP26
HP27
HP28
HP29
HP30
HP31
HP32・33
HP32 HP33
HP34
HP35
HP36
HP37
HP38
HP39
HP40
HP41
HP42
HP43
HP44
HP45
HP46
HP47
HP49
P-25
盛土
HP50
HP51
HP52
HP53
HP54
HP55
HP56
HP57
HP58
HP59
HP60
HP61
HP62
HP63
HP64
HP65・80
HP65
HP30
HP80
HP66
HP67
HP68
HP69・70
HP69
HP70
HP71
HP72
HP73
HP74
HP75
HP76
HP77
HP78
HP81
0
1:40
1m

図Ⅵ-10 H-6(3)



H-6 A-A', B-B'

No	土色			密度度	粘性	土性		備考
0		10YR	3/4	あり	ややあり	埴壌土	炭化物微量含む 1%以下	盛土
1	暗色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土		盛土
2	暗褐色土	10YR	3/4	あり	ややあり	埴壌土	炭化物微量含む	盛土
3	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土	炭化物微量含む	盛土
4	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土	2層よりややボソボソしている	
5	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	シルト質埴土		
6	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土	10YR6/4にぶい黄橙色土塊多く含む 15% 7.5YR5/6明褐色土塊含む φ 50mm 炭化物微量含む、小礫含む	
7	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土	小礫多く含む 30%	
8	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土	小礫少量含む 5%	
9	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土	8層よりすこし明るい土色	
10	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土		
11	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土	小礫少量含む	
12	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土	小礫少量含む炭化物微量含む 1%	
13	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土	小礫微量含む炭化物微量含む	
14	褐色土	10YR	4/4	ややあり	ややあり	埴壌土	小礫少量含む	
15	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土		
16	褐色土	10YR	4/6	ややあり	ややあり	埴壌土		
17	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土	8層と同様の内容物	
18	褐色土	10YR	4/4	ややあり	ややあり	埴壌土	炭化物・小礫微量含む	
19	暗褐色土	10YR	3/4	固い	ややあり	埴壌土	10YR5/8黄褐色土(Z1)塊含む(φ 50mm) HP1にも入っている	HP1
20	褐色土	10YR	4/6	堅	ややあり	埴壌土		版築
7-1	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土	10YR6/6明黄褐色土(SL)塊含む、炭化物少量含む 3%	
7-2	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土	2.5Y7/6明黄褐色土(SL)塊多く含む 30%	
7-3	褐色土	10YR	4/4	ややあり	ややあり	埴壌土	2.5Y7/4明黄褐色土(SL)粒少量含む 3% 炭化物微量含む 1%以下、小礫(φ 3~10mm)少量含む	
7-4	褐色土	10YR	4/4	ややあり	ややあり	埴壌土	小礫(φ 3~10mm)多く含む 30%	
7-5	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土	小礫(φ 2~5mm)少量含む 5%	

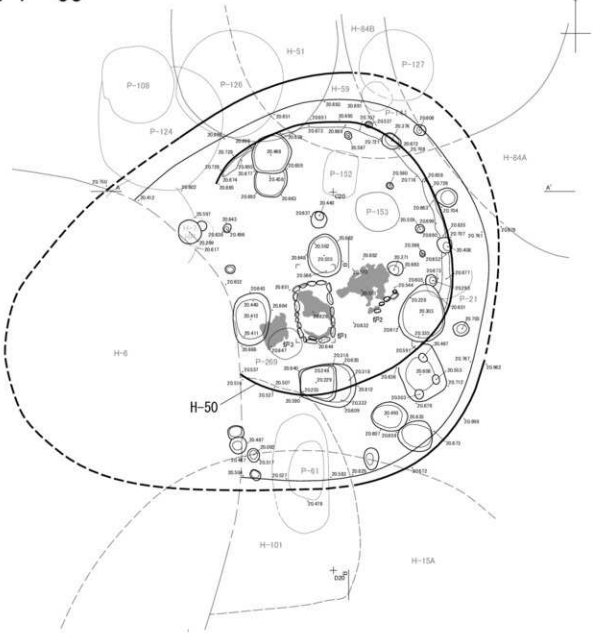
図VI-11　H-6（4）

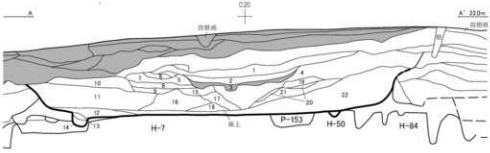
H-6 HF・HP

遺構名	No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
HF1	1	赤褐色焼土	5YR	4/8	あり	あり	埴壌土	暗赤褐色土ブロック含む炭化物含む	
	2	極暗赤褐色焼土	5YR	2/3	なし	あり	埴壌土	小礫多量含む炭化物多く含む	
	3	赤褐色焼土	5YR	4/8	あり	あり	埴壌土		
	4	褐色土	10YR	4/4	ややあり	あり	埴壌土		
	※	方形の掘り込みの周囲に周溝状に溝を掘り、石を配置している。一度中央部で焼いて、その後上に砂利混じりの土を入れてから焼土を形成している							
HF2	1	極暗赤褐色焼土	5YR	2/3	ややあり	あり	—	炭化物含む	
	2	褐色土	10YR	4/6	ややあり	あり	埴壌土	炭化物多く含む	
	※	石囲炉のためのピット。円形の土坑を掘って埋めて、周縁に炉石を配置し、中央部を炉として使用した。							
※HP1～17はエレベーションのみ									
HP18	1	にぶい黄橙色土	10YR	7/4	非常に堅	なし	砂質埴壌土	10YR4/6 褐色土（SC）塊多く含む（～50mm）	
	2	明黄褐色土	10YR	6/6	なし	なし	埴壌土	しまりなし（崩れる）	
	3	明黄褐色土	10YR	6/6	なし	ややあり	埴壌土	2層よりしまりなし	
	貼床	褐色土	10YR	4/6	—	—	シルト質埴土		
	※	貼床後に掘ってきて埋めたと思われる。1層の褐色土塊は貼床と同じもの。							
HP19	1	明黄褐色土	10YR	6/6	上面付近は堅	ややあり	砂質埴壌土	底面に土器片あり	
HP20	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	非常に堅	ややあり	砂質埴壌土		
	2	褐色土	10YR	4/6	非常に堅	あり	シルト質埴土		
	3	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	非常に堅	ややあり	砂質埴壌土		
	4	明黄褐色土	10YR	6/6	堅	ややあり	砂質埴壌土		
HP21	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	非常に堅	ややあり	砂質埴壌土	浅黄橙色土塊（地山土塊）含む	
	※	HP21をHP7が切っている。下面～北東側壁面付近では土坑とみられる層土を見ることができる。							
HP22	1	黄褐色土	10YR	5/6	あり	あり	砂質埴壌土	地山土塊（浅黄褐色土塊）（φ～10mm）を多く含む	
HP23	1	黄橙色土	10YR	8/6	堅	あり	砂質埴壌土	10YR4/6 褐色土塊含む	貼床
	2	黄橙色土	10YR	8/6	あり	なし	砂質埴壌土	10YR6/8 明黄褐色土（SCL）の砂強い薄い間層と互層となる	砂質強
	3	明黄褐色土	10YR	6/8	弱い	なし	砂壌土		
HP24	1	明黄褐色土	10YR	7/6	あり	ややあり	砂質埴壌土	小礫（～10mm）多く含む、7.5YR4/4 褐色土塊（φ5mm）少量含む	
HP26	1	褐色土	10YR	4/4	堅	ややあり	埴壌土		貼床
	2	明黄褐色土	10YR	6/6	弱い	なし	砂質埴壌土		
HP27	1	褐色土	10YR	4/4	堅	ややあり	埴壌土		貼床
	2	明黄褐色土	10YR	6/6	弱い	なし	砂質埴壌土		
HP28	1	褐色土	10YR	4/4	堅	あり	埴壌土	浅黄色土塊少量含む	貼床
	2	褐色土	10YR	4/4	弱い	ややあり	埴壌土		
HP35	1	褐色土	10YR	4/4	堅	あり	埴壌土	浅黄色土塊少量含む	貼床
	2	褐色土	10YR	4/4	弱い	ややあり	埴壌土		
HP36	1	褐色土	10YR	4/4	堅	あり	埴壌土	浅黄色土塊少量含む	貼床
	2	褐色土	10YR	4/4	弱い	ややあり	埴壌土		
HP39	1	浅黄色土	2.5Y		堅	ややあり	砂質埴壌土		
	2	褐色土	10YR	4/6	堅	あり	埴壌土		
	3	褐色土	10YR	4/4	弱い	あり	埴壌土		
HP40	1	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	—	炭化物・浅黄色土塊含む	
HP41	1	褐色土	10YR	4/4	ややあり	ややあり	埴壌土		
	※	東側の小柱穴は細いので半截しない。フクドはHP24とほぼ同じ。							
HP42	1	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土		
HP43	1	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土		
HP44	1	褐色土	10YR	4/4	弱い	あり	埴壌土		
	2	黄褐色土	10YR	5/6	あり	あり	埴壌土		
HP45	1	褐色土	10YR	4/4	ややあり	あり	埴壌土	浅黄色土塊多く含む	
HP46	1	黄褐色土	10YR	5/6	弱い	あり	埴壌土		
	2	褐色土	10YR	4/4	弱い	あり	埴壌土		
HP47	1	褐色土	10YR	4/4	なし	あり	埴壌土		
HP48	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	あり	あり	—	HF2ピット4層から変更	
HP49	1	褐色土	10YR	4/6	あり	あり	埴壌土		
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	弱い	あり	—	浅黄色土塊多く含む	
HP50	1	褐色土	10YR	4/6	弱い	あり	埴壌土		
HP51	1	褐色土	10YR	4/6	ややあり	あり	埴壌土		
HP52	1	褐色土	10YR	4/4	弱い	あり	埴壌土		
HP53	1	褐色土	10YR	4/6	あり	あり	埴壌土		
HP54	1	黄褐色土	10YR	5/8	堅	あり	埴壌土		
	2	褐色土	10YR	4/6	なし	あり	埴壌土		
HP55	1	褐色土	10YR	4/4	ややあり	あり	埴壌土		
HP56	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土	浅黄色土塊含む小砂利含む	
HP57	1	褐色土	10YR	4/4	ややあり	あり	埴壌土		
HP58	1	褐色土	10YR	4/4	堅	あり	埴壌土	浅黄色土塊含む	
	2	褐色土	10YR	4/6	弱い	あり	埴壌土		
HP59	1	褐色土	10YR	4/6	あり	あり	—		
HP60	1	褐色土	10YR	4/4	ややあり	あり	埴壌土		
HP61	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	あり	あり	埴壌土	浅黄色土塊含む	
	2	褐色土	10YR	4/4	ややあり	あり	埴壌土		
HP62	1	褐色土	10YR	4/4	弱い	あり	埴壌土		
HP63	1	褐色土	10YR	4/6	あり	あり	埴壌土		
HP64	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土		
HP65	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土	炭化物微量含む	
HP66	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土	浅黄色土塊少量含む	
HP67	1	褐色土	10YR	4/6	あり	あり	埴壌土	浅黄色土塊微量含む	
HP68	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土		
HP69	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土		
HP71	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土		
HP72	1	褐色土	10YR	4/6	あり	あり	埴壌土		
HP73	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土		
HP74	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土		
HP75	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土		
HP76	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土		
HP77	1	褐色土	10YR	4/4	あり	あり	埴壌土		
HP78	1	褐色土	10YR	4/4	弱い	あり	埴壌土		
HP5・79	1	明黄褐色土	10YR	6/6	堅	あり	埴壌土		HP44 H-6貼床
	2	褐色土	10YR	4/4	ややあり	ややあり	埴壌土		HP44
※HP18はエレベーションのみ									
HP82	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややあり	あり	埴壌土	小礫含む HF2ピット3層から変更	

図Ⅵ-12 H-6（5）

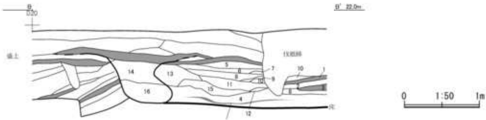
H-7・50



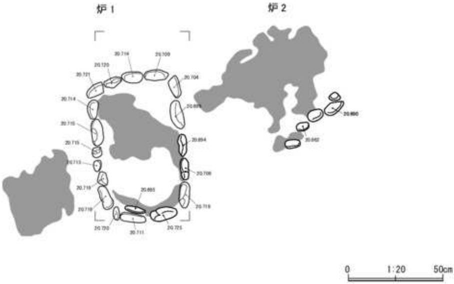


0　1:50　1m

図Ⅵ-13　H-7・50（1）



H-7 炉1・2炉石・焼土状況



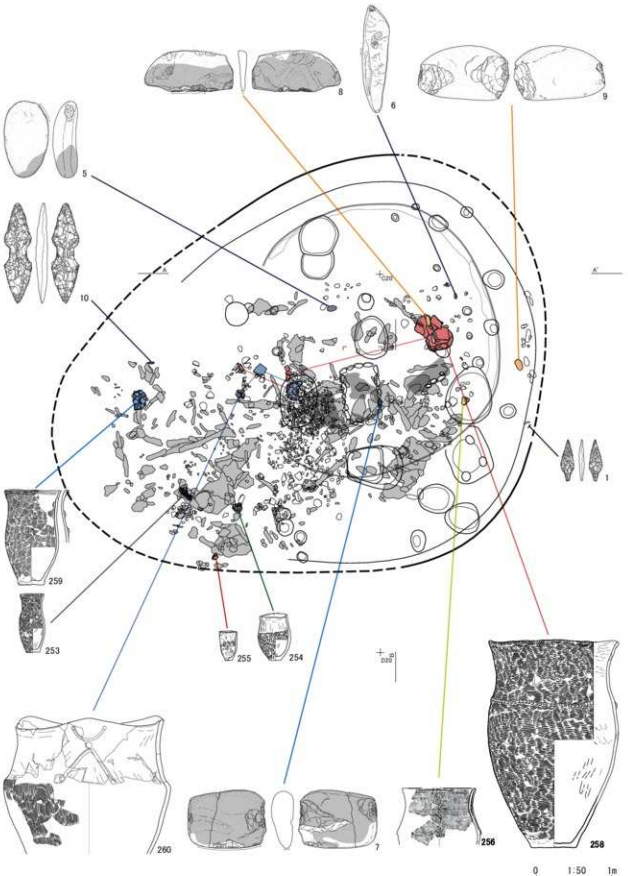
H-7 A-A'

No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/6	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック 中～大 10%	
2	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック 中 3%	
3	橙色土	7.5YR	6/6	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック 大～極大 40%	ローム主
4	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック 小 3%	
5	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	砂壌土		ローム主
6	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小～中 7%	
7	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・焼土粒 15%	
8	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小 1%	ローム主
9	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック中・炭小～中 30%	
10	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ロームブロック中・炭小 15%	
11	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小～中・Ⅵ層由来ブロック中～大・ロームブロック大 25%	
12	にぶい褐色土	10YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	ほぼⅥ層由来の二次堆積	
13	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来ブロック極大 50%	
14	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土		ハードローム層
15	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック中～大・Ⅵ層由来ブロック小 30%	
16	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック中・Ⅵ層由来粒・ローム粒 15%	
17	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	ロームブロック小～大・ロームブロック中～大 30%	
18	明褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	異地性焼土	
19	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	ロームブロック中～極大・Ⅵ層由来ブロック中・炭小 10%	
20	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来粒 3%	
21	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック小～大・炭小 10%	
22	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来ブロック小～中 30%	

H-7 B-B'

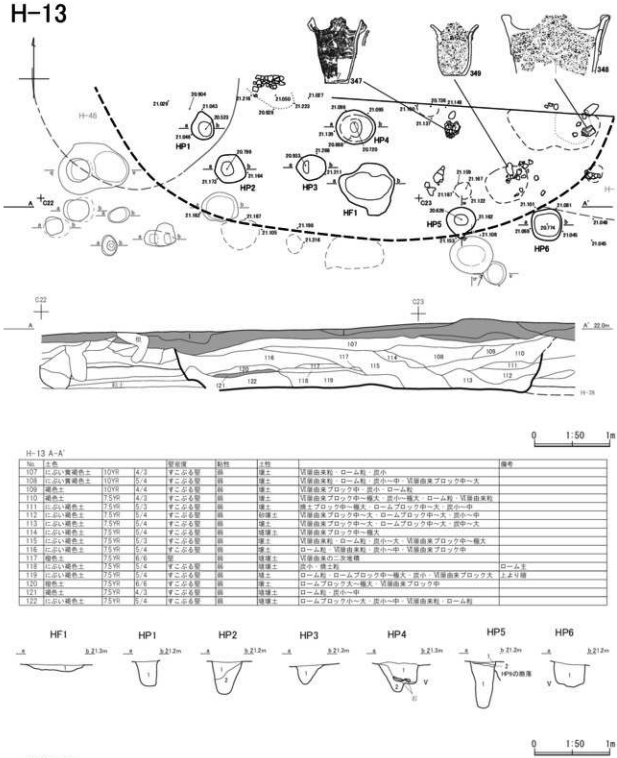
No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/6	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック 中～大 10%	
2	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック 中 3%	
3	橙色土	7.5YR	6/6	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック 大～極大 40%	
4	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック 小 3%	
5	灰褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	埴壌土	ローム粒・炭小～中 15%	
6	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・Ⅵ層由来粒 10%	
7	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土		ローム主
8	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来礫小・炭小 7%	
9	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・礫小・炭小 7%	
10	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒 5%	
11	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・礫小・炭小 5% ボソボソ	
12	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	ほぼⅥ層由来の二次堆積	
13	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	ほぼⅥ層由来の二次堆積	
14	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	礫大・Ⅵ層由来粒 5%	
15	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック小 10%	
16	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～中 3%	

図Ⅵ-14 H-7・50（2）



図Ⅵ-15　H-7・50（３）

H-13



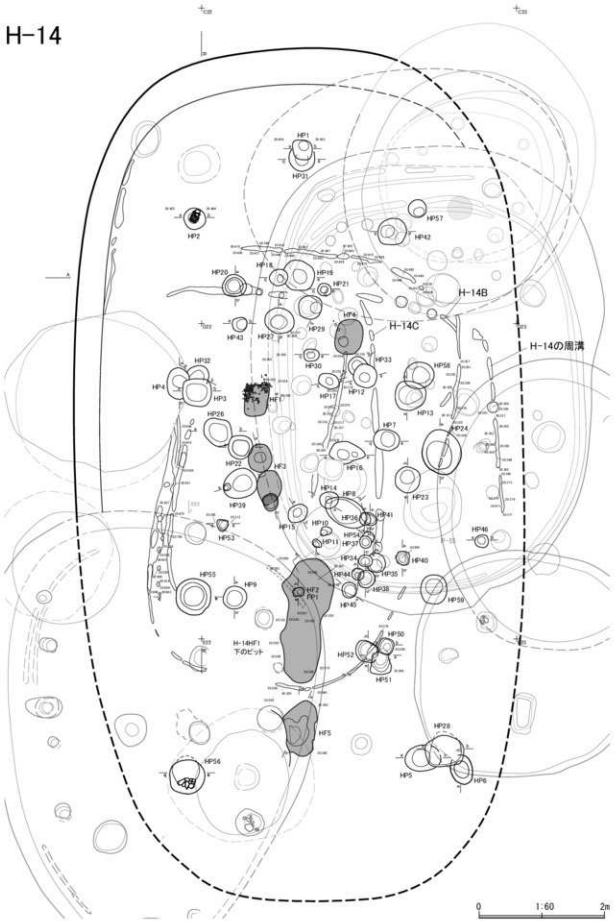
H-13 A-A'

No.	土色			型前度	粘性	土性		備考
107	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小	
108	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小～中・Ⅵ層由来ブロック中～大	
109	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック中・炭小・ローム粒	
110	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック中～極大・炭小～極大・ローム粒・Ⅵ層由来粒	
111	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	すこぶる堅	弱	壌土	壌土ブロック中～極大・ロームブロック中～大・炭小～中	
112	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来ブロック中～大・ロームブロック中～大・炭小～中	
113	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック中～大・ロームブロック中～大・炭中～大	
114	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌埴土	Ⅵ層由来ブロック中～極大	
115	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小～大・Ⅵ層由来ブロック中～極大	
116	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・Ⅵ層由来粒・炭小～中・Ⅵ層由来ブロック中	
117	橙色土	7.5YR	6/6	堅	弱	壌埴土	Ⅵ層由来の二次堆積	
118	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌埴土	炭小・焼土粒	ローム主
119	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・ロームブロック中～極大・炭小・Ⅵ層由来ブロック大	よより暗
120	橙色土	7.5YR	6/6	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック大～極大・Ⅵ層由来ブロック中	
121	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌埴土	ローム粒・炭小～中	
122	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌埴土	ロームブロック小～大・炭小～中・Ⅵ層由来粒・ローム粒	

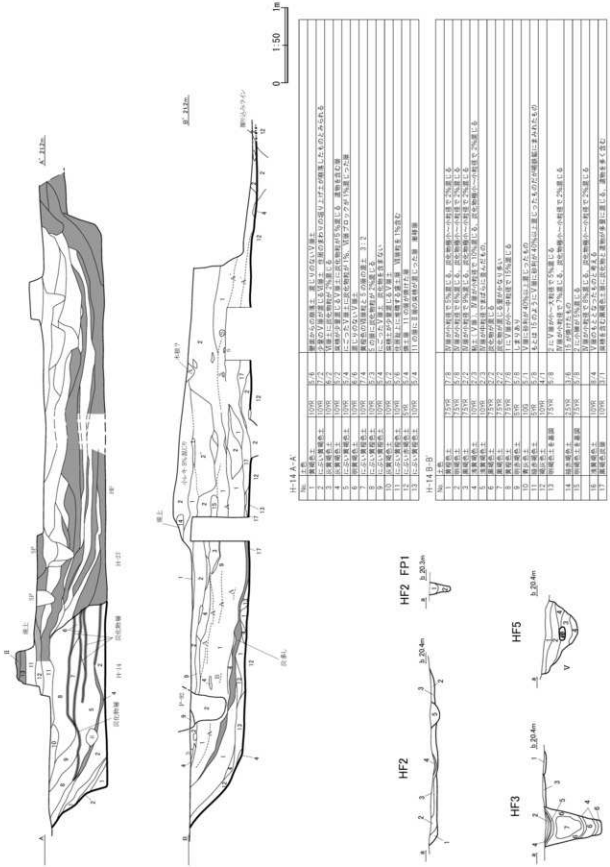
H-13 HF・HP

遺構名	No.	土色			型前度	粘性		備考
HF1	1	褐褐色土	10YR	8/3	あり なし	しまりなし	粒径3～5cm でV層が被覆したもの(7.5YR6/8橙色土しまりあり)がブロック状に25%混在する	
HP1	1	浅黄褐色土	10YR	8/3	あり	ややしまる	V層の流入	
HP2	1	明黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	ややしまる	粒径1～3cm でV層がブロック状に25%混在する	
	2	褐色土	10YR	4/4		ややしまる	V層の混在無し	
HP3	1	にぶい黄褐色	10YR	5/4		ややしまる	粒径1cm でV層がブロック状に1%混在する。粒径1cm で炭が1%混在する	
HP4	1	黄褐色土	10YR	6/5	ややあり	ややしまる		
	2	黄褐色土	10YR	6/5	ややあり	ややしまる	粒径3cm でV層がブロック状に1%混在する。粒径1cm で炭が1%混在する	
	V	浅黄橙色土	10YR	8/4				粘土質の地山
HP5	1	明黄褐色土	10YR	5/6	非常に堅	ややしまる	粒径1～3cm でV層がブロック状に25%混在する	
	2	褐色土	10YR	4/4	なし	ややしまる	V層の混在無し	
HP6	1	黄褐色土	10YR	6/5	なし	ややしまる	粒径3cm でV層がブロック状に1%混在する。粒径1cm で炭が1%混在する	
	V	浅黄橙色土	10YR	8/4	—			粘土質の地山

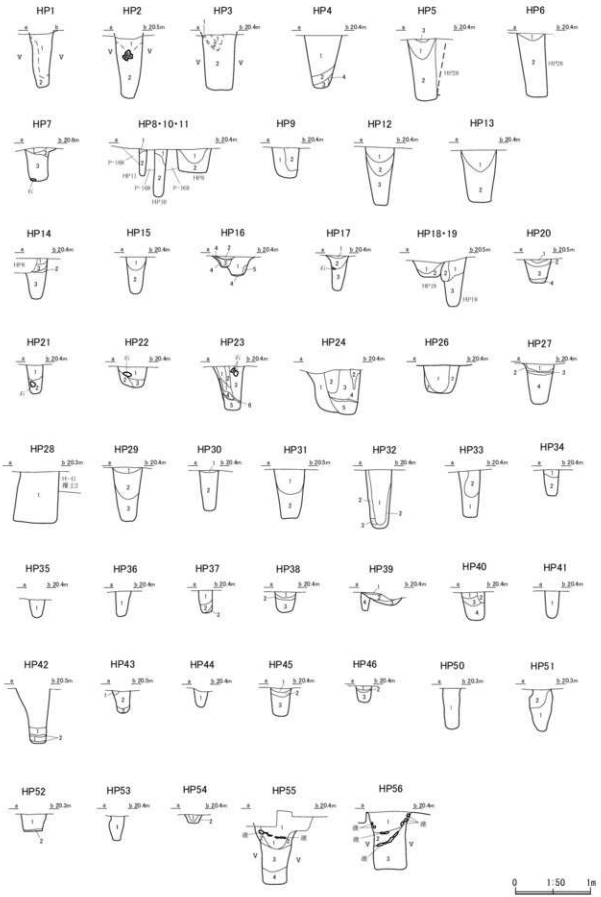
図Ⅵ-16 H-13


H-14
H-14B
H-14C
H-14の周溝
H-14HF1
下のピット
HF1
HF2
HF3
HF4
HF5
HP1
HP2
HP3
HP4
HP5
HP6
HP7
HP8
HP9
HP10
HP11
HP12
HP13
HP14
HP15
HP16
HP17
HP18
HP19
HP20
HP21
HP22
HP23
HP24
HP25
HP26
HP27
HP28
HP29
HP30
HP31
HP32
HP33
HP34
HP35
HP36
HP37
HP38
HP39
HP40
HP41
HP42
HP43
HP44
HP45
HP46
HP47
HP48
HP49
HP50
HP51
HP52
HP53
HP54
HP55
HP56
HP57
HP58
0
1:60
2m

図Ⅵ-17　H-14(1)



図Ⅵ-18 H-14(2)


HP1
HP2
HP3
HP4
HP5
HP6
HP7
HP8・10・11
HP9
HP12
HP13
HP14
HP15
HP16
HP17
HP18・19
HP20
HP21
HP22
HP23
HP24
HP26
HP27
HP28
HP29
HP30
HP31
HP32
HP33
HP34
HP35
HP36
HP37
HP38
HP39
HP40
HP41
HP42
HP43
HP44
HP45
HP46
HP50
HP51
HP52
HP53
HP54
HP55
HP56
0
1:50
1m

図Ⅵ-19　H-14(３)

H-14 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1	1	灰黄褐色土	10YR	5/2	しまりなし	上部に粒径 1cm の炭 2%混じる　堆積する	
	2	明黄褐色土	10YR	7/6	ややしまる	粒径 1cm で A がブロック状に 7%混在する	
HP2	1	黒褐色土	10YR	2/2	ややしまる	覆土 2 層と堆積土が 1：1 で混在したもの	
	2	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	ややしまる	粒径 1cm で A がブロック状に 1%混在する	
HP3	1	黒褐色土	10YR	2/2	ややしまる	覆土 2 層と堆積土が 1：1 で混在したもの	
	2	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	ややしまる	粒径 1cm で A がブロック状に 1%混在する	
	Ⅴ	浅黄橙色土	10YR	8/4			
HP4	1	明赤灰色土	2.5YR	7/2		Ⅵ層砂、ローム混じり　土器片多数含む	
	2	明赤灰色土	2.5YR	7/1		Ⅵ層砂、ローム混じり　Ⅴ層多く混じる	
	3	にぶい赤褐色土	2.5YR	5/4		Ⅵ層砂に少量ローム混じり	
	4	灰白色土	2.5YR	8/1		Ⅴ層ロームブロック	
HP5	1	灰黄褐色土	10YR	6/2		Ⅳ層に炭化物　Ⅵ層砂が混じる	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		Ⅳ層とⅥ層砂混じる　1 より砂が多い	
	3	黒色炭	10YR	4/1		炭化物層	
HP6	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅳ層と粒状のⅤ層がよく混じる	
	2	黄褐色土	10YR	5/6		Ⅳ層に炭化物と少量のⅤ層が混じる	
HP7	1	褐色土	10YR	4/4		Ⅵ層砂とⅤ層の混在	
	2	にぶい黄橙色土	10YR	6/3		Ⅴ層ブロックを含む	
	3	灰黄褐色土	10YR	4/2		Ⅵ層砂とⅣ層の混在	
HP8	1	黄色土	5Y	5/2		Ⅳ層とⅥ層砂の混在	
	2	灰オリーブ土	5Y	5/3		Ⅳ層とⅥ層砂の混在　Ⅳ層の割合多い	
HP9	1	褐色土	10YR	5/2		Ⅵ層砂	
	2	にぶい黄橙色土	10YR	4/4		Ⅳ層にⅥ層砂混じる	
HP10	1	にぶい黄色土	2.5Y	6/4		Ⅵ層砂	
	2	灰色土	5Y	5/1		Ⅳ層＋Ⅵ層砂	
HP11	1	にぶい黄色土	2.5Y	6/4		Ⅵ層砂	
	2	黄褐色土	2.5Y	5/3		Ⅳ層＋Ⅵ層砂	
HP12	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/3		グライ化Ⅵ層砂に鉄分が酸化したⅥ層砂が少量混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/6		鉄分が酸化したⅥ層砂にⅣ層が混じる	
	3	褐色土	7.5YR	4/6		鉄分が酸化したⅥ層砂	
HP13	1	にぶい褐色土	10YR	5/4		Ⅵ層砂にⅣ層少量混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/6		鉄分が酸化したⅥ層砂を主体	
HP14	1	明黄褐色土	10YR	6/6		Ⅵ層砂が主	
	2	灰白色土	10YR	7/1		Ⅴ層ブロックを含む	
	3	黄褐色土	10YR	5/8		Ⅵ層砂が主	
HP15	1	灰白色土	2.5YR	7/1		Ⅵ層砂がⅤ層に混在	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		Ⅵ層砂の酸化とグライ化混在	
HP16	1	黄褐色土	2.5Y	5/3		Ⅵ層砂がⅤ層に混在	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅳ層とⅤ層の混在	
	3	黄褐色土	10YR	5/6		Ⅳ層主体	
	4	黒色炭	10YR	4/1		炭化物層	
	5	黄褐色土	10YR	5/8		Ⅵ層砂が主	
HP17	1	浅黄色土	2.5Y	7/3		Ⅴ層に少量のⅥ層砂が混在	
	2	にぶい褐色土	7.5YR	5/3		Ⅳ層に少量のⅥ層砂が混在	
	3	にぶい赤褐色土	5YR	4/4		Ⅵ層グライ化砂	
HP18	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅴ層に少量のⅥ層砂が混在	
	2	灰黄褐色土	10YR	6/2		Ⅳ層に少量の炭とⅤ層混じる	
	3	褐色土	10YR	4/4		Ⅵ層砂礫	
HP19	1	灰黄色土	2.5Y	6/2		Ⅳ層とⅤ層と炭の面が混じる	
	2	黄褐色土	2.5Y	5/3		Ⅵ層砂にⅤ層が混じる	
HP20	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅳ層とⅤ層混じる	
	2	灰黄褐色土	10YR	6/2		Ⅴ層主体	
	3	褐色土	10YR	4/4		Ⅳ層にⅥ層砂混じる	
	4	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		Ⅵ層砂にⅤ層が混じる	
HP21	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅳ層主体	
	2	灰黄褐色土	10YR	5/2		Ⅳ層炭混じり	
HP22	1	褐色土	10YR	4/4		Ⅳ層にⅤ層小量混じる	
	2	灰黄褐色土	10YR	6/2		Ⅴ層ロームブロック	
	3	にぶい黄褐色土	10YR	4/3		Ⅳ層にⅥ層砂混じる	
HP23	1	灰黄褐色土	10YR	5/2		Ⅳ層に少量の炭化物混じる	
	2	黄灰色土	2.5Y	4/1		Ⅳ層に炭化物混じりしまりなし	
	3	灰黄褐色土	10YR	6/2		Ⅳ層にⅥ層砂混じり	
	4	黄灰色土	2.5Y	4/1		Ⅳ層に炭化物混じりしまりなし	
	5	黄灰色土	2.5Y	5/1		Ⅳ層に炭化物混じる	
	6	黒色炭	10YR	4/1		炭化物層	
HP24	1	黄灰色土	2.5Y	6/1		Ⅵ層砂にⅤ層が混じる	
	2	褐灰色土	10YR	5/1		Ⅳ層にⅤ層小量混じる	
	3	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅳ層とⅥ層砂混じる	
	4	にぶい黄橙色土	10YR	7/2		Ⅴ層ロームブロック	
	5	灰黄色土	2.5Y	4/2		Ⅵ層砂とⅤ層の混在	
HP27	1	灰白色土	2.5Y	7/1		Ⅴ層主体でしまる	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		Ⅳ層とⅥ層砂混じる	
	3	にぶい赤褐色土	2.5YR	4/4		焼土と炭化物の層	
	4	にぶい黄橙色土	10YR	6/3		Ⅵ層砂に凝灰岩混じる	
HP28	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	Ⅴ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3 cmで 2%混じる	
						粒径 1 cmの炭 1%以下混じる	
HP29	1	褐灰色土	10YR	5/1		Ⅳ層とⅥ層砂混じる	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅴ層とⅥ層砂混じる	
	3	黄褐色土	10YR	5/6		Ⅴ層とⅥ層砂混じる　2 より砂が多い	
HP30	1	灰褐色土	10YR	6/1		Ⅵ層砂に少量のⅣ層混じり	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		Ⅵ層砂に炭化物混じる	
HP31	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/3	弱い	Ⅵ層砂	
	2	黄褐色土	10YR	5/6	堅	Ⅵ層砂に酸化した鉄分が付着した砂混じる	
HP32	1	にぶい黄色土	2.5Y	6/3	ややあり	ブロック状のⅤ層とⅥ層砂混じる	
	2	黄灰色土	2.5Y	6/1		Ⅵ層砂混じる　鉄分酸化したもの少ない	
	3	灰白色土	5Y	8/1	ややあり	ブロック状のⅤ層	
HP33	1	明褐色土	7.5YR	5/6		Ⅵ層砂混じる　鉄分酸化したⅤ層と混在	
	2	にぶい黄橙色土	10YR	6/3		Ⅵ層砂主体	
HP34	1	にぶい黄褐色土	7.5YR	4/3		Ⅳ層にⅤ層がブロック状に混じる	
	2	灰黄褐色土	10YR	5/2		鉄分酸化したⅥ層砂とⅤ層と混在	
HP35	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/2		Ⅳ層とⅤ層が混在　炭化物混じる	
HP36	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		鉄分酸化したⅥ層砂	
HP37	1	灰黄褐色土	10YR	6/2		Ⅴ層とⅥ層砂混じる 炭化物混じる	
	2	灰黄褐色土	10YR	5/2		Ⅳ層とⅥ層砂混じる	
	3	にぶい黄橙色土	10YR	6/3		Ⅵ層砂	
HP38	1	にぶい褐色土	7.5YR	5/3		Ⅳ層	
	2	灰白色土	2.5Y	7/1		Ⅴ層	
	3	灰黄褐色土	10YR	6/2		Ⅳ層とⅤ層がブロック状に混在する	

図Ⅵ-20　H-14（4）

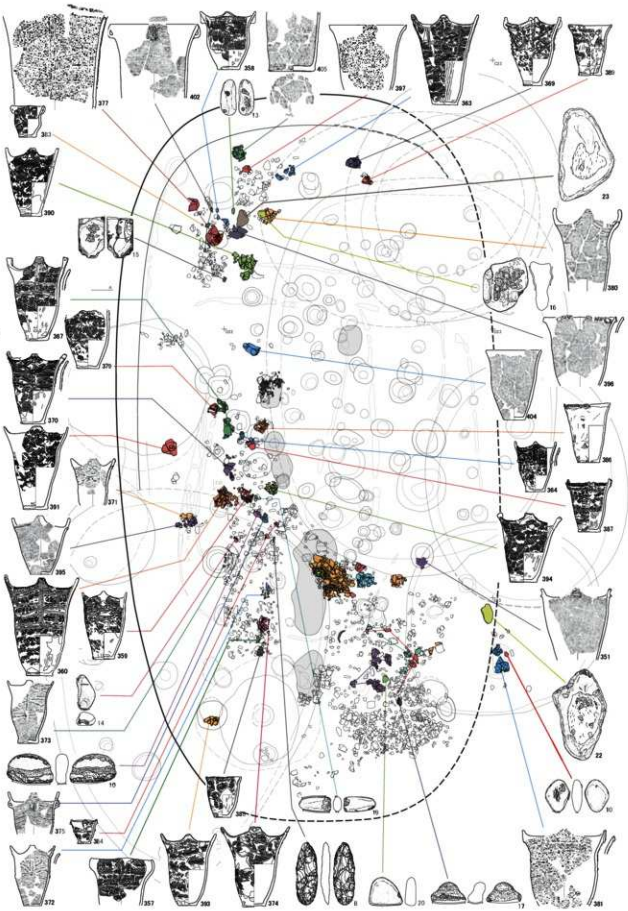
H-14 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP39	1	灰白色土	2.5Y	7/1		Ⅴ層	
	2	にぶい褐色土	7.5YR	5/3		Ⅳ層	
	3	灰白色土	2.5Y	7/1		Ⅴ層とⅥ層砂混じる	
	4	明褐色土	7.5YR	5/7		Ⅳ層とⅤ層が混じる	
HP40	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/3		Ⅵ層砂	
	2	灰黄褐色土	10YR	6/2		Ⅵ層砂がⅤ層と混在	
	3	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅴ層とⅥ層砂混じる　炭化物混じる	
	4	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		Ⅵ層砂がⅤ層と混在	
HP41	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		鉄分が酸化、付着したⅥ層砂がⅤ層と混在	
HP42	1	灰黄褐色土	10YR	6/2		Ⅵ層砂	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅴ層とⅥ層砂混じる	
HP43	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/3		Ⅴ層とⅥ層砂混じる	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅴ層とⅥ層砂混じる　炭化物混じる	
	3	にぶい黄橙色土	10YR	6/3		Ⅴ層とⅥ層砂混じる　炭化物混じる　Ⅴ多い	
HP44	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		鉄分酸化したⅥ層砂とⅤ層と混在	
HP45	1	褐灰色土	10YR	6/1		Ⅳ層とⅤ層が混じる	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅳ層	
	3	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		Ⅳ層とⅥ層砂混じる	
HP46	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅳ層とⅥ層砂混じる	
	2	にぶい黄橙色土	10YR	7/2		Ⅴ層	
	3	にぶい黄褐色土	10YR	5/3		Ⅳ層とⅥ層砂混じる	
HP50	1	明褐色土	7.5YR	5/6		Ⅴ層（7.5YR8/2～3）粒径1～3㎝で2%混じる 粒径1㎝の炭1%以下混じる	
HP51	1	明褐色土	7.5YR	5/6		Ⅴ層（7.5YR8/2～3）粒径1～3㎝で2%混じる 粒径1㎝の炭1%以下混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/8		Ⅴ層（7.5YR8/2～3）粒径1～3㎝で7%混じる	
HP52	1	明褐色土	7.5YR	5/6		Ⅴ層が焼けたものか橙色土（7.5YR8/2～3）が粒径1～3㎝で2%混じる 粒径1㎝の炭7%混じる	
	2	黒色灰層	7.5YR	2/1		炭化物層　炭化物密に詰まる	
HP53	1	明褐色土	7.5YR	5/6		Ⅴ層（7.5YR8/2～3）粒径1～3㎝で2%混じる 粒径1㎝の炭1%以下混じる	
HP54	1	明褐色土	7.5YR	5/8		Ⅴ層（7.5YR8/2～3）粒径1～3㎝で7%混じる	
	2	褐色土	7.5YR	4/6		Ⅴ層（7.5YR8/2～3）粒径1～3㎝で7%混じる	
HP55	1	暗褐色土	7.5YR	3/4		炭が小粒径1～2mmで1%混じる　やや粘質をおびる	
	2	にぶい黄橙色土	10YR	6/4		Ⅴ層が粒径1～3cmの斑状に20%混じる	
	3	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		Ⅴ層が粒径1～3cmの斑状に2%混じる	
	4	暗褐色土	10YR	3/4			
HP56	1	褐色土	10YR	4/6		壁際や2層との境に直径約3cmの礫が目立って分布する 粒径1～2cmのⅣ層（明褐色：7.5YR5/8）や炭化物が2%混じる	
	2	にぶい黄橙色土	10YR	6/4		Ⅴ層の流入土	
	3	暗褐色土	10YR	3/4		粒径1～2cmの炭化物が2%混じる	

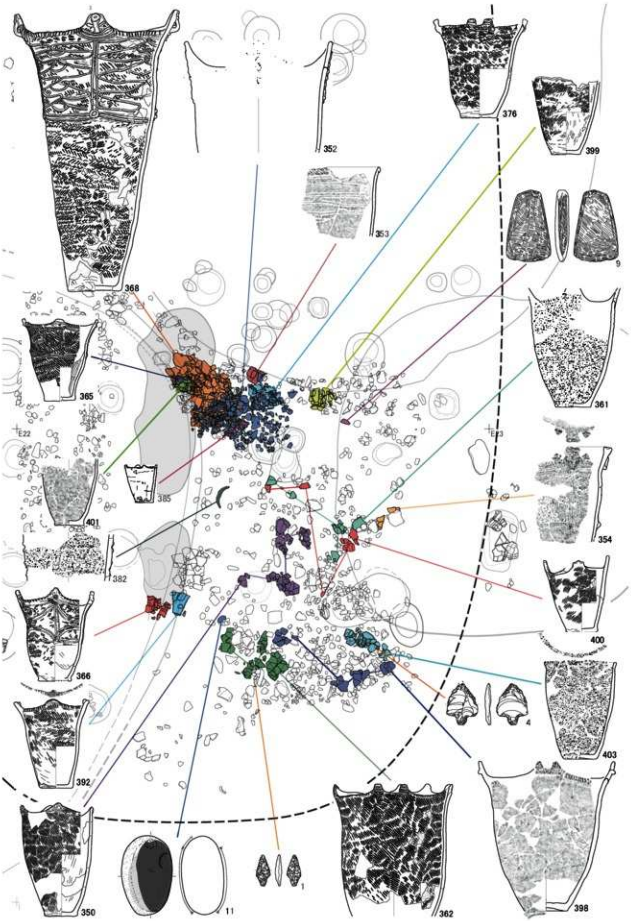
H-14 HF

遺構名	No.	土色				
HF-2	1	赤褐色土	10R	4/3	焼土層　少量の炭化物粒を含む	
	2	灰褐色土	5YR	6/2	焼土層に黄褐色のⅥ層土粒が混じる層	
	3	灰赤色土	10R	4/2	焼土層　少量のⅥ層粒と炭化物粒含む	
	4	赤黒色土	10R	2/1	炭化物層で少量の焼土含む	
	5	暗赤灰色土	10R	3/1	焼土を切る柱穴とみられる　焼土層にⅥ層粒・炭化物粒含む	
HF-2	1	明赤褐色土	2.5YR	5/8	Ⅴ層が焼けたもの	
FP-1	2	褐色土	7.5YR	4/6	Ⅵ層（7.5YR8/2～3）粒径1～3㎝で7%混じる	
HF-3	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4		
	2	灰黄褐色土	10YR	6/2	炭化物混じり	
	3	灰赤色土	10R	5/2		
	4	黒色灰層	7.5YR	5/1	炭化物層	
	5	赤褐色土	10R	5/3	焼土と炭化物の層	
	6	灰オリーブ色土	5Y	6/2	Ⅵ層混じる	
	7				空洞	
HF-5	1	明赤褐色土	2.5YR	5/8	Ⅴ層が焼けたもの	
	2	褐色土	7.5YR	4/6	Ⅵ層（7.5YR8/2～3）粒径1～3㎝で7%混じる	
	3	黒色灰層	7.5YR	2/1	炭化物層　炭化物が密に詰まる	
	4	明褐色土	7.5YR	5/6	Ⅴ層が焼けたもの	

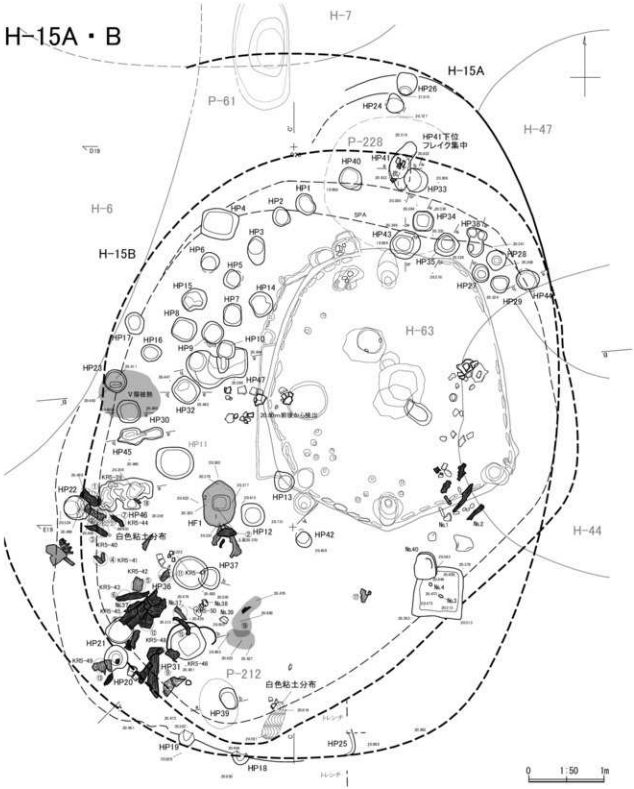
図Ⅵ-21　H-14（５）



図Ⅵ-22 H-14(6)


352
376
399
353
9
368
365
361
E22
E23
385
401
354
382
400
366
4
403
392
350
11
1
362
398

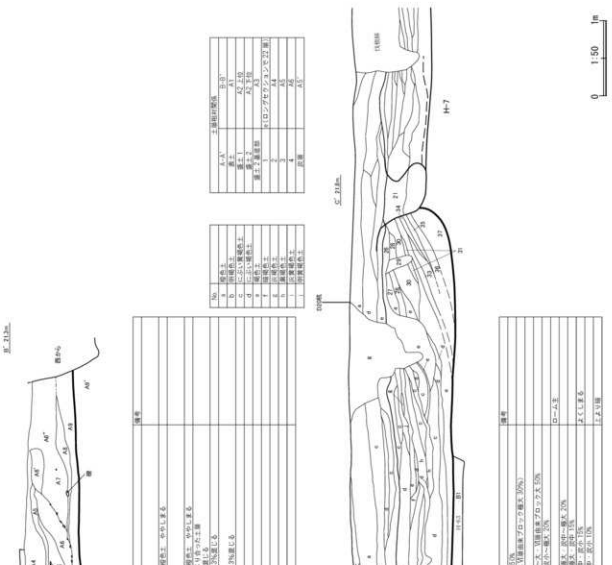
図Ⅵ-23　H-14(７)



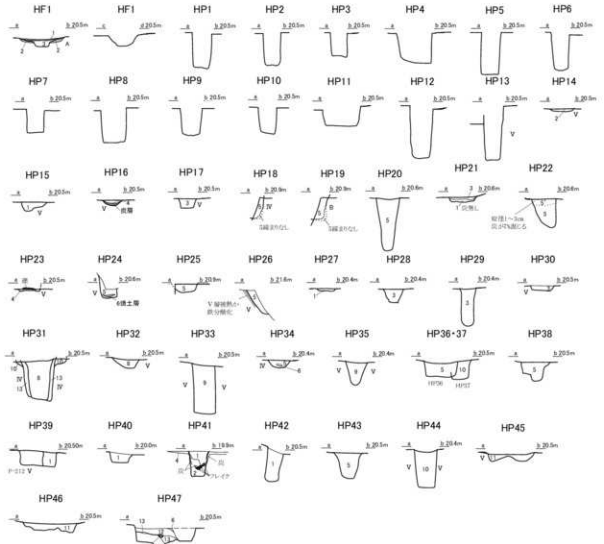
H-15 A-A'

No.	土色			密度度		備考
盛土1	明褐色土	7.5YR	6/8	ややしまる	粒径 1cm の炭が2%混じる	
盛土2	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径 1cm の炭が2%混じる	
盛土2 基底部	褐灰色土	7.5YR	4/1	ややしまる	粒径 1cm の炭が2%混じる	
1	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	2 との層間に A が粒径 3cm で 0 ～ 2%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	
2	褐色土	7.5YR	4/3	ややしまる	粒径 1cm の炭が 2%混じる	
3	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径 1 ～ 3cm の A が 7%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	
4	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径 1 ～ 3cm の A が 7%混じる	
5	褐色土	7.5YR	5/4	ややしまる	粒径 1 ～ 3cm の A が 1%混じる、粒径 3cm の礫が 2%混じる	
6	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1 ～ 3cm の A が 7%混じる、4 がやや黄橋したもの	

図Ⅵ-24 H-15A・B(1)



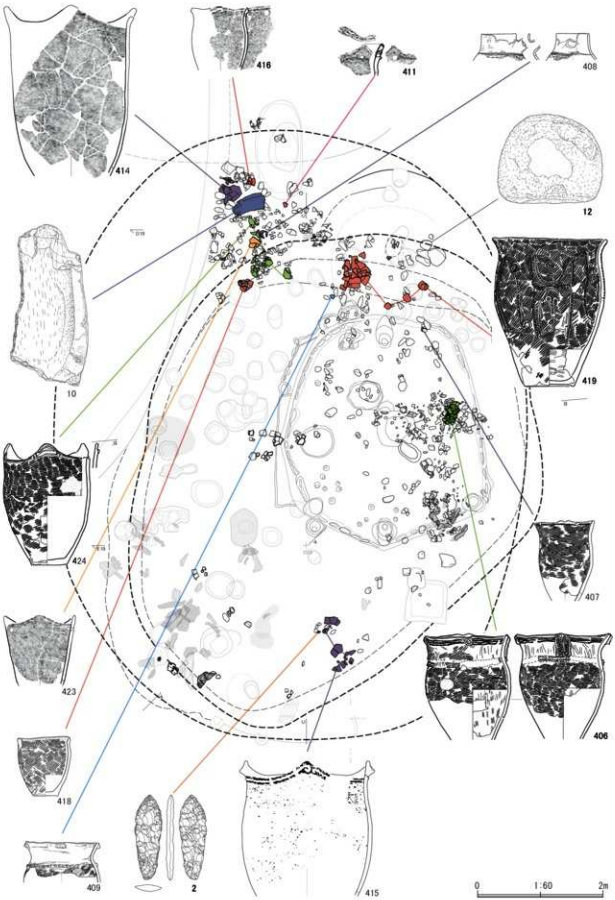
図Ⅵ-25　H-15A･B(２)



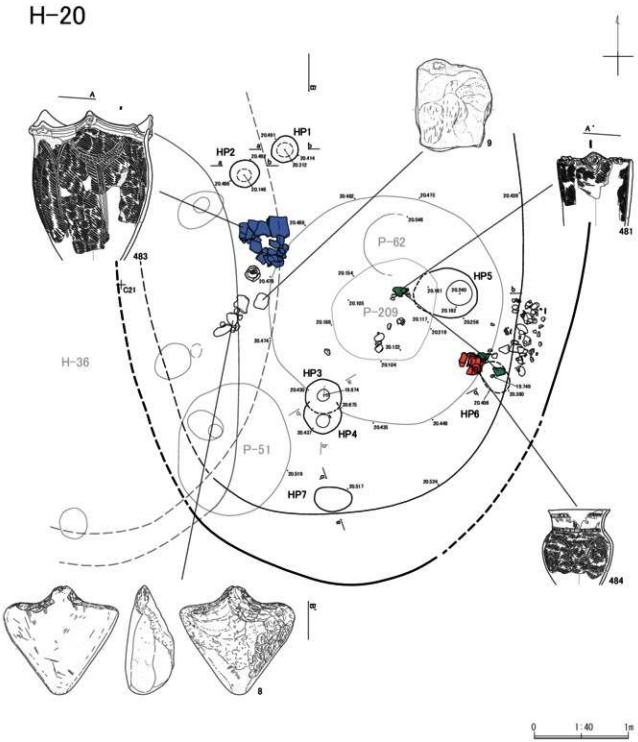
H-15 HF・HP

遺構名	No.	土色			堆積層		備考
HF1	1	黒褐色土	5YR	2/1		粒径1～3cmのV層とが20%混じり、粒径1～3cmの炭25%混じり、焼骨片7%混じり	
	2	明赤褐色土	5YR	5/8		V層土や3の鉄分が酸化した跡	
	3	にぶい褐色土	7.5YR	5/4		2が粒径1cm以下で1%混じる、焼骨片1%混じり	
HP	1	黒褐色土	10YR	3/6	しまりあり	粒径1～3cmでV層がブロック状に混ざる、粒径1cmの炭が7%混じる	
14～37	2	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	しまりあり	粒径1～3cmでV層がブロック状に25%混ざる、粒径1cm以下の炭が1%混じる	
43～47	3	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径1cmはV層が2%混ざる、粒径1cm以下の炭が1%混じる 厚層7.5YR6/6が粒径1cm以下で2%混じる	
	4	褐色土	7.5YR	7/6	しまりあり	V層の鉄分が酸化したもの	
	5	褐色土	7.5YR	4/4	やわしまる	粒径1cm以下の炭が2%混じる	
	5	褐色土	7.5YR	4/4	やわしまる	粒径1～3cm以下の炭が7%混じる	
	6	褐色土	5YR	6/8	やわしまる	粒径1cm以下の炭が2%混じる	5の酸化
	7	黄褐色土	10YR	5/6	しまりなし	粒径1～3cmの炭が7%混じる	
	8	にぶい褐色土	7.5YR	4/4	しまりあり	粒径1cmでV層が1%混ざる、粒径1～3cmの炭が7%混じる	
	9	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	やわしまる		やや炭様する
	10	褐灰土	10YR	4/1	しまりなし	粒径1cmの炭が2%混じる	
	11	褐色土	7.5YR	4/6	やわしまる	粒径1cmはV層がブロック状に1%混じる	
	12	褐色土	7.5YR	4/6	やわしまる	粒径1～3は下位V層がブロック状に1%混じる	
	13	暗赤褐色土	5YR	3/2	しまりなし		5層の鉄分が酸化したもの
	V	浅黄橙色土	10YR	8/4			
	IV	明褐色土	7.5YR	5/6			赤味が弱い
HP38	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色～浅黄橙色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで7%混じる	
HP40	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄橙色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで25%混じる	
HP41	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄橙色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで2%混じる 粒径1cmの炭1%混じる、下に多い	
	2	灰白～浅黄橙色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	石がブロック状に混入	
	3	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	変化なし	
	4	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄橙色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで2%混じる	
	5	黒色炭層	7.5YR	2/1			炭化物層
HP42	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄橙色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで15%混じる	

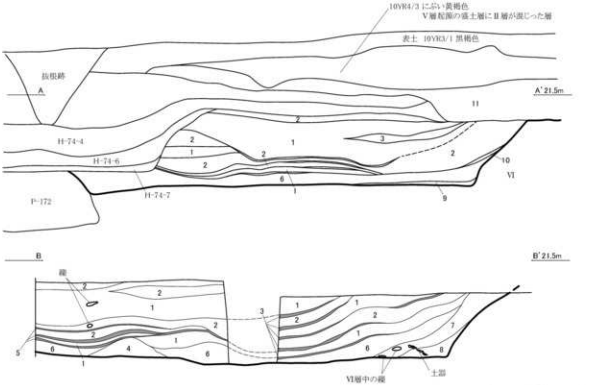
図Ⅵ-26 H-15A・B(3)



図Ⅵ-27　H-15A･B(４)

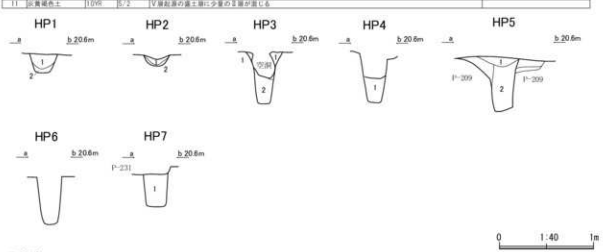

H-20
A
A'
483
481
484
9
8
C21
HP1
HP2
HP3
HP4
HP5
HP6
HP7
P-62
P-209
P-51
H-36
0
1:40
1m

図Ⅵ-28 H-20(1)



H-20 A-A'

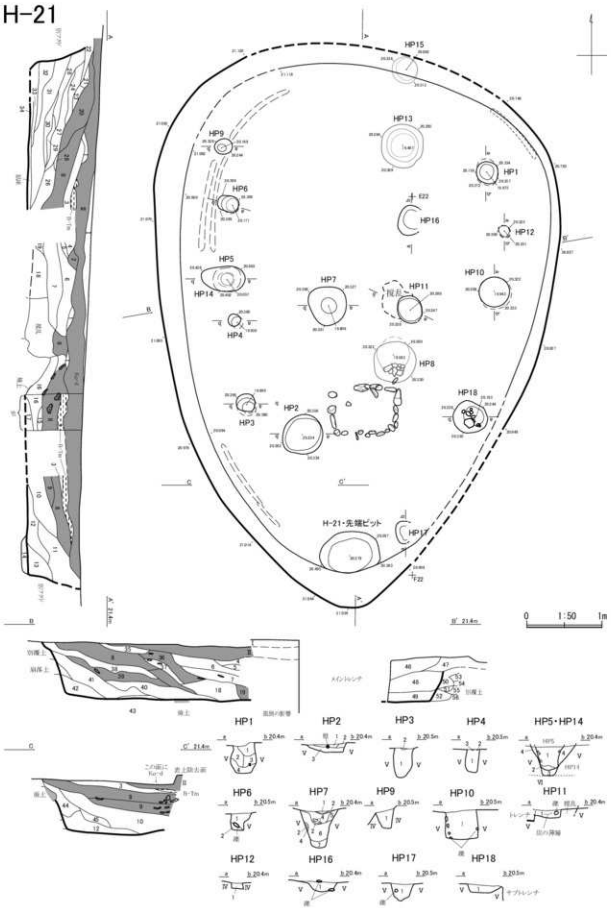
No.	土色				備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	Ⅴ層起源の盛土層　Ⅵ層の粒が少量混じる	
2	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	Ⅴ層起源の盛土層　1よりも他層の混じりが少なく明るい色調だがⅤ層そのものではない	
3	褐灰色土	10YR	6/1	Ⅴ層起源の盛土層に炭化物　Ⅱ層土が混じったもの セクション南側では本層が細かく間隔となり平行に堆積する	
4	にぶい黄褐色土	10YR	3/1	1の層にブロック状にⅥ層土が混じる	
5	黄褐色土	10YR	7/3	1の層に多量の炭化物が混じったもの	
6	灰黄褐色土	10YR	6/2	Ⅴ層起源の盛土層にⅥ層が粒状に混じる層	
7	灰白色土	10YR	7/1	6の層にさらに粒状のⅥ層土が混入した層	
8	灰黄褐色土	10YR	4/2	Ⅴ層起源の土層にⅡ層や炭化物が混じり黒ずんだ層	
9	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	Ⅴ層起源の盛土層に少量のⅥ層粒が混じる	
10	灰白色土	10YR	8/2	Ⅵ層土の流入	
11	灰黄褐色土	10YR	5/2	Ⅴ層起源の盛土層に少量のⅡ層が混じる	



H-20 HP

遺構名	No.	土色				備考
HP-1	1	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	にぶい黄褐色のⅤ層土に 10YR8/2 灰白のⅥ層がブロック状に混じる	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	Ⅴ層起源の盛土層	
HP-2	1	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	Ⅴ層起源の盛土層に粒状にⅥ層が混じる	
	2	褐色土	10YR	4/3	Ⅵ層のサビ層土に黄褐色のⅥ層が粒状に混じる	
HP-3	1	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	固くしまったⅥ層土とⅤ層土の混土　Ⅵ＞Ⅴ	
	2	灰黄褐色土	10YR	5/2	しまりがなく上部は空洞になっていた。下位はⅤ層起源の盛土層が堆積する	
HP-4	1	褐色土	10YR	4/3	HP-3 完掘時に隣に掘する杭穴を確認　Ⅴ層土に Ⅵ層のサビ色層が混じる	
HP-5	1	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	Ⅴ層起源の盛土層にⅥ層粒が混じったもの	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	Ⅴ層起源の盛土層に少量のⅥ層が混じる	
HP-6	1				トレンチ調査時に抜没した杭穴を確認	
HP-7	1	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	Ⅴ層起源の盛土層とⅥ層の混土層	

図Ⅵ-29　H-20(２)


H-21
HP15
HP13
HP9
HP1
HP6
E22
HP16
HP12
HP5
HP14
HP7
HP11
HP10
HP4
HP8
HP18
HP2
HP3
H-21・先端ピット
HP17
E22
0 1:50 1m
HP1
HP2
HP3
HP4
HP5・HP14
HP6
HP7
HP9
HP10
HP11
HP12
HP16
HP17
HP18

図Ⅵ-30 H-21(1)

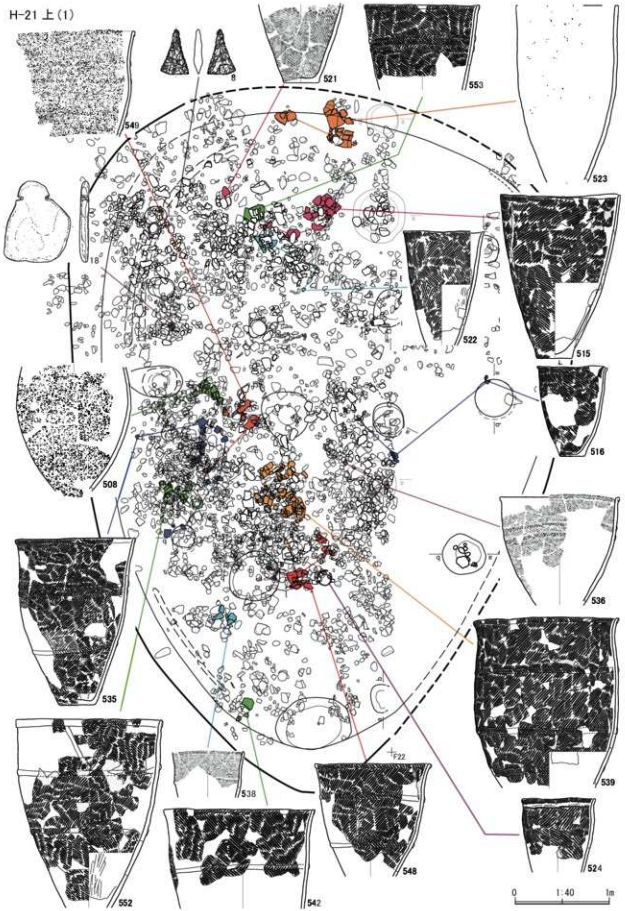
H-21

No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
2	黒褐色土	10YR	3/2	堅	弱	埴壌土	ローム粒・炭小 3%	
3	黒褐色土	7.5YR	3/2	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小 2% B-Tm 混じる	
4	暗褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒 3%	
5	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・炭小 3%	
6	暗褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・炭小・Ⅵ層由来粒 10%	
7	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小 15%	
8	黒褐色土	7.5YR	3/2	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・炭小 5%	
9	暗褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・炭小 3%	
10	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小・炭小 10%	
11	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～大・炭小・焼土粒 15%	
12	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック中～大・炭小～中 20%	
13	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来ブロック小～中・焼土粒 15%	
14	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来ブロック小～中・炭小 10%	
15	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・炭小・焼土粒 15%	
16	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小 3%	
17	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック小・炭小 5%	
18	橙色土	7.5YR	6/6	すこぶる堅	弱	壌土	炭小・ローム粒 5%	
19	灰褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	埴壌土	炭小・Ⅵ層由来粒・焼土粒 3%	
20	黒褐色土	7.5YR	3/2	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・炭小 10%	
21	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・炭小 3%	
22	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒 7% 上より明	
23	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・炭小 5%	
24	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・Ⅵ層由来粒 15%	
26	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・焼土粒・炭小 10%	
27	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小・炭小・ローム粒 15%	
28	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小 15%	
29	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小 3%	ローム主
30	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小・Ⅵ層由来粒 5%	
31	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～中・Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小～中 20%	
32	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来粒・炭小 15%	
33	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・Ⅵ層由来粒・炭小・ロームブロック極大 15%	貼床
34	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭大 20%	貼床
35	黒褐色土	7.5YR	3/2	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小 2% B-Tm 混じる。3層と同。	
36	黒褐色土	7.5YR	3/2	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・炭小 7%	
37	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・Ⅵ層由来粒・炭小 7%	
38	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・Ⅵ層由来粒・炭小 7%	
39	黒褐色土	7.5YR	3/2	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来粒・焼土粒・炭小 7%	
40	橙色土	7.5YR	6/6	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小 3%	
41	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～大・Ⅵ層由来粒・ローム粒・焼土粒・炭小 15%	
42	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～中・炭小 15%	
43	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～大・炭小・ロームブロック中～大 40%	
44	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～中・Ⅵ層由来粒・ローム粒 7%	
45	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～大・炭小 20%	
46	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来粒・焼土粒・炭小 15%	
47	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来粒・ロームブロック小・炭小 15%	
48	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック小～中・ローム粒・炭小 30%	
49	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ロームブロック中～大・Ⅵ層由来ブロック小～中・ Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小 40%	
50	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ロームブロック小・ローム粒・炭小 25%	
51	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック大～極大 50%	
52	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～中・ロームブロック小～中・炭小 25%	
53	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒 7%	
54	灰褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小 1%	
55	明褐色土	7.5YR	5/6	すこぶる堅	弱	壌土	炭小 3%	ローム主
56	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒 5%	

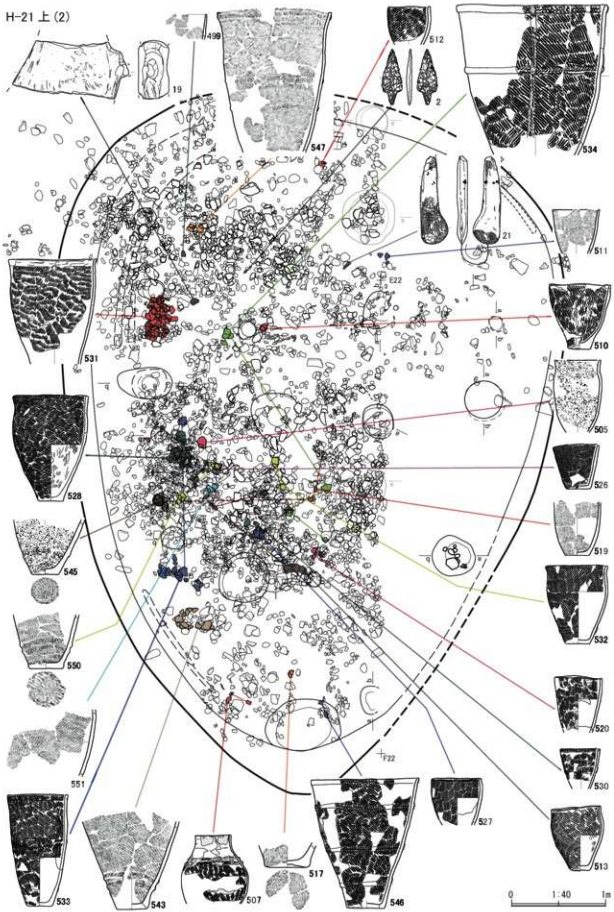
H-21 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	しまりあり	Ⅴ層が粒径 1cm の斑状に 1%混じる。炭が小粒径 1～2mm で 1%混じる	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	しまりあり	Ⅴ層が粒径 1cm の斑状に 1%混じる。炭が小粒径 1～2mm で 7%混じる	
	3	にぶい黄橙色土	10YR	7/3	しまりあり	Ⅴ層が粒径 1～5cm の斑状に 40%混じる	
	4	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	ややしまる	Ⅴ層が粒径 1cm の斑状に 1%混じる	
	Ⅴ	浅黄橙色土	10YR	8/4			粘土質の地山
HP2	1	褐色土	10YR	4/4	しまりあり	Ⅴ層が粒径 1～5cm の斑状に 20%混じる	
	2	浅黄橙色土	10YR	8/4		Ⅴ層がブロック状にずれたもの	Ⅴ層そのもの
	3	褐灰色土	10YR	4/1	しまりなし		やや粘質をおびる
HP3	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる		
	2	浅黄橙色土	10YR	8/4		Ⅴ層が粒径 1～3cm の斑状に 5%混じる	Ⅴ層が分布する
HP4	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	ややしまる		
	2	黒色土	10YR	1.7/1		黒色土が粒径 1cm の斑状に 5%混じる	黒色土が分布する
	3	浅黄橙色土	10YR	8/4		Ⅴ層が粒径 3～5cm の斑状に 5%混じる	Ⅴ層が分布する
HP5・14	1	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	ややしまる	壁際に直径約 3cm の礫が目立って分布する。炭が小粒径 1～2mm で 1%混じる	
	2	黒褐色土	10YR	3/2	ややしまる	黒色土の流入	
	3	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	ややしまる	Ⅴ層が粒径 1～5cm の斑状に 30%混じる	
	4	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	ややしまる	Ⅴ層が粒径 1～5cm の斑状に 30%混じる	
	Ⅴ	浅黄橙色土	10YR	8/4			粘土質の地山
	Ⅵ	橙色土	5YR	6/8			砂質
HP6	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	ややしまる	Ⅴ層が粒径 1cm の斑状に 7%混じる	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	ややしまる	混入物みあたらず	
HP7	1	橙色土	7.5YR	6/6	ややしまる	Ⅴ層が粒径 1cm の斑状に 2%混じる	
	2	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりなし		
	3	橙色土	7.5YR	6/6	ややしまる		
	4	灰褐色土	7.5YR	8/1	ややしまる	Ⅴ層が粒径 1cm の斑状に 7%混じる	
	5	褐灰色土	10YR	6/1	ややしまる		
	6	明黄褐色土	10YR	6/6		ややしまるがより弱い	
	7	褐色土	7.5YR	4/3	しまりなし		
HP9	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	炭が小粒径 1～2mm で 1%混じる	
HP10	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	しまりあり	Ⅴ層が粒径 1～3cm の斑状に 3%混じる。壁際に直径約 2cm の礫が目立って分布する	
HP11	1	明褐色土	10YR	5/6	ややしまる	炭が小粒径 1～2mm で薄層の状態 3%混じる	
HP12	1	浅黄橙色土	10YR	8/3	よくしまる		Ⅴ層がつまっている。粘土
HP16	1	褐色土	10YR	4/4	しまりあり	Ⅴ層が粒径 1cm の斑状に 2%混じる	
HP17	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/3	ややしまる	Ⅴ層が粒径 3cm の斑状に 10%混じる	
HP18	1	褐色土	7.5YR	4/3	ややしまる	Ⅴ層が粒径 1cm の斑状に 5%混じる。炭が小粒径 1cm で 1%混じる	

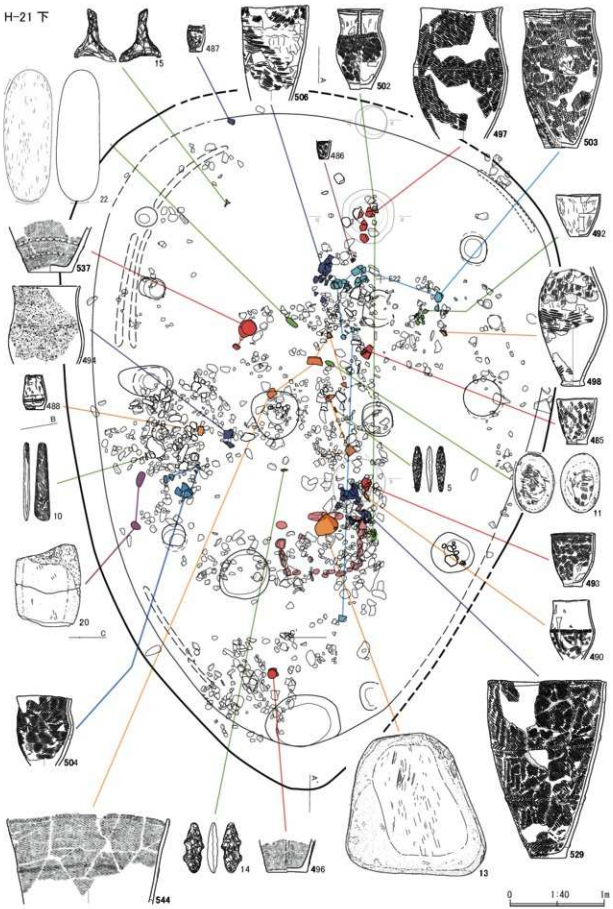
図Ⅵ-31　H-21（２）


H-21 上(1)
8
521
553
540
523
18
522
515
508
516
536
535
539
538
548
524
552
542
0
1:40
1m

図Ⅵ-32 H-21(3)

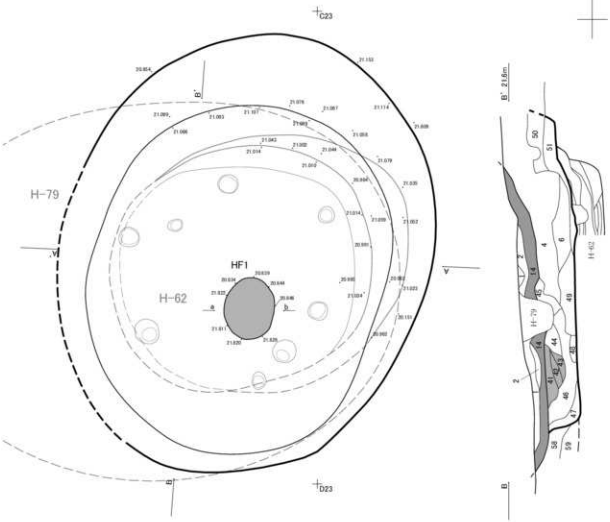

H-21 上 (2)
499
19
547
512
2
534
21
511
E22
510
531
505
528
526
545
519
532
550
520
551
F22
530
527
513
533
543
507
517
546
0
1:40
1m

図VI-33　H-21(4)


H-21 下
15
487
506
502
497
503
486
22
537
492
494
498
488
485
10
5
11
20
493
490
504
529
544
14
496
13
0
1:40
1m

図Ⅵ-34 H-21(5)

H-22



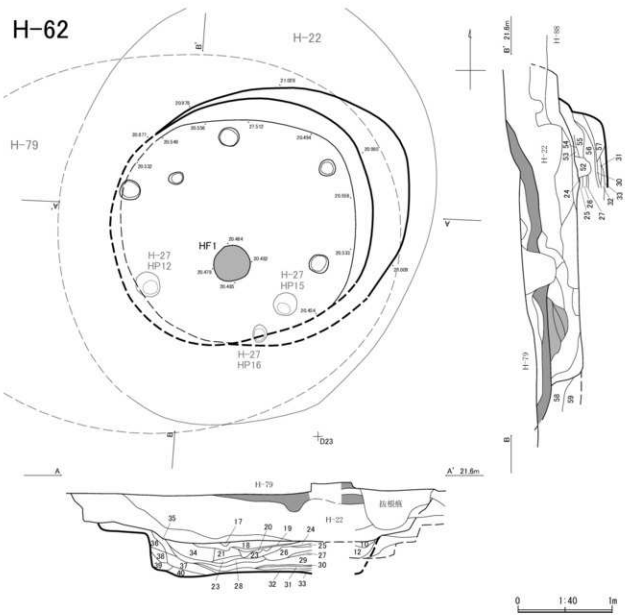
H-22 A-A'

No	土色			堆積層	粘性	土性	
4	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック小～大・炭小～中・ローム粒 10%
6	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック小～中・炭小～中・ローム粒 10%
15	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ロームブロック小～大・Ｖ層由来ブロック中・ローム粒・Ｖ層由来粒・焼土ブロック中・炭小～中 30%
16	暗褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ｖ層由来ブロック小～極大・炭小～中・ローム粒 15%
44	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ｖ層由来ブロック小～中・炭小 10%
45	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	焼土ブロック・Ｖ層由来ブロック小 7%
46	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ｖ層由来ブロック小～中・Ｖ層由来粒・炭小 15%
47	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ｖ層由来粒・ロームブロック小・炭小 3%
48	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	ロームブロック小・炭小 15%
49	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック大～極大・炭小～中・Ｖ層由来ブロック 25%
50	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ｖ層由来粒・ローム粒・Ｖ層由来ブロック小・炭小 10%
51	褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ｖ層由来粒・炭小・Ｖ層由来ブロック小・ロームブロック小 15%

H-22 HF

遺構名	No.	土色			混入物	備考
HF1	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	炭化物粒 10 mm以下 10%	
	2	にぶい赤褐色土	5YR	5/3	炭化物粒径 1 mm以下 1%	

図Ⅵ-35　H-22

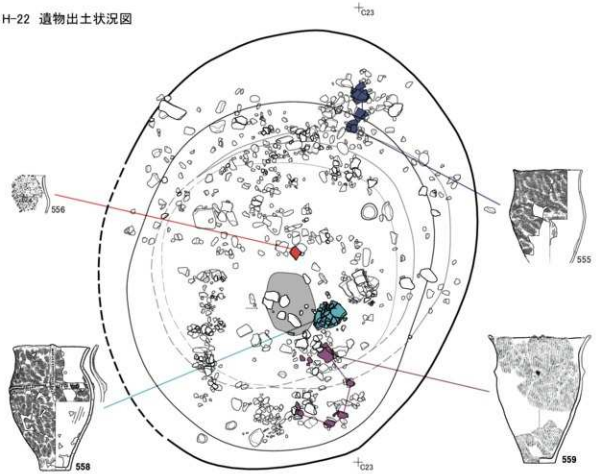


H-62 A-A'

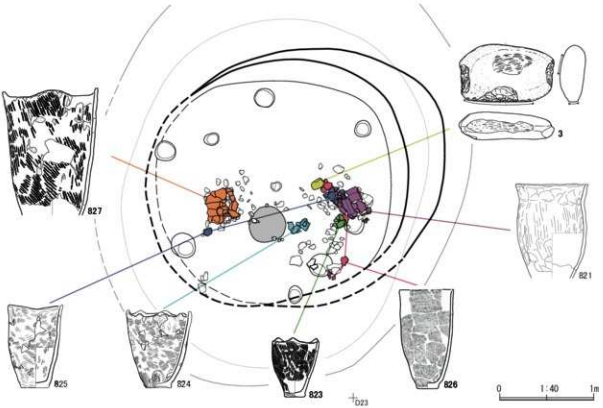
No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
10	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小 10%	
12	褐色土	7.5YR	6/6	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・炭小 3%	ローム主
17	灰褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック中～大・炭小～中 50%	
18	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・炭小～中 10%	
19	黒褐色土	7.5YR	3/2	すこぶる堅	弱	壌土	炭小～中 20%	
20	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小～大・ロームブロック大 20%	
21	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小 1%	ローム主
22	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌壌土	炭小 2%	
23	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小 1%	ローム主
24	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	炭小・Ⅵ層由来ブロック大 10%	
25	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土		ローム主
26	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小・ロームブロック中 20%	
27	灰褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	壌壌土	炭小 1%	
28	灰褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	壌壌土	炭小・ロームブロック小 10%	
29	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小 1%	ローム主
30	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌壌土	炭小・ローム粒 10%	
31	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌壌土		ローム主
32	灰褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	壌土	炭小・Ⅵ層由来ブロック大 10%	
33	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土		ローム主
34	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック大～極大・焼土ブロック大・炭小 50%	
35	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～中・Ⅵ層由来粒・ロームブロック小 30%	
36	灰褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	壌壌土	ロームブロック中～極大・炭小 50%	
37	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌壌土	Ⅵ層由来ブロック小～極大・ロームブロック小～中・炭小～大 30%	
38	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～大・炭小・ロームブロック中 20%	
39	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～大・ロームブロック小～中 15%	
40	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌壌土	Ⅵ層由来ブロック小～大・炭小 10%	
52	灰褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・Ⅵ層由来ブロック小・ロームブロック小 15%	
53	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来粒 10%	
54								炭層
55	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	ロームブロック小～大・炭小・Ⅵ層由来ブロック小 20%	
56	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小 20%	
57	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小～中・炭小 20%	

図Ⅵ-36 H-62(1)

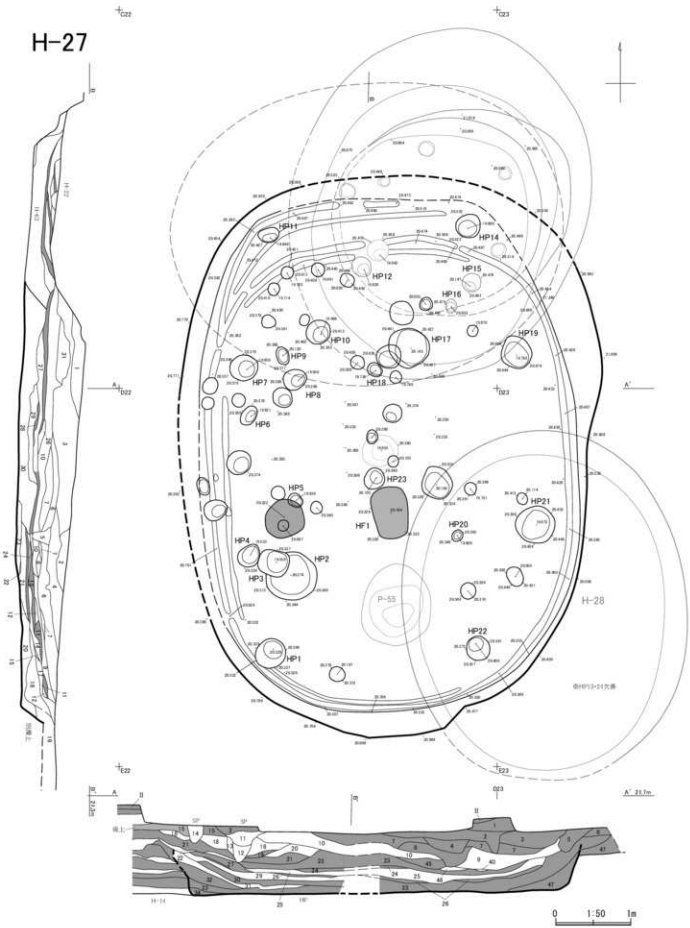
H-22 遺物出土状況図



H-62 遺物出土状況図



図Ⅵ-37　H-62（２）


H-27
HP1
HP2
HP3
HP4
HP5
HP6
HP7
HP8
HP9
HP10
HP11
HP12
HP14
HP15
HP16
HP17
HP18
HP19
HP20
HP21
HP22
HP23
HF1
P-55
H-28
H-14
0 1:50 1m

図Ⅵ-38 H-27(1)

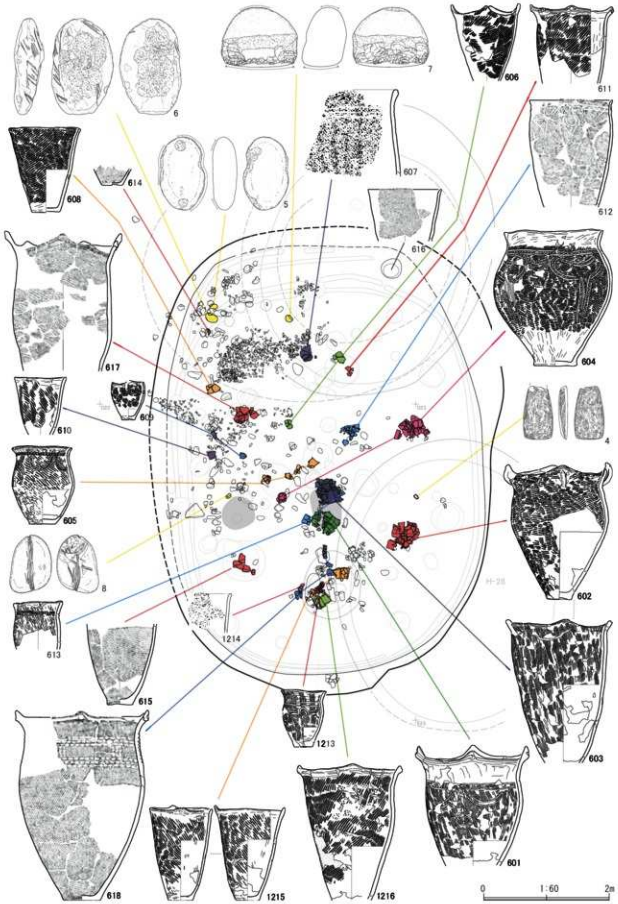
H-27 A-A'

No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
1	暗褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・焼土粒・炭小 5%	
2	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・ロームブロック小・炭小 10%	
3	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック小・Ⅵ層由来粒・ローム粒 15%	
4	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小・ローム粒・ロームブロック大 10%	
5	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小・ロームブロック大 7%	
6	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・Ⅵ層由来粒 5%	
7	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック小〜中・Ⅵ層由来粒・炭小 10%	
8	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小 5%	
9	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック大・炭小 10%	
10	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小 1%	
11	褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	炭小・Ⅵ層由来粒 5%	
12	暗褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック小〜大・炭小・ローム粒 7%	
13	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック・炭小 50%	
14	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・Ⅵ層由来粒・炭小・ロームブロック小 15%	
15	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小〜中・ロームブロック小・炭小 10%	
18	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小・Ⅵ層由来粒 3%	ローム主
19	にぶい褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・Ⅵ層由来粒 5%	
20	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック小 2%	ローム主
21	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来粒・炭小・ロームブロック中 5% 下部に小礫集中	
22	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒 3%	ローム主
23	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小〜中・ロームブロック大・Ⅵ層由来粒・炭小 7%	
24	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	すこぶる堅	弱	壌土	炭中〜大・Ⅵ層由来ブロック小・ロームブロック極大 20%	
25	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小・Ⅵ層由来粒 3%	
26	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小〜中・Ⅵ層由来粒 3%	
27	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小・焼土粒 5%	
28	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	すこぶる堅	弱	壌土	炭小 2% 暗色帯	
29	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小 5%	ローム主
30	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小 7%	
31	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小・Ⅵ層由来粒 5%	
32	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来ブロック小〜大・焼土ブロック小・ローム粒・炭小 20%	
33	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	ロームブロック小〜中・ローム粒・Ⅵ層由来ブロック小・炭小 15%	
34	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小・炭小・ロームブロック小 40%	
45	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	炭小・ロームブロック大〜極大 50%	
46	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	炭小 1%	ローム主
47	黒褐色土	7.5YR	3/2	すこぶる堅	弱	埴壌土	ロームブロック小〜大・黒ボクブロック大・ローム粒 30%	
48	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・炭小・ロームブロック小 15%	

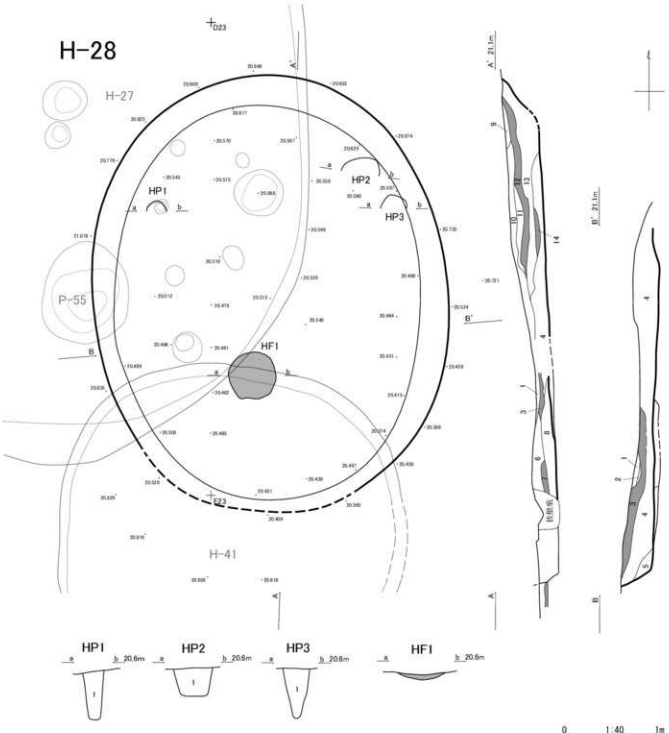
H-27 B-B'

No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
2	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来ブロック中〜大・Ⅵ層由来粒・炭小 5%	
3	明褐色土	7.5YR	5/6	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小・Ⅵ層由来粒 2%	
4	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小・Ⅵ層由来粒 2%	
5	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック大〜極大・ローム粒 15%	
6	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小・Ⅵ層由来粒・ロームブロック大 10%	
7	明褐色土	7.5YR	5/6	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小 2%	
8	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・炭小 5%	
9	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小 5%	
10	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	埴壌土	ローム粒・Ⅵ層由来粒・炭小 10%	
11	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小・ロームブロック小・Ⅵ層由来ブロック小 15%	
12	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小 5%	
13	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	埴壌土	炭小・Ⅵ層由来粒 7%	
14	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小〜大・Ⅵ層由来粒・ローム粒 3%	
15	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	焼土ブロック小・ローム粒 7%	
16	明褐色土	7.5YR	5/6	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小 5%	
17	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小・ロームブロック小 3%	
18	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小 7%	
19	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・炭小 5%	
20	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来ブロック小〜極大・Ⅵ層由来粒・炭小・ローム粒 10%	
21	明褐色土	7.5YR	5/6	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小 3%	ローム主
22	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	炭小〜中 25%	
23	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小 15%	
24	褐色土	7.5YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	炭小 3%	
25	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	埴壌土	炭小〜大 30%	ローム主
26	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来粒・ローム粒 3%	
27	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	埴壌土	ローム粒・炭小〜中 3%	
28	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	炭小・Ⅵ層由来粒 2%	
29	明褐色土	7.5YR	5/6	すこぶる堅	弱	埴壌土	Ⅵ層由来粒 3%	ローム主
30	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	壌土	Ⅵ層由来ブロック小〜大・Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小〜大 10%	
31	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・炭小〜中 3%	

図Ⅵ-39　H-27（２）


6
7
606
611
608
614
5
607
612
616
617
604
610
609
4
605
8
602
613
1214
615
1213
603
618
1215
1216
601
0
1:60
2m

図Ⅵ-40 H-27(3)



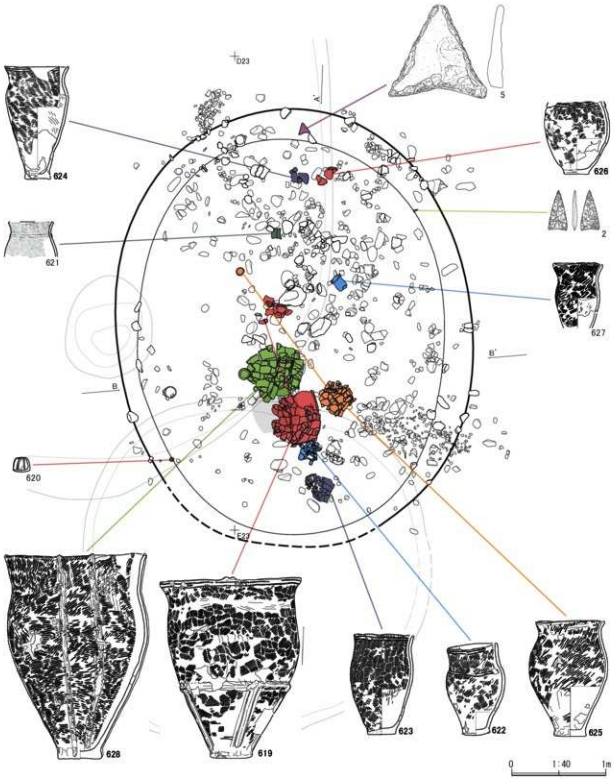
H-28

No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土		ローム主
2	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	焼土混じる	
3	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭垂曲末粒・炭小 5%	
4	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭垂曲末粒・炭小 5%	
5	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌土	ロームブロック大～極大・炭垂曲末ブロック小・炭小 20%	
6	にぶい褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭垂曲末粒・炭小 7%	
7	褐褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	弱	壌土	炭垂曲末粒・炭小 5%	
8	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	壌壌土	炭垂曲末粒・ローム粒・炭小 10%	
9	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小 1%	
10	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭垂曲末粒・炭小 15%	
11	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒 15%	
12	灰褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭小・ローム粒・焼土粒 15%	
13	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・炭小・炭垂曲末ブロック中 30%	
14	灰褐色土	7.5YR	4/2	すこぶる堅	弱	砂壌土	炭垂曲末粒・炭小 10%	

H-28 HP

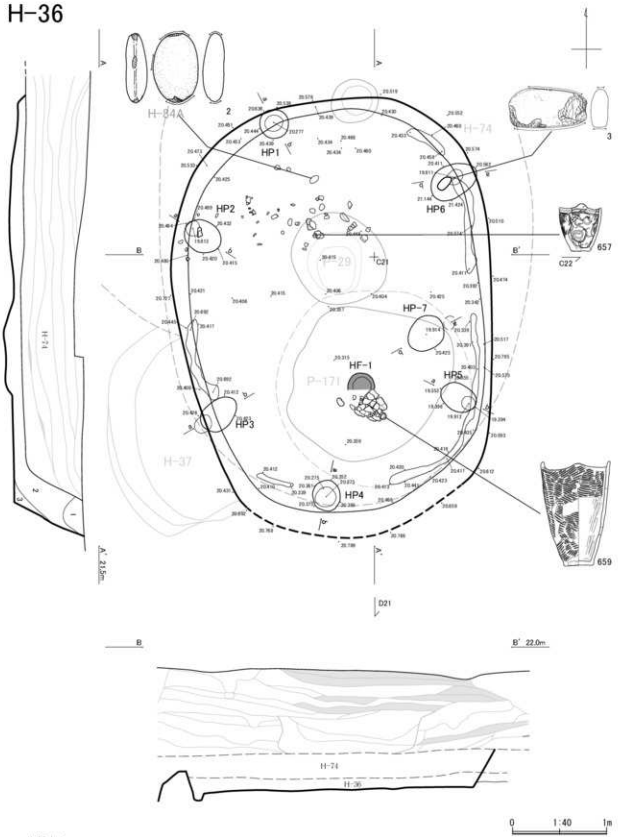
炭構名	No.	土色				備考
HP-1	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	V層起源の盛土層に炭化物が混じる層　しまり弱い	
HP-2	1	灰白色土	10YR	8/2	灰白色の炭焼土中に10YR5/6黄褐色のV層が50%以上混じる　しまりあり	
HP-3	1	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	V層起源の盛土層にV層粒や炭焼粒が混入したもの　しまりが弱い	

図Ⅵ-41　H-28（１）



図Ⅵ-42 H-28(2)

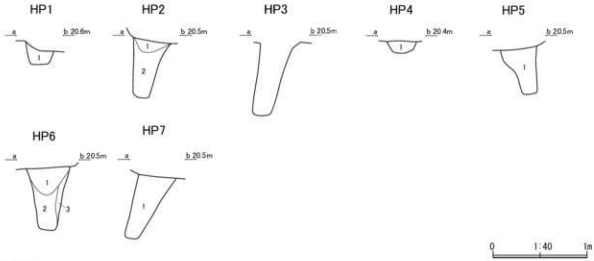
H-36



H-36 A-A'

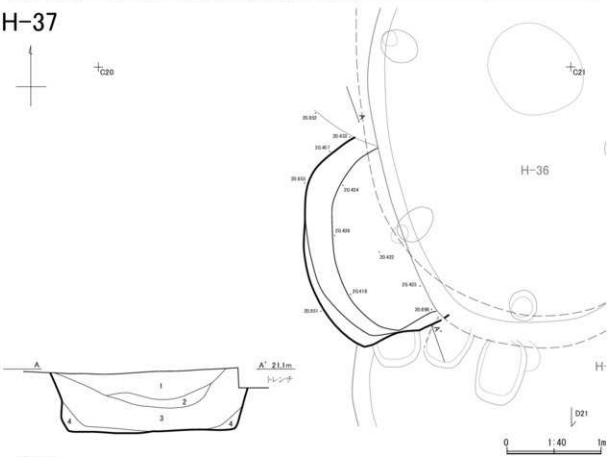
No.	土色				備考
1	炭黄褐色土	10YR	5/2	しまりの弱いV層起源の炭混じり層	
2	褐色土	10YR	4/4	V層起源の盛土層に灰層粒（径 10 mm粒後）や炭化物粒が混じった層	
3	炭黄褐色土	10YR	4/2	V層起源の炭混じり層	

図Ⅵ-43　H-36（１）



H-36 HF

遺構名	No.	土色				備考
HF1	1	褐灰色土	10YR	5/1	Ⅴ層起源の層に粒状の鉄錆、炭化物粒が混じる層	
HF2	1	灰黄褐色土	10YR	6/2	Ⅴ層起源の層に炭化粒がやや多く混じった層	
	2		10YR	5/4	Ⅴ層土に鉄錆のサビ色の層が混じる　しまりは弱い	
HF4	1		10YR	6/3	Ⅴ層土に鉄錆が粒状に混じったもの	
HF5	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	Ⅴ層土に炭化物粒が混じったもの	
HF6	1	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	Ⅴ層土に鉄錆が粒状に少量混じったもの	
	2	にぶい褐色土	10YR	5/4	鉄錆中のサビ色層のとなりに少量のⅤ層が混じる	
	3	にぶい黄褐色土	10YR	7/4	Ⅴ層土に鉄錆が粒状に多じったもの	
HF7	1	黄褐色土	10YR	5/6	Ⅴ層起源の土層に鉄錆粒と炭が少量混じった層　しまり弱い	

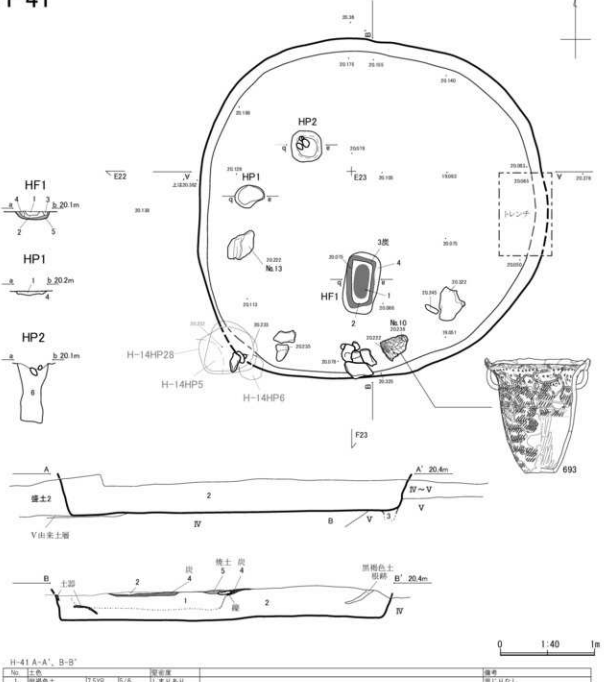


H-37 A-A'

No.	土色				備考
1	褐色土	10YR	4/4	Ⅴ層起源の盛土層にⅥ層と炭化物が混じる	
2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	Ⅴ層と少量のⅥ層が混じる	
3	浅黄褐色土	10YR	5/2	Ⅴ層起源の盛土層にⅥ層が1.1.で混じる	
4	褐灰色土	10YR	4/1	Ⅴ層起源の盛土層にⅡ層とⅥ層が混じったもの	

図Ⅵ-44　H-36(2)・H-37

H-41



H-41 A-A', B-B'

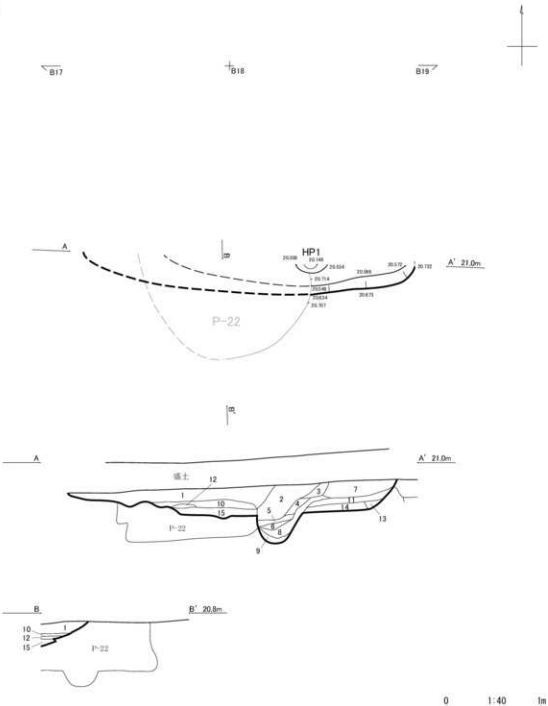
No.	土色			型密度		備考
1	褐褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり		混じりなし
2	褐褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	VI層（炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径１～３cmで2%混じる。粒径1cmの炭7%混じる	
3	褐褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	VI層（炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径１～３cmで25%炭化物量、混じる。粒径1cmの炭7%混じる	
4	黒色炭層	7.5YR	2/1	しまりなし	炭化物炭に混まるがは不明	
5	褐色土	2.5YR	7/8	しまりあり	褐褐色土焼ける	
盛土2	褐褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり		
IV・V	褐褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり		
IV・V	褐褐色一	7.5YR	5/6	しまりあり		
～VIV	炭白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3			
VI	炭白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		

H-41 HF・HP

遺構名	No.	土色			型密度		備考
HF1	1	にぶい黄褐色土	10YR	7/4	しまりあり		
HP1・2	2	明赤褐色土	5YR	5/6	しまりあり		地山焼ける
	3	黒褐色土	5YR	2/1			炭化物炭につまる
	4	褐色土	5YR	6/8	しまりあり		地山
	5	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	しまりあり	VI層（炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cmで7%混じる。粒径1cm以下の炭2%混じる	
	6	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	混じりなし	
	7	褐褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる		
	8	明赤褐色土	5YR	5/6	しまりあり	地山焼けたブロックと炭が混在する。粒径1cm以下の炭25%混じる	

図VI-45　H-41

H-42

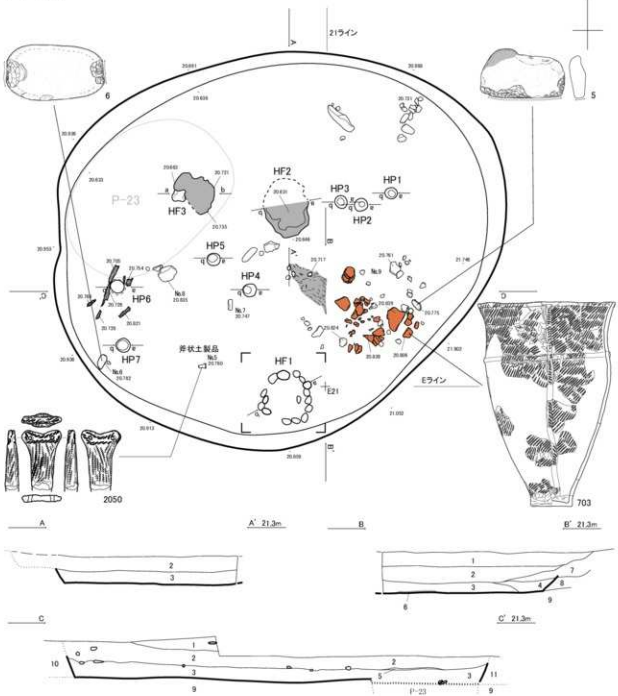


H-42 A-A', B-B'

No.	土色			堅密度	粘性	土質		備考
1	黒褐色土	10YR	5/3	あり	ややあり	埴壌土	炭化物微量含む	盛土
2	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土		盛土
3	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土		盛土
4	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土	炭化物微量含む	盛土
5	褐色土	10YR	4/4	あり	ややあり	埴壌土	2 層より黒褐色土混含む	盛土
6	褐色土	10YR	4/4	弱い	ややあり	埴壌土	黒褐色土少量含む	盛土
7	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土	炭化物微量含む	盛土
8	褐色土	10YR	4/4	弱い	なし	埴壌土	10YR7/1 黒褐色土(ロ)塊を多く含む	盛土
9	褐色土	10YR	4/6	弱い	なし	埴壌土	灰白色土含む	盛土
10	褐色土	10YR	4/6	ややあり	ややあり	砂質埴壌土	灰白色細砂微含む 5%、炭化物含む 5%	盛土結床 1 層よりボンボリ
11	褐色土	10YR	4/6	ややあり	ややあり	砂質埴壌土		盛土 10 層と同じ
12	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土	炭化物・灰白色細砂微量含む	盛土結床
13	褐色土	10YR	4/6	堅	ややあり	埴壌土	灰白色土含む	盛土
14	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土		盛土 15 層と同じ
15	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土	灰白色細砂微量含む	盛土結床

図Ⅵ-46 H-42

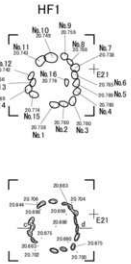
H-44



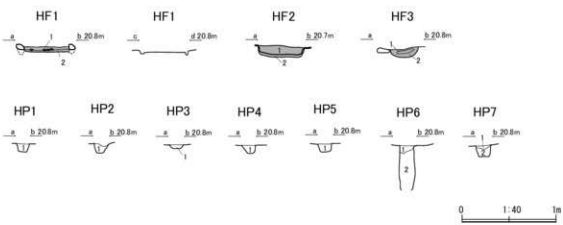
H-44 A-A', B-B', C-C'

No.	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	10YR	3/4	しまりなし	小粒径 1mm の炭が 1%混じる	
2	褐色土	10YR	4/4	しまりあり	直径 1～2cm の小石 2%混じる、粒径 1cm で切線が 3%混在する	層土 2 層との間に切線の混入か線が薄く入り込む
3	褐色土	10YR	5/8	ややしまる	直径 1～2cm の小石 1%混じる	
4	褐色～にぶい黄褐色土	10YR	4/4～4/3	しまりあり		
5	浅黄褐色土	10YR	5/4	しまりあり	粘土質 切線由来	層土 1 粒当
6	黄褐色土	5YR	2/1		炭化物炭につまる	
7	褐色土	10YR	4/4	しまりあり	直径 1～2cm の小石 2%混じる、粒径 1cm で切線が 3%混在する	
8	褐色土	10YR	4/4	よくしまる	直径 1～2cm の小石 2%混じる、粒径 1～3cm で切線が 7%混在する、直径 1～2cm の炭化物 2%混じる	
9	明黄褐色土	10YR	6/6	よくしまる	直径 1～2cm の小石 2%混じる、粒径 1cm で切線が 3%混在する	
10	黄褐色土	10YR	5/8	しまりあり	切線が粒径 3cm で 5%混じる	なにか遺構の層土か
11	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	ややしまる	粒径 1cm 以下で切線が 3%混在する	粘土

図Ⅵ-47　H-44(１)



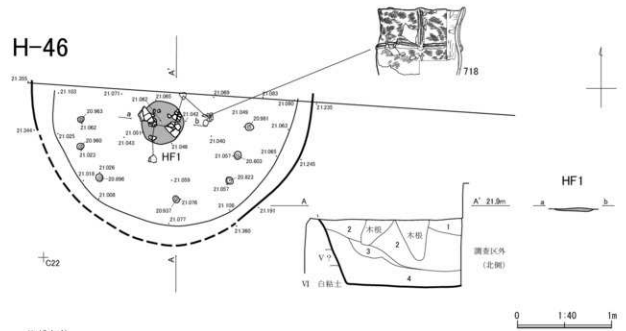
取り上げ No.	石の入り込み深さ	積め込み順
No.1	7cm	3番目
No.2	8cm	4番目
No.3	7cm	3番目
No.4	5cm	2番目
No.5	8cm	1番目
No.6	7cm	1番目
No.7	5cm	2番目
No.8	6cm	3番目
No.9	4cm	4番目
No.10	1cm	6番目
No.11	1cm	5番目
No.12	5cm	6番目
No.13	6cm	5番目
No.14	8cm	6番目
No.15	7cm	7番目
No.16	0cm	炉内の石



H-44 HF・HP

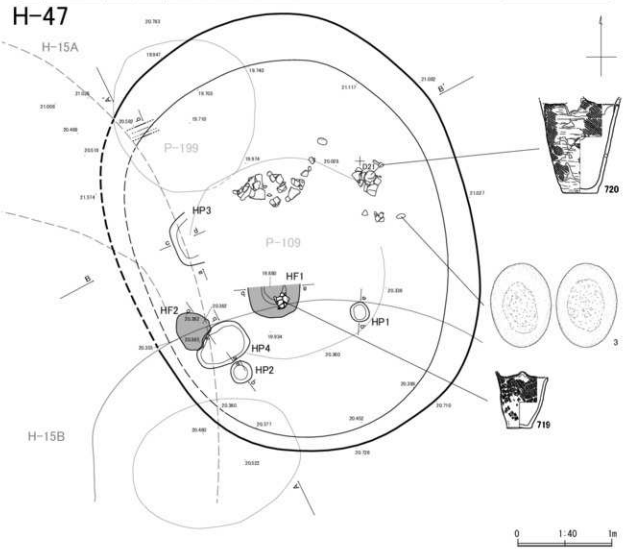
遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HF1	1	暗色土	7.5YR	6/8	ややしまる	粘質 1cm の炭と焼土粒（橙色土 5YR7/6）それぞれ 10%混じる。 基下に直径 1～3cm の砂利層	3.鉄分酸化
	2	橙色が砂利層に混じり込む	7.5YR	6/8	ややしまる	橙色土には粘質 1cm の炭と焼土粒（橙色土 5YR7/6）それぞれ 10%混じる。 基下に直径 1～3cm の砂利が 50%混じる。	3.鉄分酸化
HF2	1	暗色土	5YR	7/6	ややしまる	粘質 1cm の炭が 5%混じる。粘質 1cm の炭が 5%混じる	3.鉄分酸化
	2	暗色土	5YR	6/8	ややしまる		鉄分酸化
HF3	1	褐灰色土	5YR	4/1	ややしまる		3.鉄分マンガン分酸化
	2	赤褐色土	5YR	4/8	ややしまる		3.鉄分酸化
HP1～5	1	暗色土	7.5YR	6/6	ややしまる		
HP6	1	褐色土	7.5YR	2/2	しまりなし		
	2					1がごくまばらにつまる	空洞
HP7	1	褐色土	10YR	4/6	しまりなし		
	2	淡黄褐色土	10YR	8/3	しまりなし		

図Ⅵ-48 H-44（2）

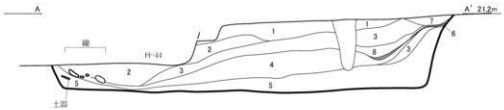


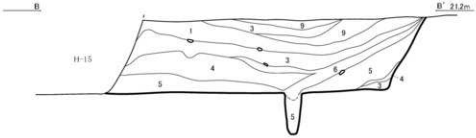
H-46 A-A'

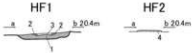
No.	土色				備考
1	褐灰色土	10YR	5/1	V層起源の盛土層に炭と炭化物粒が混じる	
2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	V層起源の盛土層に炭化物粒が混じる	
3	黄褐色土	10YR	5/6	V層起源の盛土層に少量のVI層粒が混じる	
4	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	V層起源の盛土層に炭化物や粒状のVI層が混じる	

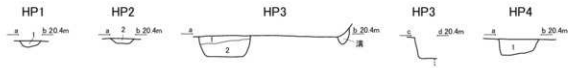


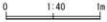
図VI-49　H-46・H-47(1)











H-47

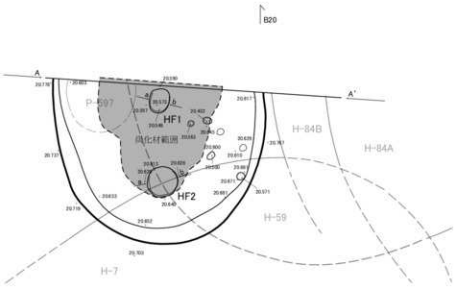
No.	土色				備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	Ⅴ層起源の盛土層　炭化物粒が混じる	
2	明黄褐色土	10YR	6/6	Ⅴ層土に少量のⅥ層が混じる	
3	黄褐色土	10YR	5/6	混じりのないⅤ層土	
4	浅白色土	10YR	8/2	Ⅵ層土ブロックの堆積	
5	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	Ⅴ層起源の盛土層に少量のⅥ層粒、炭化物粒が混じる	
6	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	Ⅴ層由来の盛土層に炭化物粒が混じった層	
7	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	Ⅴ層ブロック	
8	褐色土	10YR	4/6	Ⅴ層とⅥ層の混ざった炭化物粒が混じる	
9	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	Ⅴ層起源の盛土層にⅥ層と炭化物粒が含まれる	

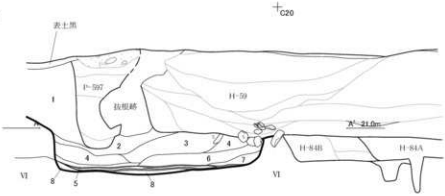
H-47 HF、HP

遺構名	No.	土色			堆積度	混入物	備考
HF1～2	1	橙色土	5YR	6/6	しまりあり		
	2	黒褐色土	7.5YR	3/2		粒径 1cm の炭 25%混じる	焼土不明瞭
	3	にぶい褐色土	7.5YR	5/4		2 が粒径 1cm 以下で 1%混じる	
	4	にぶい褐色土	5YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm の炭が 7%混じる。粒径 1～3cm の 1 が 7%混じる	
HP1～4	1	黄褐色土	10YR	5/6	しまりあり	粒径 1～3cm で A がブロック状に混ざる。粒径 1cm 以下の炭が 7%混じる	
	2	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1cm 以下で A が 2%混在する。粒径 1cm 以下の炭が 1%混じる。 厚層 7.5YR6/6 が粒径 1cm 以下で 2%混じる。	

図Ⅵ-50　H-47（2）

H-51





0　1:40　1m

H-51 A-A'

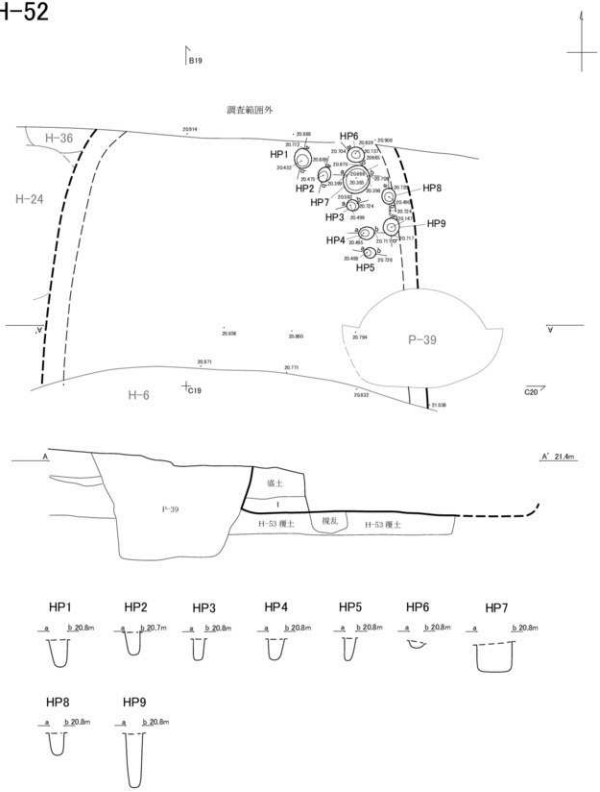
No.	土色				備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	Ⅴ層を起源とする盛土層	
2	浅黄褐色土	10YR	6/2	Ⅰの層に焼土が混入したもの	
3	褐灰色土	10YR	6/1	Ⅰの層に焼土が粒状に混じったもの	
4	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	Ⅰの層に炭化物粒と少量の焼土が混じったもの	
5	褐色土	10YR	4/4	混入物の少ないⅤ層土	
6	浅黄褐色土	10YR	5/2	Ⅴ層土に炭化物粒と焼土がブロック状に混じったもの	
7	褐色土	10YR	4/4	混入物の少ないⅤ層土に少量の焼土が粒状に混じる	
8	褐色土	10YR	4/4	褐色のⅤ層土とにぶい黄褐色（10YR7/3）のⅥ層土が互層で重なる層	

H-51 HF

遺構名	No.	土色				備考
HF1・2	1	にぶい赤褐色土	2.5YR	4/4		
	2	にぶい橙色土	5YR	6/4	Ⅴ層土に１が混在	

図Ⅵ-51　H-51

H-52

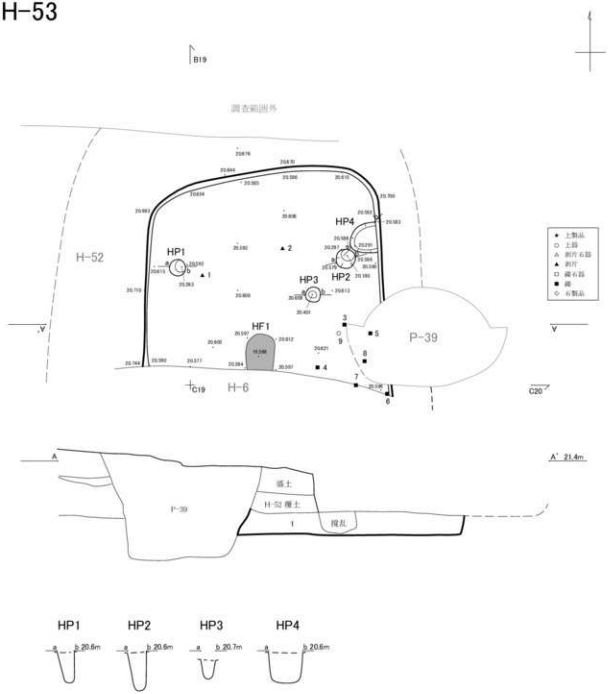


H-52 A-A'

No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
1	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	壊塗土	床面に拡床とみられる堅くしまる箇が薄くある	

図Ⅵ-52 H-52

H-53

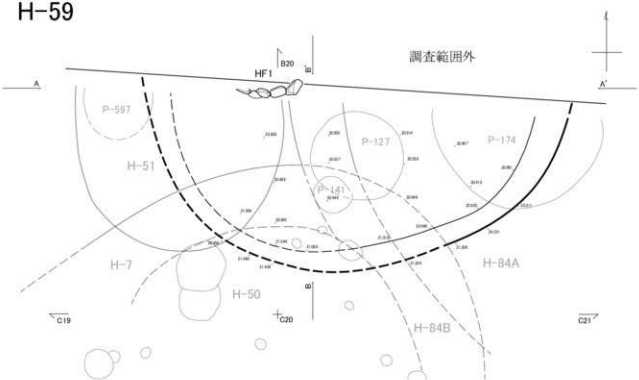


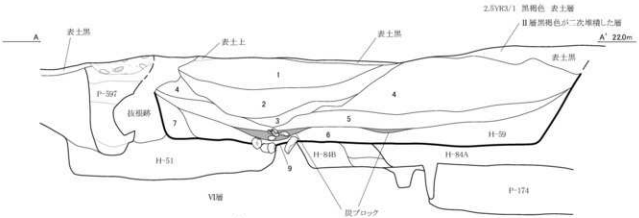
H-53 A-A'

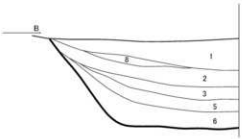
No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
1	褐色土	10YR	4/6	あり	ややあり	埴壌土	炭化物微量含む 1%、浅黄色土粒含む 5%	床面に炭化物層（～ 1mm）の薄い層がある

図Ⅵ-53　H-53

H-59





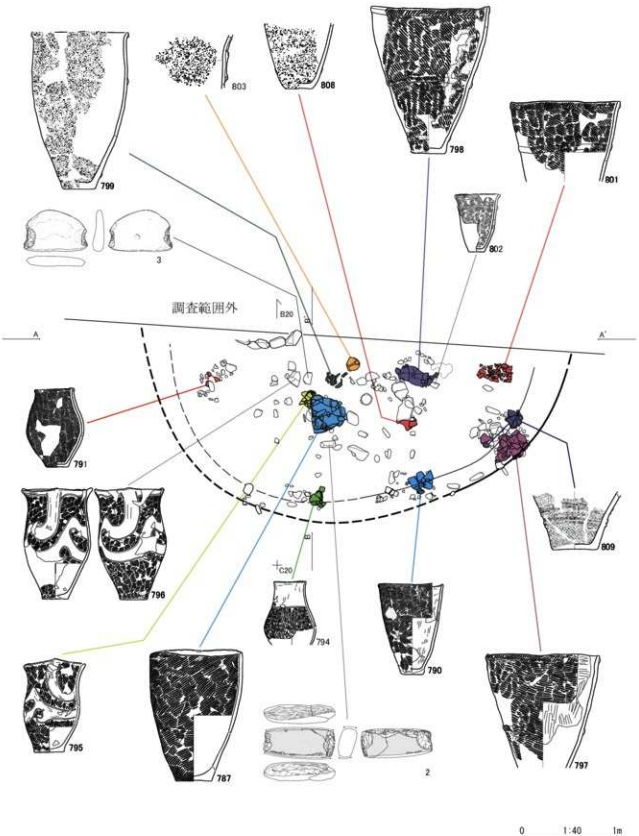


0 1:40 1m

H-59

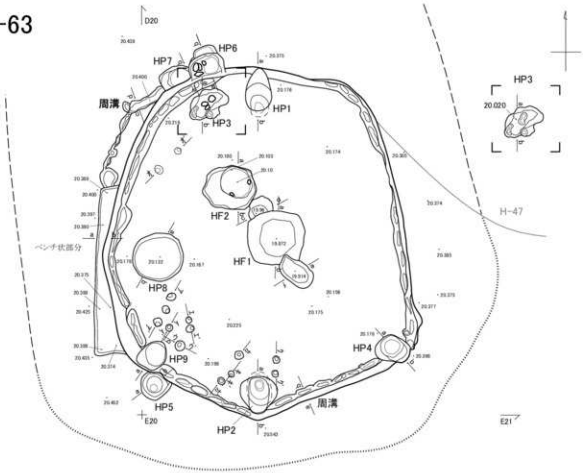
No.	土色				備考
1	黒褐色土	10YR	4/1	Ⅳ・Ⅴ層（ローム層）に主層が混じった層	
2	黒褐色土	10YR	4/2	1の層よりもⅣ層の混入が多い	
3	褐色土	10YR	4/4	Ⅳ・Ⅴ層に少量の主層が混じる	
4	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	Ⅳ・Ⅴ層に少量の主層が混じる 3より明るい土色層	
5	黒褐色土	10YR	4/2	Ⅳ・Ⅴ層に主層が混じる この層の下位は炭化物が多く混じりHF上などに炭のブロックがみられる	
6	褐色土	10YR	4/4	Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層の混土 まとまった遺物は本層中から出土している	
7	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	Ⅳ・Ⅴ層の混土に主層が混じった層	
8	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	1の層に焼土ブロックが多く混じった層	
9	明褐色土	10YR	5/3	焼土層 厚さ約1cmの焼土区画	HF1

図Ⅵ-54 H-59（1）

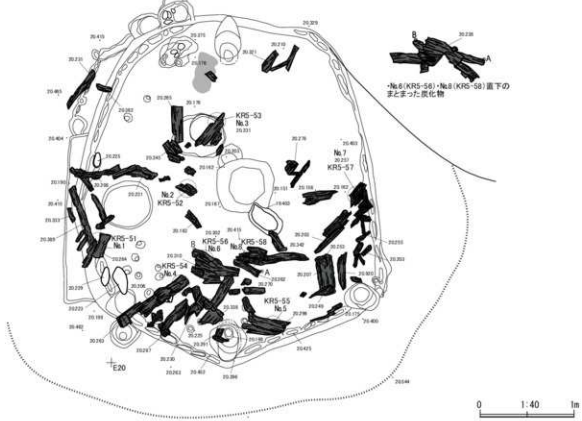

799
803
808
798
801
802
3
調査範囲外
B20
A
A'
791
796
809
C20
794
790
795
787
2
797
0
1:40
1m

図Ⅵ-55　H-59(２)

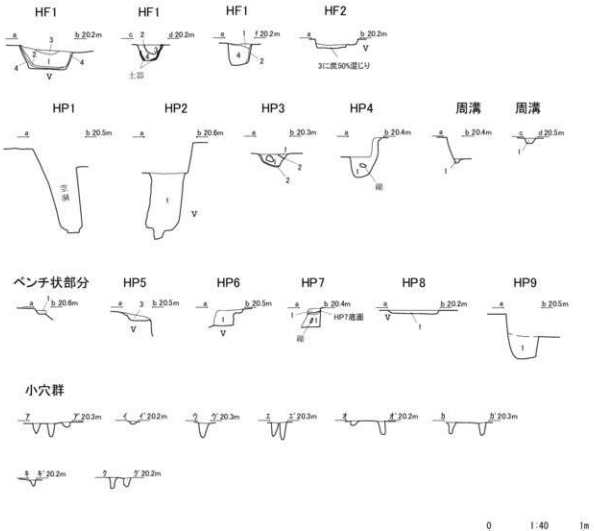
H-63



炭化物出土状況



図Ⅵ-56 H-63(1)

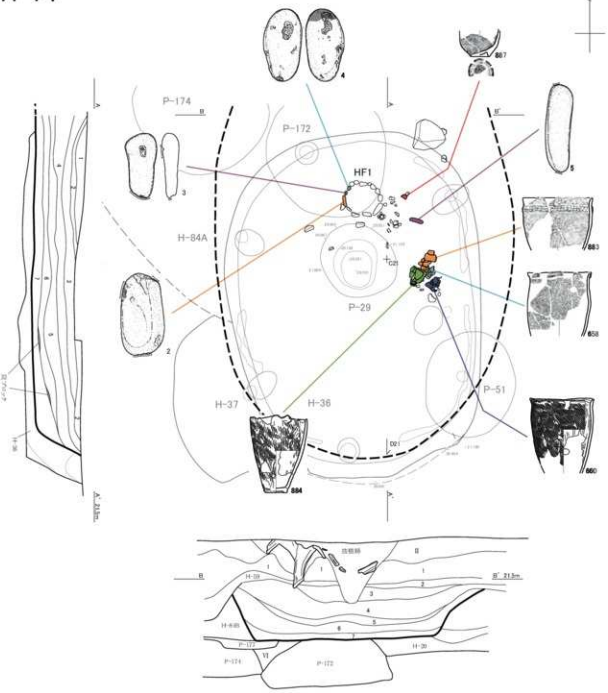


H-63 HF・HP・周溝・ベンチ状部分

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HF1	1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	粒径 1cm で炭量土がブロック状に 1%混じる、粒径 1cm で炭が 1%混じり	
	2	黒色土	7.5YR	2/1	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭 25%混じる	黒褐土＋炭
	3	黄褐色土	10YR	8/6	しまりあり	粒径 1～3cm で炭量土がブロック状に混ずる	
	4	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり	黒褐土と炭量土がまじりあう　水性のもの	ほりつけている可能性がある
HF2	1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	ややしまる	2 が粒径 1cm 以下で 1%混じる、粒径 1cm の炭が 50%混じる	
HP2	1	褐灰土	10YR	4/1	しまりなし	粒径 1cm の炭が 2%混じる、直径 3～5cm の棒 7%混じる	
HP3	1	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1cm で炭量土がブロック状に 1%混じる、粒径 1cm で炭が 1%混じり	
	2	黒色土	7.5YR	2/1	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭 25%混じる	黒褐土＋炭
HP4 周溝・ベンチ状部分	1	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	しまりあり	粒径 1～3cm で炭量土がブロック状に 15%混じる	
HP5	1	褐色土	5YR	6/6	しまりあり		
HP6・7 柱穴群	1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	ややしまる	粒径 1～3cm で炭量土がブロック状に 17%混じる	HP6HP6・7 の間には薄く炭量土が入り込む
HP8・9	1	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1～2cm で炭量土がブロック状に 50%混じる、粒径 1cm で炭が 2%混じる	

図Ⅵ-57　H-63（２）

H-74

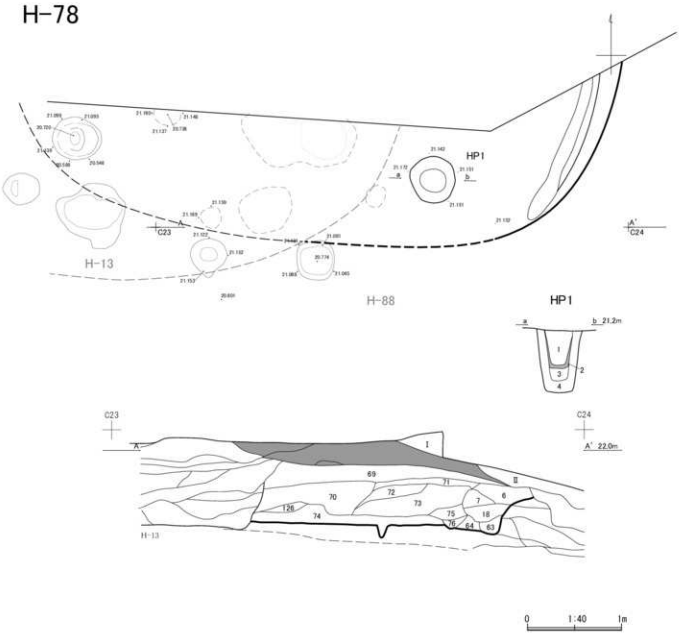


H-74

No.	土色				備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	2/1	Ⅴ層起源の盛土層に炭化物粒やⅡ層が混入した層	
2	暗褐色土	10YR	2/2	1の層中の炭化物集中層	
3	にぶい黄褐色土	10YR	3/1	ほぼ1と同じ層だがⅤ層の混入が多いとみられる	
4	黄褐色土	10YR	3/2	Ⅴ層起源の盛土層にⅤ層のブロックやⅥ層のブロックが混入した層 ブロックの大きさは掲載ほど粒径が小さくなる	
5	にぶい黄褐色土	10YR	4/2	Ⅴ層起源の盛土層に炭化物などが混入した層で1と同一層	
6	浜黄褐色土	10YR	4/2	5の層にさらに炭化物が混じる層　この層の下部には炭化物ブロックがみられる	
7	褐灰色土	10YR	5/4	5の層に粒径1㎜ほどの炭化物が多く混じった層	

図Ⅵ-58　H-74

H-78



H-78 A-A'

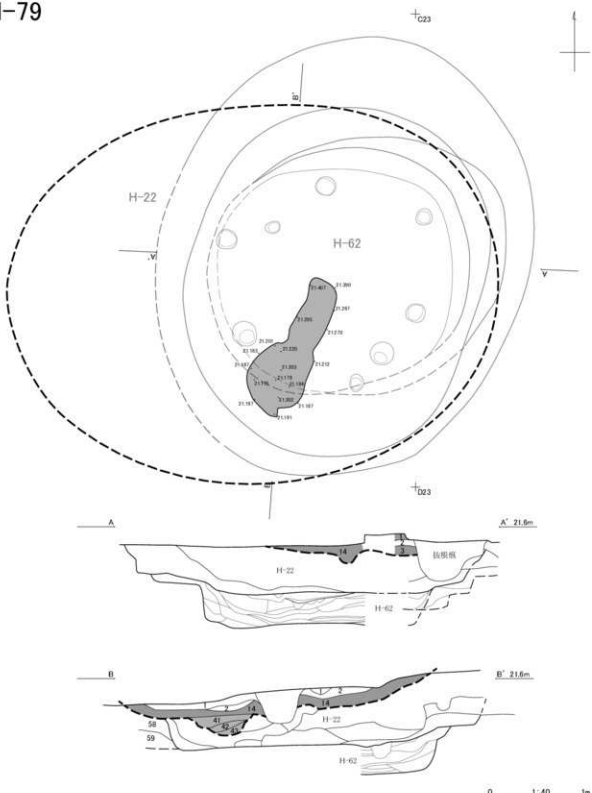
No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
6	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	埴土	弱	Ⅵ層由来鹿中 5%	
7	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	埴土	弱	鹿小 7%	
18	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	すこぶる堅	埴土	弱	Ⅵ層由来粒・鹿中・炭小 5%	ボソボソ
63	暗褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	砂埴土	弱	ローム粒・炭小 7%	
64	暗褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	砂埴土	弱	ローム粒・炭小 3%	
69	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	埴土	弱	Ⅵ層由来粒・炭小 3%	
70	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	埴埴土	弱	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック小～中・ロームブロック小～中 炭小～中 30%	
71	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	埴土	弱	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック小～大・ロームブロック小～大 炭小～中・鹿中～大 40%	
72	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	埴土	弱	Ⅵ層由来粒・Ⅵ層由来ブロック小～極大・ロームブロック小～大・炭小・鹿中～極大 50%	ややボソボソ
73	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	埴土	弱	Ⅵ層由来粒・炭小・鹿小 15%	ややボソボソ
74	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	砂埴土	弱	ローム粒・Ⅵ層由来粒・炭小 15%	
75	暗褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	埴土	弱	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小 25%	ややボソボソ
76	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	すこぶる堅	埴土	弱	Ⅵ層由来粒・ローム粒・炭小 15%	ややボソボソ
126	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	埴土	弱	炭小～大・ローム粒・Ⅵ層由来粒 15%	上よりⅥ

H-78 HP

遺構名	No.	土色				備考
HP1	1	灰黄褐色土	10YR	5/2	汚れたⅤ層土に炭化物が混じった層　ブロック状にⅥ層混じる	
	2	黒褐色土	10YR	3/1	汚れたⅤ層土に炭化物が50%混じった層	
	3	褐灰色土	10YR	4/1	汚れたⅤ層土に炭化物が10%混じった層	
	4	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	Ⅴ・Ⅵ層の混土層に Ⅵ層が少し混じる	

図Ⅵ-59　H-78

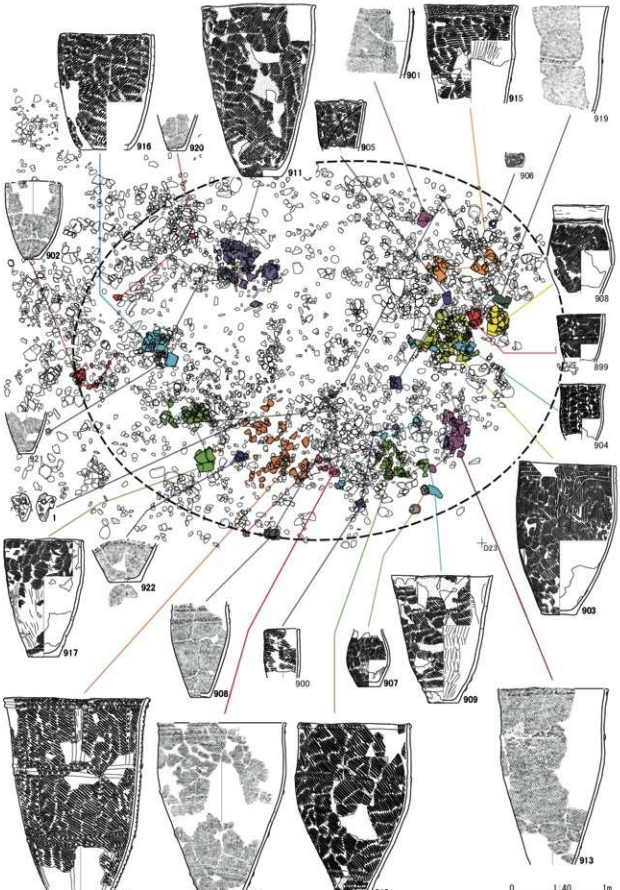
H-79



H-79 A-A'、B-B'

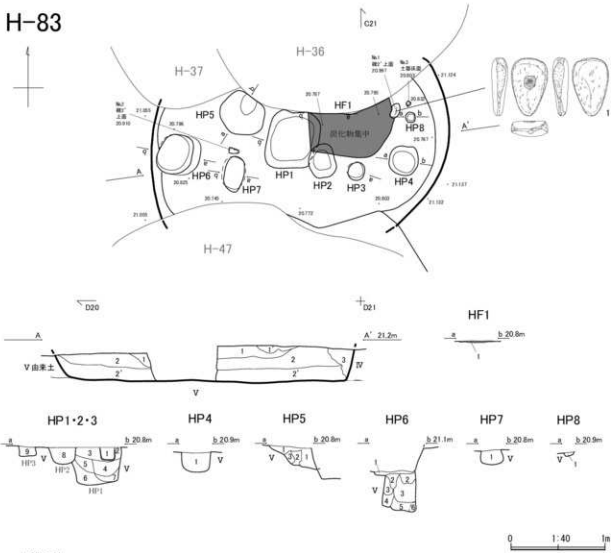
No.	土色			堅密度	粘性	土性		備考
1	暗褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・炭小 3%	
2	褐色土	10YR	4/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・炭小 2%	
3	暗褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	弱	壌土	ローム粒・炭小 5%	
14	暗褐色土	10YR	3/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	ローム粒・炭小 15%	
41	明赤褐色土	5YR	5/6	すこぶる堅	弱	砂壌土		現地性焼土 上半 3cmがより赤い
42	にぶい赤褐色土	5YR	4/4	すこぶる堅	弱	砂壌土	焼土粒 3%	焼土
43	褐色土	7.5YR	4/3	すこぶる堅	弱	砂壌土	Ⅵ層由来ブロック小 3%	焼土

図Ⅵ-60 H-79(1)


901
915
919
916
920
905
911
906
902
908
899
904
921
1
D23
922
903
917
908
900
907
909
913
910
914
912
0
1:40
1m

図Ⅵ-61　H-79(２)

H-83



H-83 A-A'

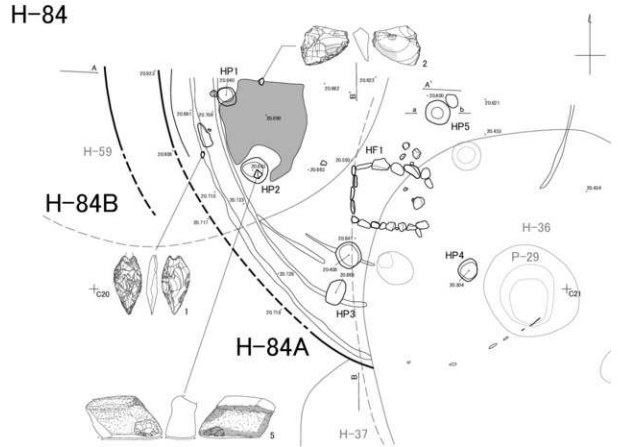
No.	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	3/4	ややしまる	小粒径 1～2mm の炭が1%混在	粘質をおびる
1'	暗褐色土	7.5YR	3/4	ややしまる	小粒径 1～2mm の炭が7%混在。 焼土粒(5YR7/8 橙色土)が小粒径 1～2mm で25%混在	粘質をおびる
2	褐色土	7.5YR	4/4	ややしまる	切縁小粒径 1～2mm で7%混在	粘質をおびる
2'	褐色土	7.5YR	4/4	ややしまる	切縁小粒径 1～2mm で1%混在	粘質をおびる
3	にぶい黄褐色土	10YR	7/4	ややしまる	切縁粒径 3cm で10%混在	
切縁 由来土	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm の炭1%混在	切縁主体土
Ⅳ・Ⅴ	黄褐色土	10YR	5/8	しまりあり	切縁粒径 3cm で5%混在	Ⅳ・Ⅴ層主体土
Ⅵ	浅黄橙色土	10YR	8/3	しまりあり	白い粘土質の地山	

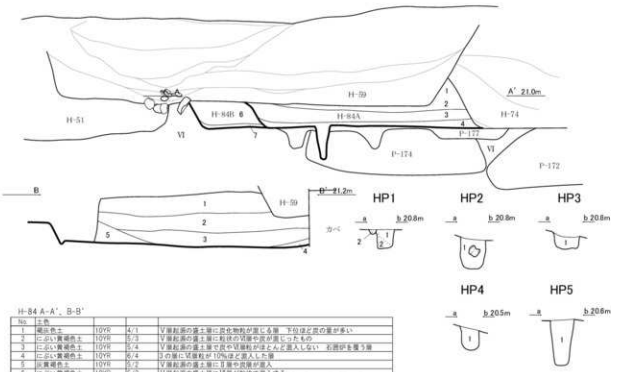
H-83 HF・HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HF1	1	黒色炭	10YR	4/1		炭化物	炭化物の入り込み
HP1～3	1	灰黄褐色土	10YR	3/2	しまりあり	3が炭焼したもの	
	2	黒色炭	10YR	4/1		炭化物の入り込み	炭化物
	3	橙色土	7.5YR	6/8	しまりあり	切縁が混入したもの	
	4	にぶい橙色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm で切縁がブロック状に7%混在、粒径 1～3cm で炭が2%混在 粒径 1cm で Ⅳ層がブロック状に1%混在	壊土
	5	にぶい橙色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm で切縁がブロック状に3%混在、粒径 1～3cm で炭が2%混在	
	6	橙色土	7.5YR	6/8	しまりあり	切縁が混入したもの	
	7	浅黄橙色土	10YR	8/3	しまりあり	切縁が粒径 1～3cm でブロック状に混入した	
	8	暗褐色土	10YR	3/4	ややしまる	粒径 1cm で炭が1%混在	
	9	暗褐色土	10YR	3/4	ややしまる	粒径 1cm で切縁がブロック状に3%混在、粒径 1cm で炭が1%混在	
HP4	1	暗褐色土	10YR	3/4	ややしまる	粒径 1cm で切縁がブロック状に3%混在、粒径 1cm で炭が1%混在	
HP5	1	暗褐色土	10YR	3/4	ややしまる	粒径 1cm で切縁がブロック状に3%混在、粒径 1cm で炭が1%混在 粒径 1cm で Ⅳ層がブロック状に2%混在	
	2	浅黄橙色土	10YR	8/3	しまりあり	切縁が粒径 1～3cm でブロック状混入	
	3	にぶい橙色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm で切縁がブロック状に7%混在、粒径 1～3cm で炭が2%混在 粒径 1cm で Ⅳ層がブロック状に1%混在	壊土
HP6	1	暗褐色土	10YR	3/4	ややしまる	粒径 1cm で切縁がブロック状に3%混在、粒径 1cm で炭が1%混在	
	2	浅黄橙色土	10YR	8/3	しまりあり	切縁が粒径 1～3cm でブロック状に混入	
	3	にぶい橙色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm で切縁がブロック状に7%混在、粒径 1～3cm で炭が2%混在 粒径 1cm で Ⅳ・Ⅴ層がブロック状に1%混在	壊土
	4	にぶい橙色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm で切縁がブロック状に3%混在、粒径 1～3cm で炭が2%混在	
	5	にぶい橙色土	10YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm で切縁がブロック状に3%混在、粒径 1～3cm で炭が2%混在	
	6	暗褐色土	10YR	3/4	しまりあり	木粉による腰肌	
HP7	1	暗褐色土	10YR	3/4	ややしまる	粒径 1cm で切縁がブロック状に3%混在、粒径 1cm で炭が1%混在	
HP8	1	暗褐色土	10YR	3/4	ややしまる	粒径 1cm で炭が1%混在	

図Ⅵ-62 H-83

H-84





H-84 A-A', B-B'

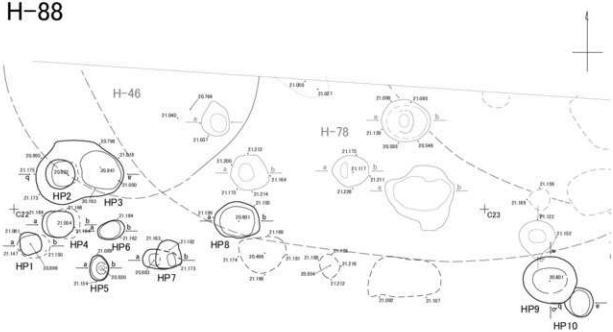
No	土色			
1	褐色土	10YR	4/1	Ⅴ層起源の盛土層に炭化物粒が混じる層　下位ほど炭の量が多い
2	にぶい黄褐色	10YR	5/3	Ⅴ層起源の盛土層に粒径の礫や炭が混じったもの
3	にぶい黄褐色	10YR	5/4	Ⅴ層起源の盛土層で炭や礫粒がほとんど混入しない　石囲炉を覆う層
4	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	3の層に礫粒が10%ほど混入した層
5	灰黄褐色土	10YR	5/2	Ⅴ層起源の盛土層にⅡ層や炭粒が混入
6	にぶい黄褐色	10YR	5/3	Ⅴ層起源の盛土層に礫が粒状で混入する
7	浅白色土	10YR	8/2	礫層土とにぶい黄褐色（10YR5/4）のⅤ層土が重なって堆積した層

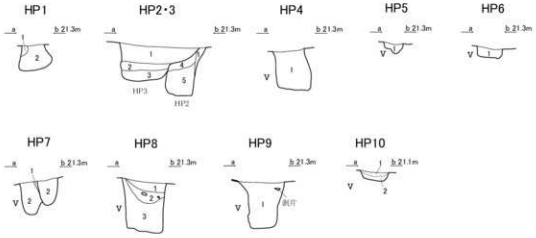
H-84HP

遺構名	No.	土色			固定度	
HP1～5	1	褐色土	7.5YR	4/3	やや しまる	礫が粒径 1cm の微状に 5%混じる
	2	褐色土	10YR	3/4	やや しまる	粒径 1cm で炭が 1%混在する
	3	浅黄橙色土	10YR	8/4		軟土質の地山

図Ⅵ-63　H-84

H-88



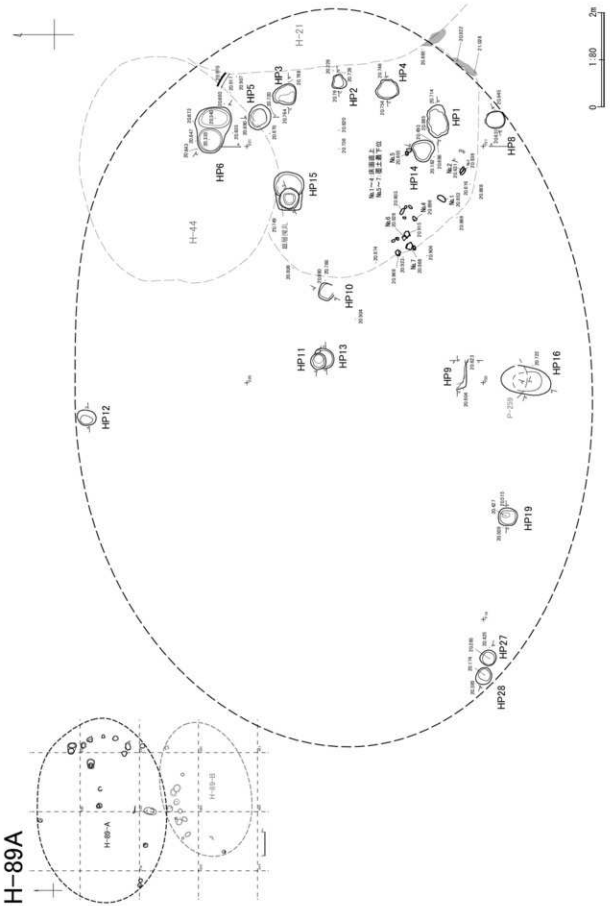


0 1:40 1m

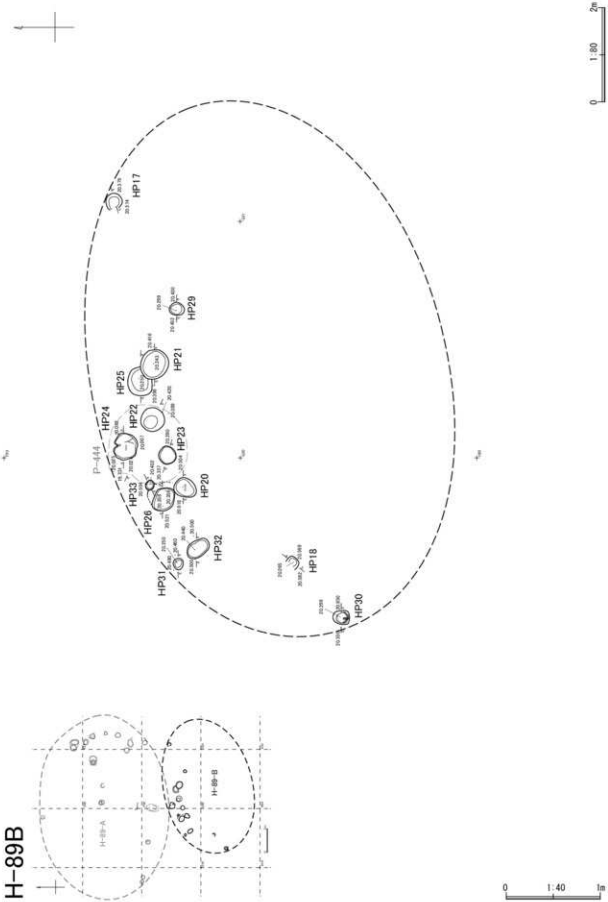
H-88 HP

遺構名	層	土色			堅密度		備考
HP1	1	黄褐色土	10YR	6/5	ややしまる		
	2	黄褐色土	10YR	6/5	ややしまる	粒径 3cm でV層がブロック状に 1%混在する、粒径 1cm で炭が 1%混在する	
HP2・3	1	明黄褐色土	10YR	5/6	ややしまる	粒径 1～3cm でV層がブロック状に 25%混在する	
	2	浅黄褐色土	10YR	8/3	ややしまる		V層の流入
	3	明黄褐色土	10YR	7/6	ややしまる		V層由来の埋土
	4	褐色土	10YR	4/4	ややしまる	粒径 1～3cm でV層がブロック状に 7%混在する	
	5	褐色土	10YR	4/4	ややしまる		V層の炭を無し
HP4	1	黄褐色土	10YR	6/5	ややしまる	粒径 3cm でV層がブロック状に 1%混在する、粒径 1cm で炭が 1%混在する	
	V	浅黄橙色土	10YR	8/4			粘土質の地山
HP5	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1cm でV層がブロック状に 1%混在する、粒径 1cm で炭が 1%混在する	
	V	浅黄橙色土	10YR	8/4			粘土質の地山
HP6	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1cm でV層がブロック状に 1%混在する、粒径 1cm で炭が 1%混在する	
	V	浅黄橙色土	10YR	8/4			粘土質の地山
HP7	1	黄褐色土	10YR	6/5	ややしまる	粒径 3cm でV層がブロック状に 1%混在する、粒径 1cm で炭が 1%混在する	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1cm でV層がブロック状に 1%混在する、粒径 1cm で炭が 1%混在する	
	V	浅黄橙色土	10YR	8/4			粘土質の地山
HP8	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1cm でV層がブロック状に 1%混在する、粒径 1cm で炭が 1%混在する	
	2	浅黄橙色土	10YR	8/4	ややしまる	粘土質の地山土が流入したもの	
	3	黄褐色土	10YR	6/5	ややしまる	粒径 3cm でV層がブロック状に 1%混在する、粒径 1cm で炭が 1%混在する	
	V	浅黄橙色土	10YR	8/4			粘土質の地山
HP9	1	黄褐色土	10YR	6/5	ややしまる	粒径 3cm でV層がブロック状に 1%混在する、粒径 1cm で炭が 1%混在する	
	V	浅黄橙色土	10YR	8/4			粘土質の地山
HP10	1	灰黄褐色土	10YR	5/2	しまりなし	上部に粒径 1cm の炭 2%混じる	保持する
	2	黄褐色土	10YR	6/5	ややしまる	粒径 3cm でV層がブロック状に 1%混在する、粒径 1cm で炭が 1%混在する	
	V	浅黄橙色土	10YR	8/4			粘土質の地山

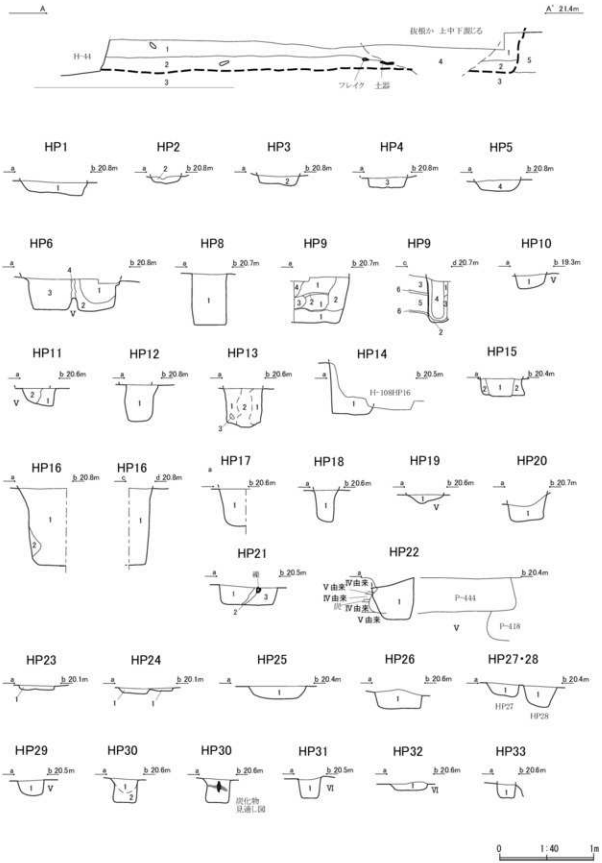
図Ⅵ-64 H-88


H-89A
H-89A
H-89B
H-44
H-21
HP1
HP2
HP3
HP4
HP5
HP6
HP8
HP9
HP10
HP11
HP12
HP13
HP14
HP15
HP16
HP19
HP27
HP28
0
1:80
2m

図Ⅵ-65　H-89A･B(１)


H-89B
H-89A
H-89B
P-144
HP17
HP29
HP21
HP25
HP22
HP24
HP23
HP20
HP33
HP26
HP32
HP31
HP18
HP30
0
1:80
2m
0
1:40
1m

図Ⅵ-66 H-89A･B(2)


A
A' 21.4m
H-44
板根か 上中下部じる
フレイク 土器
HP1
HP2
HP3
HP4
HP5
HP6
HP8
HP9
HP9
HP10
HP11
HP12
HP13
HP14
HP15
HP16
HP16
HP17
HP18
HP19
HP20
HP21
HP22
HP23
HP24
HP25
HP26
HP27・28
HP29
HP30
HP30
HP31
HP32
HP33
0
1:40
1m

図Ⅵ-67　H-89A・B(３)

H-89 A-A'

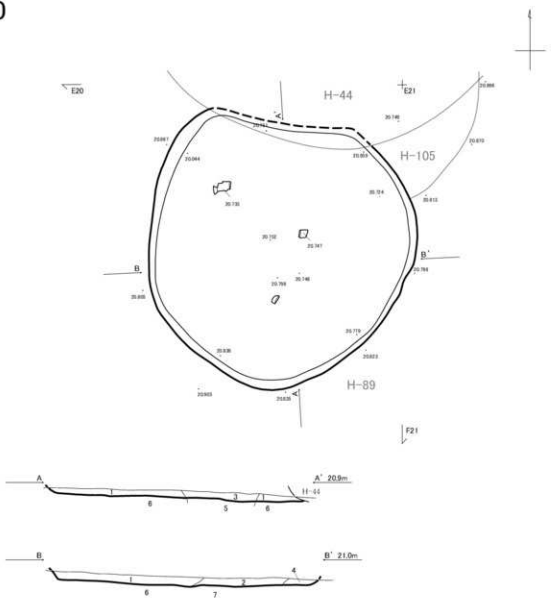
No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/4	しまりあり	直径1～2cmの小石2%混じる、粒径1cmで切屑が3%混在する	H-44-2に類する。
2	褐色土	10YR	4/4	よくしまる	粒径1cmで切屑が3%混在する。粒径1～3cmで切屑が7%混在する。	H-44-2に類する中
					直径1～2cmの炭化物2%混じる	
3	黒褐色土	10YR	6/6	よくしまる	直径1～2cmの小石2%混じる、粒径1cmで切屑が3%混在する	H-44-2に類する下
4	1～3がよく混じる					復報による撹乱
5	暗褐色土	10YR	3/3	ややしまる	粒径1cmの炭が7%混じる、粒径1cmで切屑が5%混在する	

H-89 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1～5	1	褐色土	10YR	4/6	しまりあり	粒径1～3cmの黒褐色土10YR2/2が10%混じり	
	2	暗褐色土	10YR	3/4	しまりあり	粒径1～3cmの炭5%混じり、粒径1～3cmの焼土5YR7/8橙色土が15%混じり	
	3	暗褐色土	10YR	3/4	しまりあり	粒径1cmの炭焼土10YR3/3褐色土10%混じり	
	4	褐色土	10YR	4/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで2%混じる、粒径1cm以下で炭が1%混じり	
HP6	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1cmの炭1%混じる	
	2	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1cmで15%混じる	
	3	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで25%混じる	
	4	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)の斑点	
HP8	1	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径1mm以下の炭2%混じる、V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで25%混じる	
HP9	1	褐色土	7.5YR	4/4	しまりあり		やや砂質
	2	黄褐色土	10YR	7/8	しまりあり		砂質
	3	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり		
	4	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり		
	5	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径1cmの炭7%混じる	
	6	黒色炭層	7.5YR	2/1	しまりなし		炭化物密に詰まる
HP10	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径1～3cmの炭7%混じる、V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで7%混じる	
HP11	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで7%混じる、粒径1mm以下の炭1%混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで25%混じる、粒径1mm以下の炭7%混じる	
HP12	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで2%混じる、粒径1mm以下の炭2%混じる	
HP13	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで2%混じる、粒径1mm以下の炭1%混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで25%混じる、粒径1mm以下の炭1%混じる	
	3	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)の斑点	
HP14	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで2%混じる、粒径1mm以下の炭1%混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで25%混じる、粒径1mm以下の炭2%混じる	
HP15	1	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	V層ブロック状に混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1cmで25%混じる、粒径1mm以下の炭2%混じる	
HP16	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで7%混じる、粒径1mm以下の炭1%混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで25%混じる、粒径1mm以下の炭2%混じる	
HP17	1	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	V層～灰白色土～浅黄褐色土(7.5YR8/2～3)が粒径1～3cmで5%混じる	
	V	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		
HP19	1	褐色土	10YR	4/3	ややしまる	V層～灰白色土～浅黄褐色土(7.5YR8/2～3)が粒径1mmで2%混じる、粒径1～3cmの炭2%混じる、粒径1～2cmの小石が1%混じる	
HP19	1	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径1～3cmのV層が5%混じる、粒径1～3cmの炭2%混じる	
HP20	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1～2cmのV層が10%混じる、およそ粒径1cmの炭が5%混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径1～2cmのV層が5%混じる、粒径1～3cmの炭2%混じる	
HP21	1	比較的黄褐色土	10YR	5/3	しまりあり	粒径1～3cmのV層が7%混じる、およそ粒径1cmの炭が5%混じる	
	2	比較的黄褐色土	10YR	7/3	しまりあり	粒径1～3cmのV層が10%混じる、およそ粒径1cmの炭が1%混じる	
	3	黄褐色土	10YR	5/8	しまりあり	粒径1cmのV層が1%混じる、およそ粒径1cmの炭が1%混じる	
HP22～24	1	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径1～3cmのV層が5%混じる、粒径1～3cmの炭2%混じる	
HP25	1	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径1～3cmのV層が5%混じる、粒径1～3cmの炭2%混じる	
HP26	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層～灰白色土～浅黄褐色土(7.5YR8/2～3)が粒径1～2cmで10%混じる、粒径1～2cmで炭が10%混じる	
HP27～28	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径1cmのV層が2%混じる	
HP29	1	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径1cmの炭が1%混じる、粒径1～3cmのV層が3%混じる	
HP30	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1cmのV層が1%混じる	
	2	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径1cmのB層1%混じる、粒径1～3cmのV層が1%混じる	南側の壁上半に炭が密集する
HP31	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径1～3cmのV層が5%混じる、粒径1cmの炭が2%混じる	
HP32	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1～3cmのV層が15%混じる、粒径1cm以下の炭が5%混じる	
HP33	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1cm以下のV層が15%混じる、粒径1cm以下の炭が2%混じる	

図Ⅵ-68 H-89A・B(4)

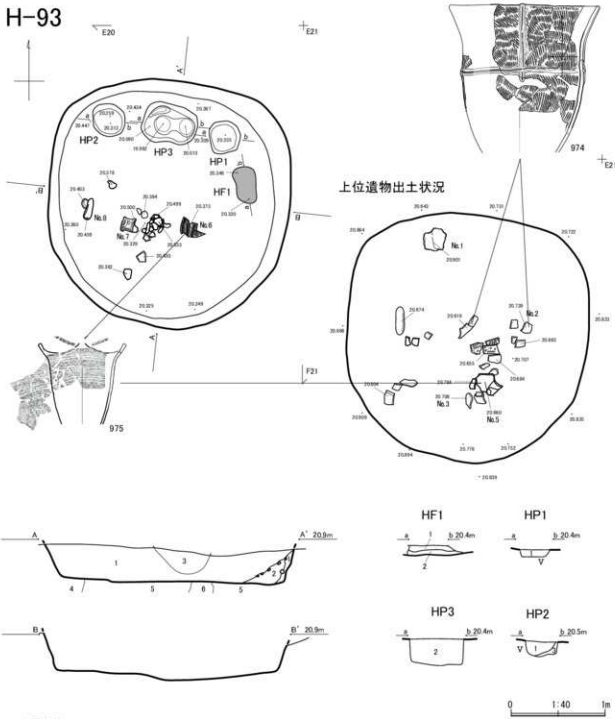
H-90



H-90 A-A'、B-B'

No.	土色			開発度		備考
1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	ややしまる	粒径１～3cmで切線がブロック状に5%混在する。粒径1cmの炭が2%混じる	
2	灰白色土	7.5YR	8/2	ややしまる	粒径１～3cmないしは雑種のように、切線がブロック状に20%混在する 粒径１～3cmの炭が2%混じる	
3	褐灰色土	7.5YR	4/1	しまりなし		旋根による撹乱
4	黄黄褐色土	10YR	8/4	しまりあり		切線主体土流入
5	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	粒径１～3cmで切線がブロック状に5%混在する１がしまる。粒径1cmの炭が2%混じる	
6	褐灰色土	7.5YR	4/1	しまりあり		旋根による撹乱。３がしまる
7	黄褐色土	10YR	5/8	しまりあり	白い地山（切線としたもの）が粒径3cmで5%混じる	5V－V層由来土

図Ⅵ-69　H-90



H-93 A-A'

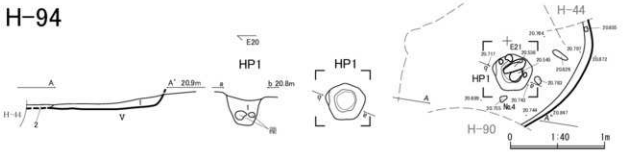
No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	ややしまる	粒径1～3cmで斑層がブロック状に5%混在する。粒径1cmの炭が2%混じる	Ⅳ層主体
2	灰白色土	7.5YR	8/2	ややしまる	粒径1～3cmないし斑層のように、斑層がブロック状に20%混在する。粒径1～3cmの炭が2%混じる	Ⅵ層主体
3	褐灰色土	7.5YR	4/1	しまりなし		後期による撹乱
4	黄褐色土	10YR	5/8	しまりあり	白い地山（Ⅵ層としたもの）が粒径3cmで5%混じる	遺構埋土
5	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	ややしまる	粒径1cm以下で斑層がブロック状に3%混在する	粘土
6	浅黄橙色土	10YR	8/4	しまりあり		Ⅵ層主体
7	黄褐色土	10YR	5/8	しまりあり	白い地山（Ⅵ層としたもの）が粒径3cmで5%混じる	

H-93 HF・HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HF1	1	明赤褐色土	5YR	5/8	しまりあり	粒径1～2cm以下でⅤ層がブロック状に1%上に被さる。粒径1cm以下で炭がブロック状に2%混在する	1が撹乱したものか
	2	灰白色土	7.5YR	8/2		粒径1～3cmでⅤ層がブロック状に25%混在する。粒径1～3cmで炭が2%混在する	2に近い
HF1～3	1	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	しまりあり	粒径1cm以下でⅣ層がブロック状に2%混在する。粒径1cm以下で炭がブロック状に3%混在する	
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	しまりあり	粒径1～2cmでⅤ層がブロック状に1%混在する。粒径1cmでⅣ層がブロック状に2%混在する	
	3	浅黄橙色土	10YR	8/4	しまりあり		Ⅴ層主体

図Ⅵ-70 H-93

H-94



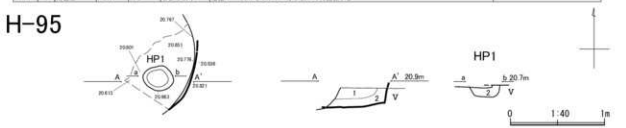
H-94 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/4	しまりあり	粒径 1～3cm でVがブロック状に 25%混在する。粒径 1cm の炭が 2%混じる	
2	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm でVがブロック状に 25%混在する。粒径 1cm の炭が 10%混じる	
V	浅黄橙色土	10YR	8/4	しまりあり		

H-94 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1	1	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1～3cm でVがブロック状に 3%混在する	

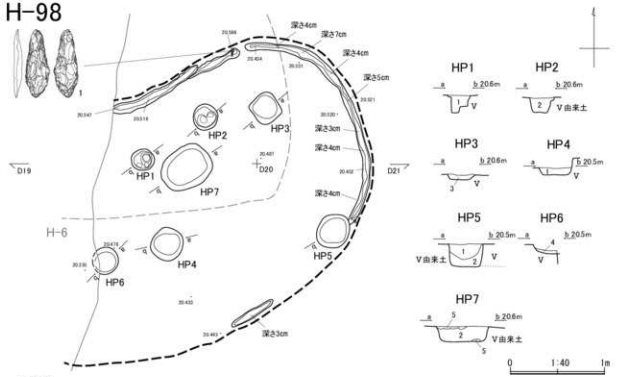
H-95



H-95 A-A、HP1

No.	土色			堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm でAがブロック状に 1%混在する	
2	にぶい赤褐色土	5YR	4/4	しまりあり	焼種した土口がして1が粒径 1～3cm のブロックで 25%、粒径 1cm 以下で炭と焼土粒が 2%混在する	
V	浅黄橙色土	10YR	8/4		粘土質の地山	

H-98

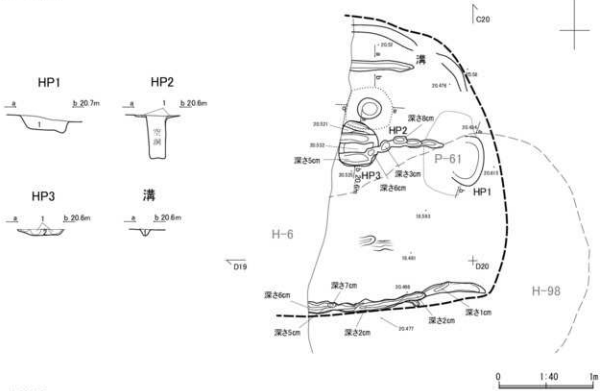


H-98 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1～7	1	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1cm でAがブロック状に 3%混在する。粒径 1cm の炭が 2%混じる	
	2	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1cm でAがブロック状に 20%混在する。粒径 1cm の炭が 1%混じる	
	3	褐色土	7.5YR	7/6	しまりあり	粒径 1cm でAがブロック状に 3%混在する。粒径 1cm の炭が 1%以下混じる	
	4	明赤褐色土	5YR	5/8	しまりなし	粒径 1cm でAがブロック状に 3%混在する。粒径 1cm の炭が 25%混じる	
	5	黄橙色土	10YR	8/6	しまりあり	粒径 1～3cm でAがブロック状に混ざる	
	V	浅黄橙色土	10YR	8/4			粘土質の地山
	V	黄褐色土	10YR	5/8	しまりあり	白い地山（Aとしたもの）が粒径 3cm で 5%混じる、V由来	Gにか遺構の盛土起源

図Ⅵ-71　H-94・H-95・H-98

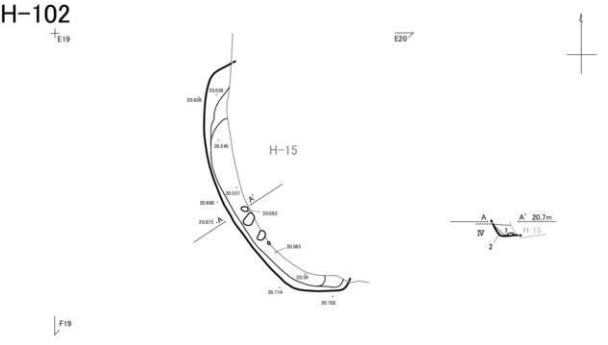
H-101



H-101 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1～4	1	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1cm で切羽がブロック状に 20%混在する。粒径 1cm の炭が 1%混じる	
	2	明赤褐色土	5YR	5/8	しまりなし	粒径 1cm で切羽がブロック状に 3%混在する。粒径 1cm の炭が 25%混じる	

H-102

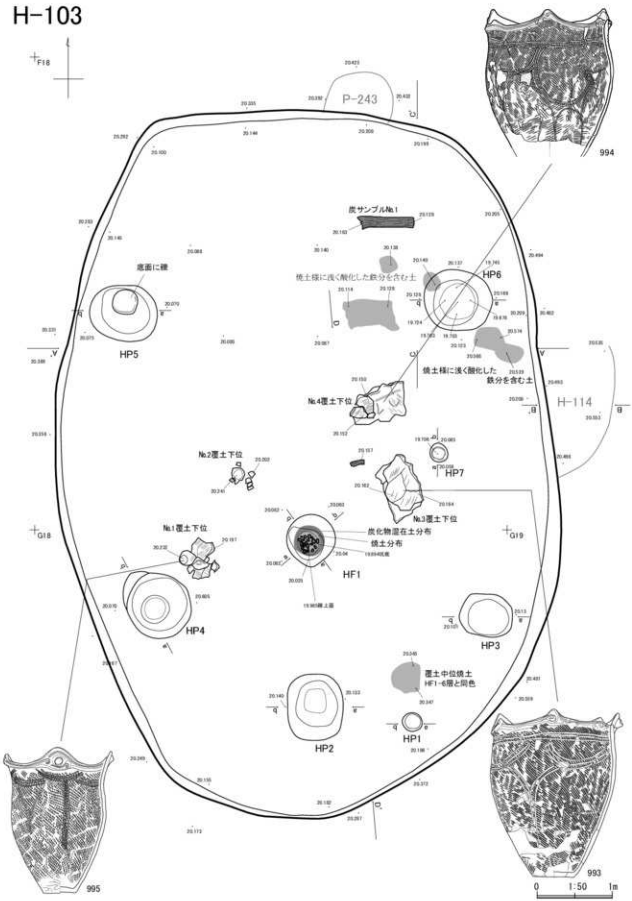


H-102 A-A'

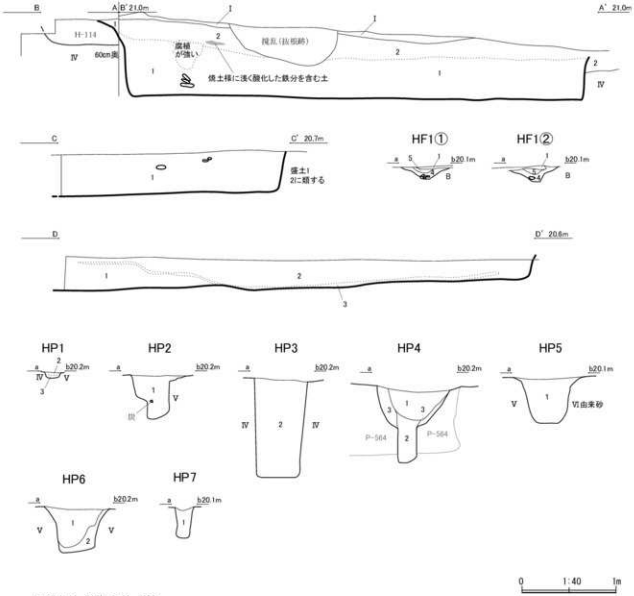
No.	土色			堅密度		備考
1	黒褐色土	7.5YR	4/2	ややしまる	粒径 1cm の炭 1%混じり	Ⅳ～Ⅴ層土体土が斑模
2	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりなし		模
Ⅳ～Ⅴ	褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり		

図Ⅵ-72 H-101・H-102

H-103



図Ⅵ-73　H-103（１）



H-103 A-A', B-B', C-C', D-D'

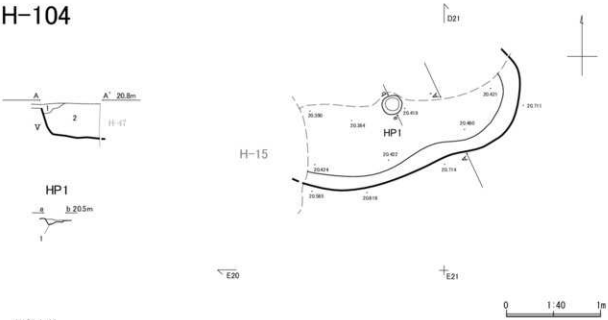
No.	土色			堅密度		備考
1	黄褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 1%混じる 粒径 1cm の炭 1%混じる	
2	黄褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 1%混じる 粒径 1cm の炭 1%混じる	
3	褐色土	7.5YR	4/4	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 1%混じる 粒径 1cm の炭 1%混じる	
4	褐色土	5YR	7/8	しまりあり	1 又は 2 の鉄分酸化、焼土か	
1	黄褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり		

H-103 HF - HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HF1・HP1～3	1	黄褐色土	10YR	5/6	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm 以下で 2%混じる、 粒径 1cm の炭 2%混じる	
	2	黄褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 1%混じる、 粒径 1cm の小砂利 1%混じる、粒径 1cm の炭 3%混じる	
	3	炭主体	7.5YR	2/1	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 1%混じる、 粒径 1cm の炭 25%混じる	
	4	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1cm の橙色土 5YR7/8 が 5%混じる、粒径 1cm の炭 5%混じる 粒径 1cm の炭 5%混じる	
	5	褐色土	5YR	7/8	ややしまる	粒径 1cm の炭 5%混じる	焼土とした
HP4	1	黄褐色土	10YR	5/6	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm 以下で 2%混じる、 粒径 1cm の炭 2%混じる	
	2	褐褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1～3cm の炭が 2%混じる	砂質
	3	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり		砂質、Ⅳ・Ⅴ層主体
HP6	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 2%混じる 粒径 1～3cm の炭 7%混じる　下に多い	
	2	灰白土	10Y	7/1	しまりなし	砂質	
HP7	1	褐褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	Ⅵ層由来砂と Ⅳ・Ⅴ層が 1：1 で混在する	

図Ⅵ-74　H-103（2）

H-104



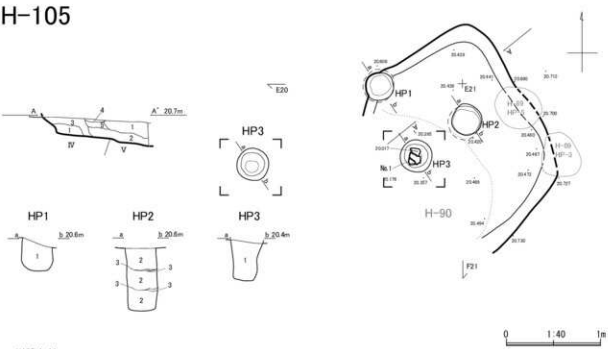
H104 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	灰白色～浅黄褐色	7.5YR	6/2～3	しまりあり	切盛土体土	
2	褐色	7.5YR	5/4	しまりあり	切盛（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで7%混じる、粒径1cmの炭1%混じる 3cmの炭が2%混じる	

H-104 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1	1	褐色	7.5YR	7/6	しまりあり	粒径1cm以下の炭2%混じる	
	2	明赤褐色	5YR	5/8	しまりなし	粒径1cmで切盛がブロック状に3%混在する、粒径1cmの炭が2.5%混じる	

H-105



H105 A-A'

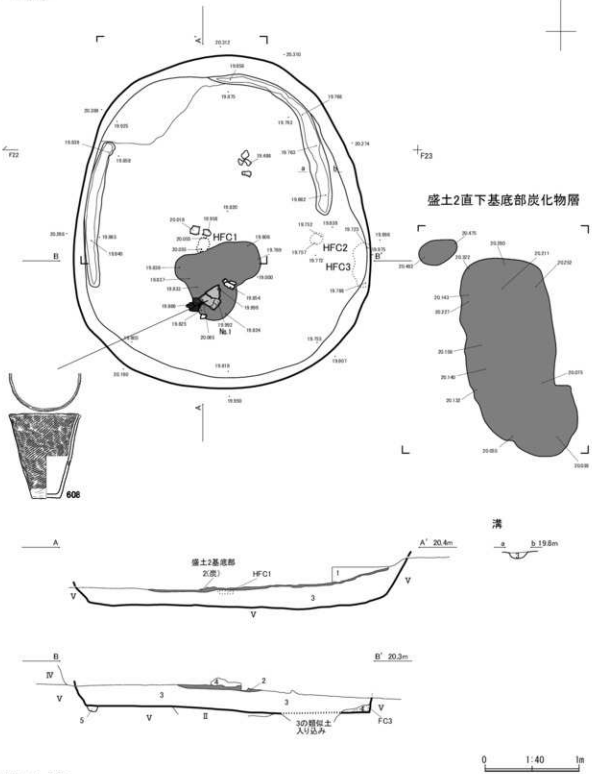
No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	切盛（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cm以下で2%混じる、 粒径1cm以下で灰黄褐色土（7.5YR5/8）が2%混じる、粒径1cm以下の炭2%混じる	
2	黄褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり	粒径1cm以下で灰黄褐色土（7.5YR5/8）が2%混じる、粒径1cm以下の炭2%混じる	
3	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	切盛（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cm以下で2%混じる、 粒径1cm以下の炭2%混じる	
4	褐色土	5YR	7/8	しまりあり	暗土・褐色土（7.5YR7/6）が粒径1cmで2%混じる	
5	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりなし	切盛（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで50%混じる	

H-105 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1～3	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりなし	粒径1cm以下の炭1%混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりなし	切盛（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで2%混じる	
	3	黒色炭層	7.5YR	2/1			炭化物層

図Ⅵ-75　H-104・H-105

H-106

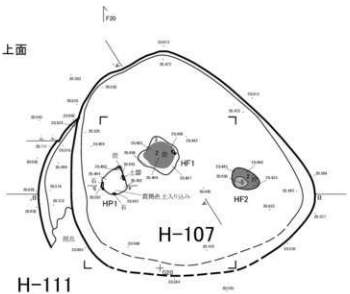


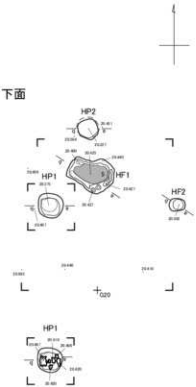
H-106 A-A', B-B'

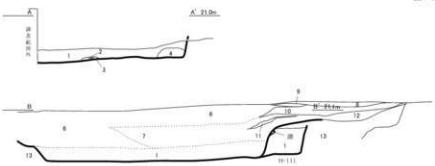
No.	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	切層(炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径 1cm で 7%混じる。 粒径 1cm の炭 1%混じる	
2	黒色炭層	7.5YR	2/1		炭化物面に詰まるがほぼ不明	炭化物層
3	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	切層(炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径 1cm で 7%混じる。 粒径 1cm の炭 1%混じる	溝は炭が目立たない
4	黒色層	7.5YR	2/1	しまりあり	混じりなし	
5	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	切層(炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3)が粒径 1cm で 15%混じる。 粒径 1cm の炭 1%混じる	東側の溝に分布

図Ⅵ-76 H-106

H-107・H-111







H-107 A-A', B-B', HF

No.	土色			堅密度	
1	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	VI層（灰白色土～浅黄褐色土 7.5YR8/2～3）が粒径１～3cm で 7%混じる
2	黒色炭層	7.5YR	2/1	炭化物層	炭化物密に詰まる材は不明
3	暗褐色＋暗色土	7.5YR 5YR	5/6 6/3	ややしまる あり	1 に 7%混じる
4	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	6/2～3	しまりあり	VI層がブロック状に混入
5	明赤褐～暗色土	5YR	5～6/3	ややしまる	
6	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	VI層（灰白色土～浅黄褐色土 7.5YR8/2～3）が粒径１～3cm で 7%混じる
7	暗褐色土	7.5YR	5/3	ややしまる	VI層（灰白色土～浅黄褐色土 7.5YR8/2～3）が粒径 1cm 以下で 1%以下混じる、粒径 1cm 以下の炭 1%以下混じる
8	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	混じりなし
9	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	VI層主体土に粒径 1cm の炭 1%以下混じる
10	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり	
11	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり	
12	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	混じりなし
13	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	

H107 HP1

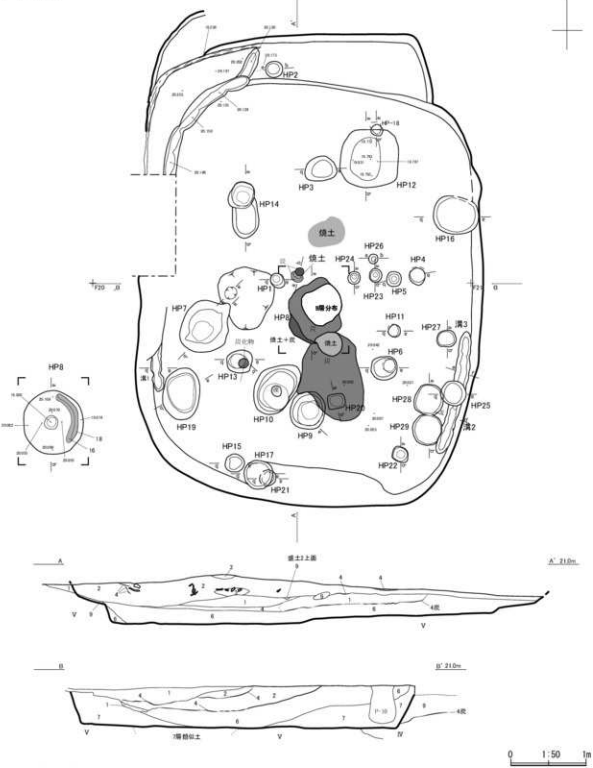
遺構名	No.	土色			堅密度	
HP1	1	暗褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	VI層（灰白色土～浅黄褐色土 7.5YR8/2～3）が粒径 1cm 以下で 1%以下混じる、粒径 1cm以下の炭 1%以下混じる
HP2	1	暗褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	VI層（灰白色土～浅黄褐色土 7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 15%混じる、粒径 1～3cmの炭 15%以下混じる

H-111 B-B'

No.	土色			堅密度	
1	赤褐色	5YR	4/4	しまりあり	VI層（灰白色土～浅黄褐色土 7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 1%混じる、粒径 1cm の炭 7%混じる

図VI-77　H-107・H-111

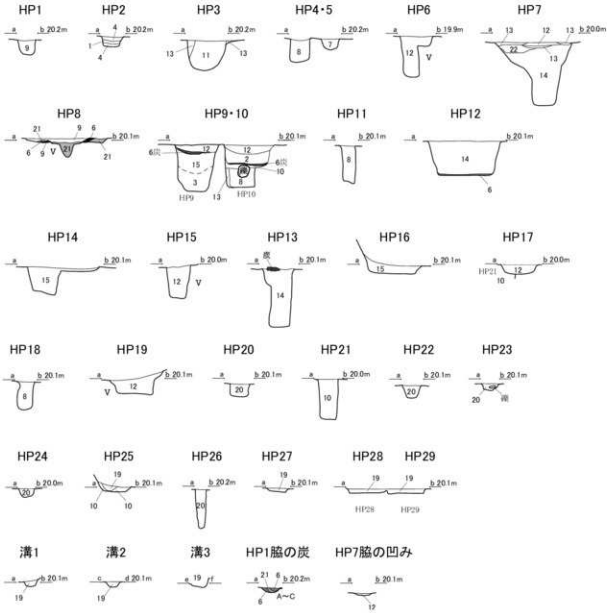
H-108



H-108 A-A'、B-B'

No.	土色			堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり		
2	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1～3cm の炭 15%混じる	
3	明赤褐色土	5YR	5/8	しまりあり		
4	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり	粒径 1～3cm の炭 25%以上混じる	
5	明赤褐 +黒褐色土	5YR 7.5YR	5/8 2/2	しまりあり	粒径 1～3cm の炭 15%混じる	
6	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm の炭 2%混じる	
7	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1～3cm の炭 2%混じる	
8	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm の炭 2%混じる、明褐 (炭白色土～暗黒褐色土 7.5YR6/2～3) が粒径 1～3cm ≒ 25%混じる	
9	炭白～暗黒褐色土	7.5YR	6/2～3	しまりあり		Ⅵ層由来土

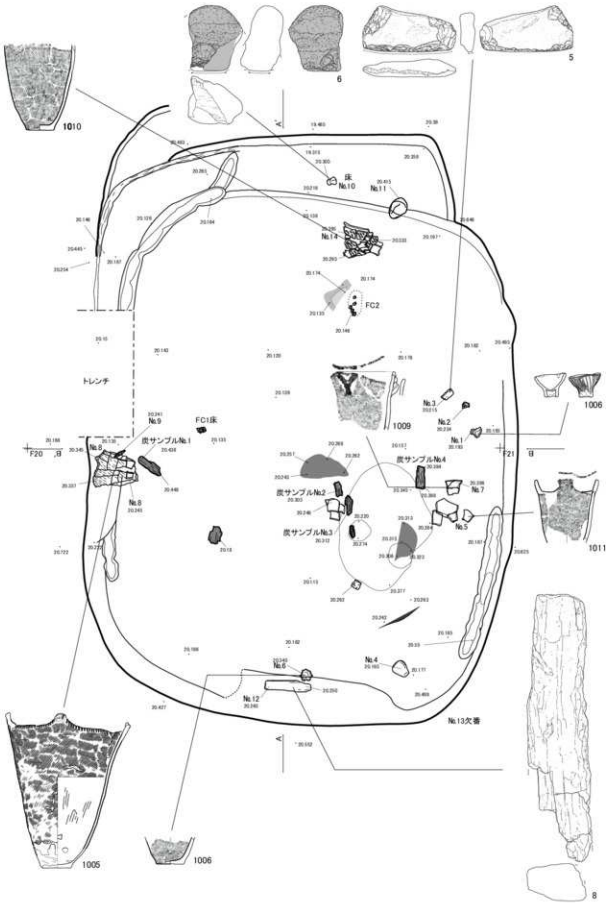
図Ⅵ-78 H-108(1)



H-108 HP・溝

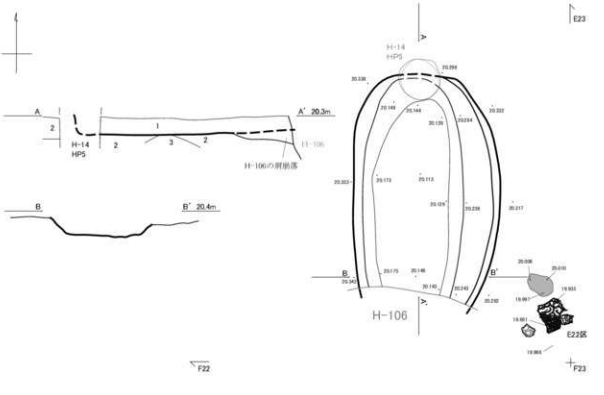
遺構名	No.	土色			堅密度	
HP1～29、溝	1	褐色土	7.5YR	4/4	しまりあり	やや砂質
	2	黄褐色土	10YR	7/8	しまりあり	砂質
	3	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり	
	4	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	
	5	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm の炭 7%混じる
	6	黒色炭層	7.5YR	2/1		炭化物密に詰まるれば不明、炭化物層
	7	黒色炭層	7.5YR	2/1	しまりなし	炭化物密に詰まるれば不明、炭化物層
	8	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりなし	粒径 1cm 以下の炭 7%混じる
	9	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭 25%混じる
	10	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭 2%混じる、V層（炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 25%混じる
	11	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭 1%混じる、V層（炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 7%混じる
	12	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1～3cm の炭 7%混じる、V層（炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 7%混じる
	13	炭白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	ブロック状に入り込む
	14	暗褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径 1cm 以下の炭 7%混じる
	15	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm の炭 2%混じる、V層（炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 2%混じる
	16	橙色土	2.5YR	7/8	しまりあり	暗褐色土焼ける
	17	明赤褐色土	2.5YR	5/4	しまりあり	暗褐色土焼ける
	18	暗赤褐色土	2.5YR	3/6	しまりあり	暗褐色土焼ける
	19	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭 7%混じる、V層（炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 25%混じる
	20	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりなし	粒径 1cm 以下の炭 1%混じる、V層（炭白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 7%混じる
	21	橙色土	5YR	6/8	しまりあり	手が焼けたもの
	22	浅黄褐色土	7.5YR	8/3	しまりあり	ブロック状に入り込む

図Ⅵ-79　H-108（２）


1010
6
5
床
No.10
No.11
No.14
FC2
トレンチ
No.9
FC1床
No.8
炭サンプルNo.1
F20
1009
No.3
No.2
No.1
1006
F21
炭サンプルNo.4
No.7
炭サンプルNo.2
No.5
炭サンプルNo.3
1011
No.4
No.6
No.12
No.13欠番
1005
1006
8

図Ⅵ-80 H-108(3)

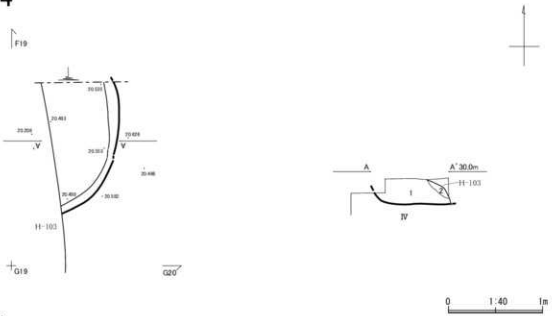
H-113



H-113 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり		
2	褐色土	7.5YR	4/4	しまりあり		
3	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	しまる		均一に見える粘土

H-114

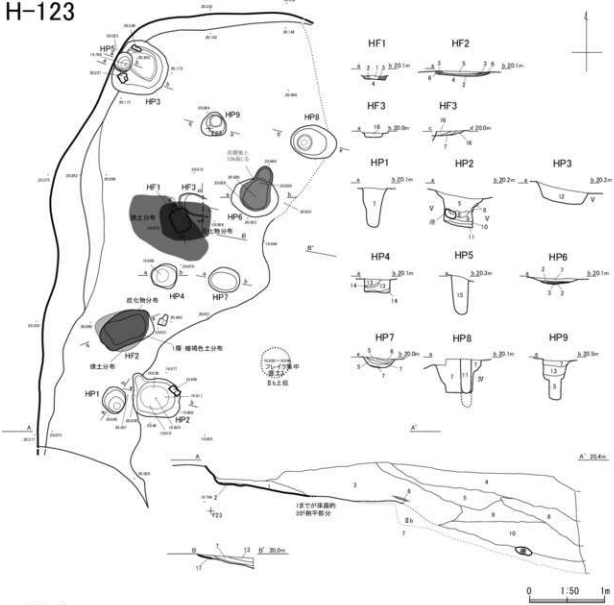


H-114 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	6/8	しまりあり		固じりなし
2	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりあり	切面がブロック状に入り込む、直径１～3cm の確 7%	
IV・V	黄褐色土	10YR	7/8	しまりあり		固じりなし

図Ⅵ-81　H-113・114

H-123



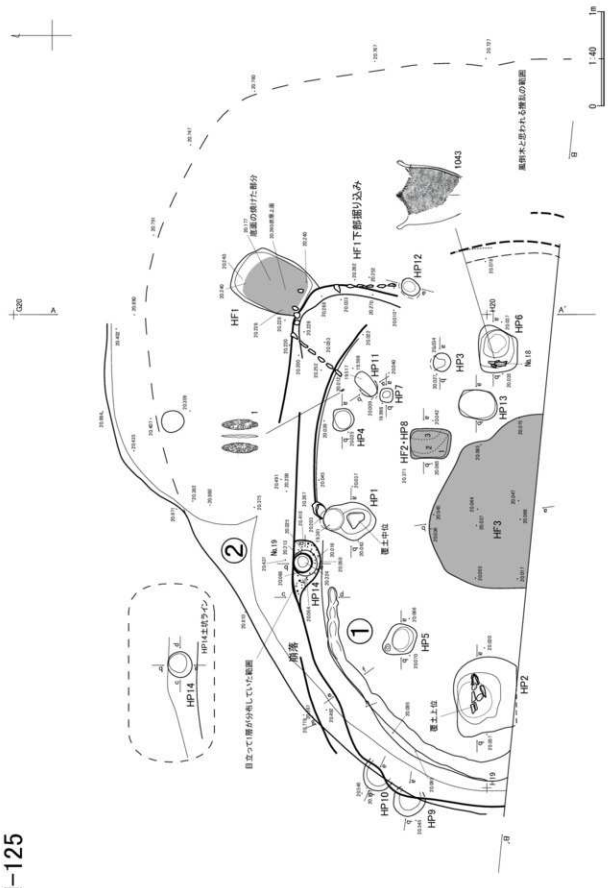
H-123 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	明褐色土（7.5YR5/6）いわゆるⅣ層が粒径 1cm で 7%混じる。粒径 1cm の炭 7%混じる	
2	黒色土	7.5YR	2/1	しまりあり		Ⅱ層主体
3	褐色土	7.5YR	4/4	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 2%混じる。粒径 1～3cm の炭 1%混じる	
4	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm の炭 2%混じる	
5	暗褐色土	7.5YR	3/4	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 7%混じる。粒径 1～3cm の炭 1%混じる	
6	褐色土	5YR	7/8	しまりあり		3 が焼けたもの
7	明黄褐～黄褐色土	10YR	7/6～8	よくしまる		
8	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅵ層ブロック状に混じる
9	暗褐色土	7.5YR	3/4	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 25%混じる。粒径 1～3cm の炭 7%混じる	
10	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 1%混じる。粒径 1～3cm の炭 7%混じる	

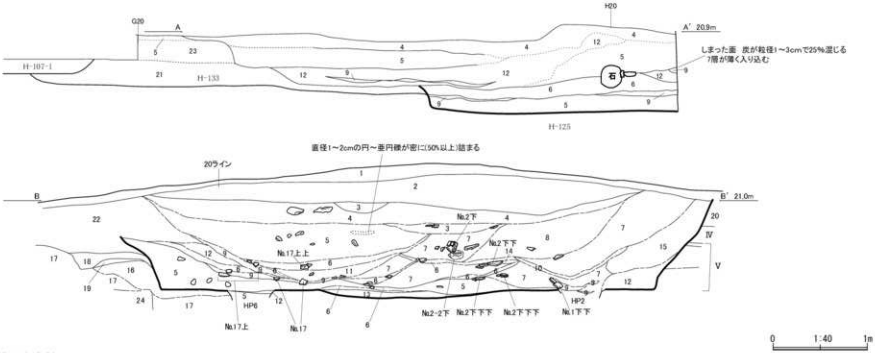
H-123 B-B'、HF・HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HF1～3	1	暗褐色土	10YR	3/3	しまりあり		
HP1～9	2	褐色土	5YR	6/8	しまりあり	4 が焼ける	
	3	黒色炭層	7.5YR	2/1	しまりなし	炭化物炭に近まる材は不明	
	4	黄褐色土	10YR	5/6	しまりあり		
	5	暗褐色土	7.5YR	3/4	しまりあり		
	6	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり		
	7	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	Ⅵ層ブロック状に混じる	
	8	褐色土	5YR	6/8	しまりあり	5 が焼ける	
	9	黒褐色土	7.5YR	3/2	しまりなし	11 が延焼	
	10	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりなし	Ⅵ層流入	
	11	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりなし		
	12	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 7%混じる。粒径 1cm 以下の炭 1%混じる	
	13	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	延焼土粒径 1cm で 7%混じる	
	14	黒褐色土	7.5YR	3/2	しまりなし	延焼土	
	15	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりなし	粒径 1cm の炭 1%混じる	
	16	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 7%混じる。粒径 1cm の炭 7%混じる	
	17	黒褐色土	7.5YR	3/2	しまりあり	粒径 1cm の炭 2%混じる	
	18	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 25%混じる	

図Ⅵ-82 H-123


H-125
HF1
HF1下部掘り込み
HF2・HP8
HF3
HP1
HP2
HP3
HP4
HP5
HP6
HP7
HP9
HP10
HP11
HP12
HP13
HP14
HP14土坑ライン
1043
No.18
No.19
覆土土位
覆土土位
廃棄の焼けた部分
風倒木と思われる倒れの範囲
目立って1層が分布していた範囲
1
2
0
1:40
1m

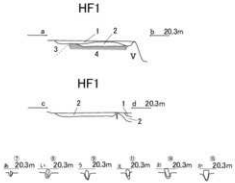
図Ⅵ-83　H-125（１）



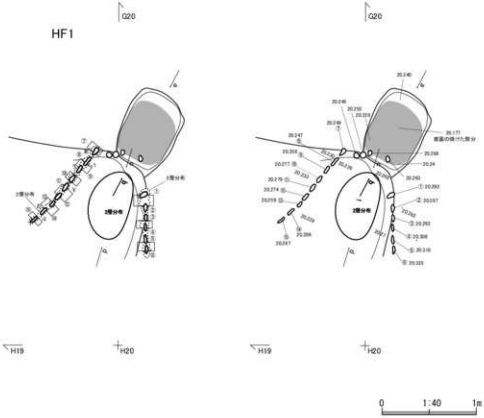
H-125 A-A', B-B'

№	土色			堆積層		備考
1	黄褐色土	10YR	4/3			
2	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	混じりなし	
3	黒褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径1～2cmの炭が2%混じる、粒径1～2cmのV層が3%混じる	腐植土
4	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径1～2cmの炭が2%混じる、粒径1～2cmのV層が3%混じる	腐植土
5	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径1～3cmのV層2%混じる、粒径1～3cmの炭が5%混じる	
6	にぶい黄褐色	10YR	5/4	ややしまる	粒径1～3cmのV層1%混じる、粒径1～3cmの炭が25%混じる	
7	明褐色土	5YR	7/6	しまりあり	粒径1～3cmのV層2%混じる、粒径1～3cmの炭が5%混じる	
8	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径1～3cmのV層2%混じる、粒径1～3cmの炭が2%混じる	
9	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径1～3cmの炭が15%混じる	
10	明褐色	7.5YR	5/8	しまりあり		
11	にぶい黄褐色土と明褐色土が1:1で混在する	10YR 5YR	5/4と7/6の混在	しまりあり	5と7の混在	
12	灰白色土～黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		V層砂流入
13	褐色土	7.5YR	4/6	ややしまりあり	粒径1cmのV層1%混じる、粒径1cmの炭が2%混じる	中央くぼみ
14	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径1～3cmのA～C?%混じる、粒径1～3cmの炭が5%混じる	
15	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径1cmの炭が2%混じる、粒径1cmのV層が2%混じる、粒径1cmの灰層が2%混じる	
16	にぶい褐色土	7.5YR	7/4	しまりあり	粒径1～5cmの骨角礫10%混じる	粘質
17	灰白色土～黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		V層砂質土流入
18	灰白色土～黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		V層流入
19	灰白色土～黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	粒径1～5cmの礫25%混じる、粒径1cmの灰・V層砂粒で混在する	V層由来土
20	褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	混じりなし	V層由来土
21	暗褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径1cmのV層が5%混じる、粒径1cm以下の炭が2%混じる	
22	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径1cmの炭が5%混じる、粒径1～3cmのV層2%混じる 粒径1～3cmのV・V層1%混じる、粒径1～3cmの礫25%混じる	
23	暗褐色	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径1cmのV層2%混じる、粒径1cmの炭が1%以下混じる	
24	灰白色土～黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	粒径1cmのV層砂粒で混在する	V層由来土

図VI-84 H-125(2)



H125 HF1	検出面 20.26mの上(cm)	検出面 20.26mの下(cm)
①	2	2
②	4	4
③	4	4
④	4	4
⑤	3	4
⑥	3	4
⑦	4	2
⑧	3	3
⑨	4	4
⑩	4	3
⑪	3	3
⑫	3	4
⑬	4	3
⑭	3	3
⑮	4	4
⑯	4	4



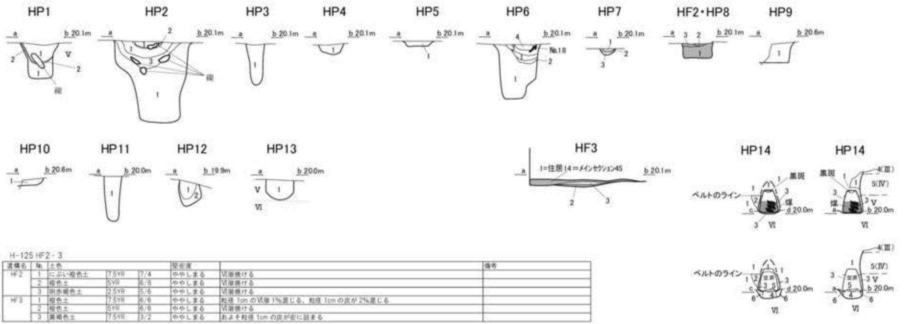
H-125 HF1 a-b

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HF1	1	明褐色土	7.5YR	5/8	ややしまる	VI層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 2%混じる 粒径 1cm の炭 2%混じる	
	2	褐色土	7.5YR	4/6	ややしまる	VI層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 2%混じる 粒径 1cm の炭 2%混じる	
	3	黄褐色土	7.5YR	3/2	ややしまる	1に粒径 1cm の炭 25%以下混じる	
	4	橙色土	5YR	7/8	しまりあり	VI層が被熱したもの	よく鉄分酸化する

H-125 HF1 c-d

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HF1	1	暗褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径 1cm の炭量 5%混じる、粒径 1cm 以下の炭が 2%混じる	
炭層	2	橙色土	5YR	7/8		粒径 1cm の炭量 2%混じる、粒径 1～2cm の炭が 5%混じる	よく鉄分酸化する

図VI-85　H-125（3）

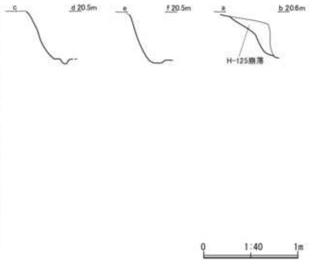


H-125 HF2・3

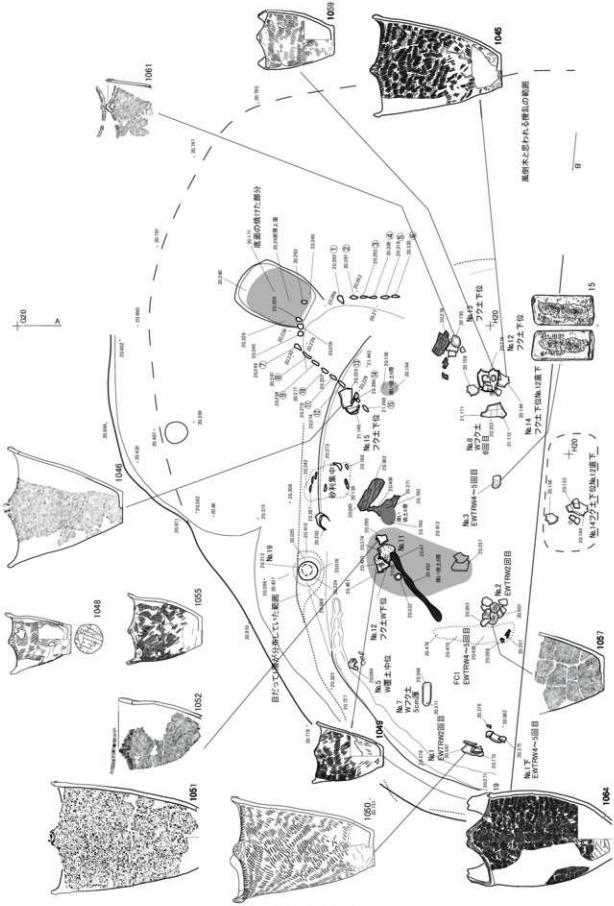
遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HF2	1	にぶい橙色土	7.5YR	7/4	ややしまる	Ⅵ層焼ける	
	2	橙色土	5YR	6/8	ややしまる	Ⅵ層焼ける	
	3	明赤褐色土	2.5YR	5/6	ややしまる	Ⅵ層焼ける	
HF3	1	橙色土	7.5YR	6/6	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層 1%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	
	2	橙色土	5YR	6/8	ややしまる	Ⅵ層焼ける	
	3	黒褐色土	7.5YR	3/2	ややしまる	およそ粒径 1cm の炭が密に詰まる	

H-125 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	Ⅵ層が粒径 1cm 以下で 2%混じる、粒径 1cm の小石が 2%混じる	
	2	黒褐色土	7.5YR	3/2	ややしまる	およそ粒径 1cm の炭が密に詰まる	
HP2・6	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/8	しまりなし		
	2	明黄褐色土	10YR	6/10	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層 2%以下混じる、粒径 1cm 以下の炭が 2%以下混じる	
	3	暗褐色土	7.5YR	3/4	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層 2%混じる、粒径 1cm の炭が 2%以下混じる	
	4	にぶい黄橙色土	10YR	6/5	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層 2%混じる、粒径 1～2cm の炭が 6%混じる	
	5	にぶい黄褐色土	10YR	5/5	ややしまる	粒径 1～3cm のⅥ層 8%混じる、粒径 1～3cm の炭が 8%混じる	
HP3	1	橙色土	5YR	7/9		粒径 1cm のⅥ層 3%混じる、粒径 1～2cm の炭が 6%混じる	鉄分酸化
	2	にぶい黄褐色土	10YR	5/5	ややしまる	粒径 1～3cm のⅥ層 8%混じる、粒径 1～3cm の炭が 25%混じる	
HP4	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	Ⅵ層が粒径 1cm 以下で 1%混じる、粒径 1cm の炭 5%混じる	
HP5	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1～3cm のⅥ層 7%混じる、粒径 1～3cm の炭が 25%混じる	
HP7	1	橙色土	5YR	6/7	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層 8%混じる、粒径 1cm の炭が 6%以下混じる	
	2	暗褐色土	7.5YR	5/7	ややしまる	焼骨片や炭化物が顕著に混在	
	3	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～4	しまりあり	Ⅵ層が粒径 1cm で 26%混じる	
HP9	1	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1～2cm の小石 1%混じる、粒径 1cm の炭が 1%以下混じる	
HP10	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1～3cm の黄色味つよいⅥ層 2%混じる	
HP11	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1～2cm の黄色味つよいⅥ層 5%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	
HP12	1	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりなし	粒径 1cm のⅣ・Ⅴ層 2%混じる、粒径 1～2cm の炭が 5%混じる	
	2	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	粒径 1cm のⅥ・Ⅴ層 2%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	
HP13	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1～3cm のⅥ層 2%混じる、粒径 1～5cm の礫が 5%混じる	
HP14・No.19周辺	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	5 層地山主体Ⅳ・Ⅴ層的混じりなし	
	2	明黄褐色土	10YR	6/6	しまりあり	粒径 1～2cm のⅥ層 2%混じる、粒径 1～2cm の小石が 1%混じる	
	3	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	5 層地山に対して 4 層地山が 2：1 の割合で混在する	
	4	オリーブ灰色砂	5GY	6/1	しまりあり		Ⅵ層砂グライ化、地山
	5	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅵ層砂、地山
	6	にぶい赤褐色土	5YR	4/3			
	7	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅵ層砂、5 由来
	8	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	5 層地山に対して 4 層地山が 2：1 の割合で混在する	3 由来の砂の下で空洞に近い

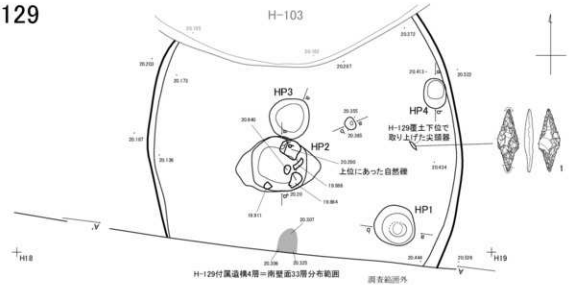


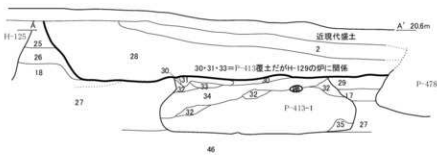
図Ⅵ-86 H-125(4)

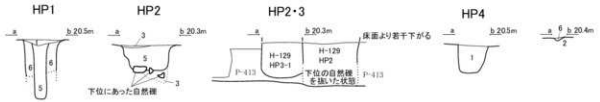

1059
1045
1061
1046
1048
1055
1052
1051
1050
1049
1064
1057
15
H20
H01
H02
H03
H04
H05
H06
H07
H08
H09
H10
H11
H12
H13
H14
H15
No.1 EWTRW4～5回目
No.2 EWTRW2回目
No.3 EWTRW4～5回目
No.4 フクエ下位
No.5 W塗土中位
No.6 W塗土中位
No.7 W塗土中位
No.8 W塗土中位
No.9 W塗土中位
No.10 フクエ下位
No.11 フクエ下位
No.12 フクエ下位
No.13 フクエ下位
No.14 フクエ下位No.12直下
No.15 フクエ下位
No.16 フクエ下位
No.17 フクエ下位
No.18 フクエ下位
No.19 フクエ下位
FC1 EWTRW4～5回目
No.1 EWTRW2回目
No.1下 EWTRW4～5回目
風倒木と思われる撹乱の範囲
B
A
G20

図Ⅵ-87　H-125(５)

H-129







0 1:40 1m

H-129 A-A'

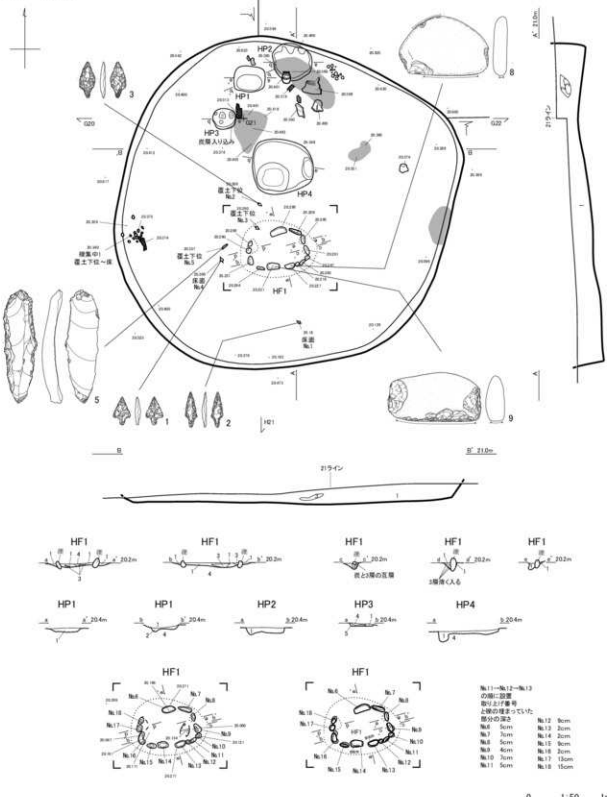
	地	土色			関東度		備考
1	(近現代盛土)	黄褐色土	10YR	4/3			
2	(1)	褐色土	10YR	2/1		粒径 1cm の灰層が 1%混じる	1層
17	(Ⅵ層由来Ⅴ層)	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	Ⅵ層由来砂質土	
18	(Ⅴ)	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	Ⅴ層	
25	(Ⅳ)	橙色土	7.5YR	6/8	しまりあり	Ⅳ層	
26	(Ⅴ)	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	Ⅴ層	
27	(Ⅵ層由来Ⅴ層)	にぶい橙色土	7.5YR	7/4	しまりあり	粒径 1～5cm の赤色礫 10%混じる	砂質
28	(H-129 覆土)	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1cm の炭が 2%混じる、粒径 1cm の Ⅴ層が 2%混じる	
29	(Ⅵ層由来Ⅴ層)	にぶい橙色土	7.5YR	7/4	しまりあり	粒径 1～2cm の Ⅴ層が 3%混じる	砂質
30	(H-129 炉関係)	褐褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径 1～3cm の Ⅴ層 7%混じる、粒径 1～3cm の炭が 25%混じる、粒径 1～3cm の Ⅴ層が 3%混じる	
31	(H-129 炉関係)	黄褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径 1～3cm の Ⅴ層 7%混じる、粒径 1～3cm の炭が 25%混じる	
32	(P-413 覆土)	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1～3cm の Ⅴ層 7%混じる、粒径 1～3cm の炭が 5%混じる	
33	(H-129 炉関係)	橙色土	5YR	7/8		粒径 1cm の Ⅴ層 2%混じる、粒径 1～2cm の炭が 5%混じる	よく部分酸化する
34	(P-413 覆土)	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり		
35	(P-413 覆土)	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅵ層砂質土入
46	(Ⅵ層砂質土)	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅵ層砂質土

H-129 HP

遺構名	地	土色			関東度		備考
HP1・2 他	1	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1cm の炭が 2%混じる、粒径 1cm の Ⅴ層が 2%混じる	
	2	暗褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径 1～3cm の Ⅴ層 7%混じる、粒径 1～3cm の炭が 25%混じる	
	3	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1～3cm の Ⅴ層 7%混じる、粒径 1～3cm の炭が 5%混じる	
	4	橙色土	5YR	7/8		粒径 1cm の Ⅴ層 2%混じる、粒径 1～2cm の炭が 5%混じる	よく部分酸化する
	5	暗褐色土	7.5YR	3/4	しまりなし	粒径 1cm の Ⅴ層 2%混じる、黄色礫地山の礫が 5%混じる	
	6	明黄褐色土	10YR	6/6	しまりなし		Ⅵ層砂質黄色地山流入
HP3	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりなし		
HP4	1	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm の Ⅴ層 1%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる、粒径 1～3cm の小石が 3%混じる	
	7	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		
	8	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	5層地山に対して 4層地山が 2：1 の割合で混在する	

図Ⅵ-88 H-129

H-130

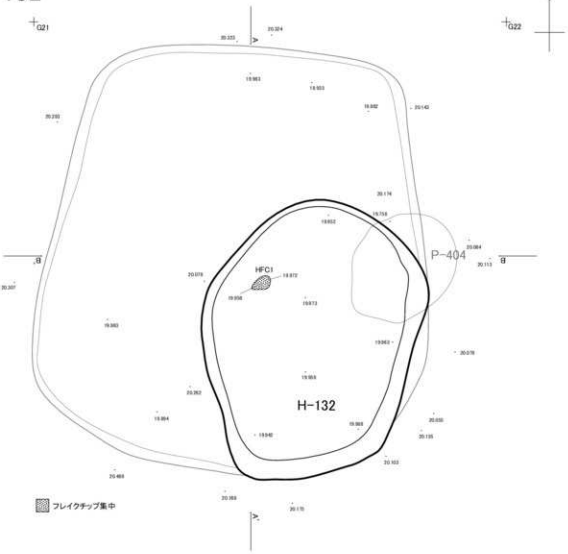


H-130 A-A'、B-B'、HF・HP

No.	土色		硬度		備考
1	にぶい褐色土	7.5YR	6/3	しまりあり	粒径１～3cmの焼土2%混じる、粒径 1cmの炭が5%混じる	
2	黒褐色土	7.5YR	3/2	しまりあり	粒径１～3cmの焼土2%混じる、粒径 1cmの炭が5%混じる、粒径 1cm以下の焼骨片が2%混じる	
3	褐色土	5YR	4/6	しまりあり	粒径１～3cmの焼土2%混じる、粒径 1cmの炭が5%混じる、粒径 1cm以下の焼骨片が2%混じる	
4	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	粒径 1cm以下の焼骨片が2%混じる	焼土ブロック状の流入
5	黒褐色土	7.5YR	3/2	ややしまる	すこ粒径 1cmの炭25%以下混じる	

図Ⅵ-89　H-130

H-132

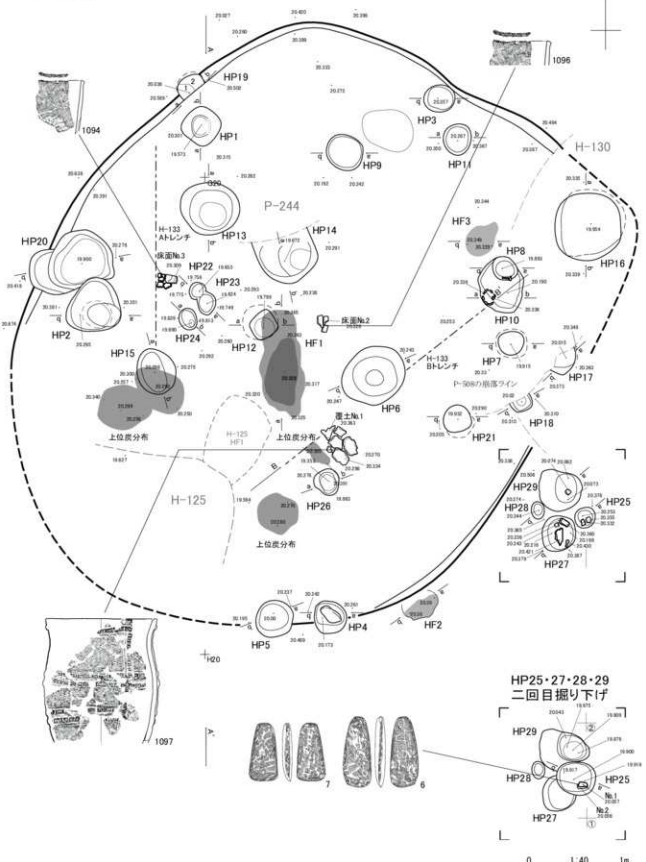


H-132 A-A', B-B'

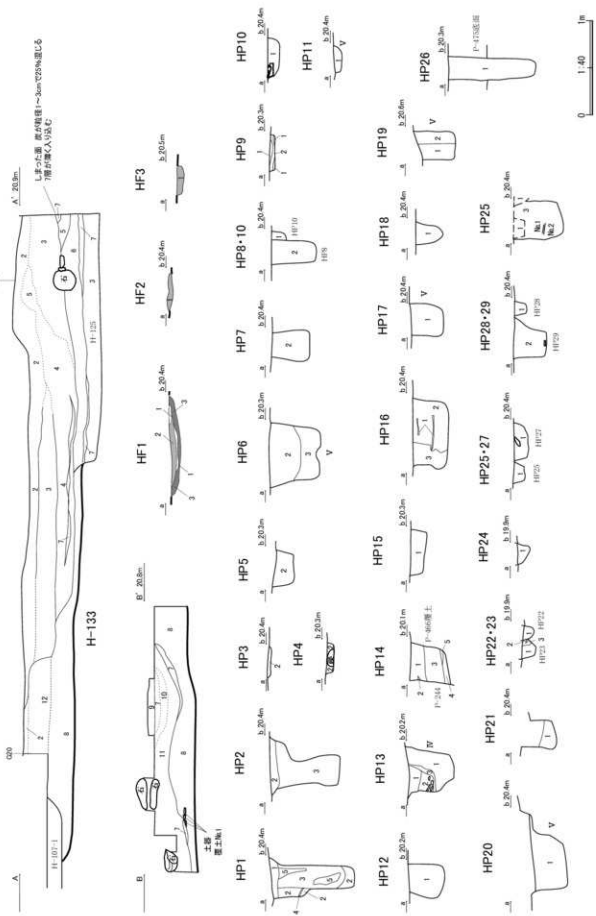
層	土色		硬軟度		備考
I	暗褐色	7.5YR	3/3	しまりあり	切羽（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 3%混じる。炭 2%以下混じる

図Ⅵ-90 H-132

H-133



図Ⅵ-91　H-133（１）


H-133
A
A'
B
B'
HP1
HP2
HP3
HP4
HP5
HP6
HP7
HP8・10
HP9
HP10
HP11
HP12
HP13
HP14
HP15
HP16
HP17
HP18
HP19
HP20
HP21
HP22・23
HP24
HP25・27
HP26
HP28・29
HP25
HF1
HF2
HF3
1:40
0
1m

図Ⅵ-92 H-133(2)

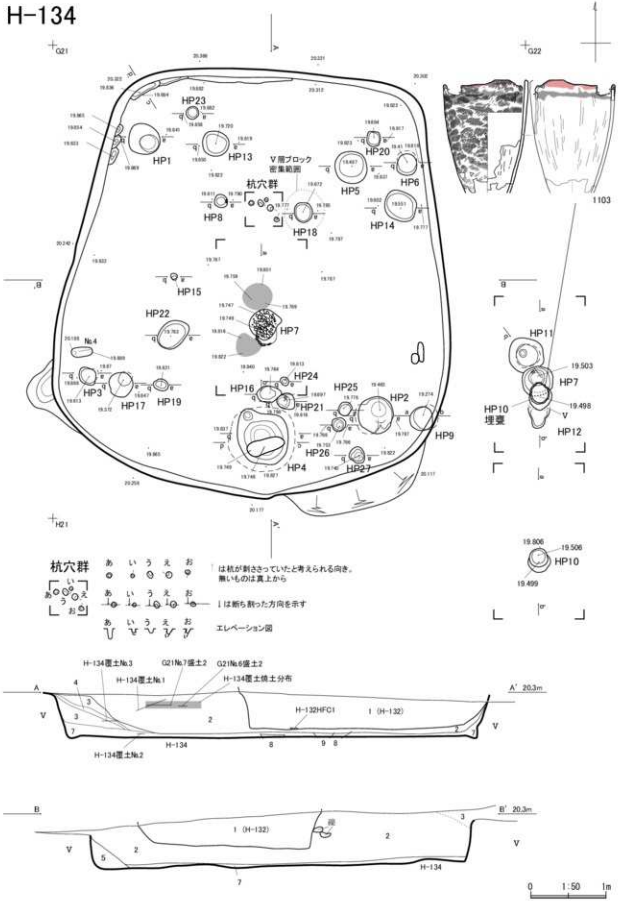
H-133 A-A'、B-B'

No.	土色			堅緻度		備考
1	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	しまりなし	表土	
2	明黄褐色土	10YR	6/6	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層 1%以下混じる、粒径 1cm 以下の炭が 1%以下混じる	
3	暗褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層 2%混じる、粒径 1cm の炭が 1%以下混じる、粒径 1～3cm の小石が 2%混じる	
4	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層 2%混じる、粒径 1～2cm の炭が 5%混じる	
5	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1～3cm のⅥ層 7%混じる、粒径 1～3cm の炭が 7%混じる	中央くぼみ
6	橙色土	5YR	7/8		粒径 1cm のⅥ層 2%混じる、粒径 1～2cm の炭が 5%混じる	よく鉄分酸化する
7	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1～3cm のⅥ層 7%混じる、粒径 1～3cm の炭が 25%混じる	
8	橙色土	5YR	6/6	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層 7%混じる、粒径 1cm の炭が 5%以下混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	
9	暗褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	焼けた小骨片や炭化物が顕著である	
10	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	いわゆるＣが粒径 1cm で 25%混じる	
11	暗褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層が 5%混じる、粒径 1cm 以下の炭が 2%混じる	
12	暗褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層 2%混じる、粒径 1cm の炭が 1%以下混じる	

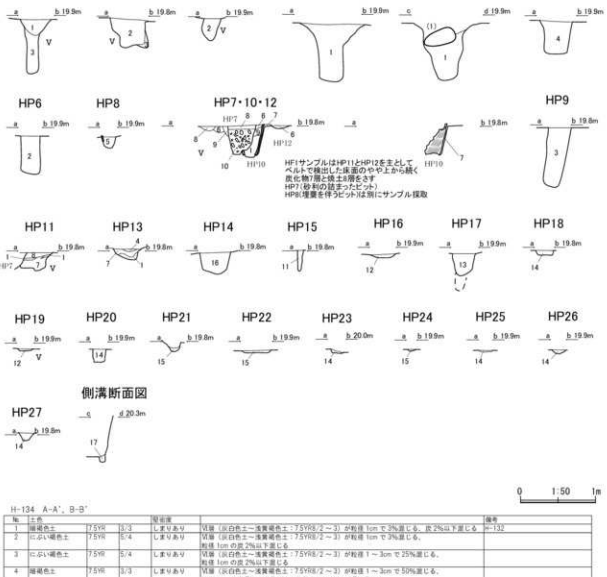
H-133 HF・HP

遺構名	No.	土色			堅緻度		備考
HF1	1	暗褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層が 5%混じる、粒径 1cm 以下の炭が 2%混じる	メインセクション図 11 層
HF1 炭層	1	暗褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径 1cm のⅥ層が 5%混じる、粒径 1cm 以下の炭が 2%混じる、焼骨片 1mm 以下で 2%混じる	
	2	橙色土	5YR	7/8	鉄分酸化	粒径 1cm のⅥ層が 2%混じる、粒径 1～2cm の炭が 5%混じる、焼骨片 1mm 以下で 2%混じる	
	3	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1～3cm のⅥ層が 7%混じる、粒径 1～3cm の炭が 25%混じる、焼骨片 1mm 以下で 2%混じる	
HF2	1	明赤褐色土	2.5YR	5/8	しまりあり		H-133 覆土の鉄分酸化する
HF3	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土　7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 1%混じる、粒径 1cm で炭が 1%混じる、焼骨片 1mm 以下で 1%混じる	
HP1	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm のⅥ層が 15%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる、粒径 5cm の礫が 5%混じる	
	2	にぶい赤褐色土	5YR	5/4	しまりあり	粒径 1～3cm のⅥ層が 5%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	
	3	にぶい赤褐色土	5YR	5/4	しまりなし	粒径 1～3cm のⅥ層が 1%混じる、粒径 1cm の炭が 3%混じる	砂壌土
	4	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりなし		Ⅵ層の流入
	5	暗赤褐色土	2.5YR	3/4	しまりなし		褐鉄鉱のかたまり
HP2～8	1	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm のⅥ層 15%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	
	2	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm のⅥ層 2%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	
	3	暗褐色土	10YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm 以下のⅥ層 1%混じる、粒径 1～2cm の礫が 2%混じる	
	4	黒褐色土	7.5YR	3/2	ややしまる	およそ粒径 1cm の炭が密に詰まる	
HP7	1	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりなし		黄積土
	2	明褐色土	7.5YR	5/8	ややしまる	粒径 1～3cm のⅥ層が 2%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	
HP9	1	褐色土	7.5YR	4/4	しまりあり	粒径 1cm のⅥ層が 5%混じる、粒径 1cm の炭が 5%混じる	
	2	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり	粒径 1cm の炭が 25%混じる	
HP10	1	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm のⅥ層が 2%混じる、粒径 1cm の炭 1%混じる	
HP11	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	Ⅵ層（灰白色土～浅黄褐色土　7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 2%混じる、粒径 1cm で炭が 2%混じる	
HP12	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm のⅥ層が 1%混じる、粒径 1cm 以下の炭が 1%混じる	
HP13	1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	粒径 1～3cm のⅥ層が 25%混じる、粒径 1～3cm の炭が 5%混じる	
	2	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりなし	粒径 1～2cm の炭 50%以上混じる	黄積土
	3	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅵ層の流入
HP14	1	暗褐色土	7.5YR	3/4	しまりあり	粒径 1cm の炭が 25%混じる、粒径 1～3cm のⅥ層が 5%混じる、粒径 5cm のⅣ・Ⅴ層が 5%混じる	
	2	褐色土	7.5YR	2/3	しまりあり	粒径 1cm の炭が 2%混じる、粒径 1～3cm のⅥ層が 7%混じる	
	3	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅵ層由来の砂質土流入
	4	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm の炭が 1%混じる、粒径 1cm のⅥ層が 25%混じる	
	5	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm の炭が 1%混じる、粒径 1cm のⅥ層が 7%混じる	
HP15	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm の炭が 1%混じる、粒径 1～3cm のⅥ層が 5%混じる	
HP16	1	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり		黄積土
	2	褐色土	7.5YR	2/3	しまりあり	粒径 1cm の炭が 2%混じる、粒径 1～3cm のⅥ層が 10%混じる、粒径 1～3cm の橙色土（2.5YR6/8）が 1%混じる	
	3	褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm の炭が 2%混じる、粒径 1～3cm のⅥ層が 50%混じる、粒径 1～3cm の橙色土（2.5YR6/8）が 1%混じる	
HP17	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭が 1%混じる、粒径 1cm 以下のⅣ・Ⅴ層が 1%混じる、粒径 1cm のⅣ層が 2%混じる	
HP18	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm の炭が 25%混じる	
HP19	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm の炭が 3%混じる、粒径 1～3cm のⅥ層が 15%混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm の炭が 1%混じる、粒径 1～3cm のⅥ層が 25%混じる	
HP20	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭が 1%混じる、粒径 1～3cm のⅥ層が 5%混じる	
HP21	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭が 1%混じる、粒径 1cm のⅥ層が 25%混じる、粒径 1～2cm の小石が 5%混じる	
HP22	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm の炭が 1%混じる、粒径 1～2cm のⅥ層が 10%混じる	
HP23	1	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりあり		Ⅵ層の流入が黄積したもの
	2	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm の炭が 1%混じる、粒径 1～2cm のⅥ層が 10%混じる	
	3	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅵ層の流入
HP24	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭が 1%混じる、粒径 1cm 以下のⅥ層が 2%混じる	
	1	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅵ層がブロック状に入る
HP25	1	黒褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径 1～3cm のⅥ層が 5%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	
	2	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm のⅥ層が 2%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる、粒径 1～2cm の亜円地山礫が 5%混じる	
	3	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1～2cm のⅥ層が 5%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	

図Ⅵ-93　H-133（３）


H-134
G21
G22
H21
HP1
HP13
HP23
HP20
HP5
HP6
HP8
HP18
HP14
HP15
HP22
HP7
HP3
HP17
HP19
HP16
HP24
HP25
HP21
HP2
HP9
HP26
HP4
HP27
V層ブロック
密集範囲
杭穴群
No.4
1103
HP11
19.503
HP7
19.498
HP10
埋甕
V
HP12
19.506
HP10
19.499
杭穴群
は杭が刺さっていたと考えられる向き。
無いものは真上から
1は断ち割った方向を示す
エレベーション図
H-134覆土No.3
G21No.7盛土2
G21No.6盛土2
H-134覆土No.1
H-134覆土焼土分布
A
A' 20.3m
H-132HFC1
1 (H-132)
H-134
H-134覆土No.2
B
B' 20.3m
1 (H-132)
縄
H-134
0 1:50 1m

図Ⅵ-94 H-134(1)



H-134　A-A', B-B'

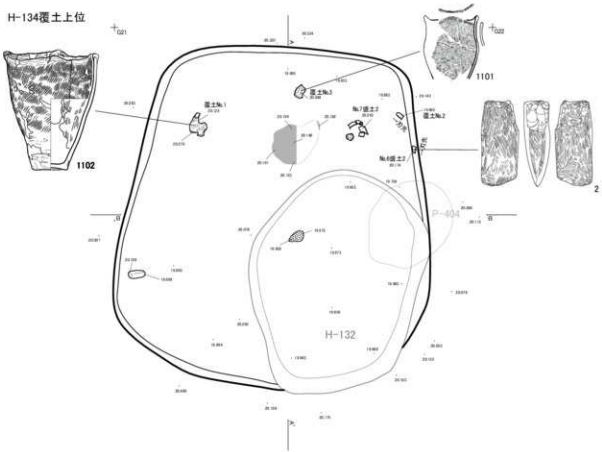
No.	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 3%混じる。炭 2%以下混じる	P-132
2	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 3%混じる。粒径 1cm の炭 2%以下混じる	
3	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 25%混じる。粒径 1cm の炭 2%以下混じる	
4	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 50%混じる。粒径 1cm の炭 5%以下混じる。粒径 1cm のわが 5%混じる	
5	褐色土	10YR	4/6	しまりあり	まじりなし VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）の色味を残りる	
6	暗褐色土	10YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭 1%混じる。粒径 1～3cm のわが 3%混じる	焼焼する
7	明黄褐色土	10YR	6/6	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 25%混じる。粒径 1～2cm の炭 2%以下混じる。明赤褐色土（5YR5/8）が粒径 1～3cm で 7%混じる	
8	明赤褐色土	2.5YR	4/6	しまりあり	1mm 以下の焼骨片を 2%含む	
9	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり		炭が前に混まる

H-134 HP

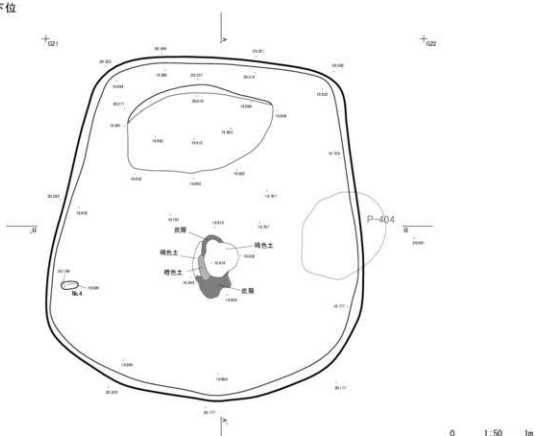
遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1～17 側溝	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 5%混じる 粒径 1cm の炭 2%混じる。焼骨片 1%混じる	
	2	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 5%混じる 粒径 1cm の炭 2%混じる。焼骨片 1%混じる。粒径 1～3cm のわが 50%混じる	
	3	暗褐色砂質	7.5YR	5/6	しまりなし		
	4	明黄褐色	10YR	6/6	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 25%混じる 粒径 1～2cm の炭 2%以下混じる	
	5	浅黄橙色土	10YR	8/3	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 50%混じる 黒褐色土（10YR2/1）粒径 1cm の炭が混じる焼骨土が入り込む	
	6	明赤褐色土	2.5YR	4/6	しまりあり	1mm 以下の焼骨片を 2%含む	
	7	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり	炭が前に混まる	
	8	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 3%混じる 粒径 1cm の炭 1%以下混じる	
	9	灰褐色土	5YR	4/2	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 1%混じる 粒径 1cm の炭 1%以下混じる	
	10	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	しまりあり	VB層（浜白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 3%混じる 粒径 1cm の炭 1%以下混じる	
	11	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりなし	VB層が粒径 1cm 以下で 15%混じる	
	12	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりなし	VB層が粒径 1cm 以下で 25%混じる。粒径 1cm の炭 2%混じる	
	13	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	VB層が粒径 1cm 以下で 50%混じる	
	14	褐色土	10YR	4/6	しまりあり	VB層が粒径 1cm 以下で 10%混じる	
	15	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり	VB層が粒径 1cm 以下で 25%混じる。粒径 1cm の炭 2%混じる	
	16	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1～3cm の VB 15%混じる。粒径 1cm の炭が 1%混じる	
	17	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1～3cm の VB 25%混じる	

図Ⅵ-95　H-134（２）

H-134覆土上位

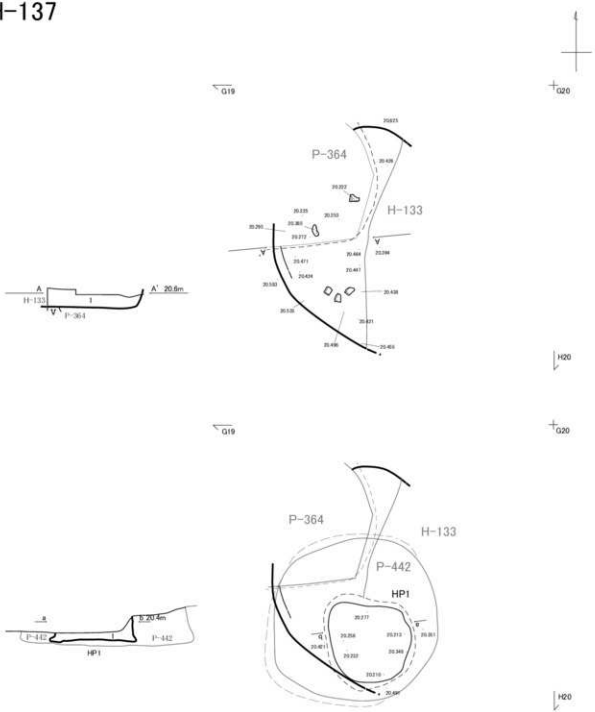


H-134覆土下位



図Ⅵ-96 H-134(3)

H-137



H-137 A-A'

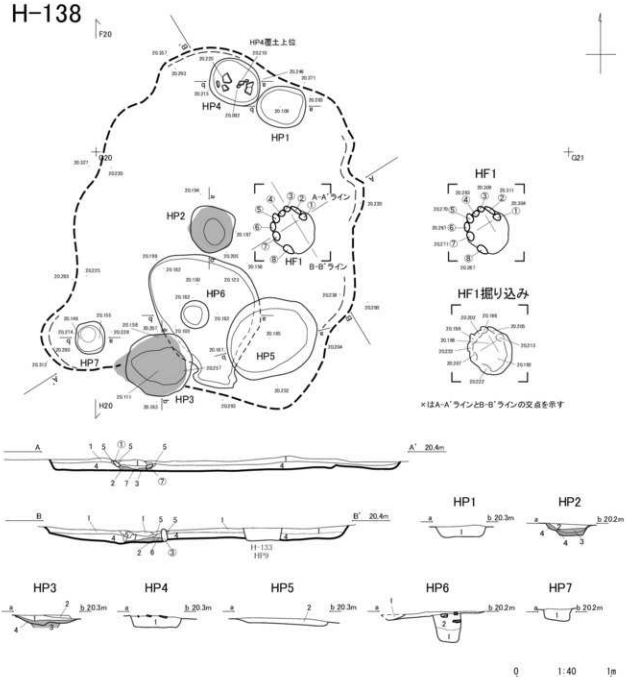
No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1cm の炭が 1%混じる	

H-137 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1	1	褐褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	およそ粒径 1～3cm の炭が 50%密に詰まる。土器片・垂角棒等が 5%混じる	

図Ⅵ-97　H-137

H-138



H-138 A-A', B-B'

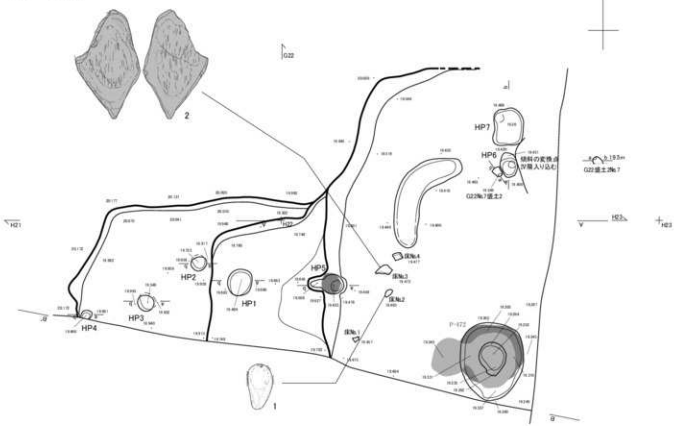
No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	粒径 1cm の皮が5%混じる。粒径 1～3cm の切層 20%混じる。粒径 1～2cm でのぶが 1%混じる	
2	橙色土	5YR	7/6	しまりあり	粒径 1～2cm で 3 層が 2%混じる	1の部分が酸化 酸化の度合いが強い
3	明赤褐色土	2.5YR	5/8	しまりあり		1の部分が酸化 酸化の度合いが1より弱い
4	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	粒径 1cm の皮が5%混じる。粒径 1～3cm の切層 20%混じる	
5	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり	焼焼土に粒径 1cm の皮が25%混じる。粒径 1～2cm でのぶが 1%混じる	
6	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	粒径 1cm の皮が5%混じる。粒径 1～3cm の切層 20%混じる	
7	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	粒径 1cm の皮が5%混じる。粒径 1cm の皮・切層が 3%混じる	

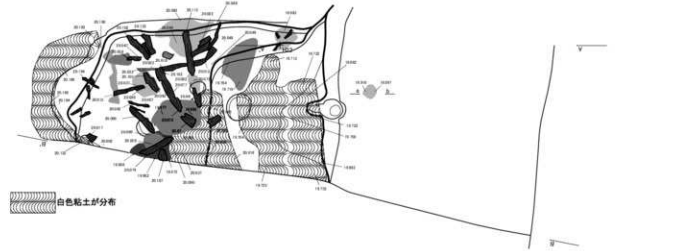
H-138 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1～4	1	にぶい褐色土	7.5YR	6/3	しまりあり	粒径 1～3cm の切層 2%混じる。粒径 1cm の皮 2%混じる。粒径 1cm の皮・V層が 1%混じる	
	2	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	しまりあり	粒径 1～3cm の切層 5%混じる。粒径 1cm の皮 1%混じる	
	3	橙色土	5YR	7/6	しまりあり	粒径 1cm 以下の焼焼 2%混じる。粒径 1cm の皮 2%混じる。粒径 1cm の皮・V層が 1%混じる	
	4	橙色土	5YR	7/6	しまりあり	粒径 1cm の皮 50%混じる	
	5	にぶい褐色土	7.5YR	6/3	しまりあり	粒径 1～3cm の切層 25%混じる。粒径 1cm の皮 2%混じる	
HP5	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm の切層 1%混じる。粒径 1cm 以下の皮が 1%混じる	
HP6	1	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm の切層 5%混じる。粒径 1cm 以下の皮が 5%混じる	
HP7	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm の切層 1%混じる。粒径 1cm 以下の皮が 1%混じる	

図Ⅵ-98 H-138

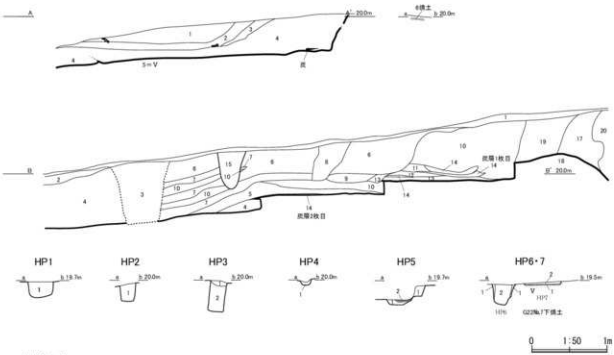
H-140





0　1:50　1m

図Ⅵ-99　H-140（１）



H-140 A-A'

No.	土色			堆積度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1～3cm の炭層 2%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	
2	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり	粒径 1～3cm の炭層 5%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	
3	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1～3cm の炭層 2%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	
4	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1～3cm の炭層 2%混じる、粒径 1cm の炭が 3%混じる	
5	黒褐色土	10YR	6/4	しまりあり	牙・炭層	
6	褐色土	5YR	6/8	しまりあり	粒径 1cm の炭層 1%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	

H-140 B-B'

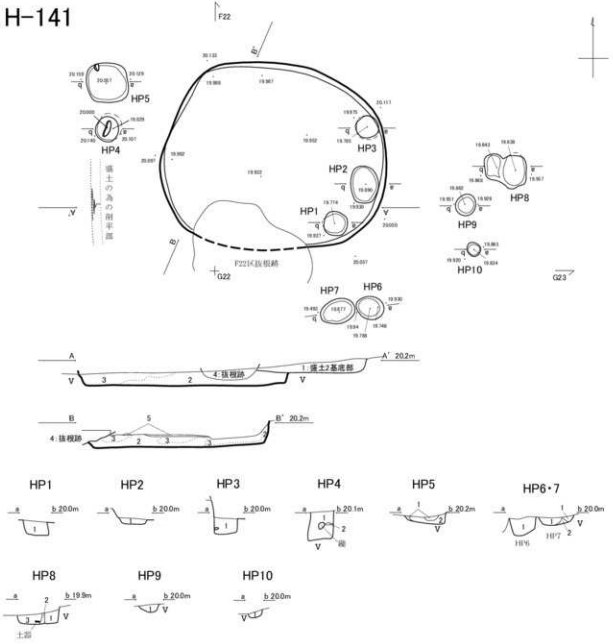
No.	土色			堆積度		備考
1	黒褐色土	10YR	4/3			
2	黒色土	10YR	2/1			強根跡
3	黒褐色土	7.5YR	2/2			強根跡
4	褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm の炭が 2%混じる、粒径 1～3cm の炭層 7%混じる	
5	褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm の炭が 5%混じる、粒径 1～3cm の炭層 7%混じる	
6	暗褐色土	7.5YR	3/4	しまりあり	粒径 1cm の炭が 10%混じる、粒径 1～3cm の炭層 5%混じる	
7	暗褐色土	7.5YR	3/4	しまりあり	粒径 1cm の炭が 10%混じる、粒径 1～3cm の炭層 5%混じる	
8	褐色土	7.5YR	2/3	しまりあり		6 が攪乱したもの
9	暗褐色土	7.5YR	3/4	しまりあり	粒径 1cm の炭が 20%混じる、粒径 1～3cm の炭層 5%混じる	
10	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1cm の炭が 1%混じる、粒径 1cm の炭層が 1%混じる、粒径 1cm の炭層が 1%混じる	
11	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1cm の炭が 5%混じる、粒径 1cm の炭層が 2%混じる、粒径 1cm の炭層が 2%混じる	
12	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1cm の炭が 2%混じる、粒径 1cm の炭層が 1%混じる、粒径 1cm の炭層が 1%混じる	
13	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		切株砂質土流入
14	黒色炭層	7.5YR	2/1		炭化物密に含まる	炭化物層
15	褐色土				1：6～10 層が 1：1：1 で混在	強根跡
16	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm の炭が 15%混じる、粒径 1～3cm の炭層 5%混じる	
17	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		切株砂質土流入
18	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		切株流入
19	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1cm の炭層が 5%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	
20	暗褐色土	7.5YR	5/3	しまりあり	粒径 1～3cm の炭層 2%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	

H-140 HP

遺構名	No.	土色			堆積度		備考
HP1・4	1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	粒径 1～3cm の炭層 5%混じる、粒径 1～3cm の炭が 7%混じる	
HP2	1	にぶい褐色土	7.5YR	6/3	しまりあり	粒径 1cm の炭層 1%混じる	
HP3	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1～3cm の炭が 25%混じる	
HP5	1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	粒径 1～3cm の炭層 5%混じる、粒径 1～3cm の炭が 7%混じる	
	2	褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭層 2%混じる、粒径 1cm の炭が 5%混じる	
	3	黒色炭層	7.5YR	2/1		炭化物密に含まる	炭化物層
HP6・7	1	赤褐色土	5YR	4/6	しまりあり		
	2	暗褐色土土	7.5YR	3/4	ややしまる	粒径 1～2cm の炭層炭 3%混じる、粒径 1cm の炭が 3%混じる	

図Ⅵ-100 H-140（2）

H-141



H-141 A-A', B-B'

No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径１～2cmの礫が5%混じる。粒径１～3cmの炭が2%混じる。粒径3cmの礫が1%混じる	
2	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径１～2cmの礫が5%混じる。粒径１～3cmの炭が2%混じる	
3	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径１～2cmの礫が25%混じる。粒径1cmの炭が1%以下混じるが目立たない	
4	黒褐～黒色土	7.5YR 10YR	3/3～ 2/1	しまりあり	版根土・旧盛土層・版根跡一のスリルみた	
5	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径１～2cmの礫が5%混じる。粒径１～3cmの炭が50%混じる。粒径3cmの礫が1%混じる	

H-141 HP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
HP1	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径１～3cmの礫25%混じる。粒径1cm以下の炭が1%以下混じる	礫層流入
HP2	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1cmの礫2%混じる。粒径1cm以下の炭が1%混じる	
HP3	1	褐褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径1cmの礫2%混じる。粒径1cm以下の炭が2%混じる	
HP4	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1cmの礫2%混じる。粒径1cm以下の炭が1%混じる	礫層流入
	2	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		
HP5	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1cm以下礫2%混じる。粒径1cm以下の炭が2%混じる。粒径１～3cmの炭焼土が3%混じる	
	2	浅黄褐～灰白色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		礫層流入
HP6	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径１～3cmの礫25%混じる。粒径1cm以下の炭が1%混じる	
HP7	1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1cmの礫5%混じる。粒径1cm以下の炭が1%混じる	
	2	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		
HP	1	灰褐色土	7.5YR	5/2	しまりあり	粒径１～3cmの礫5%混じる。粒径1cmの炭が2%混じる	
8～10	2	褐灰色土	7.5YR	5/1	しまりあり	粒径1cmの礫5%混じる。粒径１～2cmの炭が10%混じる	
	3	灰色土	2.5YR	6/2	しまりあり	礫層ブロック状に入る。粒径1cm以下の焼土・粒色土(2.5YR6/8)5%混じる	

図Ⅵ-101　H-141

4 フラスコ状土坑（図Ⅵ-102～154、表Ⅴ-２、図版 217～336）

調査区東側の範囲においてフラスコ状土坑は 85 基を検出している。基本的に壁面がオーバーハングしてフラスコ状になっているもの、もしくはそれに準じる土坑をフラスコ状土坑とした。時期は前期後半が 38 基、前期後半～中期前葉が 10 基、前期後半～中期中葉が１基、中期前葉が 30 基、中期前葉～中葉が３基、中期中葉が３基である。底面に付属遺構として中央ピットや溝などを確認しており、その有無については一覧表に記載した。中央ピットを確認したのは 31 基で、時期は前期後半が 21 基、前期後半～中期前葉が６基、中期前葉が３基、中期前葉～中葉が１基である。溝を確認したのは６基で、前期後半が４基、前期後半～中期前葉が１基、中期前葉が１基である。上部が遺跡の地形改変や竪穴住居によって削平されているものも多く、下端（底面）の長辺が２m以上のものを大型、1.5～2.0mのものを中型、1.5m未満のものを小型として区分した。大型のものが 45 基、中型のものが 31 基、小型のものが８基、不明１基である。大型のものは前期後半が 27 基で 60.0%、前期後半～中期前葉が５基で 11.1%、前期後半～中期中葉が１基で 2.2%、中期前葉が９基で 20.0%、中期前葉～中葉が２基で 4.4%、中期中葉が１基で 2.2%である。このうち 53.3%の 24 基に中央ピットが確認できる。前期後半のもので中央凹地の東側、B17 からG20 区にかけて直線状に並んでいるものがあることが確認できる。中型のものは前期後半が 10 基で 32.3%、前期後半～中期前葉が３基で 9.7%、中期前葉が 18 基で 58.1%である。中央ピットが確認できるものは前期後半が５基、前期後半～中期前葉が１基、中期前葉が１基である。小型のものは前期後半が１基で 12.5%、前期後半～中期前葉が１基で 12.5%、中期前葉が３基 37.5%、中期前葉～中葉が１基 12.5%、中期中葉が２基で 25.0%である。中央ピットが確認できるものは前期後半の１基だけである。出土遺物で特徴的なものとしては、P-111 のクジラの肋骨、P-186 の円筒土器下層ｃ式の一括土器と棍棒形石器、P-227 の円筒土器上層ｂ式の一括土器、P-231 のヒトの下顎骨、P-479 の炭化クリの多量検出、P-494 のクジラの椎骨などがあげられる。以下、遺構番号順に記載を進める。（酒井）

P-１（図Ⅵ-102、表Ⅴ-２、図版 217）

位 置 B・C17・18　　**立 地** 標高 20.7m付近

平面形 円形（大型フラスコ状）　　**規 模** 1.68/2.42×1.78/2.34×0.871m

特 徴 Cライン東西トレンチの調査中に褐色土で円形の拡がりを検出した。トレンチ北壁をセクションとして半截したところ、平坦な底面と中央ピット（ＰＰ１）、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。土層は 11 層に分けた。埋め戻し土と考えられる。底面からたたき石・剝片・礫、覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、石鏃・石錐・たたき石・扁平打製石器などの石器のほかに線刻礫、剝片・礫が出土している。

時 期 出土遺物（円筒土器下層ｄ式）から、縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-２（図Ⅵ-103、表Ⅴ-２、図版 217）

位 置 B・C17　　**立 地** 標高 20.6m付近

平面形 円形（大型フラスコ状）　　**規 模** 2.24/2.02×(2.02)/(1.76)×0.371m

特 徴 Cライン東西トレンチの調査中に北側壁面に褐色土の拡がりを検出した。トレンチ北壁をセクションとして調査したところ、平坦な底面と中央ピット（ＰＰ１）、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。南側はトレンチ調査により削平された。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。土層は４層に分けた。埋め戻し土と考えられる。

底面から礫、覆土から石鏃・凹み石・砥石、剝片・礫が出土している。
時　　期　周囲の遺構の状況から、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。　　（酒井）

P－9（図Ⅵ-103、表Ⅴ－２、図版 219）
位　置　E21・22　　立　地　標高約 20.40mの平坦面でH-21 の床面
平面形　いびつな円形（大型フラスコ状）　　規　模　1.68/2.14×1.28/2.32×0.76m
特　　徴　平成 30 年のトレンチ調査の際、土坑として認識した。一部掘り下げられており令和元年に残存部を調査した。掘り下げていくとおおよそ平坦な底面を検出した。壁は底面から若干拡がりながら立ち上がるが 15 cmほどで内側に向かってせり出し始める。底面から 30 cmほどの高さで、壁面は筒状に真っ直ぐ立ち上がっていたと考えるが、一部は崩落し、開口部が拡がっている。底面のおおよそ中央に円形の小土坑が付属遺構としてある。覆土上半はⅥ層の崩落で覆土５層が壁際に堆積し、同様に崩落したものが流入したと思われる覆土１層の直下には炭化物層である覆土２層と炭化物を多く含むⅥ層が流入した覆土４層が堆積する。覆土下半はやはりⅥ層主体の覆土３層が分布する。覆土４層ほどではないが炭化物を含む。覆土２層と覆土４層は埋没途中の廃棄という可能性がある。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、石錐・スクレイパー・たたき石・石鋸などの石器が出土している。
時　　期　検出・堆積状況からH-21 より古い縄文時代中期後半より古いと考えられ、出土遺物から前期後半と考えられる。　　（大泰司）

P－15（図Ⅵ-104、表Ⅴ－２、図版 221）
位　置　B17　　立　地　標高 20.7m付近
平面形　円形（大型フラスコ状）　　規　模　2.30/2.62×2.26/2.64×0.589m
特　　徴　B17 区の調査中に褐色土の円形の拡がりを検出した。トレンチを入れたのち半截して調査を進めたところ、平坦な底面に中央ピット（ＰＰ１）と十字状の溝跡、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。溝は幅５～20 cm、深さ２～４cmである。上面を遺跡の地形改変時に削平したと考えらえる。東側の一部がP-22 と切り合っている。溝の東端が他の場所と比べて浅くなっている状況から、P-22 に切られていると考えられる。底面から炭化物を２か所検出している。土層は 12 層に分けた。埋め戻し土と考えられる。底面から土器（円筒土器下層ｃ式）、扁平打製石器・たたき石・剝片・礫、覆土から土器（円筒土器下層ｃ式）、石鏃・スクレイパー・石斧・たたき石などの石器、剝片・礫が出土している。
時　　期　出土遺物（円筒土器下層ｃ式）から、縄文時代前期後半と考えられる。　　（酒井）

P－16（図Ⅵ-105、表Ⅴ－２、図版 221）
位　置　C17・18　　立　地　標高 20.6m付近
平面形　円形（大型フラスコ状）　　規　模　2.52/2.24×2.44/2.26×0.349m
特　　徴　C17・18 区の調査中に褐色土の円形の拡がりを検出した。半截して調査を進めたところ、平坦な底面に中央ピット（ＰＰ１）とＰＰ１から南に伸びる直線状の溝跡を検出したことから、フラスコ状土坑であると考えられる。溝は幅 10～16 cm、深さ３～５cmである。上面は遺跡の地形改変時に削平され、底部付近のみ残存したと考えらえる。土層は２層に分けた。埋め戻し土と考えられる。覆土から石槍・剝片・礫が出土している。
時　　期　周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。　　（酒井）

P-22（図Ⅵ-106、表Ⅴ-２、図版 222）

位　置　B17　　立　地　標高 20.7m付近

平面形　円形（中型フラスコ状）　　規　模　(1.30)/(1.70)×(1.20)/(1.06)×0.592m

特　　徴　P-15 の調査中に底面で切り合っている遺構を確認した。南北にセクションを設定し半截したところ、オーバーハングする壁面の立ち上がりや中央ピット（ＰＰ１）を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。北側の一部は調査範囲外である。底面はほぼ円形で中央ピット（ＰＰ１）を底面中央で検出している。上面はH-42 に削平されている。土層は 24 層に分けた。覆土１～15 層は流れ込み土、覆土 16～22 層は壁面崩落土、覆土 23・24 層はＰＰ１の覆土である。覆土から土器（円筒土器下層ｃ式）、たたき石・扁平打製石器・石鋸などの石器が出土している。

時　　期　H-42 に切られていることや出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-24（図Ⅵ-107、表Ⅴ-２、図版 222）

位　置　B18　　立　地　標高 20.8m付近

平面形　円形（大型フラスコ状）　　規　模　1.72/2.26×(1.52)/2.24×1.236m

特　　徴　B18 区の調査中にH-54 に切られる褐色土の円形の拡がりを検出した。半截して調査を進めたところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上面は盛土遺構に切られており、遺跡の地形改変時に削平されたと考えらえる。土層は 21 層に分けた。埋め戻し土と考えられる。底面からすり石・北海道式石冠・礫、覆土から土器（円筒土器上層ｂ式）、石槍・スクレイパー・たたき石などの石器のほか、側縁有溝石器や石刀の破片、剝片・礫が出土している。

時　　期　周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代中期前葉と考えられる。（酒井）

P-25（図Ⅵ-108・109、表Ⅴ-２、図版 223）

位　置　D18　　立　地　標高 20.6m付近

平面形　円形（大型フラスコ状）　　規　模　2.80/2.80×2.64/2.80×0.891m

特　　徴　B18 区の調査中にH-６に切られる褐色土の円形の拡がりを検出した。H-６の調査終了後に半截して調査を進めたところ、平坦な底面と中央ピット（ＰＰ１）、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。上面はH-６および遺跡の地形改変時に削平されたと考えらえる。土層は 42 層に分けた。覆土 14・32・37・39 層は壁面崩落土、そのほかは埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、つまみ付ナイフ・スクレイパー・たたき石などの石器、剝片・礫が出土している。

時　　期　周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。（酒井）

P-40（図Ⅵ-109、表Ⅴ-２、図版 226）

位　置　D21　　立　地　標高 21.4mの平坦地

平面形　円形（大型フラスコ状）　　規　模　1.86/2.03×1.72/1.85×0.92m

特　　徴　H-21 を掘削中、住居址北西角の壁面に現れたフラスコ状土坑。断面は最も残りの良い住居址壁面の頂点をつないで設定、このフラスコ状土坑と煉瓦台式の住居址はほぼ同じ面から掘り込まれている。覆土中位にローム質のⅣ・Ⅴ層の混土が堆積し、その層中に炭化物を多く含む黒色土層が数枚重なって挟まる。出土遺物はこの炭層の上下を中心に出土し、上層には円筒土器上層期の遺

物が混じる。その下位には炭化物などが混じる濁った土層が堆積し、石刀の柄、北海道式石冠、たたき石、礫に混じり円筒土器下層期の遺物が出土している。

時　　期　覆土下位から出土した土器から縄文時代前期後葉の円筒土器下層c式期とみられる。（土肥）

P-109（図Ⅵ-110、表Ⅴ-２、図版 240）

位　置　C・D20　　**立　地**　平坦面で標高約 20.00m、H-47 の床面

平面形　いびつな円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　2.08/2.10×2.00/1.94×0.86m

特　　徴　H-47 調査終了後、床面を精査していたところ、褐色土の拡がりを検出した。H-47 のトレンチがすでに掘りこまれていたので、トレンチ北側を掘り下げ、比較的残りの良かったトレンチ南側の拡がりの東半分を掘り下げた。平坦な底面と、そこから連続してまっすぐにあるいは若干すぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。残存する底面には二か所の浅いいびつな円形をした窪みがある。便宜上、P-109 の付属遺構ＰＰ１、ＰＰ２とした。覆土はP-109 に連続する。覆土１層は周囲のⅥ層がブロック状に混在したものである。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　検出状況からH-47 よりは古く、出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

（大泰司）

P-111（図Ⅵ-110・111、表Ⅴ-２、図版 242）

位　置　D21　　**立　地**　標高 20.9m前後の平坦地

平面形　円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　2.90/2.60×2.48/2.30×1.04m

特　　徴　2017 年 11 月、H-14 掘削中に住居址西側壁面から検出した。調査は翌年に実施した。住居址の壁面に直角方向に断面を設定し掘削した。本来はH-14 より高いレベルから掘られた土坑とみられる。覆土はⅣ・Ⅴ層主体のにぶい褐色のローム質土層と、灰白色のⅥ層主体の土層の互層で埋まり、遺物は主にローム質土層中に挟まる炭化物層から出土した。坑底面中央付近からは長さ 70 ㎝ほどの大型のクジラ類の肋骨が出土した。その西側からは炭化材も検出した。坑底面東側では横倒しの状態で円筒土器上層ａ式の土器 1289 が、北側では円礫が集まって検出され、その中に扁平打製石器やたたき石、台石が混じっていた。坑底面から出土した土器の底側はH-14 のＨＰ４に掘り返され失われている。クジラの肋骨も風化のため芯は空洞になり、形状を保てたのは３分の１ほどだった。

時　　期　出土した土器から縄文時代中期前葉の円筒土器上層ａ式期とみられる。　　（土肥）

P-117（図Ⅵ-111、表Ⅴ-２、図版 242）

位　置　E18　　**立　地**　標高 20.9m前後の平坦地

平面形　円形（小型フラスコ状）　　**規　模**　1.10/0.56×(0.92)/0.44×0.583m

特　　徴　Ｅライン東西トレンチ調査で土坑とみられる褐色土の拡がりを確認した。Ｅライン東西メインセクションで半截して断面を確認したところ、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。西側は風倒木による攪乱で壊され、上面は遺跡の地形改変の際に削平されていると考えられる。P-130 を切り、P-116 に切られている。覆土は７層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器上層式）、石鏃・剝片・礫が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代中期前葉と考えられる。　　（酒井）

P-119（図Ⅵ-111・112、表Ⅴ-2、図版243）

位　置　E17　　立　地　標高20.3m付近

平面形　円形（大型フラスコ状）　　規　模　2.32/2.44×1.96/2.42×1.195m

特　　徴　Eライン東西トレンチ調査で土坑とみられる褐色土の拡がりを確認した。Eライン東西メインセクションで半截して断面を確認したところ、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。覆土中央部は木根によって攪乱され、上面は遺跡の地形改変の際に削平されていると考えられる。覆土は15層に分層した。覆土1～9層は流れ込み土、覆土10～13層は埋め戻し土、覆土14・15層は壁面崩落土と考えられる。遺物は覆土10～14層から多く出土している。底面から礫、覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、石鏃やスクレイパー、たたき石や北海道式石冠などの石器、剝片・礫が出土している。

時　　期　出土遺物から、縄文時代中期中葉と考えられる。　（酒井）

P-124（図Ⅵ-112、表Ⅴ-2、図版244）

位　置　B19　　立　地　標高20.7m付近

平面形　円形（中型フラスコ状）　　規　模　1.68/1.62×1.64/1.58×0.544m

特　　徴　B19区を調査中にH-51・52・53・P-39・108・126・135に切られた円形の褐色土の拡がりを検出した。半截して調査を進めたところ、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。覆土は5層に分層した。自然堆積と考えられる。上部は遺跡の地形改変時やH-51・52・53に削平されたのち、P-39などに切られている。覆土中から土器（円筒土器下層式）、石錐・スクレイパーが出土している。

時　　期　他遺構との切り合いや出土遺物から縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。

（酒井）

P-126（図Ⅵ-112、表Ⅴ-2、図版245）

位　置　B19　　立　地　標高20.7m付近

平面形　円形（小型フラスコ状？）　　規　模　1.42/1.32×1.40/1.34×0.249m

特　　徴　H-51の床面から円形で褐色土の拡がりを検出した。半截して調査を進めたところ、壁面を検出したことから土坑であることを確認した。周囲の遺構の状況からフラスコ状土坑である可能性がある。覆土は5層に分層した。自然堆積と考えられる。上部はH-51によって削平されている。底面から礫、覆土中から土器（サイベ沢Ⅶ式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いや出土遺物から縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。　（酒井）

P-130（図Ⅵ-113・114、表Ⅴ-2、図版245）

位　置　E18　　立　地　標高20.7m付近

平面形　円形（大型フラスコ状）　　規　模　—/2.44×(1.70)/2.42×1.518m

特　　徴　E18区を調査中にP-116・117・155とこれらが切る円形で褐色土の拡がりを検出した。P-116・117・155の調査終了後に半截して断面を確認したところ、平坦な底面と中央ピット（PP1）、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。完掘に向けて調査を進めると、覆土7層から土器底部を含む土器片や石鏃4点・スクレイパー1点などの石器が多く出土した。底面直上の覆土12層からは炭化物が集中して検出された。覆土12層から底面にかけて土器（円筒土器上層式）・石鏃1点・扁平打製石器1点・たたき石6点・凹み石2点などが出土

している。覆土は13層に分層した。埋め戻し土と考えられる。炭化物を含む土層が多く、特に覆土10・12層は多く含む。底面からたたき石・凹み石・扁平打製石器・剝片・礫など、覆土から石鏃・スクレイパー・たたき石などの石器や剝片・礫のほか、異形石器や線刻礫が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。

（酒井）

P-131（図Ⅵ-115、表Ⅴ-２、図版247）

位　置　E17　　**立　地**　標高20.3m付近

平面形　円形（中型フラスコ状？）　　**規　模**　1.76/1.68×1.72/1.660×095m

特　　徴　E17区を調査中に円形で褐色土の拡がりを検出した。半截して断面を確認したところ、平坦な底面と壁面を検出したことから土坑状の遺構であることを確認した。周囲の遺構や規模から考えて、フラスコ状土坑である可能性が考えられる。覆土は１層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から剝片・礫が出土している。

時　　期　周囲の遺構から、縄文時代中期前葉と考えられる。　（酒井）

P-148（図Ⅵ-115、表Ⅴ-２、図版250）

位　置　B・C19　　**立　地**　標高20．6m付近

平面形　円形（小型フラスコ状？）　　**規　模**　(1.40)/(1.26)×(0.52)/(0.48)×0.169m

特　　徴　C19区を調査中にH-6・7・P-124に切られた半円形の褐色土の拡がりを検出した。調査を進めたところ、壁面を検出したことから土坑であることを確認した。周囲の遺構の状況からフラスコ状土坑である可能性がある。覆土は3層に分層した。自然堆積と考えられる。南西部はH-6、上部はH-7によって削平されている。覆土中から土器（円筒土器下層d式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いなどから縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。　（酒井）

P-160（図Ⅵ-116、表Ⅴ-２、図版252）

位　置　E18・19　　**立　地**　標高20.6m付近

平面形　円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　1.62/1.46×1.40/1.44×0.638m

特　　徴　E18区を調査中に円形で褐色土の拡がりを検出した。半截して断面を確認したところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土坑であることを確認した。上部は遺跡の地形改変時に削平されていると考えられる。覆土は16層に分層した。１～14層は埋め戻し土、15・16層は壁面崩落土と考えられる。４層と５層の層界から頁岩製の剝片133点が出土した剝片集中と石槍２点・たたき石１点などを含む遺物を検出した。石槍とたたき石が並んで出土したことから、意図的に入れられたものと考えられる。覆土からはこれらのほかに土器（円筒土器下層ｄ式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　出土遺物（円筒土器下層ｄ式）から、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。

（酒井）

P-161（図Ⅵ-117、表Ⅴ-２、図版252）

位　置　D・E18　　**立　地**　標高20.5m付近

平面形　円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　2.44/(2.76)×2.32/2.48×0.647m

特　　徴　D・E18区を調査中に円形で褐色土の拡がりを検出した。半截して断面を確認したところ、平坦な底面と中央ピット（ＰＰ１）、オーバーハングする壁面を検出したことからフラスコ状土

坑であることを確認した。北東側はP-217 に切られている。上部は遺跡の地形改変時に削平されていると考えられる。覆土は 11 層に分層した。埋め戻し土と考えられる。底面から土器（円筒土器下層ｃ式）や石斧・たたき石・礫、覆土からは土器（円筒土器下層ｃ式）、石鏃・スクレイパー・たたき石などの遺物が出土している。

時　　期　出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。　（酒井）

P-167（図Ⅵ-118、表Ⅴ-２、図版 253）

位　置　E17・18　　**立　地**　標高 20.5m付近

平面形　円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　(2.04)/2.36×2.36/2.28×0.372m

特　　徴　E17・18 区を調査中に円形で褐色土の拡がりを検出した。半截して断面を確認したところ、平坦な底面と中央ピット（ＰＰ１）、壁面を検出したことから土坑状の遺構であることを確認した。規模から考えると、フラスコ状土坑である可能性がある。北東側と西側の一部は攪乱によって壊されている。上部は遺跡の地形改変時に削平されていると考えられる。覆土は１層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土からは土器（円筒土器下層式）、剝片・礫のほか、線刻礫が出土している。

時　　期　周囲の遺構の状況や出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。　（酒井）

P-171（図Ⅵ-118、表Ⅴ-２、図版 254）

位　置　C20・21　　**立　地**　標高約 20.30mのH-36 床面

平面形　亜円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　1.90/1.60×2.08/2.12×0.82m

特　　徴　H-36 床面のⅥ層を清掃すると灰黄褐色～浅黄橙色のⅤ層起源の土層の拡がりを検出した。調査は南側半分の掘削から着手。覆土からは礫や円筒土器上層期の土器片が 100 点ほど出土した。坑底面は平坦で、外側は徐々にせり上がり、壁面では 20 cmほど高まる。覆土上位にはH-36 炉跡の炭化物層の落ち込みが重なり、覆土１・４層はⅤ層由来の土層、覆土２層は壁面Ⅵ層の崩落土でブロック状に堆積するⅥ層の隙間にⅤ層土が挟まる。覆土下位はⅤ層由来の堆積層間に炭化物層や焼土層が筋状に数条挟まる堆積である。坑底中央付近の焼土中には焼骨が混じり、サバ科の椎骨を数点検出している。

時　　期　坑底面出土の土器片から円筒土器上層ｂ式期とみられる。　（土肥）

P-172（図Ⅵ-119、表Ⅴ-２、図版 254）

位　置　B20　　**立　地**　標高 20.4m前後のH-36 床面

平面形　円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　(1.68)/(1.92)×1.60/1.74×0.44m

特　　徴　H-36 を掘削中に検出したフラスコ状土坑。覆土上部にはローム質のⅣ・Ⅴ層がブロック状に混入し、その下には汚れたⅣ・Ⅴ層の混土層にブロック状の焼土が混じる層が堆積する。覆土下位には炭化物を多く含む汚れたⅣ・Ⅴ層の混土層が堆積し、遺物は主にこの層中から検出している。検出した土器は円筒土器上層ａ式で、大型の石槍も検出している。

時　　期　出土した土器から縄文時代中期前葉の円筒土器上層ａ式期とみられる。　（土肥）

P-174（図Ⅵ-119、表Ⅴ-２、図版 255）

位　置　B20　　**立　地**　標高 20.6m前後のH-84 床面

平面形　円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　1.88/1.95×(1.00)/(1.12)×0.64m

特　　徴　H-36・84 下のP-177 の調査後に検出したフラスコ状土坑。覆土上部にはローム質のⅣ・Ⅴ層がブロック状に堆積し、覆土中位は炭化物が混じるⅣ・Ⅴ層の混土層である。覆土下位には炭化物を含む汚れたⅣ・Ⅴ層の混土層が堆積し、この層中から円筒土器下層ｄ式の口縁部片を検出している。

時　　期　出土した土器から縄文時代前期後葉の円筒土器下層ｄ式期とみられる。　（土肥）

P-186（図Ⅵ-120、表Ⅴ-２、図版 257）

位　置　E・F18・19　　**立　地**　標高約 20.70mの平坦面。盛土１層より下位。

平面形　円形に近い（フラスコ状土坑）　　**規　模**　2.78/2.78×2.50/2.50×0.64m

特　　徴　H-15 調査終了後、灰白色土～明褐色土のⅥ層と一部Ⅳ・Ⅴ層にやや黄褐色味の強い明褐色土の拡がりが三か所切り合っている状況を検出した。そのうち一番新しいと思われるトレンチにかかっている土坑を最初に調査した。トレンチにかかっている部分について床面まで掘り下げ、土層断面をトレンチ壁面に現れているものを図化した。灰白色土～明褐色土のⅥ層と一部Ⅳ・Ⅴ層の下には灰白色土Ⅳ・Ⅴ層が連続している。覆土１層には腐植土とⅥ層がブロック状に入り込む。炭混じりの薄層（覆土５層）と焼土が混在した覆土３層からは円筒土器下層ｃ式を中心としたまとまった遺物の廃棄があった。ここからは棍棒形石器とみられるものが出土している。その下位から底面にかけて覆土４層が入り込むが覆土１層と同じものである。円形に近い隅丸方形の付属土坑が中央にある。P-218 やP-220 より新しい。底面からつまみ付ナイフ、覆土から土器（円筒土器下層ｃ式）、スクレイパー・たたき石などの石器、棍棒形石器が出土している。

時　　期　土器（円筒土器下層ｃ式）がまとまって拡がっていたので、縄文時代前期後半か直前と考える。　（大泰司）

P-192（図Ⅵ-121、表Ⅴ-２）

位　置　C21　　**立　地**　標高 20.5m前後の平坦地

平面形　亜円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　1.80/1.80×1.58/1.84×1.52m

特　　徴　2017 年 11 月、H-20 の南端から検出したフラスコ状土坑。調査は 2018 年８月上旬から実施。覆土上位は全般に混じりのないⅣ・Ⅴ層がブロック状に堆積する間に崩れたⅥ層がブロック状に混じって堆積する。覆土下位にはややよごれたⅣ・Ⅴ・Ⅵ層の混土層が堆積する。覆土からは円筒土器上層ａ式の破片が出土している。

時　　期　出土した土器から縄文時代中期前葉の円筒土器上層ａ式期とみられる。　（土肥）

P-196（図Ⅵ-121、表Ⅴ-２）

位　置　D19・E19・20　　**立　地**　標高約 20.40mの平坦面。H-15・63 より下位。

平面形　不整な楕円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　1.92/2.25×1.54/1.93×0.94m

特　　徴　灰白色土～浅黄褐色土をしたⅥ層に黄褐色～褐色土が拡がっていた。拡がりの長軸南側を掘り下げた。明瞭な底面と、そこから連続する壁面を確認した。西側は別な遺構を掘りこんでいた。P-204 より新しい。覆土８層は水性堆積を思わせる薄層から構成される。覆土上半分を構成する覆土１～５層については、Ⅵ層がブロック状に混在する。覆土２・３層は炭混じりで、覆土５層は水性

堆積を思わせる。覆土７層は木の根の痕である。底面は中央がやや窪むがおおよそ平坦である。壁面は開きながら立ち上がり次第にすぼまり始める。 覆土から土器（円筒土器下層ｃ式）、石鏃・スクレイパー・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　検出状況からH-15よりは古く、出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

（大泰司）

P-198（図Ⅵ-122、表Ⅴ-２）

位　置　F19　　**立　地**　標高約20.30mの平坦面。H-63の床面。

平面形　いびつな円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　1.68/1.72×1.44/1.80×0.72m

特　　徴　H-63の調査終了後、明黄褐色土のⅥ層に橙色土が拡がっていた。北西側を掘り下げたところ、おおよそ平らな底面を検出した。壁面は締まりのある部分を追っていくとほぼ真っ直ぐ、あるいは20㎝ほど上がったところからすぼまる。P-211より新しい。覆土１・６層はⅥ層由来の土である。覆土６層が明るい色調である。覆土２・３層は炭混じりで、覆土２層は礫が目立つ。覆土５層は鉄分が酸化しており、焼土の様相を呈する。覆土４層はH-63のＨＦ１の付属土坑で粘土を貼って壁が作られていたその土層である。焼成とⅥ層の崩落の繰り返しと考える。最上部の覆土１層はⅥ層とは発色が異なるⅥ層の土によって埋めている可能性がある。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、スクレイパー・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　円筒土器下層ｃ式期の土坑であるP-222を再利用し、廃棄が行われたと考える。周辺の状況をみると円筒土器上層ａ式の頃が多い。H-63が中期前葉頃の住居であることや出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

（大泰司）

P-199（図Ⅵ-122、表Ⅴ-２）

位　置　C・D20　　**立　地**　標高約19.74mの平坦面。H-47床面。

平面形　いびつな円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　1.64/1.64×1.52/1.56×(0.30)m

特　　徴　H-47調査終了後、床面を精査していたところ、褐色～黄褐色土の拡がりを検出した。西側の拡がりの東側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから連続して拡がりながら立ち上がる壁面も確認した。残存する壁面はまっすぐな立ち上がりである。P-193・P-199よりは古い。覆土１層はⅥ層由来土である。覆土２・３層も同様だが、周囲のⅥ層が混在する。覆土４層は腐植土層である。覆土１・２・４層は炭が混在する。覆土から土器（円筒土器上層式）、石鏃・スクレイパー・剝片・礫が出土している。

時　　期　検出状況からH-47よりは古く、周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。

（大泰司）

P-200（図Ⅵ-123、表Ⅴ-２）

位　置　E19・20　　**立　地**　標高約20.50mの平坦面。盛土１層より下位。

平面形　いびつな円形？（中型フラスコ状）　　**規　模**　1.28/1.24×1.90/1.82×(0.24)m

特　　徴　H-15の調査終了後P-178・236を検出し調査を行った。終了後、周囲を精査するとトレンチを含めて、明褐色土の拡がりを灰白色土のⅥ層で検出した。トレンチ脇、H-15直下、土層の残りの良い部分に土層観察用の土手を設定し、掘り下げた。明瞭な底面とそこから立ち上がる壁面を確認した。底面中央にはいびつな円形をした付属土坑があり、円筒土器下層ｄ式の底部側の胴部が潰れていた。その周辺には炭化物が分布しておりやや上位には焼土も拡がっていた。覆土１・３層は周囲のⅥ層がブロック状に拡がっており、覆土２層は水の作用かⅥ層の流入である。底面側の覆土３層

には炭化物が含まれている。ＰＰ１の覆土は焼土が主体である。底面や覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　いびつな円形をして、中央に円形小土坑を持つ事から、もともとフラスコ状土坑であったと考える。この遺構についても土器（円筒土器下層ｄ式）が底面より出土しており、焼かれていることから縄文時代前期後半のものと考えるが、構築時期がより古くなる可能性もある。　（大泰司）

P-204（図Ⅵ-123、表Ⅴ-２、図版 258）

位　置　Ｄ・Ｅ19　　**立　地**　標高約 20.40ｍの平坦面。H-15・63 より下位。

平面形　不整な楕円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　0.52/0.92×1.16/1.80×(0.68)ｍ

特　　徴　Ｐ-196 を調査中、その西側に検出した。明瞭な底面とそこに連続する壁面が検出できたため遺構とした。Ｐ-196 と土層断面が連続するように南側を掘り下げ、実際の底面とそこから拡がりながら立ち上がり、10cm ほどのところからすぼまる壁面を確認した。Ｐ-196 より古い。覆土上半の覆土１～４層はⅥ層主体の土層であり、ところどころ炭を多く含む覆土２層が薄層で入り込む。覆土５層はⅥ層の水による流入である。覆土６層はⅥ層がやや腐植し、炭混じりの土層である。覆土から土器（円筒土器上層式）、石鏃・スクレイパー・扁平打製石器などの石器が出土している。

時　　期　検出状況からH-15 より古く、周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。

（大泰司）

P-209（図Ⅵ-124、表Ⅴ-２、図版 259）

位　置　Ｂ・Ｃ21　　**立　地**　標高 20.5ｍ前後のH-20 床面

平面形　円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　2.64/2.40×2.50/2.36×0.40ｍ

特　　徴　2017 年 11 月、H-20 の床面から検出した。調査は 2018 年実施した。覆土は濁ったⅣ・Ⅴ層の混土層が主体で、層の境には炭化物層が挟まる。坑底面中央に 1.25×1.00ｍの亜円形の窪みがあり、覆土はその窪みに入る層の盛り上る堆積の影響を受けている。断面にはH-20 の柱穴が重なる。覆土下位から円筒土器下層ｄ式の破片のほか扁平打製石器やたたき石が出土している。

時　　期　出土した土器から縄文時代前期後葉の円筒土器下層ｄ式期のフラスコ状土坑とみられる。

（土肥）

P-210（図Ⅵ-125、表Ⅴ-２、図版 260）

位　置　Ｅ19　　**立　地**　標高約 20.60ｍの平坦面

平面形　いびつな楕円形（小型フラスコ状）　　**規　模**　1.15/1.49×1.08/1.12×0.50ｍ

特　　徴　H-15 の調査終了後、床面から壁際にかけて精査していたところ、明褐色土の拡がりを検出した。南側を掘り下げた。下の遺構 P-213 の覆土に設定を迷わされ、半分以上を掘り下げる結果となった。中央が若干盛り上がるが、おおよそ平坦な底面と、そこから連続して続く壁面を確認した。開きながら立ち上がり、途中からすぼまり始める。 H-15 よりは古い。覆土１層はⅥ層由来土と考える。間にブロック状に崩落したⅥ層や流水を思わせるⅥ層の薄層である覆土３層も入り込む。覆土２層は覆土１層に類するが、やや腐植しておりそこに炭が混在する。底面から壁際にかけてⅥ層の崩落である覆土５層が連続し、覆土２層はその上に分布する。また覆土２層の上面で、底面と平行する部分には焼土である覆土４層が拡がっている。これらの土層堆積から連続する焼成を伴う廃棄が結果として埋め戻しとなった可能性がある。覆土から土器（円筒土器下層式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　検出状況からH-15 より古く、出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

（大泰司）

P-211（図Ⅵ-125、表Ⅴ-２、図版 260）

位　置　F19　　立　地　標高約 20.30mの平坦面。H-63 の床面。

平面形　いびつな円形（中型フラスコ状）　　規　模　1.72/1.88×1.56/1.76×0.66m

特　　徴　H-63 の調査終了後、P-198 を検出し、調査をした。壁面については締まった面で一旦止めた。調査中壁面から円筒土器下層ｃ式の破片を検出した。掘り足りなかったものと考えたが、一応土層確認用の土手を残して拡張した。すると、土層の堆積がP-198 壁面で分断されている事が明らかとなったことからP-198 より古いことが判明した。そこで前期の土器がまとまって入っている側をP-211 とした。P-198 を記録後、P-211 の土層を記録し、完掘した。H-63 のＨＦ１がなければ、西側にも再度掘り込みの痕跡があったかもしれない。覆土１・６層はⅥ層由来と思われる。H-63 北壁のⅥ層と発色は似る。ブロック状の崩落は覆土１層と水による流入と思われる覆土６層である。覆土３層は混じりのないⅥ層由来土が腐植したものである。覆土４層は水平に堆積した礫混じり層である。覆土５層は覆土３層と同じ土層である。覆土３～５層がP-198 の堆積と対応しない。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、スクレイパー・たたき石などの石器、つまみ付ナイフのミニチュアが出土している。

時　　期　出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。　　（大泰司）

P-213（図Ⅵ-126、表Ⅴ-２、図版 260）

位　置　E19　　立　地　標高約 20.60mの平坦面

平面形　いびつな円形（中型フラスコ状）　　規　模　1.56/1.92×1.42/1.66×0.94m

特　　徴　P-210 の調査終了後、下に褐色土の拡がりを検出した。H-15 よりは古い。南側を掘り下げた。中央が若干盛り上がるが、おおよそ平坦な底面と、そこから連続して続く壁面を確認した。途中まで開きながら立ち上がり、そこからすぼまっていく。覆土上位の覆土１層はⅥ層由来土、覆土２層は覆土１層に類する土層に炭が混在する。上位の覆土４層は炭層が薄層で複数入り込む。覆土中位は覆土３層が主体で、覆土３層どうしの境目には覆土１層が薄く拡がっている。Ⅵ層ブロックから構成され、覆土２層中のⅥ層ブロックが増えた印象である。覆土下位は覆土４層が主体であり、やはり炭の薄層が入り込む。覆土４層下位からは土器（円筒土器上層ａ式）など遺物がある程度まとまって出土している。覆土からは石錐・スクレイパー・たたき石・石錘などの石器が出土している。

時　　期　検出状況からH-15、P-210 より古く、出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。
（大泰司）

P-217（図Ⅵ-126、表Ⅴ-２、図版 261）

位　置　D18・19・E18　　立　地　標高 20.0m付近のH-６床面

平面形　円形（大型フラスコ状）　　規　模　2.58/2.64×2.46/2.60×1.039m

特　　徴　H-６の調査中に床面から円形の褐色土の拡がり検出した。半截して調査を進めたところ、平坦な底面と中央ピット（ＰＰ１）、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。H-６に上部のほとんどの部分を削平されている。P-160・161 を切って構築されている。覆土は 17 層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土 11・14 層からは焼土を検出しており、覆土 14 層は廃棄された焼土が入れられたと考えられる。覆土中から土器（円筒土器上層ａ式）・石鏃・スクレイパー・たたき石などの石器、剝片・礫が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。
（酒井）

P-218（図Ⅵ-127、表Ⅴ-２、図版 262）

位　置　F18・19　　**立　地**　標高約 20.70mの平坦面。盛土１層より下位。

平面形　いびつな円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　1.52/1.34×1.84/1.81×1.12m

特　　徴　H-15 調査終了後、灰白色土～明褐色土のⅥ層～覆土にやや黄褐色味の強い明褐色土の拡がりが三か所切り合っている状況を検出した。一番新しいP-186 の調査が終了後、その南側にある浅黄橙色土の覆土１層、黄橙色土の覆土２層、にぶい褐色土の覆土３層が混在していびつな円形に拡がっていた。切り合い部分の断面から土坑P-218 とした。P-186 より古い。東側半分を掘り下げたところ底面と底面から拡がりながら立ち上がり 40 cmほどのところから壁面が窄まり始める。この付近は灰白色～浅黄褐色をしたⅥ層が主体である。覆土上位を構成する覆土１～３層にはⅥ層がブロック状に含まれる。覆土７層はⅣ・Ⅴ層の流入である。その下、覆土中位は覆土４層が構成する。炭化材が目立って出土する。覆土４層は一部底面のへりにまで及んでいる。焼土粒は含まれないが、色調から土中の鉄分が若干酸化している印象、被熱している印象がある。覆土中位中央部には覆土５・６層があり、これが焼土粒を５％ほど含んでいる。覆土５層がⅣ・Ⅴ層主体である。どこかで火を焚いて廃棄したかのような印象を受ける。この中央の焼土まじりの下、覆土下位にはふたたび覆土１層が堆積している。そして材を含む廃棄土である覆土４層があり、これには焼く行為が伴っていると考える。円筒土器上層ａ式を伴うがまとまりではなく破片レベルであるため、再流入の可能性がある。覆土１層と覆土６層の層境は不明瞭である。覆土１層が土坑壁面上部の崩落で、そこから覆土７層が流入したものと考える。そして覆土４層が焼成を伴うため覆土１層の上部が覆土６層となり覆土７層の一部が覆土５層となった可能性がある。覆土４層形成後、崩落により覆土１～３層、流入により覆土７層が形成されたと考える。覆土から土器（円筒土器上層ａ式）、石錐・スクレイパー・石斧・たたき石などの石器のほか、三角形石製品が出土している。

時　　期　縄文時代中期前葉と考えられる。覆土４層の行為は、円筒土器上層ａ式期以降と考えるが、より新しい土坑P-186 が円筒土器上層ａ式のまとまった廃棄があることから、まさに円筒土器上層ａ式期の行為という可能性がある。土坑が作られたのはそれ以前だが、崩落で土坑が埋まっていない為、近い時期と考える。（大泰司）

P-220（図Ⅵ-127、表Ⅴ-２、図版 262）

位　置　E18・19　　**立　地**　標高約 20.70mの平坦面。盛土１層より下位。

平面形　円形に近い隅丸方形（大型フラスコ状）　　**規　模**　1.79/2.15×1.52/1.98×1.12m

特　　徴　H-15 の調査終了後、灰白色土～明褐色土のⅥ層～Ⅳ・Ⅴ層にやや黄褐色味の強い明褐色土の拡がりが三か所切り合っている状況を検出した。一番新しいP-186 の調査が終了後、その北側に明褐色土の覆土１層と褐灰色土の覆土５層が混在し、いびつな円形に拡がっていた。切り合い部分の断面からP-220 とした。P-186 より古い。南側半分を掘り下げたところ底面と底面から拡がりながら立ち上がり、場所にもよるがおおよそ 40 cmほどのところから壁面が窄まり始める。上部には近年の根が拡がり、腐食した覆土２層も確認できる。覆土５層は覆土２層と似るがしまりがある。覆土１・２・５層はⅣ・Ⅴ層由来である。覆土３層はⅥ層の流入で、覆土６層はⅥ層のブロック状の崩落である。覆土４層は覆土２層と３層の混合である。覆土３・４層が混在し始める覆土下位からは円筒土器下層ｃ式が出土するが、覆土５層からは円筒土器上層ａ式が出土した。腐植時の流入という可能性もあるが、Ⅳ・Ⅴ層主体であることから、円筒土器上層ａ式期の再利用という可能性もある。覆土から土器（円筒土器下層式）、石鏃・スクレイパーなどの石器が出土している。

時　　期　縄文時代前期後半と考えられる。覆土下位は、円筒土器下層ｃ式期以降と考えるが、より新しいP-186 が円筒土器下層ｃ式のまとまった廃棄があることから、まさに円筒土器下層ｃ式期の行為という可能性がある。土坑が作られたのはそれ以前だが、覆土６層の崩落で土坑が埋まっていない為、近い時期と考える。また円筒土器上層ａ式期の頃の再利用の可能性がある。　　（大泰司）

P-227（図Ⅵ-128、表Ⅴ-２、図版 264）

位　置　B21・22　　立　地　標高 21.2m前後の平坦地

平面形　円形（中型フラスコ状）　　規　模　1.44/1.57×1.24/1.56×1.00m

特　　徴　2017 年 11 月、H-20 の東壁面から検出したフラスコ状土坑。調査は 2018 年実施。断面はH-20 の壁面に対し垂直の東西方向に設定した。覆土は全般にわずかな炭化物を含むⅣ・Ⅴ層の混土層が主体で、坑底付近には炭化物を含む褐色土層が堆積し、遺物の大半はその層中から出土している。覆土下位からは円筒土器上層ｂ式の破片がまとまって出土し、1383 や 1384 の復元個体が得られたほか、北海道式石冠が２点出土している。

時　　期　覆土下位から出土した土器から縄文時代中期前葉の円筒土器上層ｂ式期とみられる。
（土肥）

P-228（図Ⅵ-128、表Ⅴ-２、図版 264）

位　置　C・D20　　立　地　標高約 20.50mの平坦面。H-15 ないしは 63 の床面

平面形　いびつな円形（中型フラスコ状）　　規　模　(1.78)/(1.88)×1.18/1.80×(0.54)m

特　　徴　H-15 と 63 の調査終了後、床面を精査していたところ、明褐色～にぶい橙色土の拡がりを検出した。拡がりの東側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから連続して拡がりながら立ち上がる壁面も確認した。壁面は途中ですぼまる形状に変化する。覆土１層はⅥ層が腐植したもので礫が目立つ。覆土２層は鉄分が酸化した薄層である。覆土３層は覆土１層に似るが、炭が混じる。覆土４層も同様だが、周囲のⅥ層に加えて、炭が混在する。底面からは柱穴様土坑を２基検出した。不明瞭であったが、上から掘りこまれている覆土があった。木の根と考えていたが、便宜上H-15 のＨＰ40 と 41 とした。ＨＰ41 からは剝片が集中して出土した。P-229 よりは新しい。覆土から土器（円筒土器上層式）、スクレイパー・剝片・礫が出土している。

時　　期　検出状況からH-47 よりは古く、周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。　　（大泰司）

P-229（図Ⅵ-129、表Ⅴ-２、図版 264）

位　置　C・D20　　立　地　標高約 20.30mの平坦面。H-15 ないしは 63 の床面。

平面形　いびつな円形（中型フラスコ状）　　規　模　1.57/1.76×(0.72)/(0.72)×(0.96)m

特　　徴　H-15 と 63 の調査終了後、床面を精査していたところ、明褐色～にぶい橙色土の拡がりを検出した。新しい遺構であるP-228 の調査終了後、P-221 との間にもうひとつ古い遺構を確認した。P-201 や 228 よりは古い。残存部分がすくなくなっており、比較的残りのいい北側壁面側で土層断面を記録し、南北方向を軸として壁面形状を記録した。おおよそ平坦な底面と、そこから連続して拡がりながら立ち上がる壁面も確認した。壁面は途中ですぼまるが、まっすぐになり、そして開き気味に立ち上がる形状に変化する。覆土１～３層は付近のⅥ層からなる。交互に覆土１～３層が重なり合っていて、埋め戻しの可能性もある。覆土４層は炭混じりの腐植土層である。覆土から土器（円筒土器上層式）、たたき石・剝片が出土している。

時　　期　検出状況からH-15 や 63 よりは古く、周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。　（大泰司）

P-231（図Ⅵ-129、表Ⅴ-２、図版 265）

位　置　C21　　**立　地**　標高 20.5m前後の平坦地

平面形　円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　2.52/2.36×2.12/2.12×0.80m

特　　徴　2018 年８月下旬、P-192 を調査中にその東側に重なるフラスコ状土坑を確認し、P-231 とした。調査は８月下旬から実施。この土坑は西側をP-192 に東側をH-14 に切られ、坑底面の深さはH-14 の床面よりやや深い。覆土は坑底面中央に濁ったⅣ・Ⅴ層の混土層が山なりに堆積し、その上部には混じりの少ないⅣ・Ⅴ層の堆積が重なる。H-14 側はⅥ層の崩落土がブロック状に重なる状態で堆積する。断面実測後、土坑中央の覆土上部からヒトの下顎骨を検出した。残りは悪く、歯冠も一切見つからなかったが、下顎骨の形状は残っていた。坑底面中央からは 0.30×0.28×0.07mの中央ピットを検出した。遺物は覆土の下位から主に出土し、坑底部縁辺から北海道式石冠やたたき石、すり石が出土したほか、円筒土器下層ｄ式の破片が出土している。

時　　期　覆土下位から出土した土器から縄文時代前期後葉の、円筒土器下層ｄ式期とみられる。　（土肥）

P-232（図Ⅵ-130、表Ⅴ-２、図版 265）

位　置　E・F22　　**立　地**　標高約 20.70mの平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　1.04/2.34×0.94/2.15×1.24m

特　　徴　H-21 調査終了後、南側壁面から床面にかけて、明褐色土の拡がりを検出した。北東側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからいったん拡がりながら立ち上がるが、途中で入口まですぼまる形状の壁面を確認した。底面中央には付属土坑（ＰＰ１）がある。平面形はいびつな楕円形で、長軸方向は本体と同じである。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の覆土１層が主体である。下半分の方がやや腐植するが、明瞭な境界は引けなかった。ＰＰ１も含め底面中央にはより腐植が進み、炭が混じる覆土３層が分布する。上位には水によるⅥ層の流入する覆土２層があり、また肩の一部には、壁面の崩落土である覆土４層がある。覆土から土器（円筒土器下層式）、石鏃・スクレイパー・すり石・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　H-21 より古く、周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考える。　（大泰司）

P-233（図Ⅵ-130・131、表Ⅴ-２、図版 265）

位　置　D・E20・21　　**立　地**　標高約 20.70mの平坦面

平面形　いびつな円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　1.90/2.26×1.54/2.30×(0.94)m

特　　徴　H-105 の調査終了後、床面に明褐色土～灰白色土～浅黄褐色土の拡がりを検出した。南側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから拡がりながら立ち上がり、途中から入口まですぼまる形状の壁面を確認した。平面形はいびつな円形である。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来で炭混じりの覆土７層が主体である。覆土上半分にはⅥ層由来で炭の混じらない覆土１～３・５層が分布する。中位から上位にかけてこれらの土層の境界は炭薄層の覆土６層である。下位については、腐植土薄層の覆土８層や、水によるⅥ層の流入による薄層の覆土９層が覆土７層の間に挟まる。覆土の標高 20.3～19.70mの間に土器を中心として遺物が分布する。おおよそ検出した順番で上位と下位にわけたため廃棄単位そのものは反映していない。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、石槍・スクレイパー・

たたき石・石錘などの石器が出土している。

時　　期　H-105より古く、周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

（大泰司）

P-241（図Ⅵ-132、表Ⅴ-2、図版267）

位　置　E18　　立　地　標高20.4m付近

平面形　円形（大型フラスコ状？）　　規　模　2.04/1.84×(1.64)/(1.34)×0.269m

特　　徴　P-130の調査中に壁面から褐色土の覆土と壁面の立ち上がりを検出した。半截して調査を進めたところ、底面が平坦な土坑状の遺構を検出した。周囲の遺構の状況からフラスコ状土坑である可能性がある。P-130・161と切り合っているが、P-130の調査中に検出したためP-241との新旧関係は不明である。覆土は1層に分層した。埋め戻し土と考えられる。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土中から剝片・礫が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いなどから縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。　　（酒井）

P-242（図Ⅵ-132、表Ⅴ-2、図版267）

位　置　D・E18　　立　地　標高20.4m付近

平面形　円形（中型フラスコ状？）　　規　模　1.52/1.26×(1.10)/(1.00)×0.186m

特　　徴　P-161の調査中に壁面から褐色土の覆土と壁面の立ち上がりを検出した。半截して調査を進めたところ、底面が平坦な土坑状の遺構を検出した。周囲の遺構の状況からフラスコ状土坑である可能性がある。P-161と切り合っているが、P-161の調査中に検出したためP-242との新旧関係は不明である。しかし、覆土1層がP-161の壁面崩落によって堆積したものであると考えられることから、P-161より古いと考えられる。覆土は3層に分層した。覆土1層はP-161の壁面崩落による流れ込み土、覆土2・3層は埋め戻し土と考えられる。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。覆土中から土器（円筒土器下層式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いや出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。　　（酒井）

P-244（図Ⅵ-133、表Ⅴ-2、図版268）

位　置　F18　　立　地　標高約20.20mの平坦面。H-103の床面。

平面形　円形に近い隅丸方形（大型フラスコ状）　　規　模　2.53/2.92×(0.95)/(1.00)×(0.60)m

特　　徴　H-103の床面を検出したところ、H-103覆土より明るく、Ⅵ層より暗い色調の覆土が円形に拡がっていた。北側半分を掘り下げたところ、丸みを帯びた底面とそこから立ち上がる明瞭な壁面を検出したため、土坑と判断した。H-103の平成30年検出分の平面形から、正中線上に位置する可能性が高く付属遺構とも考えたが、比較的大型であった事から単独の土坑として記録した。H-103より古い。Ⅵ層由来土に炭化物が混在する。覆土から土器（円筒土器上層a式）、スクレイパー・石斧などの石器が出土している。

時　　期　H-103より古いこと、周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。

（大泰司）

P-246（図Ⅵ-133、表Ⅴ-２、図版 268）

位　置　C・D18　　**立　地**　標高 20.3m付近

平面形　不明（フラスコ状）　　**規　模**　―/―×―/―×0.10m

特　　徴　H-６を調査中に壁面に切られた褐色土の拡がりを確認した。壁面の立ち上がりを確認したことから土坑と考えられる。H-６とP-25 によって削平され、一部しか残存していないが、周囲の遺構の状況や推定される底面の大きさなどから、フラスコ状土坑の可能性が高いと考えられる。覆土は１層である。自然堆積と考えられる。覆土から土器（円筒土器上層式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　H-６とP-25 に切られていることや出土遺物から、縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。（酒井）

P-248（図Ⅵ-134、表Ⅴ-２、図版 269）

位　置　F18　　**立　地**　標高約 20.10mの平坦面。H-103 の床面。

平面形　円形に近い（大型フラスコ状）　　**規　模**　1.40/2.32×1.28/2.14×(0.96)m

特　　徴　H-103 の床面の灰白色から浅黄褐色に近いⅥ層の中にやや褐色味の強い浅黄褐色土主体土の拡がりを検出した。北側を掘り下げたところ底面と壁面を確認した。底面は中央がやや窪み、さらに円形を思わせる隅丸の正方形をした小土坑（ＰＰ１）がほぼ真ん中に位置する。壁面はいったん外側に開くが 30 cmほどで内側にすぼまるような形状となる。覆土１層はⅥ層が崩落ないしは流入したものである。その下にはこのⅥ層を主体とする覆土がつまる。50 cmほど掘り下げたところで炭化物が面的に拡がっていた。その下にも面で確認出来なかったが炭化物がまとまっていた。これが覆土３層である。この炭化物層以外は覆土２層で詰まった土坑である。覆土から土器(円筒土器上層式)、石鏃・スクレイパー・たたき石・すり石などの石器、石冠様石器とみられるものが出土している。

時　　期　H-103 より古いこと、周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。（大泰司）

P-259（図Ⅵ-135、表Ⅴ-２、図版 270）

位　置　E・F20・21　　**立　地**　標高約 20.60mの平坦面

平面形　いびつな円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　1.84/2.08×1.64/1.94×(0.98)m

特　　徴　H-108 の調査終了後、西壁面から床面にかけて明黄褐色～明褐色土の拡がりを検出した。残存する覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦だが、皿状に中央がくぼむ底面と、そこからやや開き気味に立ち上がり、15cm ほどですぼまる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅣ・Ⅴ層由来の覆土１・６層とそれに炭が混在した覆土２層とⅥ層からなる覆土４層からなる。土層の境界には炭から成る薄層の覆土３層が挟まる。覆土２層から、土器（円筒土器上層ｂ式）がまとまって出土した。覆土からは石鏃・スクレイパーなどの石器が出土している。

時　　期　H-108 より古く、出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。まとまり具合からこの遺物の直前の時期という可能性がある。（大泰司）

P-261（図Ⅵ-134、表Ⅴ-２、図版 271）

位　置　E20　　立　地　標高約 20.50mの平坦面

平面形　いびつな円形（小型フラスコ状？）　　規　模　1.49/1.40×(0.78)/(0.74)×(0.19)m

特　　徴　H-108 調査終了後、北側壁面から床面にかけて暗褐色土～灰白色土～浅黄褐色土の拡がりを検出した。残存する覆土の南側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからまっすぐに立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来で炭混じりの覆土１層が主体である。覆土上半分壁際にはⅥ層がブロック状に入り込む覆土２層が分布する。底面際には、Ⅵ層由来土が腐植した覆土３層と覆土１・２層が混在する。覆土から土器（円筒土器上層ａ式）、スクレイパー・剝片・礫が出土している。

時　　期　H-108 より古く、周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。

（大泰司）

P-267（図Ⅵ-136、表Ⅴ-２、図版 272）

位　置　E20　　立　地　標高約 20.10mの平坦面

平面形　いびつな円形（中型フラスコ状）　　規　模　1.28/1.70×1.17/1.80×(0.60)m

特　　徴　H-108 の調査終了後、北壁面から床面にかけて、精査していたところ、明褐色土の拡がりを検出した。残存する覆土の南側を掘り下げた。おおよそ平坦だが、皿状に中央がくぼむ底面である。底面から開き気味に立ち上がり、急にいったんすぼまるが、すぐに真直ぐ立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の覆土１層が表面に分布しており、それに炭が混在した覆土２・４・５層で検出した。土層の境界には炭から成る薄層の覆土３層が挟まる。覆土中位、覆土２層下位から覆土５層・覆土６層上位から遺物が目だって出土している。覆土から土器（円筒土器上層ａ式）、北海道式石冠・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　H-108 より古く、周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。

（大泰司）

P-276（図Ⅵ-136、表Ⅴ-２、図版 274）

位　置　F20　　立　地　標高約 20.10mの平坦面

平面形　方形（大型フラスコ状）　　規　模　(2.32)/2.32×(2.05)/2.05×(0.27)m

特　　徴　H-108 の調査終了後、床面に明褐色土の拡がりを検出した。残存する覆土の東側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面とそこからやや開き気味に立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層の覆土１・２層である。いずれも炭混じりで、覆土２層はⅥ層の細かいブロックが目立つ。形状からもとはフラスコ状土坑であった可能性が高い。覆土から土器（円筒土器下層式）、剝片が出土している。

時　　期　H-108 より古く、周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

（大泰司）

P-282（図Ⅵ-137、表Ⅴ-２、図版 275）

位　置　D18・19・E18　　立　地　標高 20.1m付近のH-６床面

平面形　楕円形（大型フラスコ状）　　規　模　2.12/2.54×1.72/2.28×0.698m

特　　徴　H-６の調査中に床面から円形の褐色土の拡がり検出した。半截して調査を進めたところ、平坦な底面と中央ピット（ＰＰ１）、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。H-６に上部を削平されている。覆土は 10 層に分層した。覆土１～９層は埋め戻し土、覆土 10 層は壁面崩落土と考えられる。覆土６層からは廃棄焼土とみられる焼土塊を

検出している。底面から剝片、覆土中から土器（円筒土器上層ｂ式）、石鏃・スクレイパー・たたき石などの石器、剝片・礫が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いや出土遺物から縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。

（酒井）

P-284（図Ⅵ-137、表Ⅴ-２、図版 275）

位　置　G20　　**立　地**　標高約 21.00mの平坦面。H-125 の上で盛土１層を掘りこむ。

平面形　いびつな円形（小型フラスコ状？）　　**規　模**　0.87/0.94×0.82/0.87×(0.24)m

特　　徴　盛土１層を調査中、灰褐色土の拡がりを検出した。覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の盛土遺構土起源である。炭とⅥ層の細かいブロックとⅥ層由来なのか小砂利が混じる。覆土から土器（円筒土器上層式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　出土遺物から縄文時代中期中葉と考える。　　（大泰司）

P-323（図Ⅵ-137・138、表Ⅴ-２、図版 285）

位　置　F19　　**立　地**　標高約 20.70mの平坦面。盛土１層を掘りこむ。

平面形　いびつな円形（小型フラスコ状）　　**規　模**　0.94/0.98×0.92/0.88×(0.16)m

特　　徴　現場で盛土１層とした盛土に連続し、かっ色調が似た盛土遺構を調査中、にぶい褐色土の拡がりを検出した。覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。調査区が違うため参考値ではあるが、検出面についてはP-284 より掘り下げた回数が多く。掘り込み面は下位と考える。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の盛土遺構土起源である。炭と地山の細かいブロックが混じる。覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　出土遺物から縄文時代中期中葉であると考える。　　（大泰司）

P-342（図Ⅵ-138、表Ⅴ-２、図版 289）

位　置　G18・19　　**立　地**　標高約 20.70mの平坦面。盛土１層を掘りこむ。

平面形　いびつな楕円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　(1.82)/(1.65)×(0.74)/(0.68)×(0.24)m

特　　徴　H-103 を調査中、壁面東側に明褐色土の拡がりを検出した。現場で盛土１とした盛土に連続し、かっ色調が似た盛土遺構を掘りこんでいる。残存する覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからやや拡がりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の盛土遺構土起源である。炭が混じる。覆土から土器（円筒土器上層式）、たたき石・剝片・礫が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉の土器が覆土にまとめて捨てられていたH-103 より古い。出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。盛土１層を掘りこむため縄文時代中期中葉の範疇という可能性もある。

（大泰司）

P-343（図Ⅵ-138、表Ⅴ-２、図版 290）

位　置　F・G18　　**立　地**　標高約 20.10mの平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　1.80/2.08×1.68/1.84×(0.36)m

特　　徴　H-103 を調査後、床面のⅥ層を主とした地山に黄褐色土が拡がっていた。残存する覆土の西側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからいったん拡がりながら立ち上がるが、徐々にすぼまる壁面を確認した。底面の付属遺構は上部に炭が詰まっていた。用途は不明である。　覆土は

土坑周辺と同じⅥ層主体の地山由来である。覆土４・５層は地山そのものの流入であり、他は炭と地山の細かいブロックが混じる。覆土から土器（円筒土器上層式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉の土器が覆土にまとめて捨てられていたH-103 より古く、P-352・389 より新しい。周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。（大泰司）

P-351（図Ⅵ-139、表Ⅴ-２、図版 291）

位　置　G18・19　　立　地　標高約 20.50mの平坦面

平面形　いびつな楕円形？（中型フラスコ状）　　規　模　(2.00)/(1.72)×(1.08)/(0.72)×(0.28)m

特　　徴　H-103 を調査中、壁面東側に明黄褐色土の拡がりを検出した。残存部分はⅥ層を掘りこんでいる。残存する覆土の東側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の盛土遺構土起源である。炭が混じる。底面南側に炭が集中して分布していた。覆土から土器（円筒土器上層式）、たたき石・剝片・礫が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉の土器が覆土にまとめて捨てられていたH-103 より古い。また、P-352 より古く、P-409・413・441 より新しい。周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。（大泰司）

P-352（図Ⅵ-139、表Ⅴ-２、図版 292）

位　置　G18・19　　立　地　標高約 20.10mの平坦面

平面形　いびつな楕円形（中型フラスコ状）　　規　模　1.30/1.83×1.44/1.72×(0.93)m

特　　徴　H-103 を調査後、床面のⅥ層を主とした地山に明褐色土が拡がっていた。覆土の西側を掘り下げた。上部北側に別遺構 P-389 があり、それを掘りこんでいた。おおよそ平坦な底面と、そこからいったん拡がりながら立ち上がるが、急にすぼまる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層主体の地山由来である。炭と地山の細かいブロックが混じる。覆土３層は黒色土の流入である。覆土から土器（円筒土器上層式）、スクレイパー・扁平打製石器・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉の土器が覆土にまとめて捨てられていたH-103 より古い。また、P-343 より古く、P-389・409 より新しい。周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。（大泰司）

P-364（図Ⅵ-140、表Ⅴ-２、図版 294）

位　置　F19　　立　地　標高約 20.70mの平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　規　模　(2.50)/(2.54)×(2.00)/(1.78)×(0.46)m

特　　徴　現場で盛土１層とした盛土に連続し、かつ色調が似た盛土遺構を調査中、盛土かⅥ層か判然としない地点において、周囲より褐色味の強い土の拡がりを検出した。覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。西側は攪乱で不明瞭となっている。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の盛土遺構の土が起源である。炭と地山の細かいブロックが混じる。覆土には大型礫や焼土が標高を一定とせずに分布していた。底面からは溝が付随した小土坑を検出した。覆土から土器（円筒土器下層ｃ式）、石鏃・スクレイパー・扁平打製石器・たたき石・すり石・大型石皿などの石器が出土している。

時　　期　盛土遺構が判然としない場所で、かつ周辺の縄文時代前期後半～中期前葉の可能性があるフラスコ状土坑と形状と付属遺構が類似している。周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考える。（大泰司）

P-389（図Ⅵ-140、表Ⅴ-２、図版 301）

位　置　F・G18・19　　**立　地**　標高約 20.10ｍの平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　2.28/2.20×2.08/1.92×(1.40)ｍ

特　　徴　H-103 を調査後、床面のⅥ層を主とした地山に明褐色土が拡がっていた。覆土の西側を掘り下げた。南側に別遺構 P-352 があり、それに掘りこまれていた。おおよそ平坦な底面と、そこから拡がりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層主体の地山由来である。炭と地山の細かいブロックが混じる。溝が付随するＰＰ２・３を伴う。ＰＰ３の方が新しい。炭化物が開口部を覆う点がP-343 のＰＰ１に類するが、掘り込みが深いＰＰ１は用途が不明である。覆土から土器（円筒土器下層式）、つまみ付ナイフ・スクレイパー・扁平打製石器などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉の土器が覆土にまとめて捨てられていたH-103 やP-343・352 より古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉以前と考える。　（大泰司）

P-403（図Ⅵ-141、表Ⅴ-２、図版 304）

位　置　F・G19　　**立　地**　標高約 20.50ｍの平坦面

平面形　いびつな楕円形（小型フラスコ状）　　**規　模**　1.28/1.35×1.15/1.26×(0.26)ｍ

特　　徴　P-364 を調査後、その底面から北側壁面にかけてⅥ層を主とした地山に明褐色土が拡がっていた。覆土の西側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層主体の地山由来である。覆土１層は炭と地山の細かいブロックが混じる。覆土２層はⅥ層の流入である。覆土から土器（円筒土器上層ａ式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　盛土遺構が判然としない場所で、P-364 より古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。　（大泰司）

P-404（図Ⅵ-141、表Ⅴ-２、図版 304）

位　置　F・G19　　**立　地**　標高約 20.50ｍの平坦面

平面形　いびつな楕円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　1.30/1.88×0.96/1.80×(1.10)ｍ

特　　徴　H-134 を調査後、その底面から東側壁面にかけてⅥ層を主とした地山に明褐色～褐色土が拡がっていた。覆土の西側を掘り下げた。おおよそ平坦だが全体的に中央が浅く窪む底面と、そこから拡がりながら立ち上がり、30 cmほど上部ですぼまる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層主体の地山由来である。炭と地山の細かいブロックが混じる。覆土５層の小石はⅥ層由来の可能性がある。覆土３層の橙色土は遺構の東側に分布するⅣ・Ⅴ層由来の可能性がある。底面中央の付属遺構ＰＰ１にもⅣ・Ⅴ層由来の土が混在する。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、スクレイパー・たたき石・扁平打製石器・石錘などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉後半頃の可能性があるH-134 より古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考える。　（大泰司）

P-409（図Ⅵ-142、表Ⅴ-２、図版 305）

位　置　G18・19　　立　地　標高約 20.10mの平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　規　模　2.38/2.04×(1.84)/(1.62)×(0.18)m

特　　徴　H-103 を調査後、床面のⅣ・Ⅴ層からⅥ層にかけて明褐色土が拡がっていた。P-351 の下位にあったため、P-351 の調査後に調査した。覆土の西側を掘り下げた。上部南側に別遺構P-389 がありそれを掘りこんでいた。おおよそ平坦な底面と、そこからいったん拡がりながら立ち上がるが、急にすぼまる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅣ・Ⅴ層とⅥ層由来である。覆土１・３層は地山の細かいブロックが混じる。覆土２・３層の砂と礫はⅥ層由来の可能性がある。南側床面の不規則な溝はウサギ等の動物による攪乱の可能性が高い。覆土から土器（円筒土器下層式）、たたき石・凹み石などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉の土器が覆土にまとめて捨てられていたH-103 やP-343・351・352 より古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考える。　　（大泰司）

P-413（図Ⅵ-143、表Ⅴ-２、図版 306）

位　置　G・H18・19　　立　地　標高約 20.30mの平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　規　模　(2.38)/(2.64)×2.16/2.72×(0.61)m

特　　徴　H-129 を調査後、床面のⅣ・Ⅴ層からⅥ層にかけて明褐色土が拡がっていた。覆土の西側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからいったん拡がりながら立ち上がるが、急にすぼまる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅣ・Ⅴ層とⅥ層由来である。土坑中央に溝が付随する小土坑を伴う。覆土から土器（円筒土器上層式）、スクレイパー・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期以前の可能性があるH-129 より古く、P-441a・b より新しい。周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。　　（大泰司）

P-418（図Ⅵ-142、表Ⅴ-２、図版 307）

位　置　F20　　立　地　標高約 20.50mの平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　規　模　2.10/2.39×1.73/2.28×(0.88)m

特　　徴　P-391 の南西側壁面のⅥ層に黄橙色～褐色土層を検出した。残存する覆土の西側を掘り下げた。南東側にP-444 があり、そちらが新しかったのでそれを調査後に完掘した。おおよそ平坦な底面と壁面を確認した。壁面は拡がりながら立ち上がり、すぐにすぼまり、底面から 30 cmほど上から、およそまっすぐに立ち上がる。覆土は土坑周辺と同じⅥ層主体の地山由来である。覆土２～４層は炭が混じる。図示した焼土層は土坑が完全に埋没した後に焚かれた可能性がある。覆土から土器（円筒土器下層式）、石鏃・スクレイパー・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　P-391 より新しく、P-444 より古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。　　（大泰司）

P-441（図Ⅵ-144、表Ⅴ-２、図版 312）

位　置　G・H18・19　　立　地　標高約 20.30ｍの平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　規　模　1.49/2.50×1.44/1.85×(0.92)ｍ

特　　徴　H-129 を調査後、P-413 を検出し調査を行った。P-413 の底面から東側壁面にかけて、明褐色～暗褐色土層を検出した。覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦だが中央が浅く窪む底面と、そこからいったん拡がりながら立ち上がるが、すぼまる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来である。調査終了後に調査範囲に沿ってトレンチを掘るような深掘りをかけたところ、調査範囲南側壁面に新旧の掘り込み跡を検出した。オーバーハングが著しいため、その時点で判明した。古いものP-441a、新しいものをP-441b とした。P-198 とP-221 のような掘り直しを想定する。底面からたたき石・礫、覆土から土器（円筒土器下層式）、扁平打製石器・剝片・礫が出土している。

時　　期　縄文時代中期以前の可能性があるH-129 より古く、中期前葉のP-413 より古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。　　（大泰司）

P-442（図Ⅵ-145、表Ⅴ-２、図版 313）

位　置　G19　　立　地　標高約 20.40ｍの平坦面

平面形　いびつな楕円形（中型フラスコ状）　　規　模　1.72/1.82×1.72/1.82×(0.42)ｍ

特　　徴　H-137 を調査後、床面に明黄褐色～暗褐色土が拡がっていた。覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦だが中央が浅く窪む底面と、そこからすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土２・３層は土坑周辺と同じⅥ層由来である。覆土１・４層はH-137 のＨＰ１である。ＨＰ１は開口部平面形が床面に収まっており、底面と壁面が完結していたためこのH-137 に付属するものとしたが、P-442 上面を意識しての炭化物層、再廃棄あるいは追加廃棄の可能性もあるため再掲載した。遺物は出土していない。

時　　期　縄文時代中期中葉後半以降の可能性があるH-137 より古い。周囲の類例から縄文時代中期前葉以前と考える。　　（大泰司）

P-444（図Ⅵ-145、表Ⅴ-２、図版 313）

位　置　F19・20　　立　地　標高約 20.40ｍの平坦面

平面形　いびつな楕円形（中型フラスコ状）　　規　模　1.63/1.70×1.38/1.56×(0.57)ｍ

特　　徴　P-418 の調査中、その南東側に明褐色～暗褐色土の拡がりを平面的に検出した。これがP-418 より新しい可能性があったため先行して調査するものとした。覆土の北東側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面とそこからすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅣ・Ⅳ・Ⅴ層由来である。覆土１・２・４層は炭が混じる。覆土１層には焼骨片が混在している。覆土上半に分布する覆土２層から土器の脚が出土した。覆土から土器（円筒土器下層式）、スクレイパー・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　P-418 より新しい。周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

（大泰司）

P-465（図Ⅵ-146、表Ⅴ-２、図版 318）

位　置　G20　　立　地　標高約 20.30mの平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　規　模　2.10/2.32×1.80/2.10×(1.12) m

特　　徴　H-133・138 を調査後、その下に橙色～明褐色土が拡がっていた。覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから一旦外側に開くがすぐにすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土１～６層は土坑周辺と同じⅥ層由来である。覆土１層はⅥ層の崩落、覆土２～６層は炭が混じる。覆土７層は腐植土層が薄く入り込んだものである。底面から石斧・礫、覆土から土器（円筒土器下層式）、石槍・つまみ付ナイフ・扁平打製石器などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉より新しい可能性がある。H-133・138 より古い。P-475・488 より新しい。周囲の類例や切り合いから縄文時代中期前葉と考える。　（大泰司）

P-466（図Ⅵ-146、表Ⅴ-２、図版 318）

位　置　F・G19・20　　立　地　標高約 20.30mの平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　規　模　1.93/2.30×1.64/2.32×(1.22) m

特　　徴　H-133・138 を調査後、その下に明褐色土が拡がっていた。覆土の西側を掘り下げた。おおよそ平坦だが中央が浅く窪む底面と、そこから一旦外側に開くがすぐにすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土１～４層は土坑周辺と同じⅥ層由来である。覆土１・４層はⅥ層の崩落、覆土２・３層は炭が混じる。覆土３層からは骨やクルミが出土した。覆土５層は腐植土層が薄く入り込んだものである。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、スクレイパー・たたき石・すり石などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉より新しい可能性があるH-133・138 より古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考える。　（大泰司）

P-475（図Ⅵ-147、表Ⅴ-２、図版 320）

位　置　G20　　立　地　標高約 20.40mの平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　規　模　1.94/2.19×1.38/1.67×(0.51) m

特　　徴　H-133・138 を調査後、その下ににぶい黄橙色～明黄褐色土が拡がっていた。覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから一旦外側に開くがすぐにすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土はⅥ層由来で、覆土１・５層のようにⅣ・Ⅴ層由来のものが混じるものもある。覆土４層はⅥ層の流入で、覆土１～３・５層およびＰＰ１の覆土は炭が混じる。覆土から土器（円筒土器下層ｃ・ｄ式）、スクレイパー・剝片・礫が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉より新しい可能性があるH-133・138 より古い。P-465 より古く、P-488 より新しい。周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考える。　（大泰司）

P-477（図Ⅵ-147、表Ⅴ-２、図版 322）

位　置　G17　　立　地　標高 20.1m付近

平面形　円形？（大型フラスコ状）　　規　模　(1.52)/(2.16)×(0.46)/(0.62)×1.107m

特　　徴　G17 区を調査中に調査区南側壁際から半円形の褐色土の拡がりも検出した。半截すると、平坦な底面とオーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。南側の約 2/3 は調査範囲外のため底面に中央ピットなどの有無は不明である。覆土は２層に分層

した。覆土１層は流れ込み土、覆土２層は埋め戻し土と考えられる。底面から土器（円筒土器下層式）・礫、覆土から土器、たたき石・剝片・礫が出土している。覆土上部から晩期中葉の土器（聖山Ⅰ式）が出土しているが、木根の攪乱によるものと考えられる。

時　　期　出土遺物や周囲の遺構の状況から、縄文時代前期後半と考えられる。　　（酒井）

P-478（図Ⅵ-148、表Ⅴ-２、図版 321）

位　置　G17・18　　立　地　標高 20.2m付近

平面形　円形（大型フラスコ状）　　規　模　2.56/2.38×(1.96)/(1.86)×0.338m

特　　徴　G17・18 区を調査中に調査区南側壁際から半円形の褐色土の拡がりも検出した。半截すると、平坦な底面と中央ピット（ＰＰ１）を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。南側の約 1/3 は調査範囲外のため未調査である。覆土は２層に分層した。埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層式）、凹み石・石錘・加工痕のある礫・剝片・礫が出土している。

時　　期　出土遺物や周囲の遺構の状況から、縄文時代前期後半と考えられる。　　（酒井）

P-479（図Ⅵ-148、表Ⅴ-２、図版 321）

位　置　F・G17　　立　地　標高 20.2m付近

平面形　円形（大型フラスコ状）　　規　模　1.66/2.26×1.56/2.26×0.878m

特　　徴　G17・18 区を調査中に円形の褐色土の拡がりを検出した。半截するために掘り進めると多量の炭化したクリ種実を検出した。検出範囲を記録したのちに、さらに半截を進めたところ、平坦な底面と中央ピット（ＰＰ１）、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。覆土は 10 層に分層した。覆土１～９層は埋め戻し土、10 層は壁面崩落土と考えられる。覆土２・４・７・８層からは炭化したクリ種実が出土し、とくに覆土２層上面で多く検出した。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）・石鏃・石錐・たたき石、剝片・礫が出土している。出土した炭化クリ種実を用いて放射性炭素年代測定を行い、4,615±20yrBP の測定結果を得ている。

時　　期　周囲の遺構の状況や出土遺物、放射性炭素年代測定の結果から、縄文時代前期後半と考えられる。　　（酒井）

P-482（図Ⅵ-149、表Ⅴ-２、図版 322）

位　置　F17　　立　地　標高 20.1m付近

平面形　円形（大型フラスコ状）　　規　模　1.96/2.30×1.88/2.22×1.075m

特　　徴　F17 区を調査中に褐色土の円形の拡がりを検出した。半截して掘り進めると、平坦な底面と中央ピット（ＰＰ１）、オーバーハングする壁面を検出したことから、フラスコ状土坑であることを確認した。覆土は６層に分層した。覆土１～５層は埋め戻し土、覆土６層は壁面崩落土と考えられる。上部は遺跡の地形改変時に削平されたと考えられる。底面から土器（サイベ沢Ⅶ式）・石皿片・礫、覆土から両面調整石器・すり石・たたき石などの石器、剝片・礫が出土している。

時　　期　出土遺物や周囲の遺構の状況から、縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。

（酒井）

P-488（図Ⅵ-149、表Ⅴ-２、図版 323）

位　置　G・H20　　**立　地**　標高 20.40m付近の平坦面

平面形　いびつな楕円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　1.64/1.68×1.32/1.80×(0.70) m

特　　徴　H-133・138 を調査後、その下ににぶい黄橙色～にぶい橙色土が拡がっていた。覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから一旦外側に開くがすぐにすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土１～４・６・７層はⅥ層由来である。覆土２層はⅥ層の流入である。覆土４層の礫はⅥ層由来の可能性がある。覆土１・３・４・７層は炭が混じる。覆土５層はⅣ・Ⅴ層由来の可能性がある。覆土から土器（円筒土器上層ａ式）、スクレイパー・石錐・扁平打製石器などの石器が出土している。覆土上位から№1 の土器（円筒土器上層ａ式）がまとまって出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉より新しい可能性があるH-133・138 より古い。P-465・475 より古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。　（大泰司）

P-494（図Ⅵ-150、表Ⅴ-２、図版 325）

位　置　G20　　**立　地**　標高 20.30m付近の平坦面

平面形　いびつな楕円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　1.69/1.88×1.40/1.83×(0.96) m

特　　徴　H-133・138 を調査後、その下に明褐色土が拡がっていた。覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから一旦外側に開くがすぐにすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土１・２・４・８はⅥ層由来である。覆土８層はⅥ層の流入。覆土２層はⅥ層由来だが混じりものが無かった。覆土１層は炭が混じる。覆土３層は腐植土層で、炭化物が顕著である。クジラの椎骨が覆土上位から出土したが、この土層に関連した廃棄に伴うと考える。覆土５・６層はⅥ層由来の土でⅣ・Ⅴ層と思われる土が混在する。覆土上部には被熱礫がまとまって出土し、石皿も混在する。覆土から土器（円筒土器上層ａ式）、スクレイパー・たたき石・扁平打製石器・石皿などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉より新しい可能性があるH-133・138 より古い。P-465 より古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。　（大泰司）

P-502（図Ⅵ-150、表Ⅴ-２、図版 327）

位　置　F20　　**立　地**　標高 20.40m付近の平坦面

平面形　いびつな楕円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　(1.50)/(1.50)×(0.72)/(0.88)×(0.36) m

特　　徴　H-133・138 を調査後、周辺を精査していた際、Ⅵ層に明褐色土が拡がっていた。覆土の西側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、一部だが外側に開きながら立ち上がる壁面を確認した。覆土１・３・４層はⅥ層由来である。覆土２層は腐植土である。いずれも炭とⅣ層由来土が混じる。覆土から土器（円筒土器上層式）、鎧状石器などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉より新しい可能性があるP-444・466 より古い。P-506 より新しい。周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。　（大泰司）

P-505（図Ⅵ-151、表Ⅴ-２、図版 327）

位　置　G・H20　　**立　地**　標高 20.40m付近の平坦面

平面形　いびつな楕円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　(1.48)/(1.72)×(0.24)/(0.54)×(0.64)m

特　　徴　H-133・138 を調査後、P-475 を検出、調査した。終了後に北壁に褐色土層を検出した。覆土の西側を掘り下げた。おおよそ平坦だが中央が窪むと思われる底面の残存と、そこから一旦外側に開くあるいはまっすぐ立ち上がるが次第にすぼまる壁面を確認した。覆土１～４層はⅥ層由来で、Ⅵ層は炭が混じる。覆土１・２・４・５層は炭が混じる。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、礫が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉より新しい可能性がＨ-133・138 より古い。周囲の類例から縄文時代前期後半と考える。（大泰司）

P-506（図Ⅵ-151、表Ⅴ-２、図版 327）

位　置　F20　　**立　地**　標高 20.60m付近の平坦面

平面形　いびつな楕円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　1.20/1.78×1.11/1.54×(1.18)m

特　　徴　H-133・138 を調査後、周辺を精査していた際、Ⅵ層に明褐色～暗褐色土が拡がっていた。覆土の西側を掘り下げた。おおよそ平坦だが浅く中央が窪む底面と、外側に開きながら立ち上がりすぼまる形状の壁面を確認した。覆土１・２・４～６層はⅥ層由来である。覆土３層は腐植土である。覆土１～４層は炭が混じる。底の覆土７層は炭層で、これに伴い炭化材が出土した。覆土から土器（円筒土器上層式）、石槍・扁平打製石器・石皿などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉より新しい可能性がＰ-444・466 より古いＰ-502 よりさらに古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。（大泰司）

P-508（図Ⅵ-152、表Ⅴ-２、図版 328）

位　置　G20　　**立　地**　標高 20.30m付近の平坦面

平面形　いびつな楕円形（大型フラスコ状）　　**規　模**　2.32/2.60×1.34/2.56×(0.85)m

特　　徴　H-133・138 を調査後、褐色～明褐色土が拡がっていた。覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから一旦外側に開くがすぐにすぼまりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土はⅥ層由来である。覆土３層はⅥ層の流入。覆土２層はⅥ層由来だが混じりものが無かった。覆土１・２・５・７層は炭が混じる。覆土６層からは土器がまとまって出土した。№3 は円筒下層ｄ2 式であった。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、つまみ付ナイフ・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉より新しい可能性があるＨ-133・138 より古い。Ｐ-494 より古い。構築時期は№3 の円筒土器下層ｄ2 式以前である。周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。（大泰司）

P-511（図Ⅵ-153、表Ⅴ-２）

位　置　F17・18　　**立　地**　標高 20.30m付近の平坦面

平面形　いびつな楕円形（中型フラスコ状）　　**規　模**　(1.36)/(1.20)×(1.64)/(1.48)×(0.15)m

特　　徴　H-103を調査後、北西側壁面際のⅥ層に明褐色土層を検出した。覆土の北側を掘り下げた。北端部分は風倒木に壊されていた。おおよそ平坦な底面と、そこから拡がりながら立ち上がる壁面を一部だが確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来である。覆土１層は炭が混じる。覆土２層は風倒木由来である。中央に溝が付随するＰＰ１がある。ＰＰ１の覆土も土坑周辺と同じⅥ層由来である。底面から両面調整石器・Ｒフレイク・覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、Ｒフレイク・剥片・礫が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉の土器が覆土にまとめて捨てられていたH-103 より古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代前期後半と考える。　（大泰司）

P-564（図Ⅵ-154、表Ⅴ-２、図版 336）

位　置　G18　　**立　地**　標高 20.20m付近の平坦面

平面形　いびつな楕円形（フラスコ状土坑）　　**規　模**　1.88/2.16×1.68/2.10×(0.92)m

特　　徴　H-103を調査後、ＨＰ４周囲の床面に明褐色土が拡がっていた。覆土の東側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから拡がりながら立ち上がる壁面を確認した。壁面は上半部ですぼまる。覆土は土坑周辺と同じⅣ・Ⅴ層由来である。覆土２層は炭が混じる。覆土４層は炭層であり、平面的に炭化材と認知できるものが多かった。覆土下位から出土した№14 の大型の有意の礫は石棒を連想させた。覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、両面調整石器・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　縄文時代中期中葉の土器が覆土にまとめて捨てられていたH-103 より古い。周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期中葉以前と考える。　（大泰司）

5　柱穴状およびその他の土坑（図Ⅵ-155～180、表Ⅴ－２、図版 219～319）

柱穴状土坑とその他の土坑を遺構番号順にまとめて掲載している。遺構毎の分類については本文および遺構一覧に記載している。

調査区東側の範囲において柱穴状土坑は 26 基を検出している。検出面の直径が１m以上のものを大型、0.5～１mを中型、0.2～0.5mを小型、0.2m未満を極小型として区分した。大型や中型のものは未確認の竪穴住居跡の主柱穴や掘立柱建物跡の柱穴、小型や極小型のものについては竪穴住居跡のＨＰや杭跡などの可能性が考えられる。大型のものは５基で、中期前葉１基、中期後葉１基、後期前葉３基である。B17・18 区で検出しており、掘立柱建物跡の柱穴である可能性がある。中型のものは 15 基で、前期後半１基、前期後半～中期中葉２基、中期中葉３基、中期後葉３基、後期前葉６基である。小型のものは６基で、中期前葉１基、中期中葉２基、中期中葉～後期前葉２基、中期１基である。出土遺物が特徴的なものとしては、P-17・36・597 の小礫集中、P-35 の煉瓦台式の一括土器と青竜刀形石器、P-108 の男根状石製品などがある。

フラスコ状土坑や柱穴状土坑以外のその他の土坑は 41 基を検出している。検出面上端長辺が２m以上のものを大型、1.5～２mを中型、1.5m未満を小型として区分した。大型のものは２基で前期後葉～中期中葉が１基、中期前葉が１基である。中型のものは７基で、前期後葉～中期中葉が２基、中期前葉が１基、中期中葉が１基、中期後葉が１基、後期前葉が２基である。小型のものは 32 基で、前期後半５基、前期後半～中期前葉５基、前期後半～中期中葉４基、中期前葉３基、中期前葉～中葉１基、中期中葉６基、中期中葉～後期前葉１基、中期後葉５基、中期後葉～後期前葉１基、後期前葉１基である。フラスコ状土坑や柱穴状土坑の可能性もあるが、判断できなかったものを含んでいる。特徴的なものとしては、P-50 の小礫集中、P-55 の榎林式の一括土器がある。　（酒井）

P－8（図Ⅵ-155、表Ⅴ－２）

位　置　E20　　**立　地**　標高 21.00m付近の平坦面。H-21 の床面。

平面形　いびつな楕円形（小型柱穴状）　　**規　模**　0.48/0.11×(0.17)/(0.06)×0.24m

特　　徴　平成 30 年のＥライントレンチ調査の際、断面で確認したものである。半分無くなっていた。残存部を調査した。断面記録後、底面と壁面を検出した。壁は底面から拡がりながら立ち上がる。底面はくぼんでいる。覆土４層で示した炭層が顕著である。覆土３層の流入の仕方から何かの付属遺構という可能性もあったが、伴う遺構がわからなかった。覆土２層が腐植土主体なので覆土３層上面でしばらく放置された可能性もある。盛土中に残された生活痕と判断した。覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　検出・堆積状況や出土遺物からH-108 より新しく、縄文時代中期中葉と考えられる。

（大泰司）

P－10（図Ⅵ-155、表Ⅴ－２、図版 219）

位　置　E・F20　　**立　地**　標高約 20.50mの平坦面。盛土１層上位～上面。

平面形　いびつな円形（小型柱穴状）　　**規　模**　0.40/0.28×0.38/0.30×0.60m

特　　徴　平成 30 年のトレンチ調査の際、暗褐色土の拡がりとして認識されていたが、その際四分の一が無くなった。残存部を記録した。底面のおおよそ中央が窪み壁は垂直に立ち上がる。P-118 のように砂利がからむ土坑である。検出面が上位であり、盛土１層上位の遺構の柱穴といった付属遺構の可能性もあったが、該当する遺構が無かったため単体の土坑とした。覆土には礫・砂利が混在する。Ⅵ層のブロックは目立たない事からもより新しい時期の遺構の可能性がある。覆土から土器（見

晴町式)、石槍・石錐・スクレイパー・石斧などの石器が出土している。

時　　期　検出・堆積状況や出土遺物から縄文時代中期中葉以降のものと考える。　(大泰司)

P-11 (図Ⅵ-155、表Ⅴ-2、図版219)

位　置　E20　　立　地　標高約20.80mの平坦面

平面形　いびつな円形(小型柱穴状)　　規　模　0.36/0.32×0.24/0.22×0.11m

特　　徴　盛土1層の調査中、明褐色土の拡がりを検出した。北西側を掘り下げて土層を観察後、完掘した。おおよそ平坦な底面と、そこからやや開き気味に立ち上がる壁面を一部確認した。覆土1層は土坑周辺と同じ土が由来で、焼土粒や小石が混じる。検出面には礫が密に分布し、焼けている。そこを掘り込んだものと考える。覆土から土器、たたき石・剝片・礫が出土している。

時　　期　盛土1層上位からの検出で、縄文時代中期中葉以降と考える。　(大泰司)

P-17 (図Ⅵ-156、表Ⅴ-2、図版221)

位　置　B19　　立　地　標高21.7m前後の平坦地

平面形　楕円形(中型柱穴状)　　規　模　1.00/(0.36)×(1.00)/0.32×0.84m

特　　徴　2017年8月中旬、B19区の包含層の上部から検出した小礫集中を取り上げるための測量を行った。当初、小さな土坑に集石が入る土坑として実測した。このような集石は表土除去後に現れる煉瓦台式期の包含層ではしばしばみられたため、とくに気にも留めていなかった。調査終盤の10月下旬、周囲の遺構の調査が進み、この土坑周囲が全体に掘り下がったとき、壁面に細く深い柱穴状の土坑断面が現れた。壁面には東側に並ぶ同時期のP-597も並ぶ。掘り込み面は集石よりもやや上面とみられ、上部は削平されている。翌年、改めて断面を精査し、小礫集中下に凝灰岩の大型礫が入っていること、円形と推測していた土坑が南北方向に長軸をもつ長い土坑である可能性があることを確認した。集石周囲から出土した遺物から煉瓦台式土器の破片が出土している。同時期の付近の土坑に南北に長軸を持つものや、青竜刀形石器が出土した土坑P-35があり、墓坑の可能性があると考える。

時　　期　覆土上部から出土した土器から縄文時代後期前葉の墓坑である可能性がある。　(土肥)

P-21 (図Ⅵ-156、表Ⅴ-2、図版222)

位　置　C20　　立　地　標高21.1m前後の平坦地

平面形　楕円形(中型柱穴状)　　規　模　0.60/(0.76)×(0.48)/(0.32)×0.26m

特　　徴　ノダップⅡ式の住居址H-7を調査中、Cライントレンチの南壁面にこの住居址を切る小さい土坑を確認し、P-21とした。本遺跡でノダップⅡ式より新しい遺物は、時期は後期前葉のものしかないため、本土坑は煉瓦台式期の土坑とみられる。覆土は、炭化物混じりの暗褐色土層がU字状に拡がり、その間にⅣ・Ⅴ層起源のやや明るい土色の層がはいる。覆土からは新しいノダップⅡ式の口縁部片が出土している。

時　　期　覆土の遺物は住居址覆土の遺物である可能性もある。縄文時代後期前葉の煉瓦台式期の柱穴状の深い土坑とみられる。　(土肥)

P-23（図Ⅵ-157、表Ⅴ-２、図版 222）

位　置　B19　　**立　地**　標高 21.1m前後の平坦地

平面形　楕円形（中型土坑）　　**規　模**　1.78/1.40×1.33/1.02×0.46m

特　　徴　榎林式の住居址H-15 の範囲を確認中、その住居址を切る大安在Ｂ式期の住居址H-44 を検出した。同時にこの住居址に重なる土坑を確認し、P-23 とした。覆土は、炭化物混じりの暗褐色土層が皿状に拡がり、その上にⅣ・Ⅴ層起源のやや明るい土色の層が堆積していた。調査時に下位を掘りすぎ、下位の遺構の遺物が混じり、出土遺物に見晴町式の口縁部が掲載されている。

時　　期　本遺跡で大安在Ｂ式より新しい時期は限られていること、H-44 は大安在Ｂ式でもノダップⅡ式直前の土器が出土していることを考えると、縄文時代後期前葉の土坑の可能性が高い。

（土肥）

P-28（図Ⅵ-157、表Ⅴ-２、図版 224）

位　置　B18　　**立　地**　標高 20.6m付近

平面形　円形（大型柱穴状）　　**規　模**　1.40/0.88×(1.26)/(0.80)×1.236m

特　　徴　P-24 の調査中に西側壁面から褐色土層を検出した。P-24 の調査終了後に半截して調査を進めたところ、柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、P-36・39・90 と同様に未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。北東側をP-24 の調査時に削平してしまったが、P-28 がP-24 を切っていると考えられる。土層は 12 層に分けた。埋め戻し土と考えられる。覆土９～12 層は掘り方と考えられる。覆土８層の底面直上から大型の砥石片が出土している。覆土から土器（円筒土器上層式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　周囲の遺構の状況から、縄文時代後期前葉と考えられる。　（酒井）

P-29（図Ⅵ-158、表Ⅴ-２、図版 224）

位　置　B・C20・217　　**立　地**　標高 21.4m前後の平坦地

平面形　楕円形（大型柱穴状）　　**規　模**　1.06/0.64×0.91/0.58×0.60m

特　　徴　Ｃラインのトレンチ北壁から検出した土坑。榎林式の住居址を上から切る状況を確認している。覆土の上部には黒褐色土層が拡がり、覆土は濁ったⅣ・Ⅴ層のローム質土が主体である。覆土からは大安在Ｂ式土器の破片ややや大型の礫が出土している。

時　　期　付近で検出している棟瓦台式期の土坑より検出面は下位であること、覆土から大安在Ｂ式土器の破片が出土し、榎林式期の住居址を切っていることから、大安在Ｂ式期の土坑の可能性が高い。　（土肥）

P-32（図Ⅵ-158、表Ⅴ-２、図版 225）

位　置　C22　　**立　地**　標高 21.3m前後の平坦地

平面形　楕円形（中型柱穴状）　　**規　模**　0.86/0.32×0.64/0.28×0.33m

特　　徴　C22 区の北壁付近から検出した土坑。平面は楕円形で坑底面付近が一回り小さい窪みになる。検出面より上部の北壁からはノダップⅡ式土器の 1853 を一括で検出した。覆土の上部には黒褐色土層が拡がり、覆土はⅣ・Ⅴ層のローム質土が主体で、坑底面付近には炭化物や円礫がやや集中して出土した。

時　　期　土坑上部から検出したノダップⅡ式土器より古い土坑とみられることから、大安在Ｂ式期の土坑である可能性が高い。　（土肥）

P-35（図Ⅵ-159、表Ⅴ-２、図版 225）

位　置　D19　　**立　地**　標高 21.3m前後の平坦地

平面形　円形（中型柱穴状）　　**規　模**　0.76/0.23×0.70/0.20×0.62m

特　　徴　榎林式期の住居址H-15 の上に重なる円形の土坑。住居址上部に堆積する煉瓦台式の盛土調査中、長軸 54cm の黄褐色の大型泥岩礫を検出した。礫の表面にはカモメガイが空けたまるい窪みが残ることから、海岸から拾ってきた礫とみられる。小礫集中と同様に土坑上部にみられる礫の可能性があるとみて、礫を残し周囲を掘削したところ、礫よりやや北側の 50 cmほど下位より煉瓦台式の一括土器 1185 を検出した。この土器の破片はほぼすべて残っており、土坑に収められたものと考えられる。礫を取り上げて下位の土器を検出中に、土器の 15 cmほど上面から青竜刀形石器が出土した。土器の下にはすり鉢状に深い土坑を検出したことから、P-35 とした。覆土は炭化物を含むⅣ・Ⅴ層のローム質土の濁った混土層が主体である。土層の確認は取れなかったが、礫、青竜刀形石器、土器が重なる位置で検出したのは偶然ではなく、この土坑に関連する遺物と考える。

時　　期　出土した土器から時期は煉瓦台式期の新しい時期の土坑で、墓の可能性もあるとみられる。

（土肥）

P-36（図Ⅵ-159、表Ⅴ-２、図版 226）

位　置　B18　　**立　地**　標高 21.3m付近

平面形　円形？（大型柱穴状？）　　**規　模**　(1.80)/(1.08)×—/—×1.160m

特　　徴　B18 区の調査中に調査区北壁際に小礫集中を検出した。調査区北壁をセクションとして半截していったところ、周囲に褐色土の拡がりを検出した。大半が調査区外にあるため、平面形は不明である。断面を観察したところではオーバーハングする壁面がみられることから、フラスコ状土坑である可能性もあるが、P-28・39・90 と同様に未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が高い。盛土遺構を切って構築されている。土層は５層に分けた。埋め戻し土と考えられる。小礫集中はP-36 廃棄後の凹みに作られたと考えられる。覆土から剝片・礫が出土している。

時　　期　周囲の遺構の状況や盛土遺構を切って作られていることから、縄文時代後期前葉と考えられる。

（酒井）

P-39（図Ⅵ-160、表Ⅴ-２、図版 226）

位　置　B19　　**立　地**　標高 21.4m付近の盛土面

平面形　円形（大型柱穴状）　　**規　模**　1.70/1.08×1.06/0.80×1.185m

特　　徴　B19 区をＣライントレンチの北側ベルトを残して調査中、褐色土の拡がりを確認した。ベルト北側をセクションにして半截して調査を行ったところ、H-52・53 と盛土遺構を切って作られた柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、P-28・36・90 と同様に未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。覆土は 14 層に分層した。自然堆積と考えられる。底面からたたき石・剝片・礫、覆土からは土器（サイベ沢Ⅶ式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いなどから縄文時代後期前葉と考えられる。

（酒井）

P-50（図Ⅵ-160、表Ⅴ-２、図版 229）

位　置　C・D19　　**立　地**　標高 21.2m付近の盛土面

平面形　楕円形（小型土坑）　　**規　模**　(1.12)/(0.66)×(0.76)/(0.36)×0.597m

特　　徴　H-６の調査にあたりDラインを東西セクションとしてベルトを設定し調査を行っていたところ、断面に土坑の断面を確認した。北側と南側はH-６の調査により削平してしまっている。土坑上面に 60 点の小礫が集まる小礫集中を検出した。覆土は２層に分層した。埋め戻しと考えられる。覆土から土器（榎林式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　H-６覆土の盛土を掘り込んで作られていることから、縄文時代後期初頭と考えられる。

（酒井）

P-51（図Ⅵ-161、表Ⅴ-２、図版 229）

位　置　C21　　**立　地**　標高 21.1m前後の平坦地

平面形　楕円形（小型土坑）　　**規　模**　1.40/1.01×1.20/0.84×0.58m

特　　徴　Cライントレンチの南側、C21 区のH-20 上部から検出した土坑。覆土はⅣ・Ⅴ層の濁ったローム質土層中に炭化物を多く含む層が大きく２枚挟まる土層で、検出面に近い上部の炭層からはノダップⅡ式の 1211 大型片を検出し、それより下位の土層中からはサイベ沢Ⅶ式とみられる底部片 1212 を検出した。サイベ沢Ⅶ式の底部片は、H-20 覆土出土の破片と接合することから、H-20 を掘り起こした際の混入遺物と考えられる。

時　　期　この土坑の北西隣にP-29 が位置し、落ち込む土層の堆積には類似があることから、検出したノダップⅡ式より古い大安在Ｂ式の土坑である可能性が高い。　（土肥）

P-55（図Ⅵ-161、表Ⅴ-２、図版 230）

位　置　D22　　**立　地**　標高 20.3m前後のH-27 床面

平面形　楕円形（小型土坑）　　**規　模**　1.08/0.68×0.90/0.66×0.26m

特　　徴　H-27 床面南北の中心軸上の床面で検出した土坑。検出面上には大型の台石、扁平打製石器、砥石のほか、土器２点 1213、1215 を検出した。覆土上部はⅣ・Ⅴ層の濁ったローム質土層で、その層中に 1216 が入っていた。覆土中位にはⅥ層や炭化物が混じる層となり、覆土下位はローム質土層が堆積する。土坑の下には柱穴が重なっているとみられる。榎林式の住居址に同様の位置に土坑を伴う住居址があり、この土坑もH-27 の床面に付属する土坑と考えられる。

時　　期　この土坑の位置するH-27 と同時期で榎林式期の比較的古手と考えられる。　（土肥）

P-61（図Ⅵ-162、表Ⅴ-２、図版 231）

位　置　C19　　**立　地**　標高 20.9m前後の平坦地

平面形　長楕円形（中型土坑）　　**規　模**　1.58/1.40×0.76/0.69×0.42m

特　　徴　ノダップⅡ式期の焼失家屋H-７の調査中、炭化材層を切る本土坑を検出した。検出した位置が南北 20 ラインのトレンチの壁の位置で、断面上ではH-７と 15 の間に何らかの遺構が挟まるのは意識していたが、壁面を掘り下げたときに土坑を確認した。ノダップⅡ式の住居址を切っている時点で煉瓦台式の土坑と推測したが、調査状況の写真を観察すると、上部の煉瓦台式期の盛土より上面から掘り込まれていることを確認した。実測できた層厚は約 12 ㎝で、炭化物を含むⅣ・Ⅴ層の混土層で、遺物は出土していない。土坑の下には古い時期の柱穴跡が重なる。

時　　期　ノダップⅡ式期の住居址を切ることから煉瓦台式期の土坑と考えられる。　（土肥）

P-62（図Ⅵ-162、表Ⅴ-２、図版 231）

位　置　B21　　立　地　標高 21.2m前後の平坦地

平面形　円形（中型柱穴状）　　規　模　0.64/0.42×(0.50)/0.40×0.64m

特　　徴　榎林式期の住居址H-20 を調査中、南北断面の東側に現れた柱穴状の落ち込み。覆土は濁ったⅣ・Ⅴ層の混土層が主体で、炭化物粒も混じった土層である。H-20 よりかなり上面から掘り込まれているとみられ、P-17 や 35 のような地表面付近から掘られる煉瓦台式期の柱穴状の深い土坑とみられる。

時　　期　土坑の状況から煉瓦台式期の柱穴状の土坑と考えられる。　（土肥）

P-90（図Ⅵ-162、表Ⅴ-２、図版 238）

位　置　B18・19　　立　地　標高 21.4m付近の盛土面

平面形　円形（中型柱穴状）　　規　模　0.94/0.60×0.94/0.58×1.335m

特　　徴　B18・19 区でH-52 の調査中、床面に褐色土の拡がりを確認した。南側を半截して調査を行ったところ、柱穴状の遺構であることを確認した。H-52 の床面で検出したが、周囲の状況などから判断して、H-52 よりも新しい遺構と考えられる。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。調査の都合上、半截は行わなかったため、エレベーション図を掲載した。覆土から土器（榎林式）、スクレイパー・剝片・礫が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いなどから縄文時代中期後葉と考えられる。　（酒井）

P-92（図Ⅵ-163、表Ⅴ-２、図版 238）

位　置　C21・22　　立　地　標高 21.2m前後の平坦地

平面形　円形（中型柱穴状）　　規　模　(0.68)/0.43×(0.58)/0.37×0.48m

特　　徴　サイベ沢Ⅶ式期の住居址H-14 を調査中、南北断面の西側に現れた柱穴状の落ち込み。覆土は炭化物粒の混じる濁ったⅣ・Ⅴ層の混土層が主体である。土器片は出土していないが、H-14 よりかなり上面から掘り込まれているとみられ、付近のP-62 同様、地表面付近から掘られる煉瓦台式期の柱穴状の深い土坑とみられる。

時　　期　土坑の状況から煉瓦台式期の柱穴状の土坑と考えられる。　（土肥）

P-108（図Ⅵ-163、表Ⅴ-２、図版 241）

位　置　B19　　立　地　標高 20.7m付近のH-52 床面

平面形　円形（大型柱穴状）　　規　模　1.02/0.92×0.96/0.86×0.604m

特　　徴　P-124 を調査中に底面から半円形の褐色土の拡がりを検出した。P-108 がP-124 を切っていたことから、先にP-108 を半截し調査を進めた。その結果、円形の柱穴状の遺構であることを確認した。規模から考えると、未確認の住居跡の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴である可能性が考えられる。覆土は５層に分層した。覆土１層はH-52 の貼床、覆土２層は柱が抜けた後に入れられた埋め戻し土、覆土３～５層は掘りかたと考えられる。底面から男根状石製品が出土している。覆土からは土器（円筒土器上層式）、石錐・大型の台石片などの石器が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いや出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。　（酒井）

P-110（図Ⅵ-164、表Ⅴ-２、図版 242）

位　置　E19・20　　**立　地**　標高約 21.50mの平坦面

平面形　いびつな円形（小型土坑）　　**規　模**　0.86/0.68×(0.68)/(0.56)×0.16m

特　　徴　盛土１層の上位から、暗褐色土の拡がりを検出した。平成 29 年に設定したトレンチから土層を観察後、完掘した。おおよそ平坦な底面と、そこからやや開き気味に立ち上がる壁面を確認した。覆土１層は土坑周辺と同じⅥ層由来でやや腐植し、礫が混在する。覆土から土器（榎林式）、剝片が出土している。

時　　期　盛土１層上位からの検出であることや出土遺物から縄文時代中期後葉と考える。

（大泰司）

P-116（図Ⅵ-164、表Ⅴ-２、図版 242）

位　置　E18　　**立　地**　標高 20.8m付近

平面形　円形（小型土坑）　　**規　模**　1.10/0.56×(0.92)/0.44×0.583m

特　　徴　Eライン東西トレンチ調査で土坑とみられる褐色土の拡がりを確認した。Eライン東西メインセクションで半截して断面を確認したところ、皿状の土坑を確認した。P-117・130 を切って作られている。上面は遺跡の地形改変の際に削平されていると考えられる。覆土は３層に分層した。流れ込み土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層式）が出土している。

時　　期　他遺構との切り合いや出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。　（酒井）

P-118（図Ⅵ-164、表Ⅴ-２）

位　置　D21　　**立　地**　標高約 20.80mの平坦面

平面形　いびつな円形（中型柱穴状）　　**規　模**　0.60/0.46×0.56/0.46×0.49m

特　　徴　盛土１層の調査中、明褐色土の拡がりを検出した。北西側を掘り下げて土層を観察後、完掘した。凹凸のある底面で、そこからややまっすぐに立ち上がる壁面を一部確認した。覆土１層は土坑周辺と同じ土が由来で、小石が混じる。検出面には礫が密に分布し、焼けている。そこを掘り込んだものと考える。形状から柱穴と掘り方の痕跡とも思われるが、土層的な差異はなかった。覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、すり石・剝片・礫が出土している。

時　　期　盛土１層上位からの検出で、縄文時代中期中葉以後と考える。　（大泰司）

P-125（図Ⅵ-165、表Ⅴ-２、図版 244）

位　置　B19・20　　**立　地**　標高 20.8m前後の平坦地

平面形　円形か（小型土坑）　　**規　模**　(0.80)/0.69×(0.50)/(0.42)×0.09m

特　　徴　煉瓦台式期の住居址H-59 の床面炉跡付近に残るⅥ層部分から検出した推定直径が 80 cmほどの円形土坑。覆土はⅣ・Ⅴ層の混土層にⅥ層土が粒状に混入する単一層で、覆土から剝片が出土している。H-７との関係は不明で、H-51 より新しい可能性がある。

時　　期　H-51 より新しいことから縄文時代中期後半の土坑と考えられる。　（土肥）

P-127（図Ⅵ-165、表Ⅴ-２、図版 245）

位　置　B20　　**立　地**　標高 20.7m前後の平坦地

平面形　円形（小型土坑）　　**規　模**　0.98/0.84×0.96/0.80×0.50m

特　　徴　P-125 の下に重なる直径 98ｃｍの円形土坑。覆土はⅣ・Ⅴ層の混土層にⅥ層土が粒状に混入する単一層で、見晴町式土器とみられる小片が出土している。H-７との関係は不明である。

時　　期　出土遺物から縄文時代中期中葉の見晴町式期の土坑と考えられる。　（土肥）

P-135（図Ⅵ-165、表Ⅴ-２、図版 248）

位　置　B19　　**立　地**　標高 21.4m付近

平面形　不明（中型土坑）　　**規　模**　(1.56)/(1.16)×(0.32)/(0.24)×0.153m

特　　徴　B19 区を調査中、H-51・P-108・126 に切られている三日月形の褐色土の拡がりを検出した。半截して調査を行ったところ、底面の平坦な土坑であることを確認した。規模から考えると、フラスコ状土坑である可能性も考えられる。覆土は１層に分層した。自然堆積と考えられる。覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）が出土している。

時　　期　遺構との切り合いや出土遺物などから縄文時代中期中葉と考えられる。　（酒井）

P-141（図Ⅵ-166、表Ⅴ-２、図版 249）

位　置　B20　　**立　地**　標高 20.7m前後の平坦地

平面形　円形（小型柱穴状）　　**規　模**　0.42/0.20×0.38/0.17×0.44m

特　　徴　P-127 を切る柱穴状の土坑。覆土はⅣ・Ⅴ層の混土層で榎林式の破片が出土している。

時　　期　出土遺物から縄文時代中期後葉の土坑と考えられる。　（土肥）

P-152（図Ⅵ-166、表Ⅴ-２、図版 250）

位　置　B・C19・20　　**立　地**　標高 20.7m前後のH-7 床面

平面形　隅丸長方形（小型土坑）　**長軸方向**　南-北　　**規　模**　0.62/0.51×0.44/0.37×0.10m

特　　徴　H-７の床面からは同様の土坑を複数検出しているが、2018 年度の調査で確認した土坑は番号を付し調査している。覆土は混じりのないⅣ・Ⅴ層の混土層で、遺物は出土していない。

時　　期　付近に分布する同様の土坑も柱穴とみられる。時期は縄文時代中期前葉以前とみられる。
（土肥）

P-153（図Ⅵ-166、表Ⅴ-２、図版 251）

位　置　C20　　**立　地**　標高前後のH-７床面

平面形　円形（小型土坑）　　**規　模**　0.61/0.52×0.55/0.47×0.18m

特　　徴　H-７の床面から検出した円形の土坑。複数検出しているが、2018 年度の調査で確認した土坑は番号を付し調査している。覆土は少量の炭化物が混じるⅣ・Ⅴ層の混土層で、遺物は出土していない。

時　　期　付近に分布する同様の土坑も柱穴とみられる。時期は縄文時代中期前葉以前とみられる。
（土肥）

P-154（図Ⅵ-167、表Ⅴ-２、図版 250）

位　置　B20・21　　**立　地**　標高 20.6m前後の平坦地

平面形　円形（小型土坑）　　**規　模**　0.52/0.32×0.46/0.31×0.25m

特　　徴　H-36 の北側から検出した円形の土坑。覆土は少量の炭化物が混じる濁ったⅣ・Ⅴ層の混土層で、H-74 の覆土下位に似ている。遺物は出土していない。

時　　期　H-74 の柱穴である可能性があり、縄文時代中期後葉の榎林式期の土坑とみられる。

（土肥）

P-155（図Ⅵ-167、表Ⅴ-２、図版 251）

位　置　E18　　**立　地**　標高 20.6m付近

平面形　不定形（小型土坑）　　**規　模**　(1.28)―/×(1.14)/―×0.372m

特　　徴　E18 区を調査中にP-130 を切るP-116・117・155 の褐色土の拡がりを検出した。半截して調査を進めたところ、底面が平坦な土坑状の遺構であることを確認した。東側を風倒木によって攪乱されている。覆土は７層に分層した。覆土１～７層は埋め戻し土と考えられる。覆土から土器（円筒土器下層ｄ式）、たたき石、剝片・礫が出土している。

時　　期　出土遺物や周囲の遺構の状況から縄文時代前期後半～中期前葉と考えられる。（酒井）

P-168（図Ⅵ-168、表Ⅴ-２、図版 253）

位　置　D22　　**立　地**　標高 21.0m前後の平坦地

平面形　楕円形（小型土坑）　　**規　模**　(1.18)/0.84×(0.94)/0.48×0.28m

特　　徴　サイベ沢Ⅶ式期の住居址H-14 を調査中、床面検出の古い柱穴の間で検出した皿状に落ち込む土坑。覆土は周囲の柱穴が濁ったⅣ・Ⅴ層の混土層が主体なのに対し、濁りの少ないⅥ層土に粒状のⅥ層が混じった層で、古い土坑とみられる。覆土からは円筒土器下層式の破片も出土していることから、円筒土器下層期以前の土坑とみられる。

時　　期　サイベ沢Ⅶ式期より古い住居址の柱穴群に切られているため、円筒土器下層式期以前の土坑とみられる。（土肥）

P-170（図Ⅵ-168、表Ⅴ-２、図版 254）

位　置　E19　　**立　地**　標高約 20.90mの平坦面

平面形　いびつな楕円形（小型土坑）　　**規　模**　0.84/0.78×0.60/0.52×0.18m

特　　徴　H-15 の調査終了後、南西脇から、灰褐色土の拡がりを検出した。中央短軸方向に土層観察用の土手を残しその両側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからやや開き気味に立ち上がる壁面を確認した。覆土１層は土坑周辺と同じⅣ・Ⅴ層由来でやや腐植したものと考える。

時　　期　盛土１層より下位であり縄文時代中期中葉以前と考える。（大泰司）

P-175（図Ⅵ-168、表Ⅴ-２、図版 255）

位　置　F19　　**立　地**　標高約 20.90mの平坦面で盛土１層上面

平面形　円形に近い隅丸方形（小型土坑）　　**規　模**　0.66/0.52×0.65/0.52×0.08m

特　　徴　盛土１層の調査中、にぶい黄褐色土の中に橙色土の拡がりが分布し、それを掘り込むようにして礫がさほど混じらないにぶい黄褐色土が分布していた。長軸方向にベルトを残し掘り下げたところ、明瞭な底面とそこから立ち上がる壁面を検出した。橙色土は盛土１層が熱によって酸化し

た焼土と考える。覆土1層は盛土1層と同質だが礫の混在が少ない。覆土から剝片・礫が出土している。
時　　期　検出状況から縄文時代中期後葉と考える。　(大泰司)

P-177 (図Ⅵ-169、表Ⅴ-2、図版255)
位　置　B20　　立　地　標高20.5m前後の平坦地
平面形　円形（中型柱穴状）　　規　模　0.80/0.69×(0.52)/(0.46)×0.08m
特　　徴　H-74・84の床面から検出した長径約80㎝の円形の土坑。下には円筒土器下層式のフラスコ状土坑が重なる。覆土はⅣ・Ⅴ層の混土層にⅥ層粒が多く混じる土層で、遺物は出土していない。
時　　期　榎林期の住居に切られ、円筒土器下層期や円筒土器上層期のフラスコ状土坑の上に位置することから、中期中葉のサイベ沢Ⅶ式期から見晴町式期の土坑とみられる。　(土肥)

P-178 (図Ⅵ-169、表Ⅴ-2、図版255)
位　置　E19・20
立　地　標高約20.40mの平坦面。盛土1層より下。H-15の床面で検出したため標高が低い。
平面形　いびつな楕円形（小型土坑）　　規　模　(0.72)/(0.64)×0.64/0.42×0.18m
特　　徴　H-15の調査終了後、明褐色土のⅣ・Ⅴ層に床面ににぶい褐色土の拡がりを確認した。トレンチにも断面が現れていた。トレンチの断面を土層観察用に残して、掘り下げたところ底面とそこに連続する壁面を検出した。底面は多少の凹凸はあるがおおよそ平らである。炭と焼土粒が混在するが、周辺のⅥ層由来と考える。P-195やP-259の上位である。覆土から土器（円筒土器下層c式）、剝片・礫が出土している。
時　　期　H-15より古くP-195・259の上位であるため、縄文時代中期中葉と考える。（大泰司）

P-190 (図Ⅵ-169、表Ⅴ-2、図版257)
位　置　C・D20　　立　地　標高約21.00mの平坦面
平面形　円形または楕円形？（中型柱穴状）　　規　模　(0.74)/(0.74)×(0.26)/(0.26)×(0.03)m
特　　徴　H-63の調査終了後、H-63とH-47の壁面を精査していたところ、H-47壁面に褐色土層を検出した。西側を掘り下げたところ平坦面に窪みがある状況を確認し、そこから連続して立ち上がる壁面も確認した。残存する底面には二か所の窪みがあり、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土1層は埋め戻されたものかⅥ層が詰まる。覆土2層はⅥ層が腐植したと思われる。覆土3層は覆土2層にⅥ層がブロック状に混在する。性格は不明であり、H-47に掘削された住居の壁柱穴部分という可能性もある。P-193・199よりは新しい。遺物は出土していない。
時　　期　検出状況からH-47よりは古く、縄文時代中期中葉以前である。　(大泰司)

P-193 (図Ⅵ-170、表Ⅴ-2)
位　置　C・D20　　立　地　標高約21.00mの平坦面
平面形　円形または楕円形？（中型柱穴状）　　規　模　(0.66)/(0.46)×0.50/0.44×(0.50)m
特　　徴　H-63の調査終了後、H-63とH-47の壁面を精査していたところ、H-63とH-47の壁面に褐色土層を検出した。まずより新しいP-190を調査した後、H-63側の拡がりに着手した。西側を掘り下げたところ平坦面を確認し、そこから連続して立ち上がる壁面も確認した。残存する底面は壁際が窪む、壁面はほぼ垂直に立ち上がり、上端は崩れている。覆土1層は埋め戻されたものかⅥ層

が詰まる。覆土２層はⅥ層が腐植したと思われる。覆土３層は覆土２層にⅥ層がブロック状に混在する。性格は不明であり、H-47 に掘削された住居の壁柱的な溝部分という可能性もある。P-193・199 よりは新しい。覆土から剝片・礫が出土している。

時　　期　検出状況からH-47 よりは古く、縄文時代中期中葉以前である。　　（大泰司）

P-195（図Ⅵ-170、表Ⅴ-２）

位　置　E19・20　　**立　地**　標高約 20.60mの平坦面。盛土１層より下。

平面形　楕円形を推定する（大型土坑）　　**規　模**　2.50/(2.10)×1.44/1.23×0.47m

特　　徴　H-15 の調査終了後、この南側壁面の周辺を精査したところ、このあたりの灰白色土とⅥ層に明褐色土層を確認した。北側を掘り下げたところ平坦な底面とそこから立ち上がる壁面を確認した。完掘後、南側に付随する小土坑について調査したところP-195 とは別のものであり、H-89 のＨＰ９とした。覆土１～３層とも、同じ炭混じりの明褐色土である。Ⅵ層のブロック状の拡がりの割合から分層した。盛土１層の下あるいは下位からⅥ層を掘り込み、これがそのまま再流入すると、このような堆積となる可能性がある。 覆土から土器（円筒土器下層ｃ式）、スクレイパー・剝片・礫が出土している。

時　　期　盛土１層が完全に形成される以前のものと考える。また腐植土の拡がりがないため、H-15 よりも古い可能性がある。すると縄文時代中期中葉以前となる。　　（大泰司）

P-201（図Ⅵ-170、表Ⅴ-２）

位　置　C・D20　　**立　地**　標高約 20.30mの平坦面。

平面形　いびつな楕円形（大型土坑）　　**規　模**　2.00/2.30×1.64/1.66×0.60m

特　　徴　H-15・63 の調査が終了し、北側壁面を精査し、検出した土坑P-109・190・193・197・199 の調査を終えたところで、灰白色土のⅥ層 に黄色～褐色味の強い土が拡がっている状況を確認した。盛土１層、盛土２層とも無関係な地点で、自然地形的に高まっていた部分のⅥ層に掘り込んだ可能性がある。不整な形状であったが南東側を掘り下げた。するとおおよそ平らな底面を検出した。北東側の壁面は上記の土坑群が掘り込まれており判然としなかった。南西側の壁面は一旦拡がりながら立ち上がり、20 cmほどのところからすぼまる。完掘したところ、南側はややすぼまりながら、北側はやや拡がりながら、おおよそ真っ直ぐに立ち上がる。両壁面際の覆土１層は周辺のⅥ層の崩落・流入と考える。覆土２層はⅥ層の大型のブロック、覆土３層は炭の塊、覆土４層は炭混じりのⅥ層由来の土、覆土５層はⅥ層ブロックと炭の塊の混在である。覆土２～５層は覆土中央にまとまっている。掘り返された可能性が高い。覆土６層は壁や上面に見られた、Ⅵ層の流入で水の作用が関係している可能性がある。覆土から土器（円筒土器上層ａ式）、スクレイパー・たたき石などの石器が出土した。

時　　期　不明だが、縄文時代中期前葉のH-63 よりは古く、出土遺物から中期前葉と考える。
（大泰司）

P-212（図Ⅵ-171、表Ⅴ-２、図版 260）

位　置　E19　　**立　地**　標高約 20.40mの平坦面

平面形　いびつな楕円形か（小型土坑）　　**規　模**　0.66/0.60×0.52/0.44×0.18m

特　　徴　H-15 の調査終了後、床面を精査していたところ、明褐色土の拡がりを検出した。H-15 のＨＰ39 と切りあっており、より古いものである。南側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから連続してまっすぐに立ち上がる壁面も確認した。覆土１層はⅥ層由来土と考える。混在する比率

が若干異なるものが互層となり、埋め戻しの可能性がある。覆土から礫が出土している。
時　　期　検出状況からH-15より古く、縄文時代中期中葉以前と考えられる。　　(大泰司)

P-214 (図Ⅵ-171、表Ⅴ-2、図版261)
位　置　D19・20　　立　地　標高約20.30mの平坦面。H-15・63より下位。
平面形　隅丸方形 (中型柱穴状)　　規　模　0.61/0.56×0.58/0.54×0.37m
特　　徴　灰白色土～浅黄褐色土をしたⅥ層に明褐色土が拡がっていた。隅丸方形だが、かなり四角形に近い。南側に付随して柱穴の抜き取り痕のような痕跡があった。そこも含めて東側を掘り下げた。底面と真っ直ぐ立ち上がる壁面を確認した。付属する部分は抜き取り痕ではなくなにか自然の穴を横から敲いて固めたような状態であった。覆土1～3層のいずれもⅥ層がブロック状に混じり込んだ覆土である。覆土2層に多く、覆土3層に少ない。覆土1層に炭化物が混在している。土坑本体は水平な堆積であるが、付属部分は側面から敲きこんだように土層が見える。覆土から土器 (円筒土器下層d式)、剝片・礫が出土している。
時　　期　検出状況からH-15よりは古く、覆土に腐植がみられないので、検出順の通りと考える。縄文時代中期中葉以前で、出土遺物から前期後半の可能性がある。　　(大泰司)

P-215 (図Ⅵ-171、表Ⅴ-2、図版261)
位　置　E19　　立　地　標高約20.20mの平坦面
平面形　いびつな円形 (中型柱穴状)　　規　模　0.56/0.44×0.56/0.40×0.44m
特　　徴　H-104の調査終了後、床面を精査したところ、暗褐色土の拡がりを検出した。北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから連続してやや開きながら立ち上がる壁面も確認した。底面には柱穴様の穴が1か所ある。覆土1層はⅥ層由来土がやや腐植したものと考える。柱穴と掘り方の痕跡という可能性もある。H-47・104よりは古い。覆土から土器 (サイベ沢Ⅶ式)、剝片・礫が出土している。
時　　期　H-47・104より古く、検出状況や出土遺物から縄文時代中期中葉である。　(大泰司)

P-216 (図Ⅵ-172、表Ⅴ-2、図版261)
位　置　D20・E20・21　　立　地　標高約20.60mの平坦面でH-44の床面
平面形　いびつな楕円形 (小型土坑)　　規　模　(1.06)/(0.95)×1.28/1.22×0.22m
特　　徴　H-44の調査終了後、床面を精査していたところ、明褐色～褐色土の拡がりを検出した。新しい遺構であるH-90・93の調査終了後、北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから連続しておおよそまっすぐ立ち上がる壁面も確認した。壁面にはすぼまる場所もある。覆土1層はⅥ層のそのものに近い。覆土2層はⅥ層がずれてきた様相である。覆土3層はⅥ層主体土がやや腐植した様相である。覆土4層はⅥ層主体土だが炭化物が混じる。埋め戻しの可能性もある。H-90・93よりは古い。覆土から土器 (円筒土器上層式)、石鏃・石斧・凹み石などの石器が出土している。
時　　期　検出状況からH-90・93より古く、出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。(大泰司)

P-219（図Ⅵ-172、表Ⅴ-２、図版 262）
位　置　C21　　**立　地**　標高 21.0m前後の平坦地
平面形　円形（小型柱穴状）　　**規　模**　0.42/0.34×0.37/0.30×0.30m
特　　徴　円筒土器下層ｄ式期のフラスコ状土坑の南側から検出した小柱穴。覆土は濁ったⅣ・Ⅴ層の混土層が主体で、遺物は出土していない。円筒土器下層ｄ式期よりも新しい柱穴とみられる。この柱穴を検出した付近は、煉瓦台式期以前の遺構をフラスコ状土坑以外に確認していないことから、建物の柱穴ではないとみられる。
時　　期　円筒土器下層ｄ式期のフラスコ状土坑を切っていることから、それ以降の縄文時代中期の柱穴とみられる。（土肥）

P-221（図Ⅵ-172、表Ⅴ-２、図版 262）
位　置　D21　　**立　地**　標高約 20.40mの平坦面
平面形　いびつな楕円形（小型土坑）　　**規　模**　0.94/0.86×0.98/0.60×0.36m
特　　徴　H-104 の調査終了後、灰白色の拡がりを検出した。西側を掘り下げた。中央が若干盛り上がるが、おおよそ平坦な底面と、そこから連続してまっすぐに立ち上がる壁面を確認した。壁面は上位で外側に拡がる。覆土はⅥ層の崩落土である覆土１層が上位を占める。中位から底面にかけて、Ⅵ層由来の覆土２・３層が分布する。覆土２層はⅥ層が細かいブロック状でよく混在する。底面には、Ⅵ層の崩落ブロックである覆土１層が一部に分布する。覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、石鏃・スクレイパーなどの石器が出土している。
時　　期　H-104 より古く、出土遺物から縄文時代中期中葉と考える。（大泰司）

P-222（図Ⅵ-173、表Ⅴ-２、図版 263）
位　置　E・F18　　**立　地**　標高約 20.60mの平坦面
平面形　いびつな楕円形（小型土坑）　　**規　模**　0.74/0.55×0.40/0.34×(0.26)m
特　　徴　盛土１層の調査中、大型の礫を検出した。立っている状況だった為、丁寧に周囲を掘り下げたところ、下に褐色土の拡がりを検出した。北側を掘り下げた。中央が若干盛り上がるが、おおよそ平坦な底面と、そこから連続してやや開きながら立ち上がる壁面を確認した。覆土は盛土１層由来である。壁面の平面形がいびつであり、自然現象も考えたが、おおよそ垂直に立っていたため人為的なものとして記録した。覆土から礫が出土している。
時　　期　検出状況から盛土１層の形成過程で作られており、縄文時代中期後葉～後期初頭である。（大泰司）

P-224（図Ⅵ-173、表Ⅴ-２、図版 263）
位　置　E21　　**立　地**　標高約 20.20mの平坦面
平面形　いびつな楕円形の可能性（小型土坑）　　**規　模**　1.12/0.97×(0.37)/(0.28)×(0.26)m
特　　徴　H-104 の調査終了後、床面を精査していたところ、暗褐色土の拡がりを検出した。北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから連続してやや開きながら立ち上がる壁面も確認した。H-47・90・93・104・107 より古い。覆土１層はⅥ層由来土がやや腐植したものと考える。覆土から剝片・礫が出土している。
時　　期　検出状況からH-47・90・93・104・107 より古く、縄文時代中期中葉以前である。（大泰司）

P-225（図Ⅵ-173、表Ⅴ-２、図版 263）

位　置　C・D20　　立　地　標高約 20.40mの平坦面。盛土１層、盛土２層とも無関係な地点で、自然地形的に高まっていた部分のⅥ層に掘り込んだ可能性がある。

平面形　いびつな円形（小型土坑）　　規　模　0.73/0.86×0.66/0.80×(0.57)m

特　　徴　H-15・63 の調査終了後、北側壁面を精査していたところ、灰白色土のⅥ層に褐色土の覆土１・２層の拡がりを検出した。南側半分を掘り下げたところ、おおよそ平らな底面とそこから窄まり気味に立ち上がる壁面を確認した。炭化物とⅥ層がブロック状に混在した覆土１・２層が主体である。覆土２層のほうがⅥ層ブロックの混在が多い。覆土３層は水の作用によるものかⅥ層土の流入である。埋戻しの可能性がある。覆土から土器（円筒土器下層式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　不明だが、検出した順番から、縄文時代中期中葉のH-15 や中期前葉のH-63 より古い可能性があり、出土遺物から前期後半と考えられる。　（大泰司）

P-230（図Ⅵ-174、表Ⅴ-２、図版 264）

位　置　D・E21　　立　地　標高約 20.50mの平坦面

平面形　いびつな方形（小型土坑）　　規　模　1.42/1.32×1.04/0.94×(0.60)m

特　　徴　H-104 の調査終了後、明褐色土の拡がりを検出した。北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから連続してまっすぐに立ち上がる壁面を確認した。覆土はⅥ層の崩落土である覆土１層が上位を占め、間に腐植土の覆土３層が入り込む。上位から中位にかけて炭混じりのⅥ層由来の覆土２層拡がる。一部に腐植土の覆土３層を挟んで、覆土下位にはⅥ層由来の覆土４層が分布する。覆土１・２層に比べて覆土４層はⅥ層のブロック混在が少ない。覆土から土器（円筒土器上層式）、石槍・スクレイパー・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　H-104 より古く、周囲の類例や出土遺物から縄文時代中期前葉と考える。

（大泰司）

P-236（図Ⅵ-174、表Ⅴ-２、図版 266）

位　置　E19・20

立　地　標高約 20.30mの平坦面。盛土１層下位～盛土２層上面。P-195・259 の上位。

平面形　隅丸方形（小型土坑）　　規　模　0.56/0.58×0.52/0.50×(0.22)m

特　　徴　H-15 の調査終了後、床面を精査していたところ、周囲のⅥ層より、褐色味の強い、明褐色土の拡がりを検出した。覆土南側を掘り下げたところ、明瞭な底面とそれに続く壁面を検出した。炭化物と周辺のⅥ層がブロック状に混在していた。底面は南東側が若干高まる。覆土から土器（円筒土器上層式）、扁平打製石器・剝片・礫が出土している。

時　　期　Ⅵ層ブロックが明瞭で、Ⅵ層を掘り込んだ可能性が高い。H-15 以前のものであり、出土遺物から縄文時代中期前葉である。　（大泰司）

P-243（図Ⅵ-174、表Ⅴ-２、図版 267）

位　置　F18　　立　地　標高約 20.40mの平坦面。盛土１層下位。

平面形　不整な円形（小型土坑）　　規　模　0.72/0.61×(0.46)/(0.42)×(1.00)m

特　　徴　H-103 の平面形を精査中に、H-103 の覆土より色調がやや明るい明褐色土の拡がりを検出した。もともと不整な円形に近かったがH-103 の掘り込みで南半分が無くなっている状況であった。H-103 の調査終了後、東側半分を掘り下げた。明瞭な底面とそこから連続する壁面を確認し

て土坑と判断した。H-103 より古い。Ⅵ層由来の土から成り立ち、炭化物が混じる。底面はおおよそ平坦である。 覆土から礫が出土している。

時　　期　H-103 や盛土１層下位より古い為、縄文時代中期中葉以前である。　　（大泰司）

P-260（図Ⅵ-175、表Ⅴ-２、図版 271）

位　置　C21　　立　地　標高 20.6m前後の平坦地

平面形　楕円形（小型柱穴状）　　規　模　0.63/0.52×0.48/0.38×0.32m

特　　徴　H-14 と 20 の境目から検出した楕円形の土坑。覆土はⅤ層とⅥ層がブロック状に堆積する。遺物は出土していない。

時　　期　サイベ沢Ⅶ式期の住居址に壊されていることから円筒土器上層期以前の土坑とみられる。

（土肥）

P-262（図Ⅵ-175、表Ⅴ-２、図版 271）

位　置　C21　　立　地　標高 20.7m前後の平坦地

平面形　円形（小型柱穴状）　　規　模　0.34/0.26×0.32/0.25×0.24m

特　　徴　H-83 の東壁から検出した小柱穴。覆土はⅤ層と灰白色のⅥ層、鉄を含む砂のⅦ層土の混土層、遺物は円筒土器上層式の破片が出土している。

時　　期　見晴町式の住居址H-83 の柱穴であった可能性がある。　　（土肥）

P-263（図Ⅵ-175、表Ⅴ-２、図版 271）

位　置　E・F20・21　　立　地　標高約 20.60mの平坦面

平面形　楕円形を推定（小型土坑）　　規　模　(1.30)/(1.18)×(0.86)/(0.66)×0.48m

特　　徴　H-108 の調査終了後、東壁面に明褐色土の拡がりを検出した。残存する覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面とそこからやや開き気味に立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の覆土１・２層である。いずれも炭混じりで、Ⅵ層の細かいブロックと炭の混入率がそれぞれ若干異なる。覆土から石錐・たたき石・剝片・礫が出土している。

時　　期　H-108 より古く、縄文時代中期中葉以前と考える。　　（大泰司）

P-269（図Ⅵ-176、表Ⅴ-２、図版 272）

位　置　C19　　立　地　標高 20.6m前後の平坦地

平面形　円形（中型柱穴状）　　規　模　0.51/0.33×0.40/0.32×0.08m

特　　徴　H-７の床面、石囲炉の南西角から検出した円形の浅い土坑。覆土はⅥ層土主体で、坑底から礫を３点検出した。

時　　期　ノダップⅡ式期の住居址床面から検出しており、同住居址の付属遺構の可能性がある。

（土肥）

P-270（図Ⅵ-176、表Ⅴ-２）

位　置　F20　　立　地　標高約 20.05mの平坦面

平面形　方形（小型土坑）　　規　模　0.76/0.71×0.74/0.68×(0.16)m

特　　徴　H-108 とP-276 の調査終了後、P-272 の北東壁面に明褐色土層を検出した。残存する覆土の東側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面とそこからやや開き気味に立ち上がる壁面を確認した。P-276 より新しい。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の覆土１・２層である。いずれも炭混じり

で、覆土２層はⅥ層の細かいブロックが目立つ。覆土から土器（円筒土器下層式）、剝片・礫が出土している。

時　　期　H-108 より古く、出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。　（大泰司）

P-271（図Ⅵ-176、表Ⅴ-２、図版 273）

位　置　F20　　立　地　標高約 20.40mの平坦面

平面形　いびつな円形（中型土坑）　　規　模　(1.40)/(1.13)×(0.20)/(0.14)×(0.24)m

特　　徴　H-108 の調査終了後、南側壁面に明褐色土層を検出した。残存する覆土の東側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからやや拡がりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来で炭混じりの覆土１層が主体である。覆土から石核・剝片・礫が出土した。

時　　期　H-108 より古く、縄文時代中期中葉以前と考える。　（大泰司）

P-272（図Ⅵ-177、表Ⅴ-２、図版 273）

位　置　F20　　立　地　標高約 20.10mの平坦面

平面形　いびつな方形（小型土坑）　　規　模　1.28/1.32×0.24/0.14×0.27m

特　　徴　H-108 の調査終了後、床面に明褐色土の拡がりを検出した。残存する覆土の西側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからほぼまっすぐに立ち上がる壁面を確認した。P-274・276 より新しい。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の覆土１・２層が主だが、上部の覆土１層は炭混じりで、腐植土層の覆土３層とともに薄層で互層となる。下部はⅥ層によって構成される覆土２層を主体とする。覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、石斧・たたき石などの石器が出土している。

時　　期　H-108 より古く、出土遺物から縄文時代中期中葉と考える。　（大泰司）

P-273（図Ⅵ-177、表Ⅴ-２、図版 273）

位　置　B22　　立　地　標高 21.1m前後の平坦地

平面形　不正形（小型土坑）　　規　模　0.92/0.67×0.82/0.60×0.32m

特　　徴　H-46 の南西角から検出した不正形の土坑。覆土はⅤ層土が主体で、それにⅥ層が混じる層で埋まる。遺物は出土していない。

時　　期　H-46 よりも古い土坑で、円筒土器上層期以前の土坑とみられる。　（土肥）

P-274（図Ⅵ-177、表Ⅴ-２、図版 273）

位　置　F20　　立　地　標高約 20.05mの平坦面

平面形　いびつな方形の可能性（中型土坑）　　規　模　(1.49)/1.52×(1.36)/1.26×(0.18)m

特　　徴　H-108 と P-272 の調査終了後、P-272 の北と東の面に明褐色土の拡がりを検出した。H-108・P-272 より古い。残存する覆土の西側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからほぼまっすぐに立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の覆土１・２層である。いずれも炭混じりで、覆土２層はⅥ層の細かいブロックが目立つ。遺物は出土していない。

時　　期　H-108 や P-272 より古く、縄文時代中期中葉以前と考える。　（大泰司）

P-359（図Ⅵ-178、表Ⅴ-２、図版 293）
位　置　F・G19　　立　地　標高約 20.50mの盛土１層の平坦面
平面形　いびつな楕円形か（小型土坑）　　規　模　1.24/0.88×1.08/0.74×(0.20) m
特　　徴　現場で盛土１層とした盛土に連続し、かつ色調が似た盛土遺構を調査中、明黄褐色土の拡がりを検出した。残存する覆土の南側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこから拡がりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の盛土遺構土が起源である。覆土１層は炭が、覆土２層はⅥ層由来の礫が地山の細かいブロックと混じる。覆土３層は底面下のⅣ・Ⅴ層由来の土である。覆土から土器（円筒土器下層式）、剝片・礫が出土している。
時　　期　盛土１層を掘り込んでいることから縄文時代中期中葉以降と考える。　　（大泰司）

P-360（図Ⅵ-178、表Ⅴ-２、図版 293）
位　置　F20・21　　立　地　標高約 20.50mのⅥ層の平坦面
平面形　いびつな楕円形か（中型土坑）　　規　模　(1.32)/(1.44)×1.16/1.20×(0.40) m
特　　徴　H-108 の調査後、壁面東側に明褐色土層を検出した。残存部分はⅥ層を掘りこんでいる残存する覆土の東側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからまっすぐ立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の盛土遺構土起源である。炭が混じる。覆土から土器（円筒土器上層ａ式）、石鏃・すり石などの石器が出土している。
時　　期　縄文時代中期中葉の土器が覆土にまとめて捨てられていたH-108 より古い。出土遺物から中期前葉と考える。　　（大泰司）

P-376（図Ⅵ-179、表Ⅴ-２、図版 298）
位　置　F・G20　　立　地　標高約 20.60mのⅥ層の平坦面でH-133・138 より上位
平面形　いびつな楕円形（中型土坑）　　規　模　1.50/1.34×1.30/1.38×(0.28) m
特　　徴　盛土１層と２層の境目位を調査中、黒褐色土の拡がりを検出した。残存する覆土の西側を掘り下げた。おおよそ平坦だがいびつな底面と、そこからやや拡がりながら立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じ褐色土からなる盛土由来、或いはH-133・138 の覆土由来の土である。炭が混じる。覆土から土器（大安在Ｂ式）、たたき石・剝片・礫が出土している。
時　　期　縄文時代中期中葉の土器が覆土にまとめて捨てられていたH-133・138 より新しい。出土遺物から中期後半と考える。　　（大泰司）

P-391（図Ⅵ-179、表Ⅴ-２、図版 301）
位　置　F19・20　　立　地　標高約 20.70mのⅥ層の平坦面
平面形　いびつな楕円形か（小型土坑）　　規　模　(1.16)/(1.14)×1.28/1.22×(0.80) m
特　　徴　H-108 の調査後、壁面西側に明褐色土層を検出した。残存部分はⅥ層を掘りこんでいる。残存する覆土の北側を掘り下げた。おおよそ平坦な底面と、そこからまっすぐ立ち上がる壁面を確認した。覆土は土坑周辺と同じⅥ層由来の盛土遺構土起源である。覆土３層はⅥ層の流入で、覆土１・２層は炭が混じる。覆土から土器（円筒土器下層式）、スクレイパー・加工痕のある礫・剝片・礫が出土している。
時　　期　縄文時代中期中葉の土器が覆土にまとめて捨てられていたH-108 より古い。出土遺物から前期後半と考える。　　（大泰司）

P-472（図Ⅵ-180、表Ⅴ-2、図版319）

位　置　H22　　立　地　標高約19.40mの平坦面

平面形　卵型に近いいびつな楕円形（小型土坑）　　規　模　1.06/0.94×0.84/0.72×(0.11)m

特　　徴　H-140を調査中、H22区に焼けたと思われる土坑を検出した。覆土の北側を掘り下げた。中央が窪む底面とゆるく開く壁面を確認し、全面が焼けていることを思わせる酸化した鉄分の分布を伴っていた。覆土2・3層は土坑覆土、覆土1層は底面の焼けた部分を示すと考えられ、炭が混じり、覆土3層は特に目立って炭が混じる。覆土は周辺と同じⅥ層由来と考える。H-140に伴うものか、H-140自体が削平の連続であるため判然としなかった。盛土2層の形成以前の人為的な現象として別に記載した。覆土から土器（サイベ沢Ⅶ式）、北海道式石冠・剝片・礫が出土している。

時　　期　H-140と同様に盛土2層より古い。出土遺物から縄文時代中期中葉と考える。

（大泰司）

P-597（図Ⅵ-180、表Ⅴ-2）

位　置　B19　　立　地　標高21.7m前後の平坦地

平面形　推定円形（中型柱穴状）　　規　模　0.60/0.46×不明/0.44×0.92m

特　　徴　2017年の調査時に調査区北壁のP-17の東隣で検出して測量も終えていたが、番号の間違えから土坑の最終番号に振り替えることになった。掘り込み面は表土付近に達しており、検出面上の小礫集中の上面は削平を受けている。開口部は皿状に開き、その下はほぼ垂直に掘り下げられる。覆土は主にⅣ・Ⅴ層の濁った混土層で、下部はH-51の覆土に達する。東側を抜根により一部壊されている。目立った遺物は出土していないが、構造は西に並ぶP-17と同じである。

時　　期　土坑の状況から縄文時代後期前葉の墓坑である可能性がある。　（土肥）

6　焼土（図Ⅵ-181～186、表Ⅴ-3、図版341・342）

調査区東側の範囲において焼土は16か所を検出している。未確認の住居の炉跡である可能性のあるものも含まれている。帰属する時期は前期後半～中期中葉2か所、中期前葉1か所、中期中葉2か所、中期後葉3か所、後期前葉8か所である。焼骨片を含むもの2か所、小礫を多く含むもの1か所、石囲炉の炉石が抜き取られた可能性があるもの2か所を確認している。　（酒井）

F-5（図Ⅵ-181、表Ⅴ-3、図版341）

位　置　E19・20

立　地　標高約20.90mの平坦面。盛土1層下位～盛土2層上面。P-195・259の上位。

平面形　不整な長方形　　規　模　(0.66)×0.42×0.16m

特　　徴　盛土1層下位～盛土2層上面にかけて橙色の土層を検出した。酸化した盛土層、焼土の可能性があった。周囲には礫があり、F-5の№1、№2として取り上げた。2点とも台石で№1は大型のものである。中央にサブトレンチを入れて土層を確認した。漸移的な色調の変化からその場で焚いた焼土と判断した。1層とした土層には1%以下の混在だが、焼骨片が観察できた。2層とした土層および下位の盛土層には、炭化物と焼土粒が確認できた。確認面付近が焼成面と考える。周辺から番号を付けなかった浅く焼けた焼土を多数検出したが、F-5は際立って橙色味が強い焼土である。

時　　期　検出状況から縄文時代中期後半と考える。　（大泰司）

F－6（図Ⅵ-181、表Ⅴ－３）
位　置　C21　　立　地　標高 21.5m前後の平坦地
平面形　楕円形　　規　模　0.60×0.47/0.02m
特　　徴　2017 年のCラインのトレンチで検出した焼土。トレンチから出土する煉瓦台式の遺物を取り上げた下から検出した。焼土の厚さは２㎝と薄いが、ここで火を使った痕跡とみられる。
時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代後期前葉の煉瓦台式期とみられる。　（土肥）

F－7（図Ⅵ-182、表Ⅴ－３、図版 341）
位　置　D22　　立　地　標高 20.7m前後の平坦地
平面形　楕円形　　規　模　0.53×0.41×0.03m
特　　徴　2017 年の南北 22 ラインのトレンチで検出した焼土。H-14 覆土中位に廃棄された焼土とみられる。焼土には焼骨が混じるのも確認した。
時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代中期中葉のサイベ沢Ⅶ式期の廃棄焼土とみられる。
（土肥）

F－8（図Ⅵ-182、表Ⅴ－３、図版 341）
位　置　F21　　立　地　標高 19.3m前後の平坦地
平面形　不整形　　規　模　1.21×0.62×0.02m
特　　徴　2017 年のFライントレンチから検出した不整形の廃棄焼土。焼土の北側はトレンチの外に拡がる。焼土の厚さは３㎝と薄い。
時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代中期後葉の廃棄焼土とみられる。　（土肥）

F－9（図Ⅵ-182、表Ⅴ－３）
位　置　D22　　立　地　標高 21.2m前後の平坦地
平面形　楕円形　　規　模　0.43×0.34×0.09m
特　　徴　2017 年にD22 区から出土した煉瓦台式期の遺物を取り上げた下から検出した焼土。焼土の厚さは９㎝と厚く、火を使った痕跡とみられる。
時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代後期前葉の煉瓦台式期の焼土とみられる。
（土肥）

F－10（図Ⅵ-183、表Ⅴ－３）
位　置　C20　　立　地　標高 21.2m前後の平坦地
平面形　円形　　規　模　0.39×0.38×0.08m
特　　徴　2017 年８月末にC20 区から出土した煉瓦台式期の遺物を取り上げた下から検出した焼土。焼土の厚さは８㎝と厚く、火を使った痕跡とみられる。
時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代後期前葉の煉瓦台式期の焼土とみられる。
（土肥）

F－11（図Ⅵ-183、表Ⅴ－３、図版 341）
位　置　C21　　立　地　標高 21.3m前後の平坦地
平面形　楕円形　　規　模　0.79×0.63×0.06m
特　　徴　2017 年にC21 区から出土する煉瓦台式期の遺物を取り上げた下から検出した焼土。焼

土の厚さは6㎝と厚く、火を使った痕跡とみられる。

時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代後期前葉の煉瓦台式期の焼土とみられる。

（土肥）

F-12（図Ⅵ-183、表Ⅴ-3、図版341）

位　置　D23　　立　地　標高20.8m前後の平坦地

平面形　楕円形　　規　模　0.48×0.43×0.04m

特　　徴　H-28掘削中D23区の覆土上位から検出した焼土。大安在B式土器が落ち込む覆土から検出された焼土で、ここで火を使った痕跡とみられる。

時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代中期後葉の大安在B式期の焼土とみられる。

（土肥）

F-14（図Ⅵ-184、表Ⅴ-3）

位　置　D21　　立　地　標高21.1m前後の平坦地

平面形　楕円形　　規　模　0.63×(0.38)×0.04m

特　　徴　D21区から出土する煉瓦台式期の遺物の脇で検出した焼土。西側は抜根により壊されている。焼土の厚さは4㎝と薄いが、ここで火を使った痕跡とみられる。

時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代後期前葉の煉瓦台式期の焼土とみられる。

（土肥）

F-15（図Ⅵ-184、表Ⅴ-3）

位　置　C・D21　　立　地　標高21.1m前後の平坦地

平面形　楕円形　　規　模　0.50×0.25×0.04m

特　　徴　C21区から出土する煉瓦台式期の遺物の脇から検出した焼土である。東側はトレンチの壁面にあたり、その後は未調査である。厚さは4㎝と薄いが、ここで火を使った痕跡とみられる。

時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代後期前葉の煉瓦台式期の焼土とみられる。

（土肥）

F-16（図Ⅵ-184、表Ⅴ-3）

位　置　C21　　立　地　標高21.2m前後の平坦地

平面形　楕円形　　規　模　0.57×0.54×0.08m

特　　徴　C21区から出土する煉瓦台式期の遺物を取り上げた下から検出した焼土。焼土の厚さは8㎝と厚く、ここで火を使った痕跡である。

時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代後期前葉の煉瓦台式期の焼土とみられる。

（土肥）

F-17（図Ⅵ-184、表Ⅴ-3）

位　置　C21　　立　地　標高21.3m前後の平坦地

平面形　楕円形　　規　模　0.70×(0.32)×0.08m

特　　徴　2017年にD22区から出土する煉瓦台式期の遺物を取り上げた下から検出した焼土。西側はトレンチにあたる。焼土の厚さは8㎝と厚く、焼土の色がはっきりしていることから恒常的に使われていた炉跡にみえる。周囲の遺物集中域と重ねて考えると、この場所に煉瓦台式期の住居址があった可能性があり、F-16とともに炉として機能していた焼土であった可能性がある。

時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代後期前葉の煉瓦台式期の焼土とみられる。

（土肥）

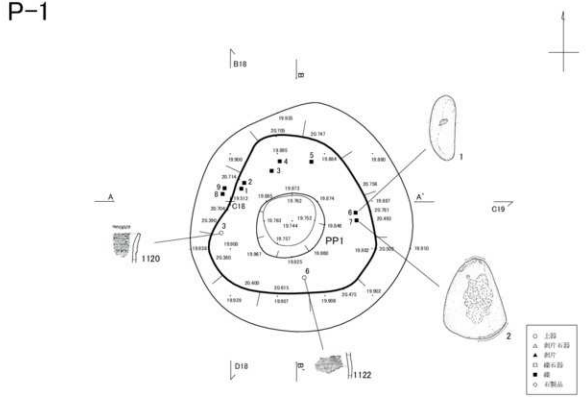
F－22（図Ⅵ-185、表Ⅴ－３、図版 342）
位　置　B19　　立　地　標高 20.9m前後の平坦地
平面形　楕円形　　規　模　0.42×(0.23)×0.09m
特　　徴　B19 区のH－53 検出時に住居址より 10 cmほど上面で検出した焼土。上面に炭混じりの層が堆積し、下位は焼土の厚さが 7.5 cmあり良く焼けている。焼土の厚さは９cmと厚い。周囲からは縄文時代中期前葉の遺物が出土しているため、その時期の焼土とみられる。
時　　期　周囲で出土している土器から縄文時代中期前葉の焼土とみられる。　（土肥）

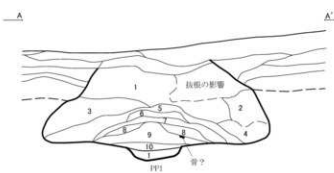
F－24（図Ⅵ-185、表Ⅴ－３）
位　置　D・E22　　立　地　標高 20.6m前後の住居址の窪み中央の平坦地
平面形　不整形　　規　模　1.04×0.87×0.08m
特　　徴　2018 年にH－14 の窪みの中央付近で検出した小砂利を敷いた焼土。この焼土の真下からはサイベ沢Ⅶ式土器の 376 が一括出土している。2017 年の調査では、この焼土の拡がる範囲の上から見晴町式の大型土器の口縁部 352 の破片が出土しており、サイベ沢Ⅶ式の新段階～見晴町式期の間の焼土とみられる。小砂利も被熱しており、ここで火を使った痕跡とみられる。
時　　期　焼土の上下層で検出した土器から、サイベ沢Ⅶ式の新段階～見晴町式期の間とみられる。
（土肥）

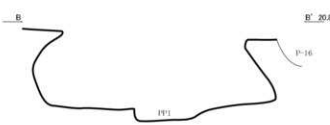
F－26（図Ⅵ-186、表Ⅴ－３、図版 342）
位　置　D・E20　　立　地　標高約 20.50mの平坦面
平面形　いびつな円形　　規　模　0.70/0.46×0.55/0.60×0.18m
特　　徴　H－15 の調査中、覆土中から東壁面にかけて精査していたところ、明赤褐色～橙色土層を検出した。土中の鉄分の酸化、焼土と考えられ、その南側を掘り下げて土層を観察したのち、完掘した。皿状にくぼみ中央がさらに一段くぼんだ部分に焼土が拡がっていることがわかった。縁取るように長楕円形のくぼみが北から西側壁にめぐり、石囲炉の炉石抜き取りを思わせた。住居の炉であることも想定し、周辺の柱穴様土坑（ＦＰ２・４）や小土坑（ＦＰ１・３・５）を関連するものとして記録したが、法則性は捉えられなかった。覆土は、周辺と同じⅤ層が混在する鉄分が酸化した土から成る。色調の差で１層は暗く、２層は明るい。中央の一段くぼんだ部分に炭を多量に含む３層が分布している。
時　　期　H－15 より古く、縄文時代中期中葉以前である。　（大泰司）

F－27（図Ⅵ-186、表Ⅴ－３、図版 342）
位　置　E20　　立　地　標高約 20.50mの平坦面
平面形　いびつな五角形　　規　模　0.74/0.54×0.66/0.54×0.18m
特　　徴　H－15 の調査中、覆土中から東壁面にかけて精査していたところ、黒褐色土層を検出した。その南側を掘り下げて土層を観察したのち、完掘した。四角く浅い掘り込みの南側に皿状をしたくぼみを作っていた。このくぼみを縁取るように長楕円形のくぼみが北から西側壁にめぐり、石囲炉の炉石抜き取りを思わせた。住居の炉も想定し、周辺の小土坑をＦＰ１とし、関連するものとして記録したが、上屋構造を思わせる状況ではなかった。覆土１層は周辺と同じⅤ層が混在する鉄分が微妙に酸化し、炭が混じる。
時　　期　H－15 より古く、縄文時代中期中葉以前である。　（大泰司）

P-1







0 1:40 1m

P-1 A-A'

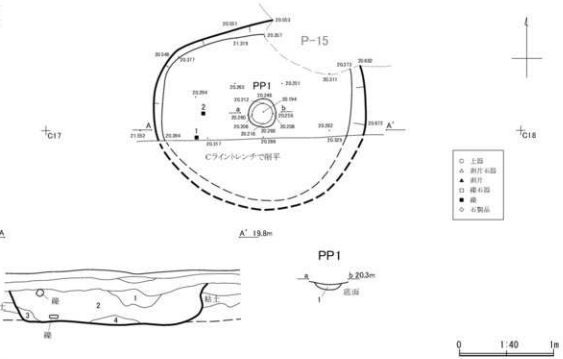
No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	弱	埴土	すこぶる堅	シルト岩片、炭中 3%	しまる
2	褐色土	7.5YR	6/6	弱	埴土	すこぶる堅	凝灰岩ブロック大一極大、炭中 7%	ややボソボソ
3	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	弱	埴土	すこぶる堅	炭中、シルト岩片中、焼土ブロック 10%	
4	にぶい橙色土	7.5YR	6/4	弱	埴土	すこぶる堅	炭小、焼土ブロック小 7%	
5	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	弱	埴土	軟	炭小一中、シルト岩片中 15%	
6	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	弱	埴壌土	すこぶる堅	焼土ブロック、炭小 2%	ローム主
7	淡褐色土	7.5YR	4/2	弱	埴壌土	すこぶる堅	炭小一中、ロームブロック中 25%	
8	褐色土	7.5YR	6/6	弱	埴土	堅	炭小、シルト岩片小 7%	ローム主
9	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	弱	埴土	すこぶる堅	炭小、シルト岩片 25%	凝灰岩末の二次堆積主
10	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	弱	埴壌土	すこぶる堅	シルト岩片 20%	凝灰岩末の二次堆積主

P-1 PP

遺構名	No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
PP1	1	明黄褐色土	10YR	6/6	弱	埴壌土	すこぶる堅	シルト岩小一極大 20%	凝灰岩末の二次堆積主

図Ⅵ-102 P-1

P−2



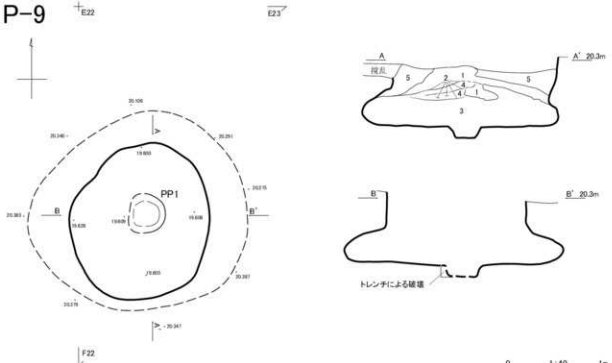
P−2 A−A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/4	弱	埴土	すこぶる堅		ややポソポソ
2	明褐色土	7.5YR	5/6	弱	埴土	すこぶる堅	炭小 1%	しまる
3	暗色土	7.5YR	6/6	弱	埴土	すこぶる堅		しまる
4	褐色土	7.5YR	4/4	弱	埴壌土	すこぶる堅	切屋由来ブロック・炭中 30%	

P−2 PP

遺構名	No.	土色		粘性	土性	堅密度		備考
PP1	1	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり	炭化物微量含む

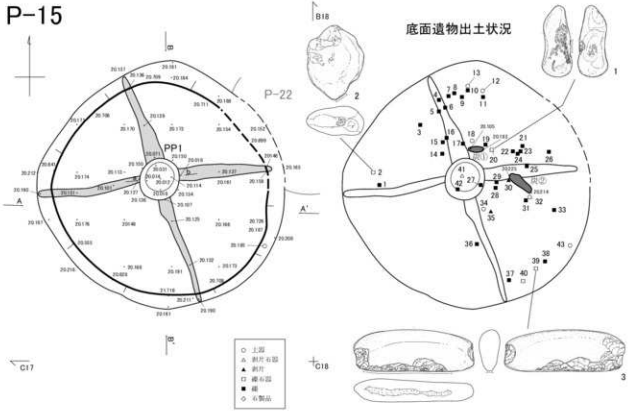
P−9

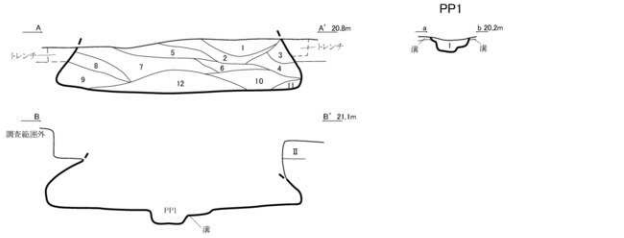


P−9 A−A'、B−B'

No.	土色			備考
1	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	基本層序Ⅴ層がブロック状に混じる
2	黄色炭層	7.5YR	2/1	炭化物密に詰まる　材は不明
3	明褐色土	7.5YR	5/6	粒径 1cm 以下の炭 2%以下混じる
4	明褐色土	7.5YR	5/6	粒径 1～3cm 以下の炭 7%以下混じる
5	灰白～浅黄褐色土 ・明褐色土	7.5YR 7.5YR	8/2～3 5/6	1層と4層が1：2で混じる

図Ⅵ−103　P−2・P−9





P-15 A-A'

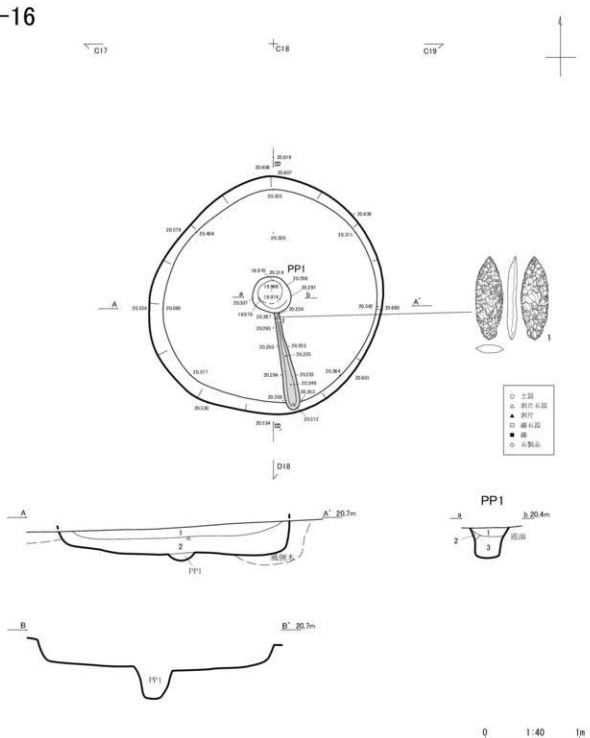
No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	暗色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	あり		
2	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	ややあり	埴壌土	あり	炭化物微量含む 1%	
3	暗色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	あり	10YR4/6 褐色土(SC) ブロック含む	
4	暗色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり		しまるが3層より弱い
5	暗色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	あり	炭化物微量含む 1%	
6	暗色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり		しまるが5層より弱い、4層よりやや粘ない
7	暗色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	あり	炭化物少量含む 3%	5層より硬い
8	暗色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	あり	10YR4/6 褐色土(SC) ブロック含む	5層と同じくらい
9	暗色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	ややあり	炭化物微量含む 1%	7層と同じくらい
10	暗色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	ややあり	炭化物微量含む 1% ㎜下	7層と同じくらい
11	暗色土	10YR	4/6	あり	シルト質埴土	あり		
12	暗色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	あり	炭化物微量含む 1%	5層と同じくらい

P-15 PP

遺構名	No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
PP1	1	暗色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり		

図Ⅵ-104 P-15

P-16



P-16 A-A'

No.	土色			動性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	ややあり	強壊土	あり		
2	褐色土	10YR	4/6	ややあり	強壊土	強い	10YR5/6 黄褐色粘土 (SiCL) 強含む	1 層よりしまる

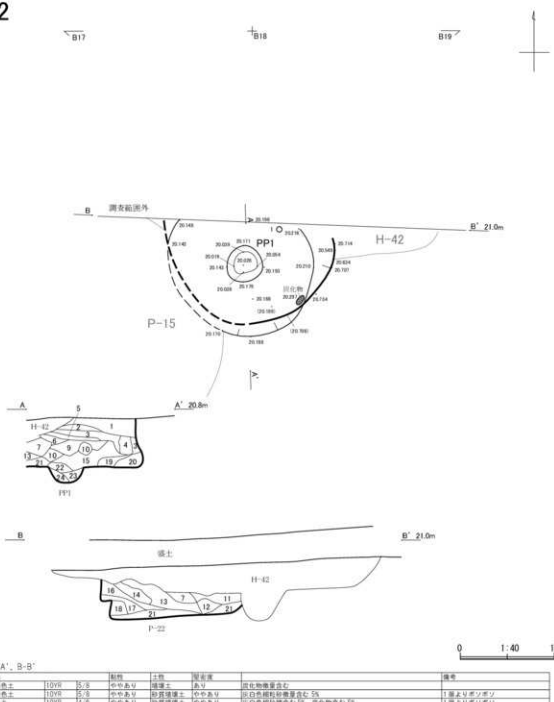
P-16 PP

遺構名	No.	土色			動性	土性	堅密度		備考
PP1	1	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	シルト質壊土	あり		
	2	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	シルト質壊土	あり	2.5YR7/3 浅黄色土 (SiL) 焼焼状に入る 50%	
	3	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	強壊土	ややあり		
	地山	浅黄色土	2.5YR	7/3		砂壊土	あり	小砂利多く含む	しまるがボロボロになる

※ 三層除去後の褐色土層で周囲にはべてやや色調の異なる円形の範囲を検出した。半截したところ、地山の灰白色土層を浅く掘り込む土層を確認した。
東側は風倒痕と見られ、10YR5/6(SiCL) 黄褐色土を切って作られていた。

図Ⅵ-105　P-16

P-22

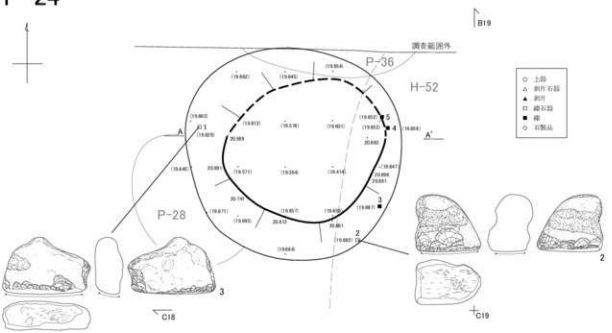


P-22 A-A', B-B'

No	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	黄褐色土	10YR	5/8	ややあり	埴壌土	あり	炭化物微量含む	
2	黄褐色土	10YR	5/8	ややあり	砂質埴壌土	ややあり	灰白色細粒砂微量含む 5%	1層よりポソポソ
3	褐色土	10YR	4/6	ややあり	砂質埴壌土	ややあり	灰白色細砂神含む 5%、炭化物含む 5%	1層よりポソポソ
4	黄褐色土	10YR	5/8	ややあり	埴壌土	ややあり		現状になっている
5	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり	炭化物・灰白色細砂微量含む	
6	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	ややあり		
7	黄褐色土	10YR	5/8	あり	埴壌土	堅		
8	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	ややあり	灰白色細砂含む 5%	
9	黄褐色土	10YR	5/8	あり	埴壌土	堅		
10	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	堅		
11	黄褐色土	10YR	5/8	ややあり	砂質埴壌土	ややあり		
12	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり		
13	黄褐色土	10YR	5/8	ややあり	埴壌土	あり		
14	明黄褐色土	10YR	6/8	なし	砂壌土	ややあり		
15	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	ややあり		
16	褐色土	10YR	4/6	ややあり	砂質埴壌土	あり		やや砂質分強い
17	褐色土	10YR	4/6	あり	シルト質埴土	あり		
18	にぶい黄橙色土	10YR	7/4	ややあり	砂埴土	あり		壁面の崩落土か?
19	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	埴壌土	ややあり	黄褐色土塊を含む	ポソポソしている
20	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	ややあり		21層と同じ
21	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	ややあり		
22	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	ややあり	黄褐色土塊を含む	ポソポソしている
23	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり		PP1
24	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	ややあり	炭化物微量含む	PP1、ポソポソしている

図Ⅵ-106 P-22

P-24



0　1:40　1m

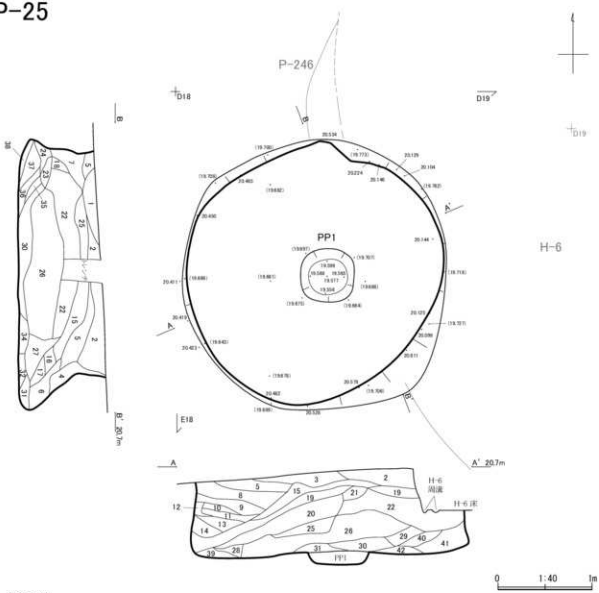
P-24 A-A'

No	土色			粘性	土性	堅密度	
1	明黄褐色土	10YR	6/6	ややあり	埴壌土	ややあり	大きな塊で入っている
2	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり	浅黄橙色土塊含む
3	黄褐色土	10YR	5/8	ややあり	埴壌土	あり	
4	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	弱い	炭化物少量含む 3%
5	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり	炭化物微量含む 1%
6	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり	炭化物微量含む 1%
7	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	弱い	
8	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	弱い	焼土塊・炭化物多量含む 30%
9	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり	炭化物微量含む 1%
10	黄褐色土	10YR	5/8	ややあり	埴壌土	あり	
11	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	弱い	炭化物微量含む 1%
12	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり	
13	褐色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	あり	炭化物少量含む 5%
14	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	ややあり	炭化物少量含む 3%
15	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり	
16	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	ややあり	
17	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	ややあり	
18	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり	炭化物少量含む 2%
19	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	弱い	小礫多く含む（φ 10~15mm）泥岩・チャート多い 5%、炭化物少量含む
20	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり	
21	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	堅	炭化物微量含む 1%

※遺構はサビ色になっている。

図Ⅵ-107　P-24

P-25



P-25 A-A'

No	土色			粘性	土性	混在度		備考
1	褐色土	10YR	4/4	ややあり	強壁土	あり	炭化物微量含む 2%	
2	褐色土	10YR	4/4	ややあり	強壁土	あり	炭化物・焼土粒微量含む 1%	
3	褐色土	10YR	4/4	ややあり	強壁土	ややあり	10YR2/4 暗褐色土（SG.）しまりなし 粘性なし多量含む	
4	黄褐色土	10YR	5/8	あり	強壁土	あり		
5	褐色土	10YR	4/4	ややあり	砂質強壁土	ややあり		
6	褐色土	10YR	4/4	ややあり	強壁土	ややあり	炭化物微量含む 1%	
7	褐色土	10YR	4/4	ややあり	強壁土	あり	炭化物微量含む 1%	1層よりしまり弱い
8	褐色土	10YR	4/6	ややあり	強壁土	あり		
9	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	強壁土	あり		
10	黄褐色土	10YR	5/8	ややあり	強壁土	あり		
11	明黄褐色土	10YR	6/6	ややあり	砂壁土	ややあり		砂質分多い
12	褐色土	10YR	4/6	ややあり	強壁土	あり		
13	黄褐色土	10YR	5/6	あり	シルト質強壁土	あり		
14	にぶい黄色土	2.5YR	4/6	ややあり	砂壁土	あり		地山と同じ、壁面崩落土
15	褐色土	10YR	4/4	ややあり	強壁土	あり	炭化物少量含む 5%、灰白色小砂礫多く含む 20%	
16	黄褐色土	10YR	5/8	あり	シルト質強土	密		粘土
17	にぶい黄色土	2.5YR	4/6	ややあり	砂壁土	あり		地山と同じ壁面崩落土
18	黄褐色土	10YR	5/6	あり	シルト質強壁土	あり		
19	褐褐色土	10YR	3/4	ややあり	強壁土	あり	炭化物多量含む 20%、灰白色小砂礫多く含む 10%、遺物含む	
20	褐色土	10YR	4/6	ややあり	強壁土	ややあり		
21	黄褐色土	10YR	5/8	あり	粘壁土	密		粘土
22	褐色土	10YR	4/6	ややあり	強壁土	あり		20層よりしまる
23	褐色土	10YR	4/6	ややあり	強壁土	弱い	灰白色土粒含む 5%	
24	褐色土	10YR	4/6	ややあり	強壁土	弱い		
25	褐色土	10YR	4/6	ややあり	強壁土	あり	2.5Y7/4 浅黄色土（SG.）多量含む 50%	
26	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	強壁土	ややあり		
27	褐色土	10YR	4/6	ややあり	強壁土	弱い		ボロボロ
28	明褐褐色土	10YR	6/6	ややあり	砂壁土	ややあり		
29	明褐褐色土	10YR	6/6	あり	シルト質強壁土	ややあり		
30	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	強壁土	あり		
31	褐色土	10YR	4/6	ややあり	強壁土	ややあり	2.5Y7/4 浅黄色土（SG.）多く含む 30%、小礫含む	
32	にぶい黄色土	2.5YR	4/6	ややあり	砂壁土	あり		地山と同じ、壁面崩落土
33	褐色土	2.5YR	4/6	ややあり	強壁土	ややあり		

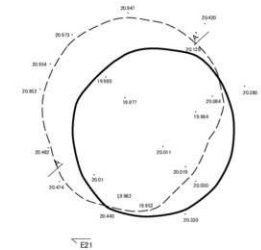
図Ⅵ-108 P-25（1）

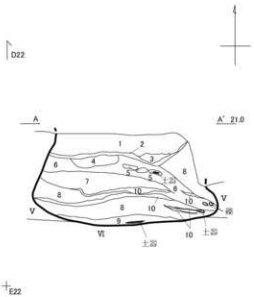
No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
34	褐赤黏土	10YR	4/6	あり	シルト質埴土	あり		
35	褐色土	10YR	4/6	あり	シルト質埴土	あり		
36	明黄褐色土	10YR	6/6	あり	シルト質埴土	あり		
37	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	固い		ボロボロ、壁面崩落土
38	暗褐色土	7.5YR	3/4	あり	シルト質埴土	あり		
39	にぶい黄色土	2.5YR	4/6	ややあり	砂壌土	あり		他山と同じ、壁面崩落土
40	黄褐色土	10YR	5/6	あり	シルト質埴壌土	あり		
41	浅黄色土	2.5YR	7/4	ややあり	砂質埴壌土	あり		
42	黄褐色土	10YR	5/6	あり	砂質埴壌土	あり		

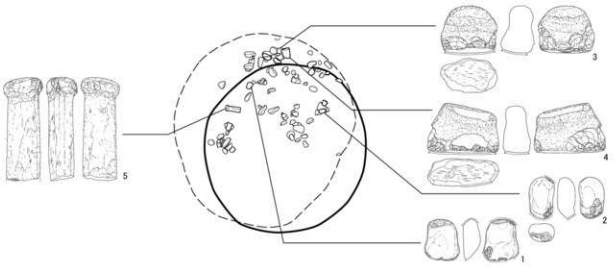
P-25 PP1

遺構名	No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
PP1	1	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	硬	明黄褐色土塊多く含む 10%、小礫多く含む 10%	

P-40







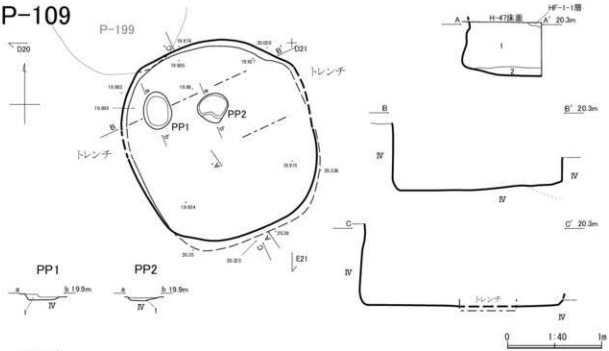
0　1:40　1m

P-40 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	しまりあり		
2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	しまりあり	10 層が薄い土層で 10%混じり込む、粗径 1cm の炭が 3%混じる	
3	明赤褐色土	10YR	5/6	しまりあり		1 層の鉄分が酸化したもの
4	灰白色土	10YR	8/2	しまりあり		V 層と 1 層が 1：1 で混在する
5	灰白色土	10YR	8/2	しまりあり		V 層のブロック、崩落か
6	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	しまりあり		
7	にぶい橙色土	7.5YR	7/4	しまりあり		粗質をおびる
8	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粗径 1cm 以下の炭が 2%混じる	
9	褐灰色土	7.5YR	6/1	しまりあり	粗径 1cm 以下の炭が 2%混じる	やや軟質
10	黒色土	7.5YR	2/1	しまりあり	粗径 1cm 以下の炭 2%混じる	腐植土＋炭
V	浅黄橙色土	10YR	8/4			粘土質の地山
VI						水性堆積かラミナ発達

図Ⅵ-109　P-25（２）・P-40

P-109



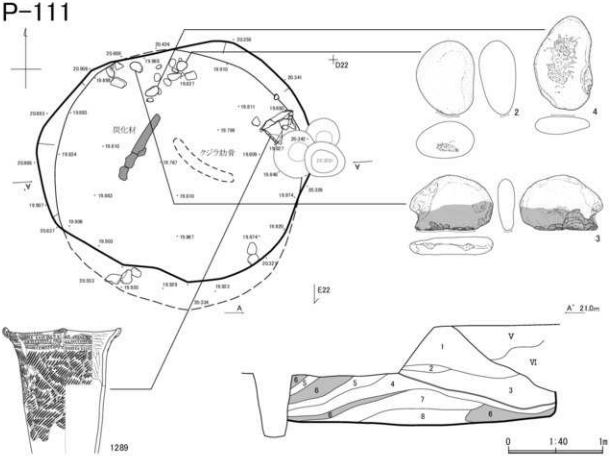
P-109 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	しまりあり		
2	褐色土	10YR	4/6	しまりあり	粒径 1cm でⅣ層が 25%、粒径 1cm でⅤ層が 25%	

P-109 PP

No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	中やしまる	粒径 1cm でⅣ層が 1%	
2	褐色土	10YR	4/6	しまりあり	粒径 1cm でⅣ層が 25%、粒径 1cm でⅤ層が 25%	

P-111

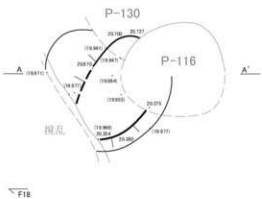


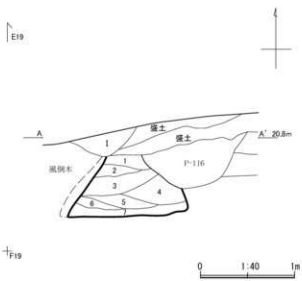
図Ⅵ-110 P-109・P-111(1)

P-111 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	浜黄褐色土	10YR	5/2	ややしまる	炭化物粒径 2 cm以下 5%	乗った V層土
2	黄褐色土	10YR	5/6	ややしまる	10YR7/1 V層土粒径 1 cm未満 2%	V層土
3	褐灰色土	10YR	5/1	ややしまる	10YR7/1 V層土粒径 1 cm未満 1%、炭化物粒径 2 cm以下 3%	乗った V層土
4	浜黄褐色土	10YR	5/2	ややしまる	炭化物粒径 3 cm未満 20%、10YR5/6 乗り の無いV層土 10%	乗った V層土
5	仁示い黄褐色土	10YR	5/3	ややしまる	10YR7/1 V層土粒径 3 cm未満 5%、炭化物粒 2%、遺物	乗った V層土
6	浜白色土	10YR	7/1	しまりなし	V層 10YR5/3 が 5%	V層の無属土
7	仁示い黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	炭化物粒径 2 cm以下 5%	V層土
8	浜黄褐色土	10YR	5/2	ややしまる	炭化物粒径 2 cm以下 2%	乗った V層土

P-117



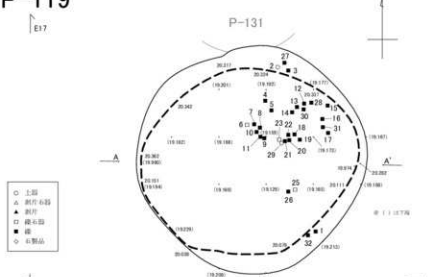


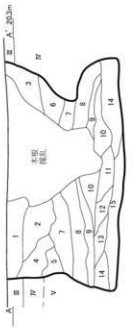
P-117 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	シルト質強壊土	堅		
2	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	シルト質強土	非常に堅		
3	褐色土	10YR	4/6	あり	シルト質強壊土	あり		
4	黄褐色土	7.5YR	5/6	ややあり	シルト質強壊土	あり		
5	黄褐色土	10YR	5/8	ややあり	シルト質強土	あり	地山土粒（φ 5mm）含む	
6	褐色土	10YR	4/6	ややあり	シルト質強土	あり		
7	黄褐色土	10YR	5/6	あり	シルト質強壊土	あり	地山土塊少量含む	

※P-116 に切られる。西側を風倒木によって撹乱されている。

P-119



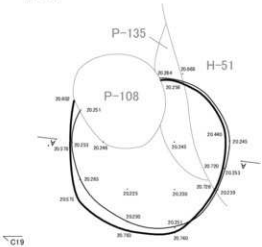


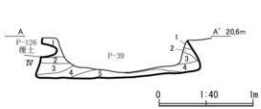
図Ⅵ-111　P-111（2）・P-117・P-119（1）

P-119 A-A'

No.	土色			粘性	土質	堅密度	混入物	備考
1	褐色土	7.5YR	4/6	あり	シルト質埴土	堅		
2	褐色土	7.5YR	4/6	あり	シルト質埴土	堅		
3	褐色土	7.5YR	4/6	あり	シルト質埴土	弱い	10YR6/6明黄褐色土多く含む	
4	褐色土	7.5YR	4/6	あり	重埴土	堅		粘土
5	褐色土	7.5YR	4/4	ややあり	シルト質埴土	弱い		
6	明褐色土	7.5YR	5/6	あり	埴埴土	あり		
7	褐褐色土	7.5YR	3/4	ややあり	埴埴土	弱い	炭化物多く含む（φ 30mm）	
8	褐色土	7.5YR	4/6	あり	埴埴土	あり		
9	褐色土	7.5YR	3/4	ややあり	埴埴土	あり	炭化物非常に多く含む（φ 10mm）	
10	明褐色土	7.5YR	5/6	あり	埴埴土	あり		
11	褐色土	7.5YR	4/4	あり	砂質埴埴土	あり		
12	褐色土	7.5YR	4/6	あり	シルト質埴埴土	あり		
13	明褐色土	7.5YR	5/6	あり	重埴土	あり		
14	明黄褐色土	10YR	7/6	ややあり	砂埴土	あり		壁面崩落土
15	褐色土	7.5YR	4/6	あり	埴埴土	あり		

P-124



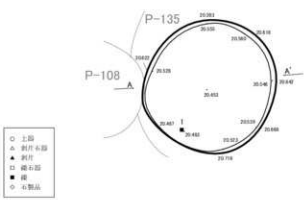


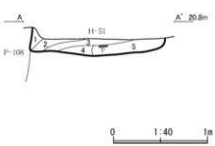
P-124 A-A'

No.	土色			粘性	土質	堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/4	あり	埴埴土	あり		
2	浅黄色土	2.5Y	7/4	あり	埴埴土	あり		盛り上げ土（Ⅳ層）
3	褐色土	7.5YR	4/6	あり	埴埴土	あり	炭化物微量含む	
4	浅黄色土	2.5Y	7/4	あり	埴埴土	あり	ブロック状に含む 80%	
	褐色土	7.5YR	4/6		埴埴土		ブロック状に含む 30%	
5	褐色土	7.5YR	4/6	あり	埴埴土	あり	炭化物微量含む	

※ 上部をP-39に削平される。

P-126





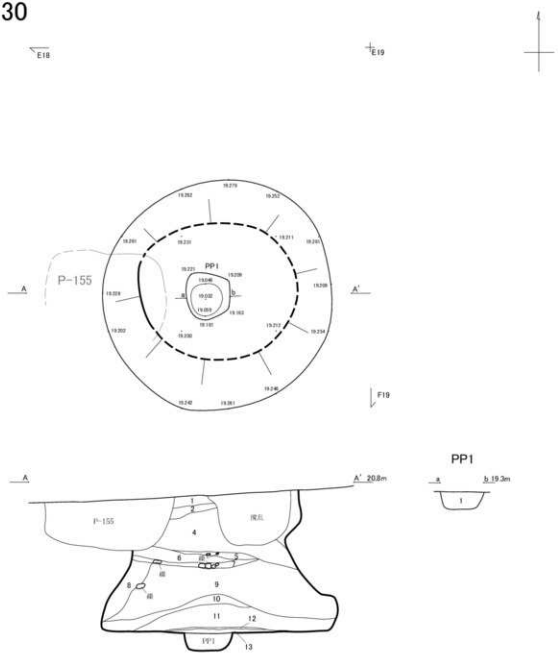
P-126 A-A'

No.	土色			粘性	土質	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴埴土	あり		
2	褐色土	10YR	4/6	ややあり	シルト質埴埴土	あり	地山土粒 炭化物微量含む	
3	褐色土	10YR	4/6	あり	埴埴土	堅	地山土粒含む	土色はやや白っぽい
4	褐色土	10YR	4/6	あり	粘埴土	あり		
5	褐色土	7.5YR	4/4	あり	埴埴土	あり	炭化物 焼土粒微量含む	

※ 上層をH-51に削平、東側部P-108に削平される。P-124を切っている。

図Ⅵ-112 P-119（2）・P-124・P-126

P-130



P-130 A-A'

No	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	シルト質埴壌土	ややあり	炭化物微量含む	P-155 ?
2	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	埴壌土	あり	小砂利少量含む、2.5Y7/4 浅黄色土塊含む	P-155 ?
3	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	あり	シルト質埴壌土	あり		
4	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり	炭化物微量含む	
5	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり	炭化物少量含む、焼土粒微量含む、柱　土器含む	
6	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり	炭化物微量含む	
7	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり	炭化物少量含む、焼土粒微量含む、柱　土器含む	5 層より炭化物やや多い
8	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	ややあり		
9	褐色土	10YR	4/6	あり	シルト質埴壌土	あり	炭化物　焼土粒微量含む	
10	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり	炭化物多く含む焼土粒微量含む	
11	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり	炭化物含む	
12	—	—		—	—	—	遺物含む	炭化物層
13	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり	遺物含む	

P-130 PP

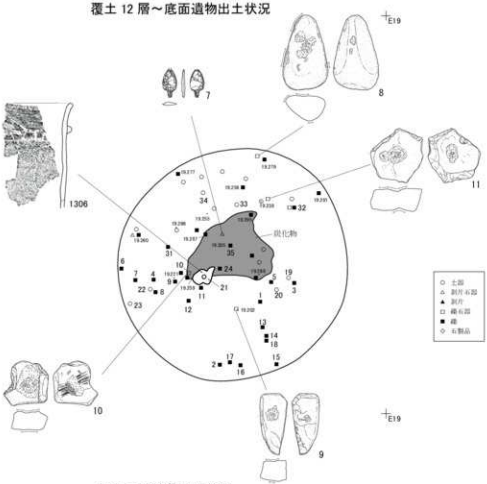
遺構名	No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
PP1	1	褐色土	7.5YR	4/4	あり	—	あり		

※上端は調査中の崩落により実測不可。

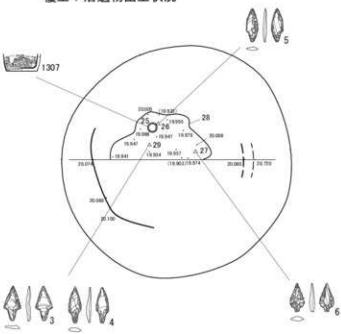
図Ⅵ-113　P-130(１)

P−130

覆土 12 層〜底面遺物出土状況



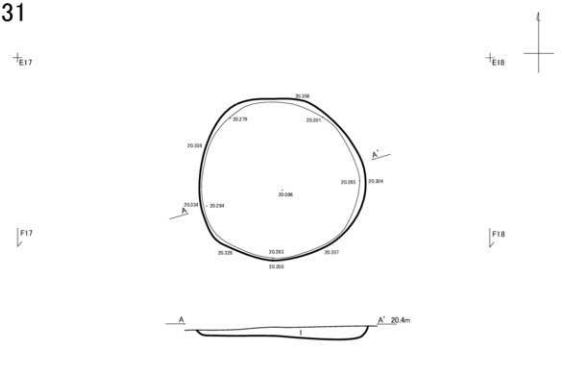
覆土 7 層遺物出土状況



0 1:40 1m

図Ⅵ-114 P-130(2)

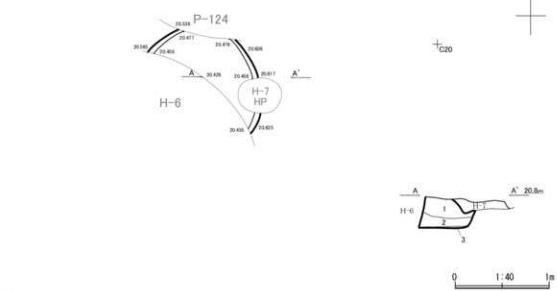
P-131



P-131 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/6	あり	埴壌土	あり		ピットの底面のみ残ったもの？

P-148

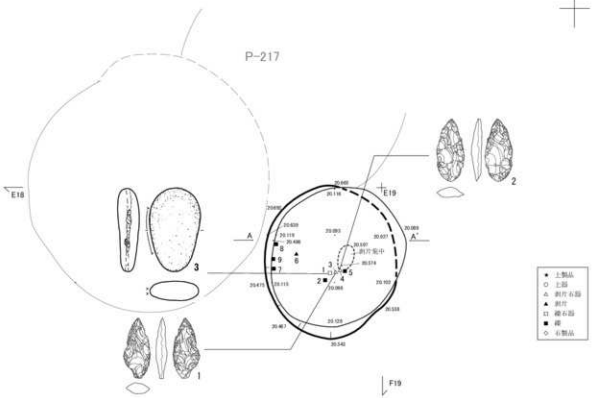


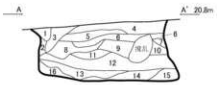
P-148 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/4	あり	埴壌土	あり	炭化物・焼土粒少量含む	
2	にぶい黄褐色土	10YR	7/4	ややあり	砂質埴壌土	あり	7.5YR4/4 褐色土塊少量含む	
3	褐色土	7.5YR	4/4	あり	埴壌土	ややあり	炭化材・焼土粒微量含む	

図Ⅵ-115　P-131・P-148

P-160





0 1:40 1m

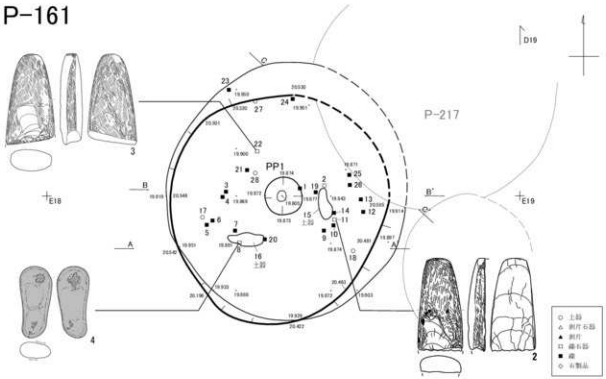
P-160 A-A'

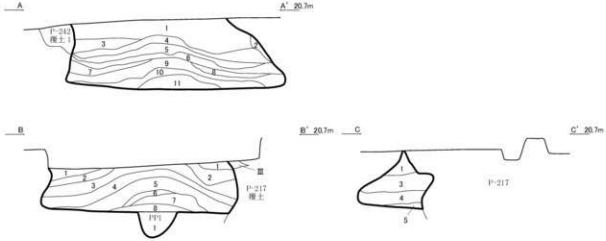
No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	堅		
2	明黄褐色土	10YR	6/6	あり	埴壌土	あり		
3	黄褐色土	10YR	5/6	あり	シルト質埴壌土	堅		
4	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	堅	浅黄橙色土微少量含む	
5	黄褐色土	10YR	5/8	あり	埴壌土	あり	炭化物少量含む。4・5層の層界から石幅2点を含む遺物が出土	上面に剥片集中
6	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり	炭化物・焼土粒含む	
7	黄褐色土	10YR	5/8	あり	埴壌土	あり		
8	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	ややあり	炭化物微量含む	
9	褐色土	10YR	4/4	あり	シルト質埴壌土	あり	炭化物少量含む	
10	褐色土	10YR	4/4	あり	埴壌土	弱い		
11	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり		
12	褐色土	10YR	4/4	あり	埴壌土	ややあり		
13	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	ややあり	浅黄橙色土微少量含む	
14	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり		
15	明黄褐色土	10YR	7/6	あり	砂質埴壌土	あり		壁面崩落土
16	浅黄色土	2.5Y	6/4	ややあり	砂質埴壌土	弱い		壁面崩落土

※ ローム層確認後、褐色土の円形の範囲を検出した。半裁してプラス3掘土坑を確認した。4・5層の層界から石幅2点を含む遺物が出土。

図Ⅵ-116 P-160

P-161





0　1:40　1m

P-161 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり		
2	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり	浅黄色土塊含む	
3	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	埴壌土	あり		
4	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	あり	埴壌土	あり	炭化物、遺物少量含む	
5	明黄褐色土	10YR	6/6	あり	埴壌土	あり	浅黄色土塊多量に含む	
6	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり		
7	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり	浅黄色土塊多く含む	
8	明褐色土	10YR	6/6	あり	埴壌土	あり		
9	黄褐色土	10YR	5/6	あり	シルト質埴壌土	あり		
10	褐色土	10YR	4/4	ややあり	砂質埴壌土	ややあり	炭化物少量含む	
11	褐色土	10YR	4/4	ややあり	砂質埴壌土	弱い	炭化物含む	

P-161 B-B'、C-C'

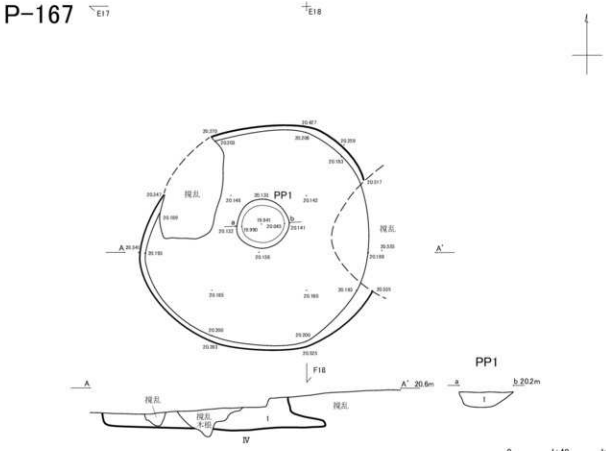
No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり		
2	浅黄色土	2.5Y	7/4	ややあり	砂質埴壌土	あり	10YR4/6 褐色土塊少量含む	
3	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり	2.5Y 浅黄色土塊含む	
4	褐色土	10YR	4/6	あり	シルト質埴壌土	あり		
5	褐色土	10YR	4/4	あり	埴壌土	弱い	浅黄色土塊（Φ 5mm）微量含む、炭化物微量含む	
6	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	あり	埴壌土	弱い		
7	褐色土	7.5YR	5/6	あり	埴壌土	ややあり	炭化物微量含む	
8	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	あり	埴壌土	弱い	炭化物含む、小柳少量含む	

P-161 PP

遺構名	No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
PP1	1	黄褐色土	10YR	5/6	あり	—	弱い	浅黄色土塊（Φ～5mm）少量含む、小柳微量含む	

図Ⅵ-117　P-161

P-167



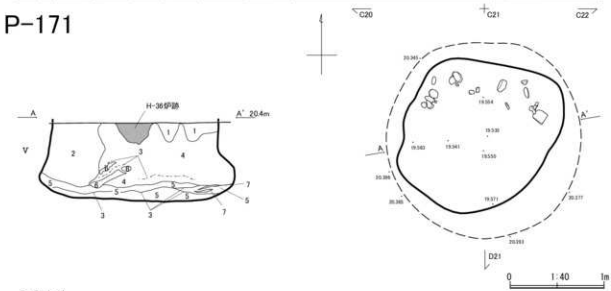
P-167 A-A'

No.	土色			動物	土性	硬密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり		土器でないかもしれない

P-167 PP

遺構名	No.	土色			動物	土性	硬密度		備考
PP1	1	褐色土	7.5YR	4/6	あり	―	ややあり		木根撹乱によりボソボソしている

P-171

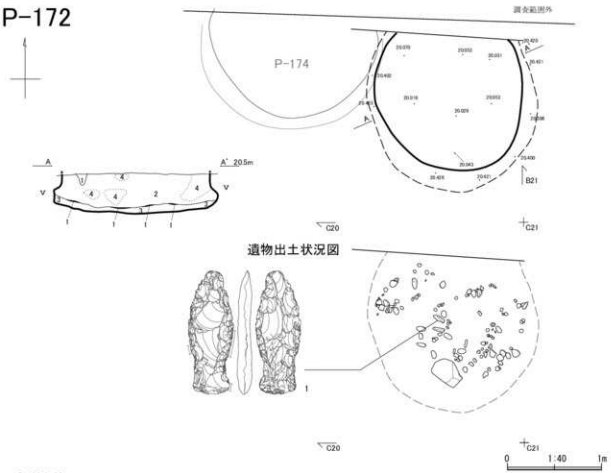


P-171 A-A'

No.	土色			硬密度		備考
1	浅黄橙色土	10YR	4/2	しまりあり	粒径 1～3cm のⅤ層が 50%混じる	
2	浅黄橙色土	10YR	6/4	しまりあり	炭焼痕跡土	炭層が層に詰まる
3	黒褐色土	10YR	3/1	しまりあり		炭混じり炭焼土
4	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm のⅤ層が 7%混じる。粒径 1cm の炭 1%混じる	炭は 2 層に集中
5	明黄褐色土	10YR	6/8	しまりあり	粒径 1cm のⅤ層が 2%混じる。粒径 1cm の炭 1%混じる	炭は 2 層に集中
6	浅黄橙色土	10YR	8/4	しまりあり	粒径 1～3cm のⅤ層が 50%混じった薄層	
7	浅黄橙色土	10YR	8/4	しまりあり		4 の水性堆積　薄層

図Ⅵ-118　P-167・P-171

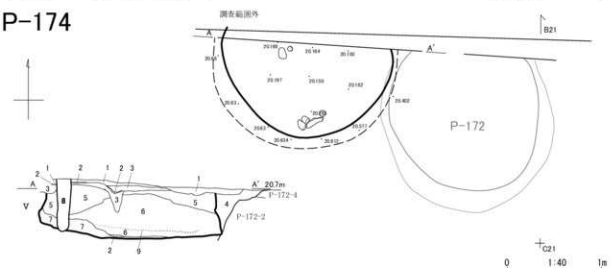
P-172



P-172 A-A'

No.	土色			間層度		備考
1	黒褐色土	10YR	3/1	しまりあり		炭混じり黒積土
2	黒褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm の炭が 7%混じる	
3	灰黄褐色土	10YR	5/2	しまりあり	粒径 1cm の炭が 15%混じる	2 層＋9 層の土
4	褐色土	2.5YR	6/6	しまりあり		ブロック状の焼土

P-174

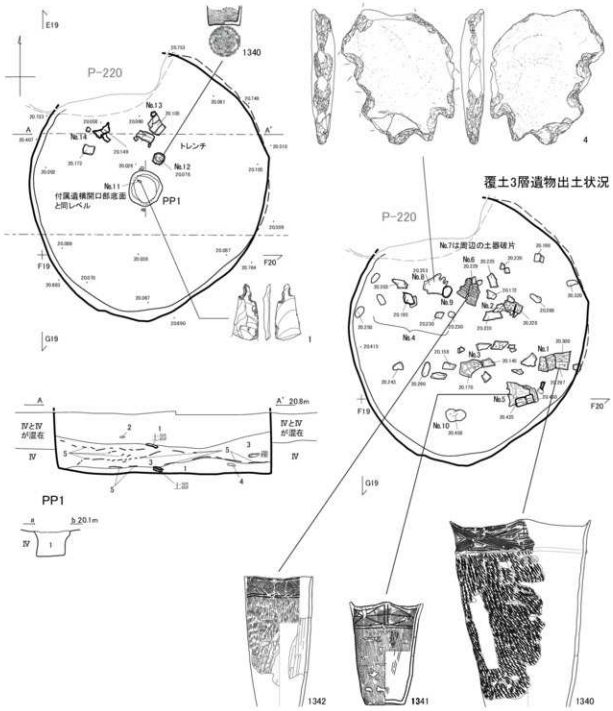


P-174 A-A'

No.	土色			間層度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	しまりあり	粒径 1 ～ 3cm のV層が 25%混じる	
2	黒褐色土	10YR	3/1	しまりあり		炭混じり黒積土
3	灰黄褐色土	10YR	4/2	しまりあり	粒径 1 ～ 3cm のV層が 50%混じる	
4	浅黄褐色土	10YR	8/4	しまりあり		V層が全に詰まる
5	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり	粒径 1cm のV層が 7%混じる	
6	にぶい黄褐色土	10YR	3/4	しまりあり	粒径 1 ～ 3cm のV層が 7%混じる	〃
7	褐色土	10YR	4/4	しまりあり	粒径 1 ～ 3cm のV層が 7%混じる	〃
8	褐色土	10YR	5/2	しまりなし		
9	浅黄褐色土	10YR	8/4	しまりあり	粒径 1 ～ 3cm のV層が 50%混じった焼層	

図Ⅵ-119　P-172・P-174

P-186



P-186 A-A'

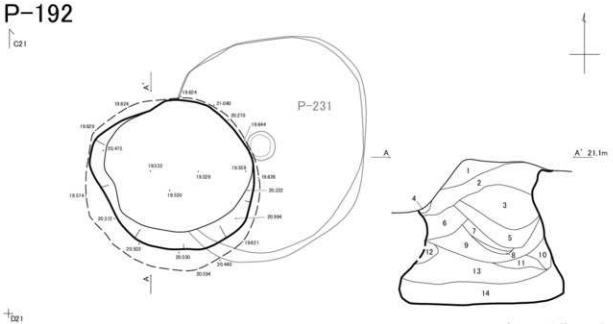
No.	土色			堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/8	ややしまる	粒径1～3cmのV層が7%混じる。黄橙土7.5YR3/2が7%混じる	
2	橙色土	5YR	6/8	ややしまる	粒径1～3cmのV層が7%混じる。黄橙土7.5YR3/2が7%混じる	1の橙土
3	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1～3cmのV層が7%混じる。黄橙土7.5YR3/2が7%混じる	
4	灰白色土	7.5YR	8/2	ややしまる		
5	黒色土	7.5YR	2/1	しまりあり	粒径1cm以下の炭50%混じる	黄橙土・炭 炭主体
IVとV が混在	灰白色土～明褐色土	7.5YR	8/2～5/8			
V	灰白色土	7.5YR	8/2			

P-186 PP1

No.	土色			堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりなし	IV層主体	

図Ⅵ-120 P-186

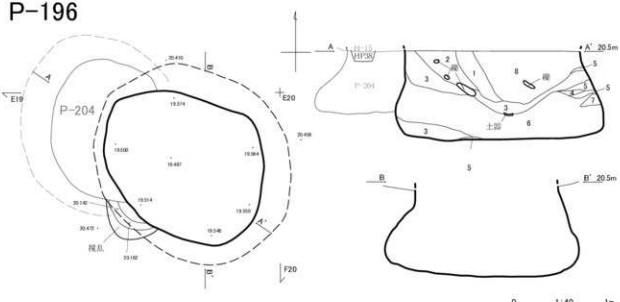
P-192



P-192 A-A'

No	土色			堅密度		備考
1	褐灰色土	10YR	5/1	ややしまる	10YR6/2灰白色の Ⅵ層粒　粒径 2cm以下 2%	Ⅴ層由来のH-20 層土
2	灰黄褐色土	10YR	6/2	しまりなし	10YR5/2 汚れたⅤ層が 30%	Ⅴ層土
3	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	ややしまる	Ⅴ層ブロックの落ち込み	Ⅴ層土
4	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	ややしまる	Ⅴ層ブロックの落ち込み	Ⅴ層土
5	にぶい褐色土	7.5YR	7/3	ややしまる	にぶい褐色のⅤ層ブロック 60%灰白色Ⅵ層ブロック 40%	Ⅴ層土と Ⅵ層土の混土
6	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	ややしまる	にぶい褐色のⅤ層ブロック 60%灰黄褐色土の汚れたⅤ層土 40%	Ⅴ層土
7	褐灰色土	10YR	5/1	ややしまる	炭化物粒径 2cm以下 10%　Ⅵ層粒 10YR7/2 粒径 1cm以下 1%	炭化物混じりのⅤ層土
8	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	ややしまる	炭化物粒径 2cm以下 20%	炭化物混じりのⅤ層土
9	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	ややしまる	灰黄褐色の汚れたⅤ層土 30%	Ⅴ層土
10	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	ややしまる	10YR6/2 灰白色のⅥ層 70%　7.5YR6/2 Ⅴ層土 30%	Ⅵ層土
11	黄褐色土	10YR	5/6	ややしまる	Ⅵ層土 2%	Ⅴ層土
12	にぶい褐色土	7.5YR	7/3	ややしまる	にぶい褐色のⅤ層 10%	Ⅵ層土
13	灰黄褐色土	10YR	5/2	ややしまる	炭化物粒径 2cm以下 5%、Ⅵ層粒 2%。	Ⅴ層由来の住居址層土
14	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	しまりなし	Ⅵ層土 5%	Ⅴ層土

P-196

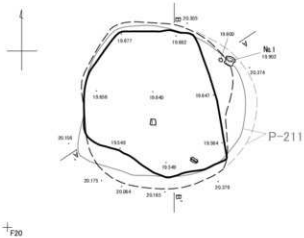


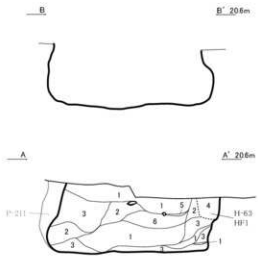
P-196 A-A'

No	土色			堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 1%混じる	
2	褐色土	10YR	4/6	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 1%混じる、粒径 1～3cm で炭が 7%混じり、直径 3～5cm の礫が 7%混じる	
3	褐色土	10YR	4/6	しまりなし	粒径 1cm でⅤ層が 1%混じる、粒径 1～3cm で炭が 7%混じり	
4	黄褐色＋褐色土	10YR	8/6～4/6	ややしまる		Ⅴ層と Ⅳ層の混在
5	黄褐色土	10YR	8/6	ややしまる		Ⅴ層の水性による流入
6	褐色土	10YR	4/6	しまりなし	粒径 1cm でⅤ層が 1%混じる、粒径 1～3cm で炭が 7%混じり	
7	黄褐色土	7.5YR	2/2	しまりなし		根の直跡
8	黄褐色土	10YR	8/6	しまりあり	粒径 1～3cm でⅤ層が 7%の分布	水よるものか薄膜で構成される

図Ⅵ-121　P-192・P-196

P-198



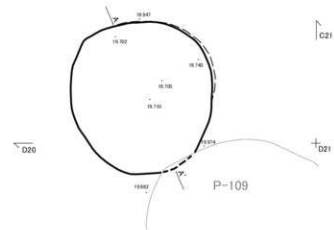


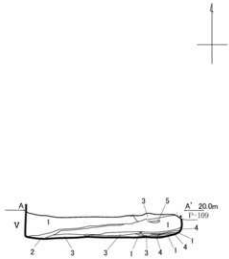
0 1:40 1m

P-198 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	6/8	しまりあり	混じりなし	
2	にぶい赤褐色土	5YR	4/3	しまりなし	直径 1～3cm の礫が 30%詰まる、粒径 1cm の炭が 7%混じる	
3	にぶい赤褐色土	5YR	4/3	しまりなし	粒径 1cm の炭が 7%混じる	
4	赤白色土	7.5YR	8/2	固くしまる		V層由来、粘土 HF1 の施設
5	褐色土	5YR	7/6			鉄分酸化由来平板、礫土
6	明褐色土	7.5YR	5/8	ややしまる		
V	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり		

P-199





0 1:40 1m

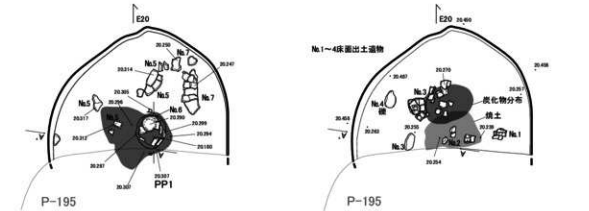
P-199 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1cm の炭が 7%混じる	
2	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1～3cm でV層がブロック状に詰まる、粒径 1cm の炭が 7%混じる	
3	黄褐色土	10YR	8/6	しまりあり	粒径 1～3cm でV層が 25%	
4	黒色土	7.5YR	2/1	しまりなし	粒径 1cm 以下の炭 25%混じる	保積土・炭
5	赤白色土	7.5YR	8/2	しまりなし		V層のブロック

図Ⅵ-122 P-198・P-199

P−200

下位出土遺物　　**上位出土遺物**



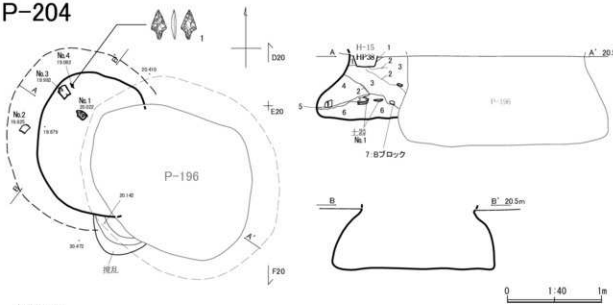
P−200 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	黒褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm でV層がブロック状に 1%混在する	V層のブロック状散落
2	暗褐色土	10YR	5/6	ややしまる		V層の流入
3	黒褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm でV層がブロック状に 1%混在する。粒径 1cm で炭が 2%混じり遺構部は炭集	

P−200 PP

遺構名	No.	土色			堅密度		備考
PP1	1	暗赤褐色土	2.5YR	3/4		粒径 1cm の炭 25%混じる	やや粘質を呈ひる

P−204

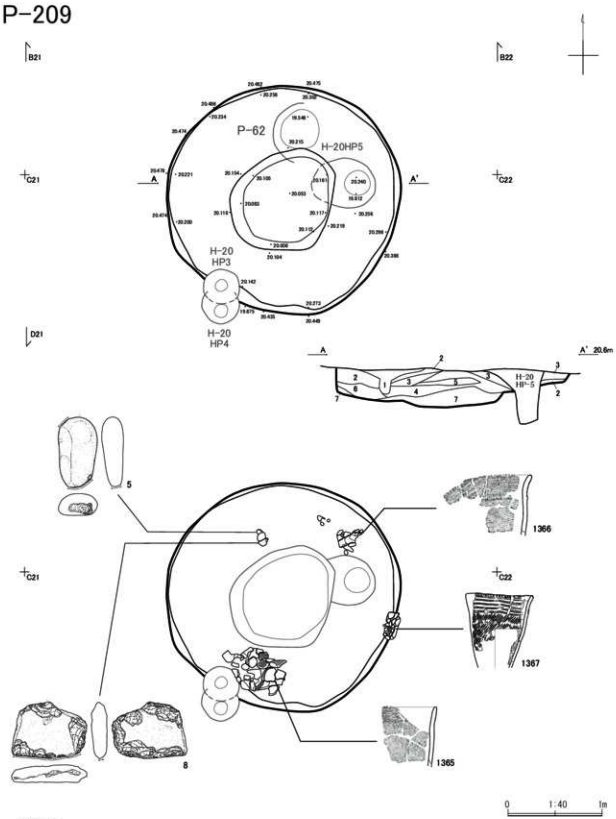


P−204 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりあり		V層のブロック状散落
2	褐色土	7.5YR	2/1	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭 50%混じる	褐色土＋炭
3	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1cm のV層が 1%混じる	
4	黒褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる		
5	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりあり		V層の流離
6	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	ややしまる	粒径 1cm 以下の炭 1%混じる	
7	にぶい橙色土	7.5YR	6/4	しまる		IV層のブロック

図Ⅵ−123　P−200・P−204

P-209

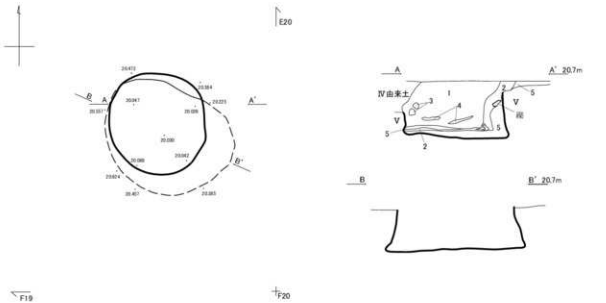


P-209 A-A'

No	土色			堅密度		備考
1	灰黄褐色土	10YR	4/2	ややしまる	炭化物粒径 2 cm以下 10%　5YR 4/6 赤褐焼土粒 1 cm以下 5%	H-20 柱穴
2	黒色土	10YR	2/1	しまりなし	V層 10YR5/3 が 5 %	炭化物層
3	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	ややしまる	炭化物粒径 2 cm以下 10%	V層土
4	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	ややしまる	炭層 10YR7/2 粒径 2 cm以下が 10%	V層土
5	灰黄褐色土	10YR	5/2	ややしまる	炭化物粒径 2 cm以下 20%　炭層 10YR7/2 粒径 2 cm以下 5%	V層土
6	灰白色土	10YR	7/1	粘性あり	V層 10YR5/3 が 5 %	灰白色粘土層
7	褐色土	10YR	4/4	ややしまる	炭化物粒径 2 cm以下 2 %　炭層粒 10YR7/2 粒径 1 cm以下 1%	V層土

図Ⅵ-124　P-209

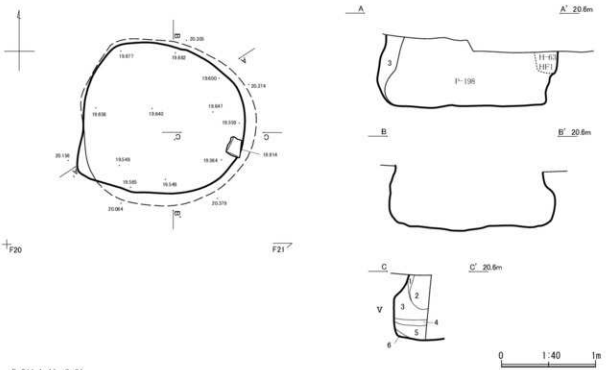
P-210



P-210 A-A'

№	土色			堅密度		備考
1	黒褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	V層（灰白～浅黄褐色：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm 以下で 1%以下混じる	
2	褐色土	7.5YR	5/4	ややしまる	V層（灰白～浅黄褐色：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 7%混じる，粒径 1～3cm の炭 7%混じる	
3	灰白色土	7.5YR	8/2	ややしまる		V層流入木粉堆積
4	褐色土	5YR	7/8	ややしまる		1 の鉄分酸化焼土
5	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりあり	直径 1～3cm の礫 7%	V層がブロックに崩落流入

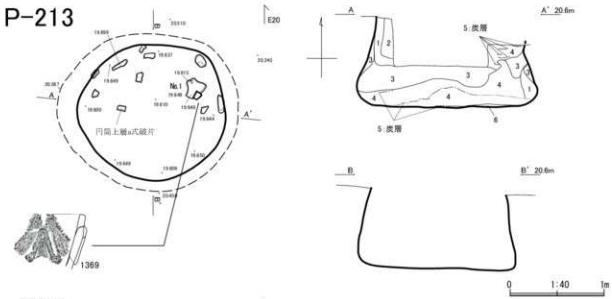
P-211



P-211 A-A'、C-C'

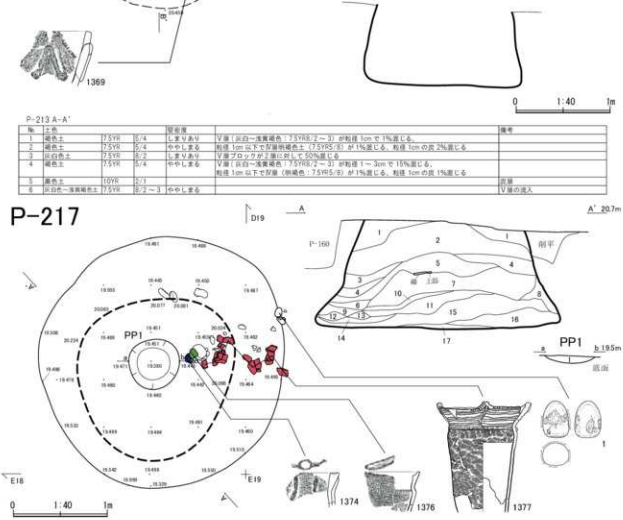
№	土色			堅密度		備考
1	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりあり		V層のブロック流入り込み
2	にぶい褐色土	7.5YR	7/4	しまりあり	粒径 1～3cm でV層が 7%，粒径 1～3cm で炭が 2%	
3	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	炭じりなし	
4	褐色土	7.5YR	6/3	しまりあり	直径 1～3cm の礫 20%混じる	
5	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	炭じりなし	3と同じ
6	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりなし		V層由来

図Ⅵ-125　P-210・P-211



P-213 A-A'

No.	土色			質密度		備考
1	褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	V層（炭色～浅黄褐色：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 1%混じる。	
2	褐色土	7.5YR	5/4	ややしまる	粒径 1cm 以下で灰褐明褐色土（7.5YR5/8）が 1%混じる。粒径 1cm の炭 2%混じる	
3	炭白色土	7.5YR	8/2	しまりあり	V層ブロックが 2 層に対して 50%混じる	
4	褐色土	7.5YR	5/4	ややしまる	V層（炭白～浅黄褐色：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 15%混じる。 粒径 1cm 以下で灰層（明褐色：7.5YR5/8）が 1%混じる。粒径 1cm の炭 1%混じる	
5	黒色土	10YR	2/1			炭層
6	炭白色～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	ややしまる		V層の流入



P-217 A-A'

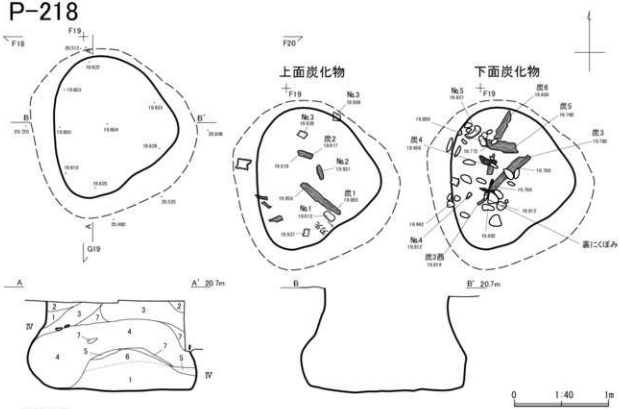
No.	土色			動物	土性	質密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり		
2	にぶい黄色土	2.5Y	6/4	あり	埴壌土	あり	浅黄色土塊含む、小礫含む	
3	明黄褐色土	2.5Y	6/8	あり	砂質埴壌土	あり		
4	黄褐色土	10YR	5/8	あり	砂質埴壌土	あり		
5	褐色土	10YR	4/4	あり	埴壌土	あり	炭化物少量含む	
6	浅黄色土	2.5Y	7/4	あり	砂質埴壌土	あり		
7	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり	炭化物微量含む	
8	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり	2.5Y7/4 浅黄色土（ロム）	
9	褐色土	10YR	4/4	あり	埴壌土	やや多い	炭化物少量含む	
10	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり		
11	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	やや多い	炭化物多く含む、焼土ブロック含む、遺物含む	
12	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	やや多い		
13	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	やや多い		
14	暗赤褐色土	5YR	3/6	あり	埴壌土	やや多い	炭化物少量含む	廃棄焼土を入れている
15	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり	炭化物微量含む	
16	浅黄色土	2.5Y	7/4	あり	埴壌土	あり		
17	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	あり	埴壌土	あり		

P-217 PP

遺構名	No.	土色			動物	土性	質密度		備考
PP1	1	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり	にぶい黄褐色土塊含む	

図Ⅵ-126 P-213・P-217

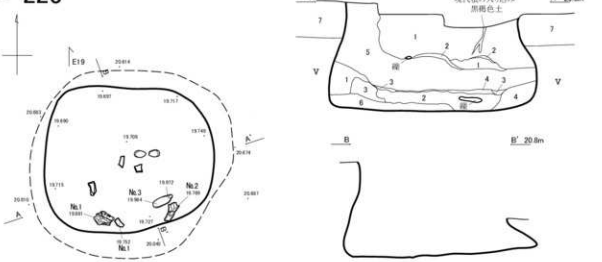
P-218



P-218 A-A'

No.	土色			堆積度		備考
1	浅黄橙色土	7.5YR	8/6	ややしまる		Ⅴ層の崩
2	黄橙色土	7.5YR	7/8	ややしまる	3にⅤ層が粒径２～5cmで25%混じる	
3	にぶい橙色土	7.5YR	6/4	ややしまる	粒径1cmの炭1%混じる	
4	褐色土	7.5YR	4/2	ややしまる	Ⅴ層（灰白色～浅黄橙色：7.5YR7/2～3）が粒径1cmで15%混じる。粒径1cmの炭15%混じる	
5	灰白色土	5YR	8/2	ややしまる	Ⅴ層土に焼土（橙色：5YR7/6）が粒径1cmで5%混じる。粒径1cmの炭1%混じる	
6	暗赤褐色土	5YR	3/4	ややしまる	焼土（橙色土：5YR7/6）が粒径1cmで5%混じる。粒径1cmの炭1%混じる	
7	浅黄橙色土	7.5YR	8/6	しまりなし		Ⅴ層流入

P-220

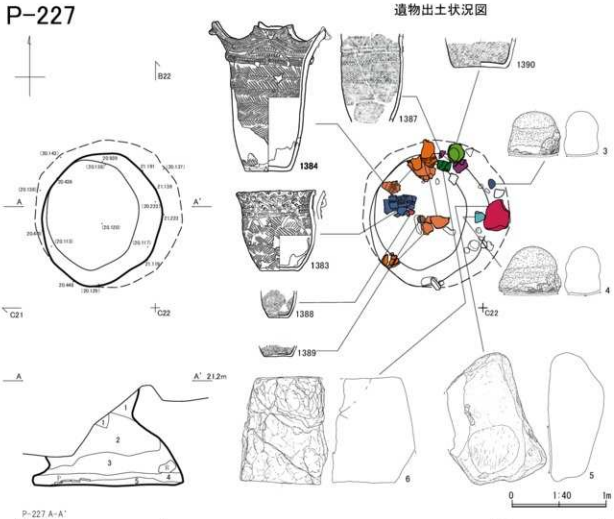


P-220 A-A'

No.	土色			堆積度	
1	明褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	混じりなし
2	褐灰色土	7.5YR	4/1	しまりあり	1が反焼したもの
3	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりなし	Ⅴ層の流入
4	褐灰色＋灰白色土	7.5YR	4/1＋8/2	しまりなし	2と3が1：1で混在する。粒径1～2cmの礫15%混じる。
5	褐灰色土	7.5YR	4/1	ややしまる	2と似る
6	白色土	7.5YR	8/2	しまりあり	Ⅴ層のブロック状崩落
7	明褐色土	7.5YR	5/6		Ⅳ層由来の盛土。Ⅳ層ほど赤味が強くない
Ⅴ	灰白色土	7.5YR	8/2		

図Ⅵ-127　P-218・P-220

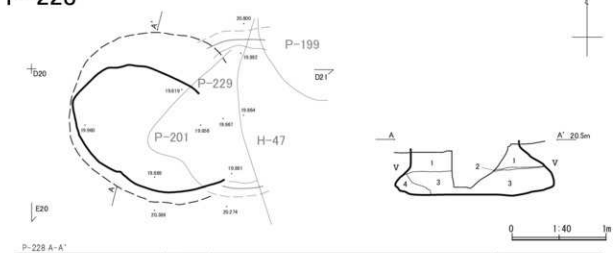
P−227



P-227 A-A'

No.	土色				備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	V層土がブロック状に入る。しまりがある	混じりなし
2	浅黄褐色土	10YR	6/2	V層土に炭化物粒が1%混じった層。しまりなし	ｲﾓ属種したもの
3	浅黄褐色土	10YR	5/2	V層土に炭化物10%混じる。遺物も多く含む。しまりなし	V層の流入
4	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	しまりの弱いV層土層2：3が1：1で混在する。粒径1～2cmの礫15%混じる	
5	褐灰色土	10YR	5/1	炭化物を20%ほど含む黒っぽいV層土	

P−228

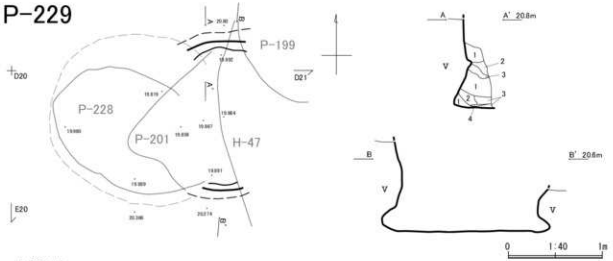


P-228 A-A'

層	土色			堆積度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	直径1～5cmの礫15%混じり	
2	橙色土	5YR	6/8	ややしまる		鉄分酸化、焼土
3	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径1cmの炭7%混じる	
4	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層（炭色土～浅黄橙色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cmで7%混じる 粒径1cmで好像（明褐色土：7.5YR5/6）が7%混じる。粒径1cmの炭7%混じる	

図Ⅵ-128　P-227・P-228

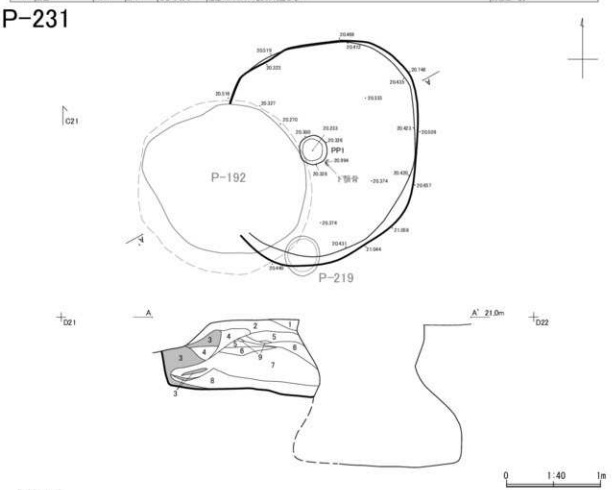
P-229



P-229 A-A'

No.	土色			固定度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり		耳層主体
2	浜白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		V層主体
3	にぶい褐色	7.5YR	6～7/4	しまりあり		耳層とV層が混合
4	黒色	7.5YR	2/1	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭 50%混じる	黄褐土＋炭

P-231

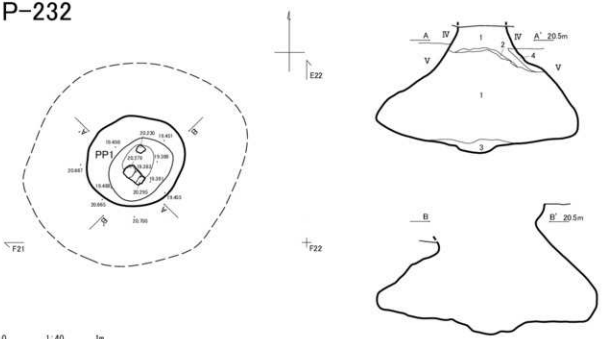


P-231 A-A'

No.	土色			固定度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	ややしまる	炭化物粒径 2cm以下 10%	滑ったV層土
2	にぶい黄褐色土	10YR	4/2	ややしまる	炭化物粒径 2cm以下 10%	滑ったV層土
3	浜白色土	10YR	7/1	ややしまる	壁面切崩の崩落土。	切崩土
4	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	粘性あり	壁面V層の崩落土。	V層土
5	黒褐色土	10YR	3/2	ややしまる	炭化物粒径 1cm以下 1%	滑ったV層土
6	浜黄褐色土	10YR	5/2	ややしまる	V層 10YR5/3 が 30%主層 10%	滑ったV層土
7	褐炭色土	10YR	5/1	ややしまる	炭化物粒径 2cm以下 2%	滑ったV層土
8	褐炭色土	10YR	4/1	ややしまる	炭化物粒径 1cm以下 5%	滑ったV層土
9	黒褐色土	10YR	2/3	しまりなし	V層 10YR5/3 が 5%	炭化物層

図Ⅵ-129　P-229・P-231

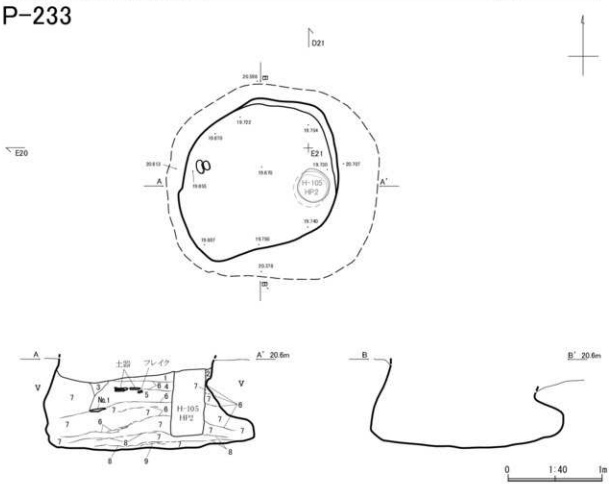
P-232



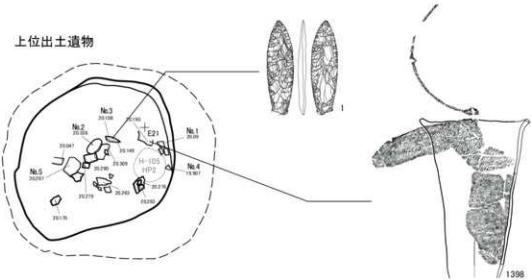
P-232 A-A'

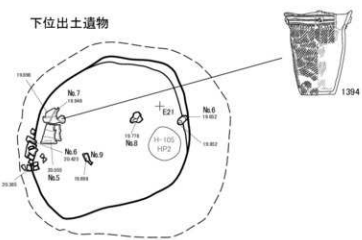
層	土色		堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm の炭 1%混じる　下部にほど褐色味が強い	
2	赤白～浅黄褐色土	7.5YR	6/2～3	ややしまる		V層が流入
3	暗褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径 1cm の炭 1%混じる	
4	赤白～浅黄褐色土	7.5YR	6/2～3	しまりあり		V層の塊

P-233



図Ⅵ-130　P-232・P-233（1）





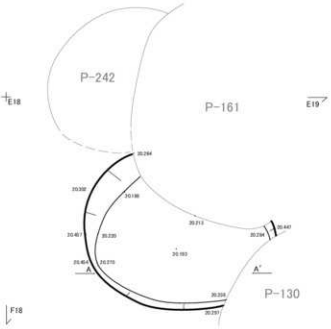
0　1:40　1m

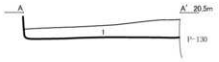
P-233 A-A'

No.	土色			堆積度		備考
1	浅白～淡黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅴ層がブロック状に混入
2	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり		
3	浅白～淡黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	Ⅴ層がブロック状に混入	1よりやや砂質で黄色味強い
4	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	Ⅴ層（浜白色土～淡黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 7%混じる 粒径 1cm の炭 7%混じる　下に多い	
5	灰褐色土	7.5YR	4/2	ややしまる	Ⅴ層（浜白色土～淡黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 15%混じる	
6	黄色砂層	7.5YR	2/1			炭化物層
7	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	Ⅴ層（浜白色土～淡黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 2%混じる 粒径 1cm の炭 2%混じる	
8	褐色色	7.5YR	5/6	しまりなし		Ⅴ層がやや撹拌したものの混入
9	浜白～淡黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	Ⅴ層がブロック状に混入	

図Ⅵ-131　P-233（２）

P-241





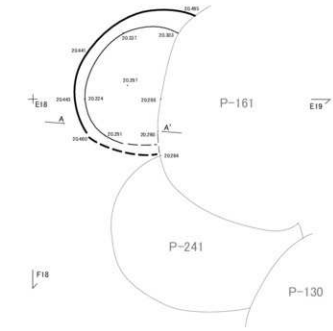
0 1:40 1m

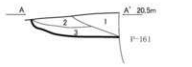
P-241 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	黒褐色土	10YR	3/6	あり	埋積土	あり		

※ P-155 壁面で立ち上がりを検出。P-155 との新旧は不明。

P-242





0 1:40 1m

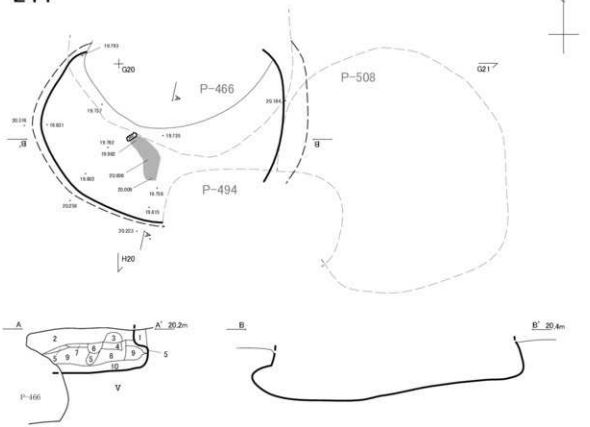
P-242 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/6	あり	埋積土	あり		
2	明褐色土	7.5YR	5/6	あり	埋積土	ややあり		
3	褐色土	7.5YR	5/6	あり	埋積土	あり		

※ P-161 の壁面に立ち上がりを確認。P-161 との新旧は不明。

図Ⅵ-132 P-241・P-242

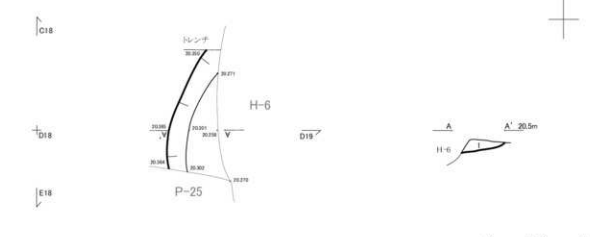
P-244



P-244 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	浅白～茨黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		V層による埋め戻し，固くしまる
2	褐色土	5YR	6/8	しまりあり	粒径１～3cmの４層が1%混じる，粒径１～3cmの炭が1%混じる	
3	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径１～3cmの４層が15%混じる，粒径１～3cmの炭が2%混じる	
4	褐色土	2.5YR	6/8	しまりあり	粒径1cmのV層1%混じる	6層が焼けた
5	にぶい橙色土	7.5YR	6/4	しまりあり		V層由来
6	にぶい橙色土	7.5YR	7/4	しまりあり		V層由来
7	にぶい橙色土	7.5YR	7/4	しまりあり	粒径１～3cmの炭が2%混じる，粒径１～3cmのV層5%混じる	
8	にぶい橙色土	7.5YR	7/4	しまりあり	粒径１～3cmの炭が1%混じる，粒径１～3cmの４層が7%混じる	
9	にぶい橙色土	7.5YR	7/4	しまりあり	粒径1cmの炭が1%混じる，粒径１～3cmの４層が7%混じる	
10	浅白～茨黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		V層砂質土流入

P-246

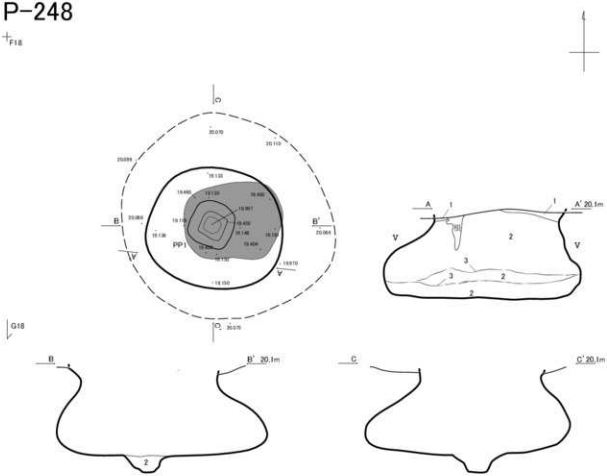


P-246 A-A'

No.	土色			動性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/4	粘り	埴壌土	粘り	炭化物少量含む	

図Ⅵ-133　P-244・P-246

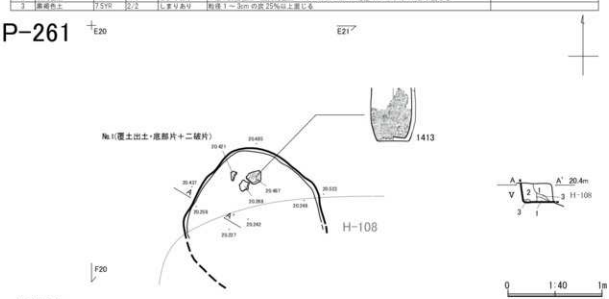
P-248



P-248 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	V種（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで2%混じる	埋め戻し土か
2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V種（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cm以下で1%以下混じる	
3	褐褐色土	7.5YR	2/2	しまりあり	粒径1～3cmの炭25%以上混じる	

P-261

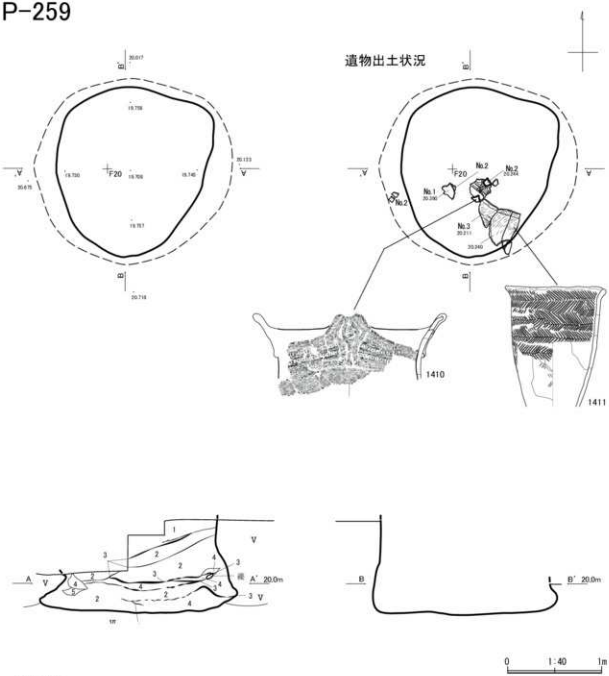


P-261 A-A'

No.	土色			堅密度		
1	褐褐色土	7.5YR	2/3	しまりあり	V種（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで7%混じる，粒径1cmの炭2%混じる	
2	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	V種ブロック状に混じる	
3	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	V種（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで25%混じる，粒径1cmの炭2%混じる	
IV	明褐色土	7.5YR	5/6			

図Ⅵ-134 P-248・P-261

P-259

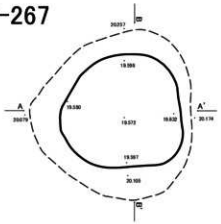


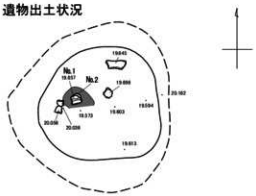
P-259 A-A'

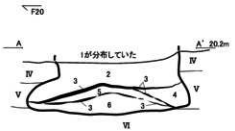
No.	土色			密度		備考
1	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり		灰層がブロック状に入り込む
2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm の点 7%混じる	
3	黒色炭層	7.5YR	2/1		炭化物密に含まる材は不明	炭化物層
4	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		V層がブロック状に入り込む
5	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり		灰層がブロック状に入り込む
V	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3			
IV	明褐色土	7.5YR	5/6			

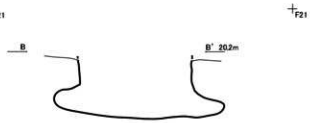
図Ⅵ-135　P-259

P-267







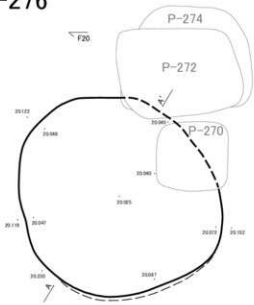


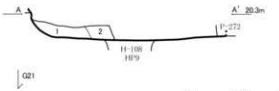
0 1:40 1m

P-267 A-A'

No.	土色			間密度	
1	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	V層ブロック状に混じる
2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで7%混じる、粒径1cmの炭2%混じる
3	黒色炭層	7.5YR	2/1	しまりなし	細かい炭化物状に詰まる、炭化物層
4	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで25%混じる、粒径1cmの炭7%混じる
5	褐色土	7.5YR	4/4	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで25%混じる、粒径1cmの炭7%混じる

P-276





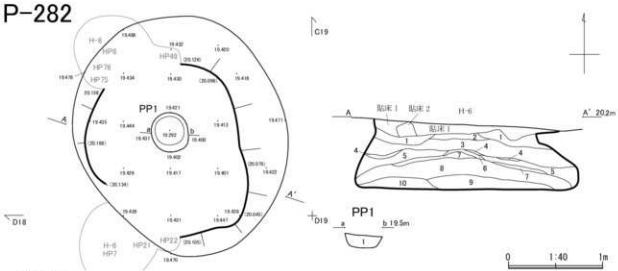
0 1:40 1m

P-276 A-A'

No.	土色			間密度	
1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cmで1%混じる、粒径1cm以下の炭1%以下混じる
2	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cmで50%以上混じる、粒径1cm以下の炭1%以下混じる

図Ⅵ-136 P-267・P-276

P-282



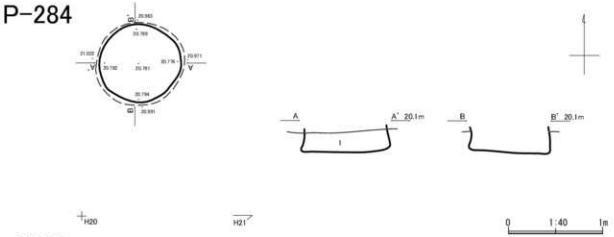
P-282 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/4	あり	埴壌土	堅	赤褐色焼土塊（φ1～5mm）少量含む	
2	褐色土	10YR	4/4	あり	埴壌土	堅	灰白色土粒少量含む、炭化物微量含む	
3	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	堅	灰白色土粒微量含む	
4	褐色土	10YR	4/4	あり	埴壌土	あり	灰白色土粒少量含む	
5	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり	灰白色土粒微量含む	
6	褐色土	7.5YR	4/6	あり	埴壌土	あり	赤褐色焼土塊（φ1～5mm）含む、炭化物多く含む	盛土物は高粟焼土
7	灰黄褐色土	10YR	4/6	ややあり	砂質埴壌土	あり	灰白色土粒（φ1～3mm）多く含む 10%、炭化物微量含む	
8	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり	灰白色土粒（φ1～3mm）微量含む	
9	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	ややあり	灰白色土粒（φ1～3mm）微量含む、炭化物微量含む	
10	灰白色土	5Y	8/2	ややあり	砂質埴壌土	低い	小礫含む、褐色土含む 10%	壁面崩落土

P-282 貼床、PP

遺構名	No.	土色		粘性	土性	堅密度		備考
貼床	1	褐色土	10YR	4/6	埴壌土	非常に堅	灰白色土塊（φ5～15cm）多く含む	
	2	黄褐色土	10YR	5/6	埴壌土	～4ｍ程埴壌土	非常に堅	
PP1	1	褐色土	10YR	4/6	埴壌土	ややあり		センターピット

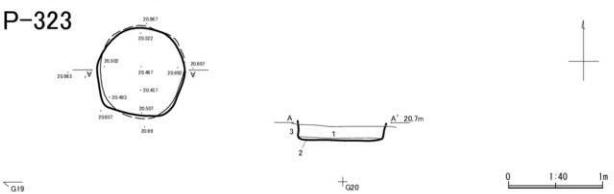
P-284



P-284 A-A'

No.	土色			粘性	堅密度	備考
1	灰褐色土	7.5YR	4/2	ややしまる	粒径 1cm のV層 1%混じる、粒径 1mm の炭が 1%以下混じる	盛土遺構
2	にぶい暗一褐色土	7.5YR	6/4～6/6	ややしまる		

P-323

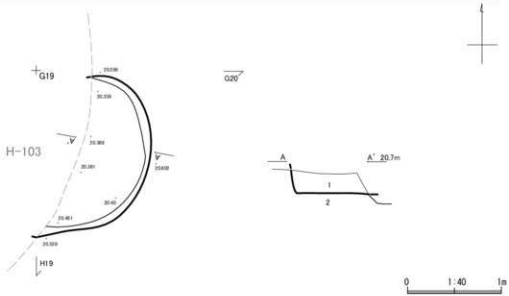


図Ⅵ-137　P-282・P-284・P-323（１）

P-323 A-A'

No.	土色			堆積度		備考
1	にぶい褐色	7.5YR	5/4	ややしまる	粒径 1～3cm のⅤ層 1%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる、粒径 1cm の小砂利 1%混じる	
2	にぶい褐色	7.5YR	5/4	ややしまる	粒径 1～3cm のⅤ層 25%混じる、粒径 1cm の炭が 25%混じる、粒径 1cm の小砂利 1%混じる	
3	明褐色	7.5YR	6/8	ややしまる	粒径 1cm のⅤ層 1%混じる、粒径 1cm の小砂利 1%混じる	盛土

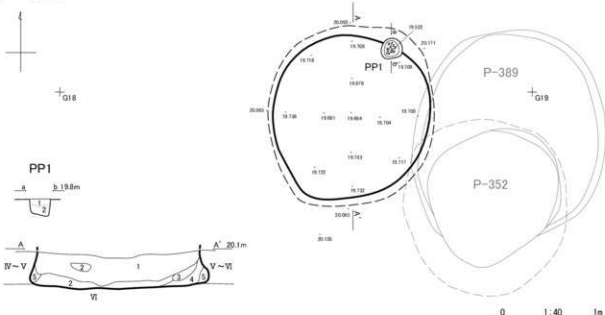
P-342



P-342 A-A'

No.	土色			堆積度		備考
1	明黄褐色土	10YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm の炭 1%混じる	Ⅴ層主体
2	褐色土	10YR	4/6	しまりあり	粒径 1cm の炭 1%混じる	Ⅴ層主体

P-343



P-343 A-A'

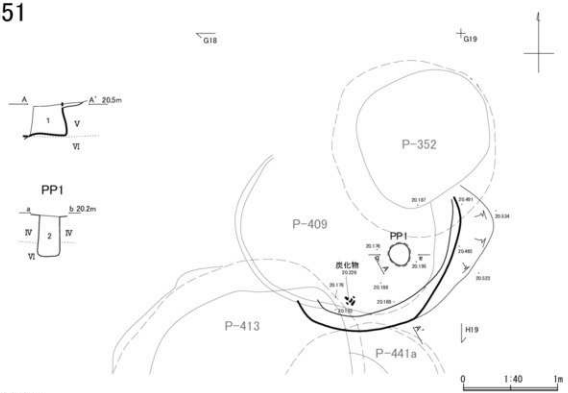
No.	土色			堆積度	
1	黄褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	Ⅴ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 1%混じる、粒径 1cm の炭 3%混じる
2	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	Ⅴ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 1%混じる、粒径 1cm の炭 3%混じる
3	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	Ⅴ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 1%混じる、粒径 1cm の炭 3%混じる
4	黒褐色土	10YR	3/3	しまりあり	Ⅴ～Ⅵ層流入
5	明黄褐色土	10YR	6/8	しまりあり	Ⅳ～Ⅴ層流入
Ⅳ～Ⅴ	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	
Ⅴ～Ⅵ	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	
Ⅵ	明黄褐色土	10YR	6/6	ややしまる	掘りこぶしに満たない亜角礫が 50%混じる

P-343PP

遺構名	No.	土色			堆積度	
PP1	1	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	Ⅴ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～2cm で 5%混じる、粒径 1～2cm の炭 10%混じる
	2	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	Ⅴ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～2cm で 5%混じる、赤色土（5YR6/6）が粒径 1～3cm で 7%混じる

図Ⅵ-138　P-323（2）・P-342・P-343

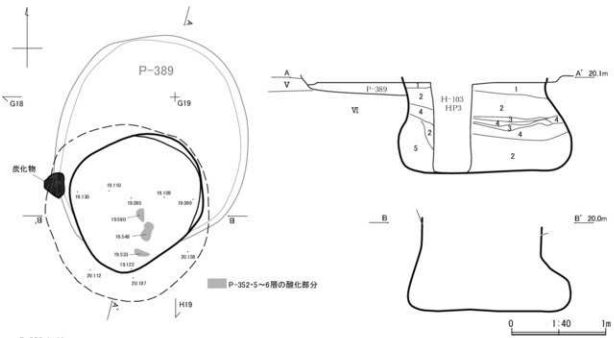
P-351



P-351 A-A'、PP1

No.	土色			硬密度	
1	暗黄褐色土	10YR	6/6	しまりあり	Ⅴ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 1%以下混じる。粒径 1cm の炭 1%以下混じる
2	暗褐色土	7.5YR	3/4	しまりなし	粒径 1cm のⅤ層が 2%混じる。黄色粘地山の粒が 5%混じる

P-352

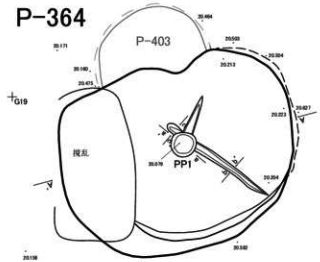


P-352 A-A'

No.	土色			硬密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	Ⅴ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 10%混じる。粒径 1cm の炭 10%混じる	
2	暗褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	Ⅴ層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 2%混じる。粒径 1cm の炭 1%混じる	
3	黒褐色土	7.5YR	3/2	ややしまる		
4	褐色	10YR	4/3	ややしまる	粒径 1cm の炭 1%混じる	焼焼する
5	暗黄褐色砂質土	10YR	7/6	ややしまる	粒径 1cm の炭 1%混じる	可燃主体
Ⅴ	暗黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり		
Ⅵ	暗褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり		

図Ⅵ-139　P-351・P-352

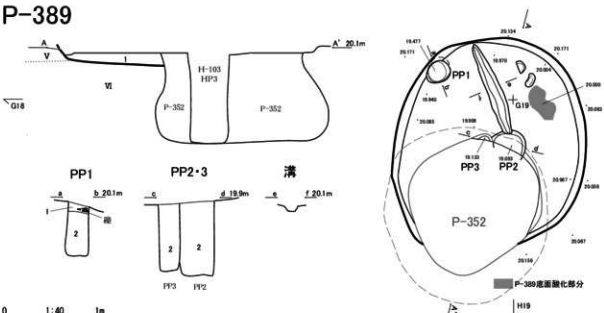
P-364



P-364 A-A', PP1

No.	土色			堆積度	
1	明褐色土	7.5YR	5/8	ややしまる	V層（灰白色土～淺黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm以下で1%混じる，粒径1～3cmの炭1%以下混じる
2	灰白～淺黄褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	V層（灰白色土～淺黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm以下で1%混じる，粒径1～3cmの炭1%以下混じる 粒径1～3cmの炭1%以下混じる
3	黒褐色土	7.5YR	3/2	ややしまる	V層（灰白色土～淺黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm以下で1%混じる， 粒径1～3cmの炭7%以下混じる，粒径1～3cmのわが7%混じる
4	褐色土	7.5YR	4/6	ややしまる	V層（灰白色土～淺黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm以下で1%混じる

P-389



P-389 A-A'

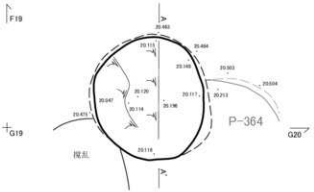
No.	土色			堆積度	
1	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	V層（灰白色土～淺黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cmで7%混じる，粒径 1cmの炭5%混じる
Ⅴ	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり	
Ⅵ	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	

P-389 PP

遺構名	No.	土色			堆積度	
PP	1	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	V層（灰白色土～淺黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～2cmで5%混じる，粒径 1～2cmの炭10%混じる
1～3	2	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	V層（灰白色土～淺黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～2cmで5%混じる，褐色土（5YR6/6）が粒径 1～3cmで7%混じる

図Ⅵ-140　P-364・P-389

P−403

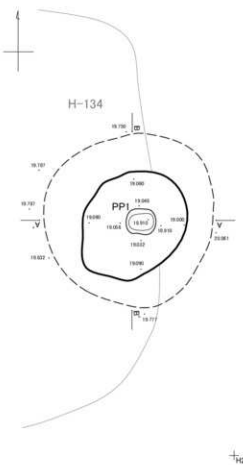


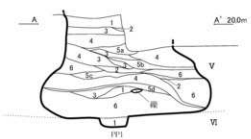
0　1:40　1m

P-403 A-A'

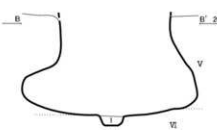
No.	土色			堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり		
2	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1～2cmで1%混じる	V層の流入
V	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		
VI	明黄褐色土	10YR	6/6	しまりあり	掘りこぶしに満たない亜角礫が50%混じる	

P−404





5層は同じ土だが取り上げの便宜で上から5a・b・c・dとした



0　1:40　1m

P-404 A-A'

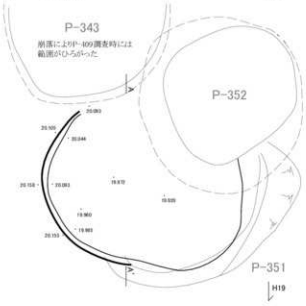
No.	土色			堅密度	
1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cmで3%混じる。粒径1cmの炭2%以下混じる 2%混じる。粒径1cm赤炭2%以下混じる
2	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cmで25%混じる。粒径1cmの炭5%以下混じる
3	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	暗色土（5YR6/6）が粒径1～3cmで15%混じる。粒径1cmの炭が2%混じる
4	褐色土	7.5YR	4/6	ややしまる	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで15%混じる。粒径1cmの炭が2%混じる
5	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径1～3cmのV層7%混じる。粒径1～2cmの小石が1%混じる。粒径1～3cmの炭が2%混じる
6	褐色土	7.5YR	4/6	ややしまる	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cmで2%混じる。粒径1cmの炭が2%混じる

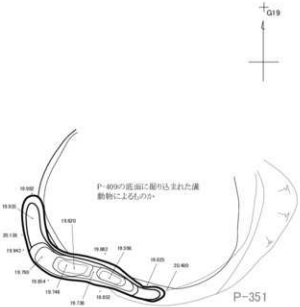
P-404 PP

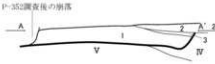
遺構名	No.	土色			堅密度	
PP1	1	暗褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径1～3cmのV層が15%混じる。粒径1～3cmの炭が2%混じる

図VI-141　P-403・P-404

P−409



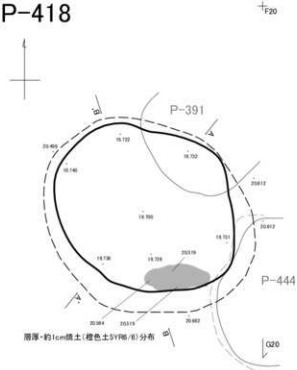


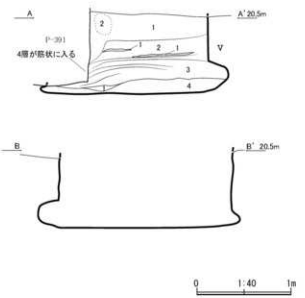


P−409 A−A'

No.	土色			粒状度		
1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	Ⅴ層（灰白色土〜黄褐色土：7.5YR8/2〜3）が粒径 1cm 以下で 1%以下混じる	
2	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1〜3cm の 10YR7/6 明黄褐色砂 15%混じる	
3	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	Ⅴ層（灰白色土〜黄褐色土：7.5YR8/2〜3）が粒径 1cm で 1%混じる。 粒径 1〜3cm の 10YR7/6 明黄褐色砂 1%混じる粒径 1〜2cm の小石が 2%混じる	

P−418



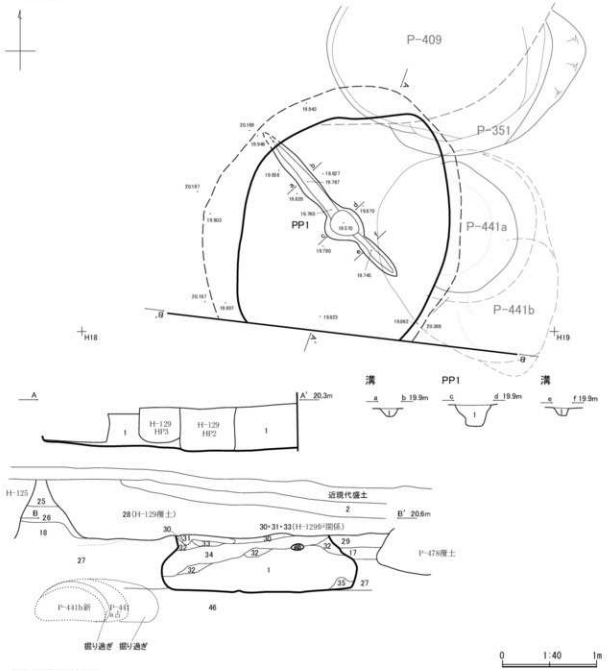


P−418 A−A'

No.	土色			粒状度	
1	黄褐色土	10YR	5/6	しまりあり	2 層に対して 50%以上、Ⅴ層密に該当する
2	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1〜3cm のⅤ層 5%混じる。黒褐土にⅤ層ブロックが混在、粒径 1cm の炭が 1%以下混じる
3	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	あよそ粒径 1cm の炭が 1%以下混じる
4	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1〜3cm のⅤ層 10%混じる。粒径 1〜2cm の炭が 3%混じる

図Ⅵ-142　P−409・P−418

P-413



P-413 A-A'、PP1、溝

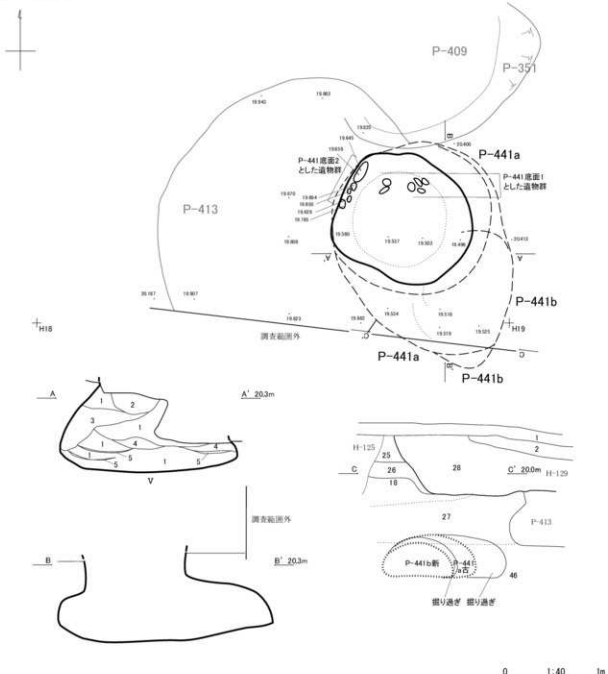
No.	土色			堆積度		備考
1	黒褐色土	7.5YR	3/2		粒径1～2cmのV層1%混じる	

調査区東壁　P-413 B-B'

No.	土色			堆積度		備考
近現代盛土	黄褐色土	10YR	4/3			
2（1）	黒色土	10YR	2/1		粒径1cmのV層が1%混じる，粒径1cmのV層が1%混じる	I層
17（竪穴由来V層）	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		竪穴由来砂質土
18（V）	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		V層
25（IV）	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり		IV層
26（V）	黒褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり		V層
27（竪穴由来V層）	にぶい褐色土	7.5YR	7/4	しまりあり	粒径1～5cmの亜角礫 10%混じる	砂質
28（H-129覆土）	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径1cmの炭が2%混じる，粒径1cmのV層が2%混じる	
29（竪穴由来V層）	にぶい褐色土	7.5YR	7/4	しまりあり	粒径1～2cmのV層が2%混じる	砂質
30（H-129 炉関係）	褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径1～3cmのV層 7%混じる，粒径1～3cmの炭が25%混じる，粒径1～2cmのV層が2%混じる	
31（H-129 炉関係）	黒褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径1～3cmのV層 7%混じる，粒径1～3cmの炭が25%混じる	
32（P-413覆土）	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径1～3cmのV層 7%混じる，粒径1～3cmの炭が5%混じる	
33（H-129 炉関係）	褐色土	5YR	7/8		粒径1cmのV層2%混じる，粒径1～2cmの炭が5%混じる	よく鉄分酸化する
34（P-413覆土）	黒褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり		
35（P-413覆土）	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		竪穴砂流入
46（竪穴覆土）	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		竪穴砂質土

図Ⅵ-143　P-413

P-441



P-441 A-A'

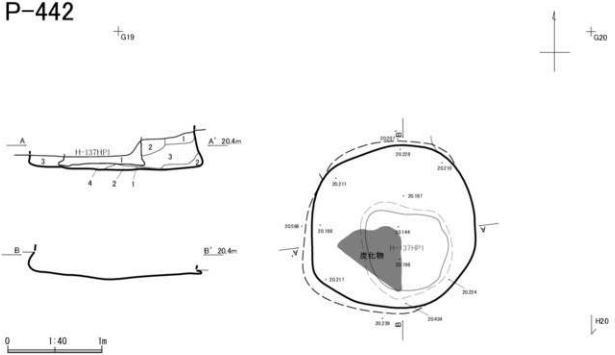
No.	土色			堅密度		備考
1	褐褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり		
2	褐褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1～3cmのV層5%混じる	
3	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	粒径1～3cmの炭が5%混じる	V層の流入
4	褐褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径1～5cm（5cmのブロック主体）のV層25%混じる	粒径1cmの炭が1%混じる
5	褐褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる		

調査区南壁 P-441a - b C-C'

No.	土色			堅密度		備考
1（近現代盛土）	黄褐色土	10YR	4/3			
2（1）	黒色土	10YR	2/1		粒径1cmのV層が1%混じる	1層
17（Ⅵ層由来V層）	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅵ層由来砂質土
25（Ⅳ）	橙色土	7.5YR	6/8	しまりあり		Ⅳ層
26（V）	褐褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり		Ⅳ層主体
27（Ⅵ層由来V層）	灰白い橙色土	7.5YR	7/4	しまりあり	粒径1～5cmの赤角棒10%混じる	砂質
28（H-129覆土）	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径1cmの炭が2%混じる、粒径1cmのV層が2%混じる	
46（Ⅵ層砂質土）	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		Ⅵ層砂質土

図Ⅵ-144 P-441

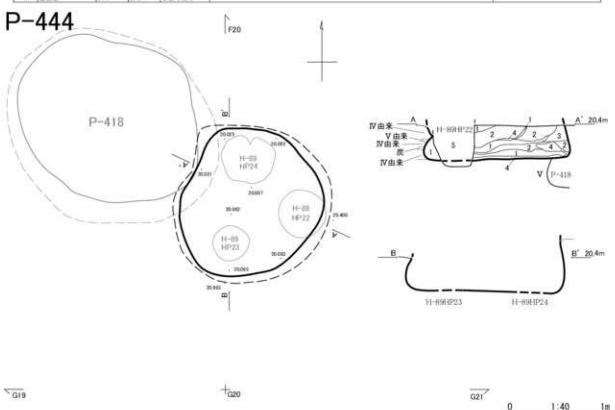
P-442



P-442 A-A'

No	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	およそ粒径１～3cmの炭が50%、炭に詰まる、土器片・骨角柱・焼骨らしきもの5%	
2	明黄褐色土	10YR	7/6	ややしまる		
3	一点い黄褐色土	7.5YR	5/4	ややしまる	粒径１～2cmの炭が2%混じる	
4	暗色土	5YR	6/8	しまりあり		

P-444

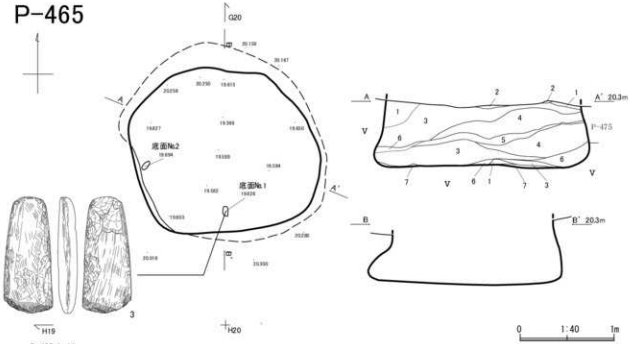


P-444 A-A'

No	土色			堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径１～3cmのV層が5%混じる、粒径1cmの炭が1%混じる、粒径1cm以下の焼骨片が2%混じる	
2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径1cm以下の炭が1%混じる	円周上層ｂ式の部出土
3	暗褐色土	7.5YR	3/3	ややしまる	粒径1cmの炭層が1%混じる	
4	灰白～黄黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		V層の流入
5	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径１～3cmのV層5%混じる、粒径１～3cmの炭2%混じる	

図Ⅵ-145　P-442・P-444

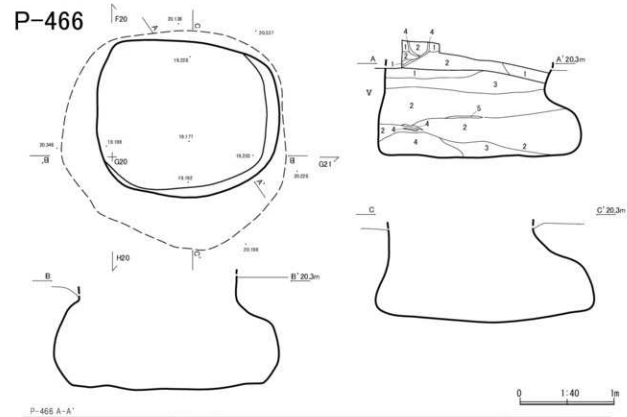
P-465



P-465 A-A'

№	土色		堅密度		備考
1	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	V層の鉄集
2	褐色土	5YR	7/3		粒径 1cm のV層が2%混じる，粒径 1～2cm の炭が5%混じる	よく鉄分酸化する
3	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層が粒径 1～2cm で3%混じる，粒径 1～3cm で炭が2%混じる	
4	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	V層が粒径 1～2cm で3%混じる，粒径 1～3cm で炭が5%混じる	胡桃と骨出土
5	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	V層が粒径 1～2cm で3%混じる，粒径 1～3cm で炭が10%混じる	胡桃と骨出土
6	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりなし		V層の流入
7	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりなし	粒径 1cm のV層が1%混じる	腐植土

P-466

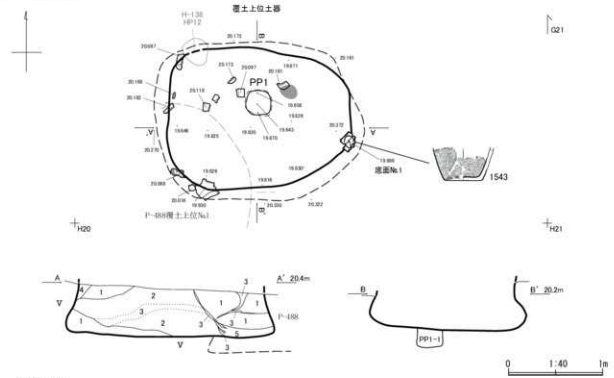


P-466 A-A'

№	土色		堅密度		備考
1	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	V層の鉄集
2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層が粒径 1～2cm で3%混じる，粒径 1～3cm で炭が2%混じる
3	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	V層が粒径 1～2cm で3%混じる，粒径 1～3cm で炭が5%混じる	胡桃と骨出土
4	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりなし		V層の流入
5	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりなし	粒径 1cm のV層が1%混じる	腐植土

図Ⅵ-146　P-465・P-466

P-475



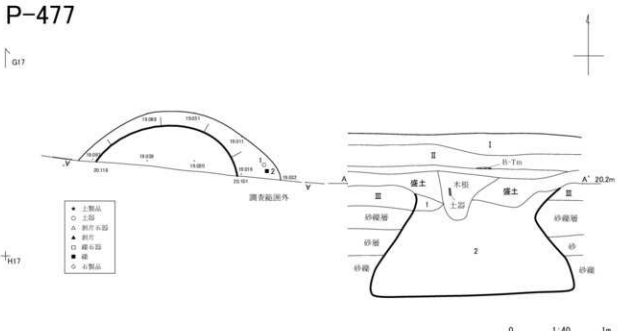
P-475 A-A'

No.	土色			堆積度		備考
1	明黄褐色土	10YR	6/8	しまりあり	粒径１～3cmのV層5%混じる，粒径1cmの炭が5%混じる	
2	暗黄褐色土	10YR	6/4	しまりあり	粒径１～3cmのV層1%混じる，粒径1cmの炭が1%混じる	
3	黄褐色土	10YR	5/6	しまりあり	粒径１～3cmの炭25%混じる	
4	灰白～淡黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりなし	V層の混入	
5	褐色土	7.5YR	3/4	しまりなし	粒径1cmのV層1%混じる，粒径1cm以下の炭が1%混じる	

P-475 PP

遺構名	No.	土色				備考
PP1	1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径1cmのV層1%混じる，粒径1cm以下の炭が2%混じる

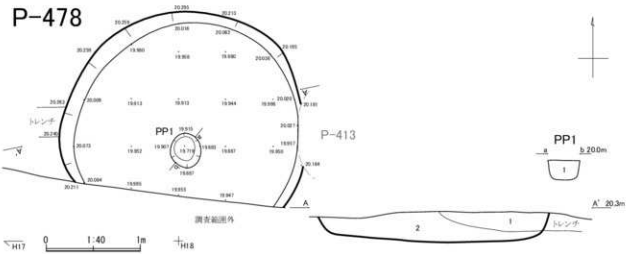
P-477



P-477 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堆積度		備考
1	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり		他山の流れだし
2	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり	炭化物微量含む	

図Ⅵ-147　P-475・P-477

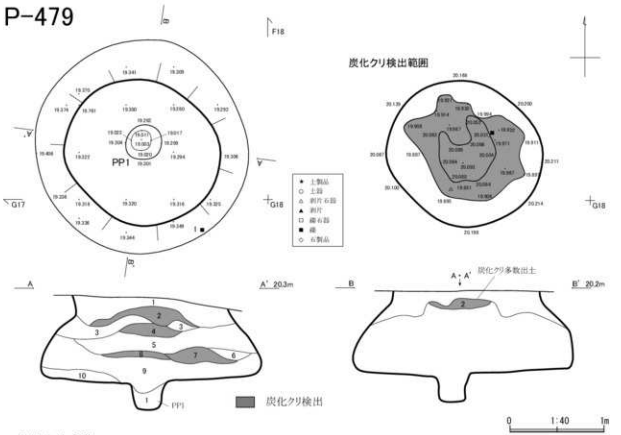


P-478 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	あり	壌壌土	あり	神徳重含む	
2	褐色土	10YR	4/6	あり	壌壌土	あり		

P-478 PP

遺構名	No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
PP1	1	褐色土	10YR	4/6	あり	壌壌土	あり		



P-479 A-A'、B-B'

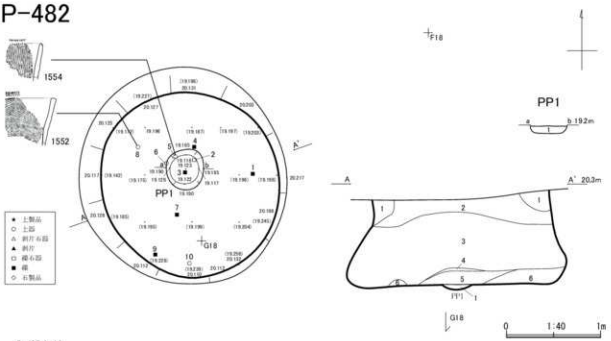
No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/4	あり	壌壌土	あり		1・2層層界に炭化クリの散布が見られる。分布図はこの面のこと
2	暗褐色土	10YR	3/4	あり	壌壌土	あり	炭化クリ・炭化材含む 10%	
3	褐色土	10YR	4/6	あり	壌壌土	あり	炭化物微量含む 1%	
4	褐色土	10YR	4/4	あり	壌壌土	あり	焼土粒微量含む 1%、炭化物（クリ）炭化材少量含む 3%	
5	褐色土	10YR	4/6	あり	壌壌土	あり	炭化クリ・炭化材少量含む 3%	
6	褐色土	10YR	4/6	あり	壌壌土	あり		
7	褐色土	10YR	4/6	あり	壌壌土	あり	炭化クリ・炭化材含む 5%	
8	暗褐色土	10YR	3/4	あり	壌壌土	あり	炭化クリ・炭化材含む 10%、土器片出土	
9	褐色土	10YR	4/6	あり	壌壌土	あり	炭化材・炭化クリ微量含む 1%	
10	黄褐色砂	2.5Y	5/6	ややあり	砂壌土	ややあり	10YR4/6 褐色土ブロック含む	整面砂塊土

P-479 PP

遺構名	No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
PP1	1	褐色土	10YR	4/6	あり	砂質壌壌土	あり	10層の砂質分を含む	

図Ⅵ-148 P-478・P-479

P-482



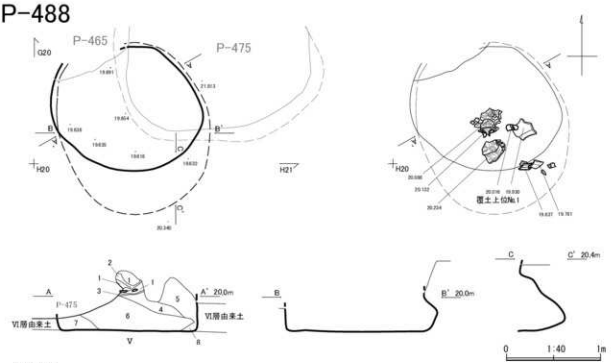
P-482 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	あり	強埴土	あり		
2	黄褐色土	10YR	5/6	あり	砂質強埴土	あり	横・小礫多量に含む 50%	
3	褐色土	10YR	4/6	あり	強埴土	あり		遺球単一層
4	褐色土	10YR	4/4	あり	強埴土	あり	炭化物含まれる	炭化物層
5	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	あり	強埴土	あり	10YR6/6 明黄褐色土ブロック含む（Φ ~3cm）、炭化物含む	
6	明黄褐色土	10YR	6/6	なし	砂埴土	ややあり		壁面放置土

P-482 PP

遺構名	No.	土色		粘性	土性	堅密度		備考
PP1	1	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	あり	強埴土	あり	10YR6/6 明黄褐色土ブロック含む（Φ ~3cm）、炭化物含む	5 層と同じ

P-488

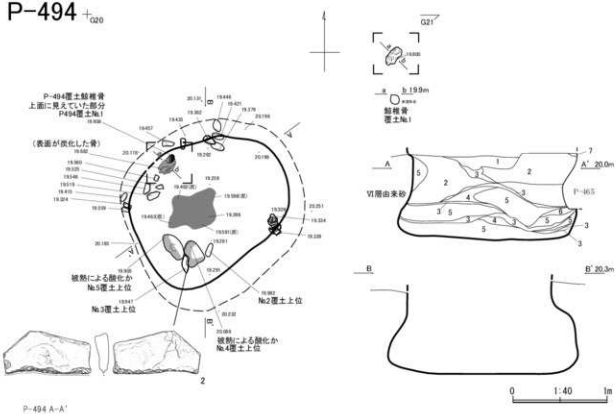


P488 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	7/6	しまりあり	粒径 1cm のV層 10%混じる、粒径 1cm 以下の炭が 1%混じる	
2	炭白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	V層の流入	
3	黄褐色土	7.5YR	7/8	しまりあり	粒径 1cm のV層 10%混じる、粒径 1～3cm の炭 25%混じる	
4	黄褐色土	7.5YR	7/8	しまりあり	粒径 1～3cm のV層 10%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	
5	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm のV層 7%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	
6	黄褐色土	7.5YR	7/8	しまりあり	粒径 1～3cm のV層 5%混じる	
7	黄褐色土	7.5YR	7/8	しまりあり	粒径 1～3cm のV層 10%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	

図Ⅵ-149　P-482・P-488

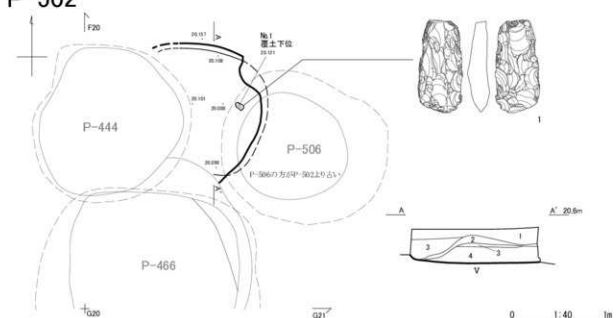
P-494



P-494 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1～3cm のⅤ層 5%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	
2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	まじりなし	
3	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりなし	黒精土 中央部には炭化物が 25%混在、粒径 1cm のⅣ層が 1%混じる	
4	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm のⅣ層が 1%以下混じる	
5	赤白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりなし	Ⅵ層由来土の流入、粒径 1cm のⅣ層が 1%以下混じる	
6	赤白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりなし	Ⅵ層由来土の流入に 4 が 25%混在する、粒径 1cm のⅣ層が 1%以下混じる	
7	褐色土	5YR	7/8	しまりあり	焼土か よく鉄分酸化する	
8	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	しまりなし	Ⅴ層の流入	

P-502

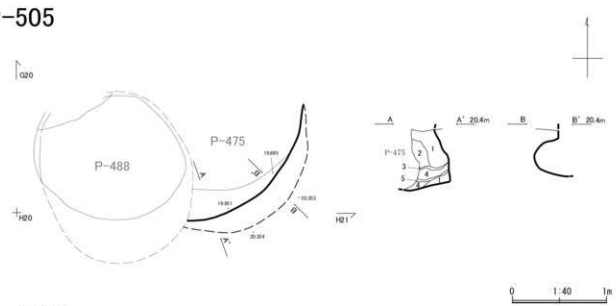


P-502 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1～2cm のⅤ層 5%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	
2	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりなし	黒精土、粒径 1～3cm の炭 3%混じる	
3	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm のⅤ層 1%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	
4	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1～2cm のⅤ層 5%混じる、粒径 1cm の炭が 2%混じる	

図Ⅵ-150 P-494・P-502

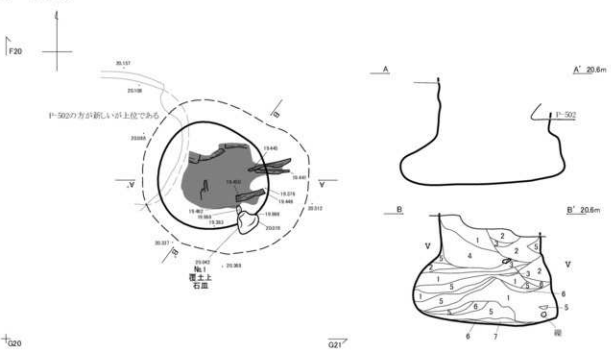
P-505



P-505 A-A'

No.	土色			硬軟度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり	粒径 1cmのV層1%混じる、粒径 1cmの炭が1%混じる	
2	褐色土	7.5YR	4/4	しまりあり	粒径 1cmのV層1%混じる、粒径 1cmの炭が2%混じる	
3	黒褐色土	10YR	5/6	しまりあり	粒径 1～2cmのV層5%混じる	
4	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cmのV層1%混じる、粒径 1～2cmの炭 7%混じる	
5	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりなし	焼構土、粒径 1～2cmの炭25%混じる	

P-506

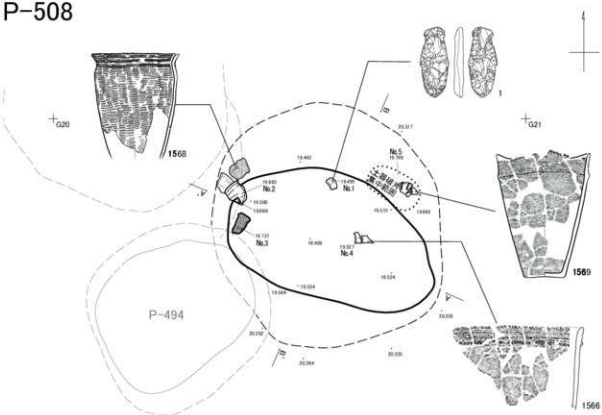


P-506 B-B'

No.	土色			硬軟度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりなし	粒径 1cmの炭 1%混じる	
2	褐色土	7.5YR	3/3	しまりなし	粒径 1～2cmのV層5%混じる、粒径 1cmの炭5%混じる	
3	黒褐色土	7.5YR	2/2	しまりなし	粒径 1cmの炭25%混じる	
4	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	しまりなし	粒径 1～2cmのV層50%混じる、粒径 1～3cmの炭2%混じる	
5	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりなし	V層の流入	
6	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりなし	1に3が混在か　焼構	
7	黒褐色土	7.5YR	2/2		炭化物のかたまり	

図Ⅵ-151　P-505・P-506

P-508

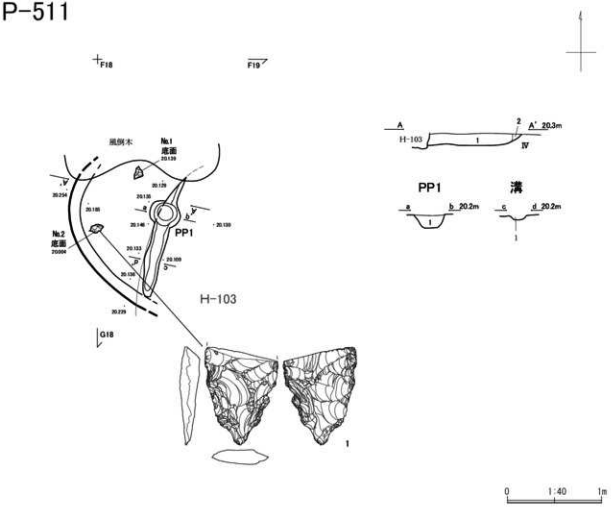


P508 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm のV層 1%混じる、粒径 1cm の炭が 1%以下混じる	
2	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1～3cm のV層 7%混じる、粒径 1cm の炭が 1%混じる	
3	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	V層の流入	
4	灰褐色土	7.5YR	4/2	しまりあり	粒径 1cm のV層 1%以下混じる	
5	暗褐色土	7.5YR	3/3	しまりあり	粒径 1cm 以下のV層 1%以下混じる、粒径 1cm の炭が 5%混じる	
6	明黄褐色土	10YR	6/6	しまりあり	粒径 1cm のV層 25%混じる	
7	明黄褐色土	10YR	6/6	しまりあり	粒径 1cm のV層 10%混じる、粒径 1～3cm の炭が 5%混じる	

図Ⅵ-152 P-508

P-511



P-511 A-A'

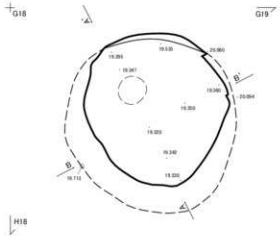
No.	土色			堆積度		備考
1	褐暗色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm 以下のV層 1%混じる、粒径 1～2cm の炭が 1%混じる	
2	褐暗色土	7.5YR	5/8	しまりあり	風倒木の覆土	

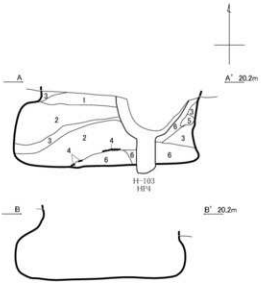
P-511 PP1、溝

No.	土色					備考
1	褐暗色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径 1cm 以下のV層 1%混じる	粒径 1cm 以下の炭が 1%混じる

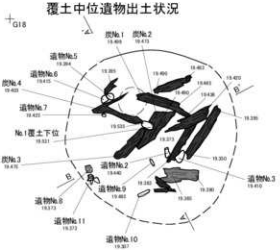
図Ⅵ-153　P-511

P-564

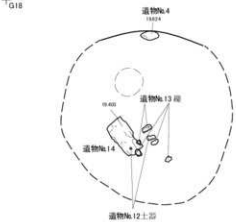




覆土中位遺物出土状況



覆土下位遺物出土状況



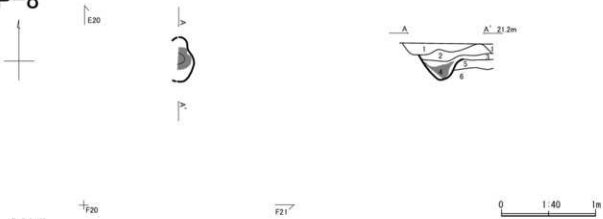
0 1:40 1m

P-564 A-A'

No.	土色			堆積度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	浮薄支体	
2	暗褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	粒径1～3cmのV層2%混じる	粒径1cm以下の炭が1%混じる
3	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	V層流入	
4	黒色炭層	7.5YR	2/1	炭化物層	炭化材	
5	オリーブ灰色砂	5GY	6/1	しまりあり	V層由来砂グライ化	
6	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり	V層由来砂	

図Ⅵ-154 P-564

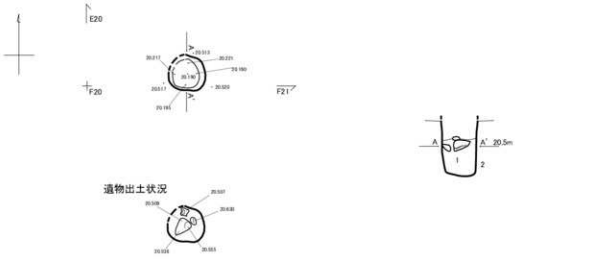
P-8



P-8 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	弱	砂壌土	すこぶる堅	炭等15%混じる	
2	暗褐色土	10YR	3/3	弱	壌土	すこぶる堅	炭等10%混じる	
3	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	弱	壌土	すこぶる堅	炭等7%混じる	
4	黒色炭層	7.5YR	2/1			炭層		炭層
5	褐色土	7.5YR	5/6	弱	砂壌土	すこぶる堅	炭3%混じる	
6	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	弱	壌土	すこぶる堅	炭3%混じる	

P-10



P-10 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	5/6	-	粒径 1cm の砂利 7%混じる	
2	褐褐色土	7.5YR	5/8	-	基本層序Ⅴ層由来の圧白色土～浅黄褐色土（7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 7%混じる	

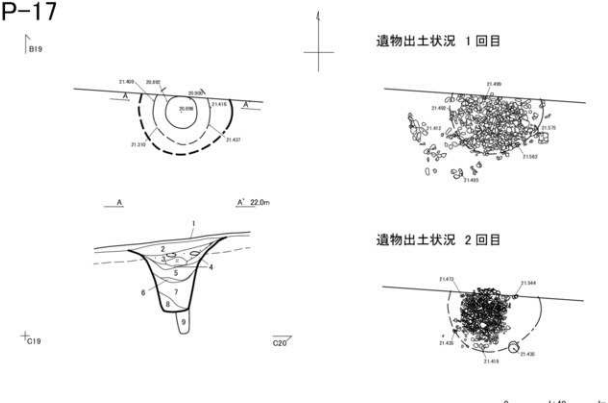
P-11

P-11 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	褐褐色土	7.5YR	5/6	-	粒径 1cm の焼土粒 3%混じる，直径 1～3cm の小石 10%混じる	
2	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	-	直径 1～3cm の小石 1%混じる	H-108 覆土
3	赤褐色土	2.5YR	4/6	-	直径 1～3cm の小石 1%混じる	H-108 覆土被熱

図Ⅵ-155　P-8・P-10・P-11

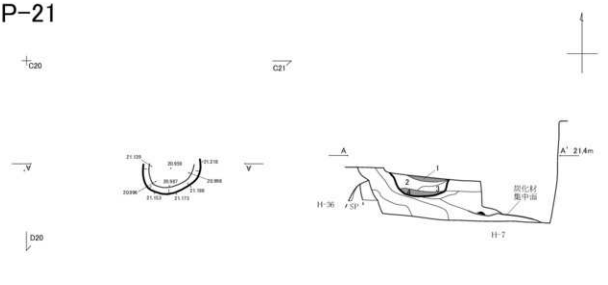
P-17



P-17 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	褐灰色土	10YR	4/1	ややしまる	Ⅱ層とⅤ層の混土	表土層
2	にぶい黄橙色土	10YR	5/4	ややしまる	炭化物粒径 5mm 以下 1%	Ⅴ層由来の住居址覆土
3	にぶい黄橙色土	10YR	4/2	ややしまる	円礫最大径 10 cm以下 50%　下位に 10YR5/1 褐灰色の凝灰岩粒径 30 cmが割れて出土	汚れたⅤ層土に大量の礫が混じる
4	褐色土	10YR	4/4	ややしまる	炭化物粒径 5mm 以下 1%	焼土粒にⅤ層粒が混じったもの。
5	にぶい黄橙色土	10YR	5/4	ややしまる	炭化物粒径 2mm 以下 1%	Ⅴ層由来の住居址覆土
6	にぶい黄橙色土	10YR	6/3	ややしまる	にぶい黄橙色の砂質土 40%	Ⅴ層由来の住居址覆土
7	褐色土	10YR	4/4	ややしまる	炭化物粒径 2 cm以下 10%　切屑粒 10YR7/2 粒径 1 cm以下 1%	炭化物混じりのⅤ層土
8	にぶい黄橙色土	10YR	5/3	ややしまる	切屑土 10YR7/2 にぶい黄橙色 30%	Ⅴ層由来の住居址覆土と切屑の混土
9	白色土	10YR	8/2	ややしまる	Ⅴ層土 10%	下位の住居址柱穴

P-21

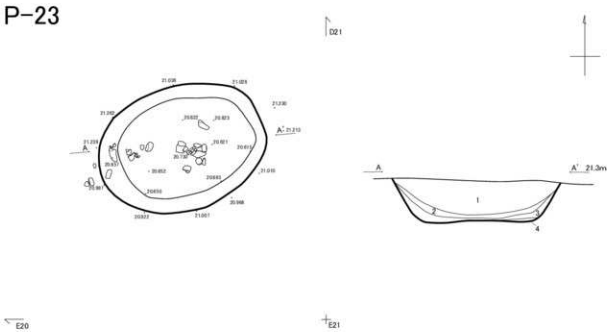


P-21 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	浅黄橙色土	10YR	4/2	ややしまる	炭化物粒径 10mm 以下 20%	炭化物混じりのⅤ層由来の住居址覆土
2	にぶい黄橙色土	10YR	6/4	ややしまる	10YR7/2 にぶい黄橙色の砂質土 40%	Ⅴ層由来の住居址覆土
3	にぶい黄橙色土	10YR	5/4	ややしまる	炭白色切屑 5%	Ⅴ層由来の住居址覆土と切屑混土
4	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	ややしまる	炭化物粒径 5mm 以下 2%	Ⅴ層由来の住居址覆土

図Ⅵ-156　P-17・P-21

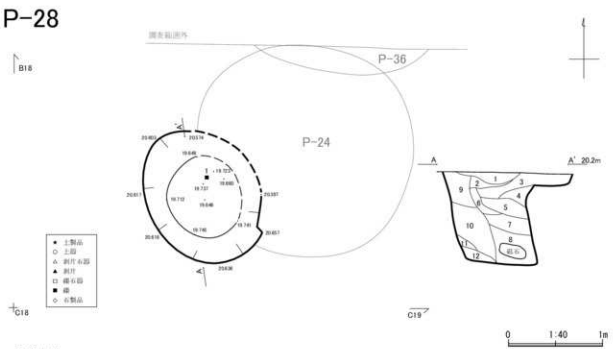
P-23



P-23 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	暗褐色土	10YR	3/3	弱		堅	炭混じり（少量）暗褐色土壌　盛土壌の混じり合ったもの	
2	暗褐色土	10YR	3/4	弱		堅	1の層に褐色盛土壌が混じったもの	
3	黒褐色土	10YR	3/2	弱		堅	盛土と黒の暗褐色盛土壌が1の層に多く混入	
4	黒褐色土	10YR	2/3	弱		堅	炭混じり	

P-28

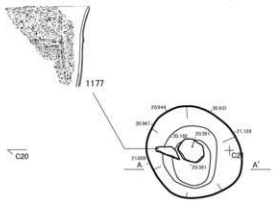


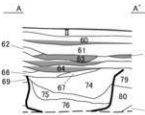
P-28 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	明黄褐色土	10YR	6/6	ややあり	埴壌土	あり	灰白色土塊（地山粘土）混入する	粒穴
2	褐色土	10YR	4/6	ややあり	埴壌土	あり		粒穴
3	褐色土	10YR	4/6	ややあり	砂質埴壌土	弱い	炭化物多く含む 10%	粒穴
4	褐色土	10YR	4/6	ややあり	砂質埴壌土	弱い		粒穴
5	褐色土	10YR	4/6	ややあり	砂質埴壌土	弱い	炭化物・灰白色土塊少量含む 3%	粒穴
6	褐色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	あり	灰白色土塊微量含む 1%	粒穴
7	褐色土	10YR	4/4	ややあり	砂質埴壌土	弱い	灰白色土塊・炭化物微量含む 1%	粒穴
8	褐色土	10YR	4/6	ややあり	砂質埴壌土	弱い	私産に大雑（砂岩）ある	粒穴
9	黄褐色土	10YR	5/8	あり	埴壌土	あり		
10	黄褐色土	10YR	5/8	あり	砂質埴壌土	ややあり	灰白色土塊多く含む 30%	
11	暗赤褐色土	5YR	3/6	なし	砂壌土	弱い		
12	褐色土	10YR	4/6	あり	シルト質埴土	強い		

図Ⅵ-157　P-23・P-28

P-29



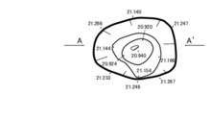


0 1:40 1m

P-29 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
60	黒褐色	10YR	3/2	弱	埴壌土	すこぶる堅	ローム粒 5%	
61	灰黄褐色	10YR	3/2	弱	埴壌土	すこぶる堅	軟質曲来粒・炭小 3%	
62	暗褐色	10YR	4/2	弱	埴壌土	すこぶる堅	軟質曲来粒・炭小 2%	
63	暗褐色	10YR	3/3	弱	埴壌土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 7%	
64	暗褐色	10YR	3/3	弱	埴壌土	すこぶる堅	ローム粒・炭小 3%	
66	にぶい褐色	10YR	5/4	弱	埴壌土	すこぶる堅	軟質曲来粒・ローム粒・炭小 5%	
67	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	埴壌土	すこぶる堅	ロームブロック極大・軟質曲来粒・炭小 30%	
69	褐色	10YR	4/4	弱	埴壌土	すこぶる堅	軟質曲来粒・炭小・軟質曲来ブロック大 7%	
69	褐色	10YR	4/3	弱	埴壌土	すこぶる堅	軟質曲来粒・炭小 3%	
74	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	埴壌土	すこぶる堅	ローム粒・軟質曲来粒・炭小 15%	
75	暗褐色	10YR	3/3	弱	埴壌土	すこぶる堅	軟質曲来粒・ローム粒・炭小 25%	ややポソポソ
76	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	埴壌土	すこぶる堅	軟質曲来粒・ローム粒・炭小 15%	ややポソポソ
79	にぶい黄褐色	10YR	4/3	弱	埴壌土	すこぶる堅	ローム粒・軟質曲来粒・炭・焼土粒 10%	
80	にぶい褐色	10YR	5/4	弱	埴壌土	すこぶる堅	ロームブロック中～大・炭小 40%	
84	黒褐色	10YR	3/2	弱	埴壌土	すこぶる堅	炭小・ロームブロック中～大 40%	

P-32



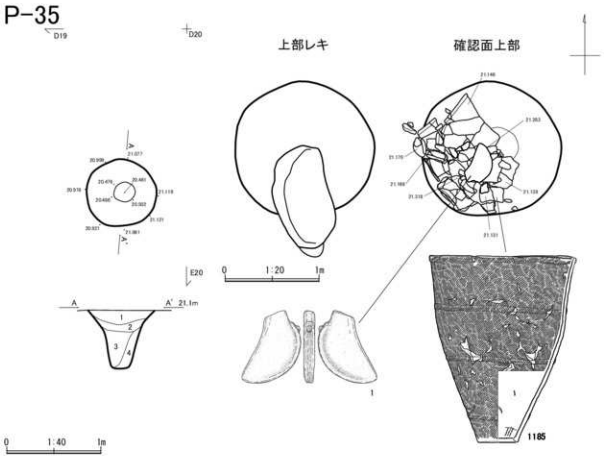
0 1:40 1m

P-32 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	ややしまる	炭化物粒径 2%、10YR6/3 V層粒 5%	汚れたV層土 住居址覆土か

図Ⅵ-158 P-29・P-32

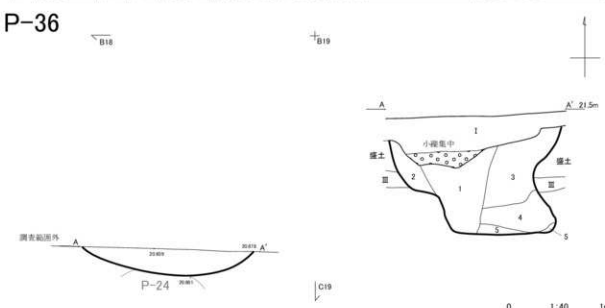
P-35



P-35 A-A'

No	土色			堅密度		備考
1	黒褐色土	10YR	5/2	ややしまる	炭化物粒径５mm以下２% に赤い黄褐色Ｖ層粒 5% 1185はこの層の上部から出土	Ⅴ層由来のH-15層土
2	に赤い黄褐色土	10YR	5/3	ややしまる	炭化物粒径５mm以下２% に赤い黄褐色Ｖ層粒 20%	Ⅴ層由来のH-15層土
3	褐灰色土	10YR	5/1	ややしまる	炭化物粒径２mm以下２%	Ⅴ層由来の炭化物を含むH-15層土
4	褐灰色土	10YR	6/1	ややしまる	炭化物粒径５mm以下２% に赤い黄褐色Ｖ層粒 40%	Ⅴ層由来のH-15層土

P-36

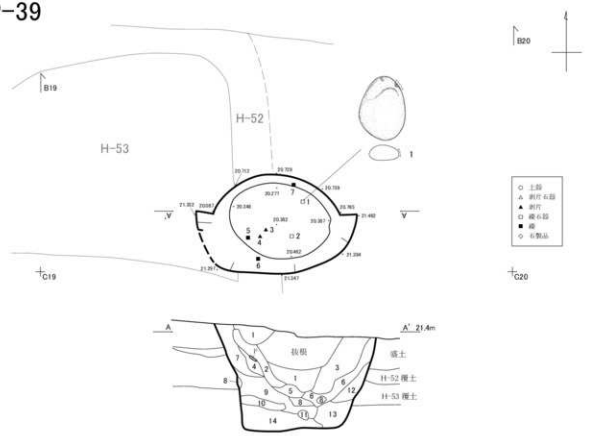


P-36 A-A'

No	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐黒色土	5YR	5/3					
2	黄褐色土	5YR	6/3					
3	褐黒色土	5YR	5/4					
4	明褐色土	5YR	5/6					
5	褐色土	7.5YR	6/3			堅くしまる	白粒ブロック状 硬質	

図Ⅵ-159　P-35・P-36

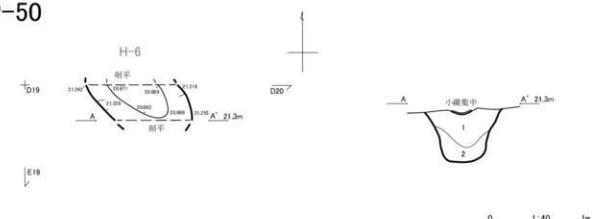
P-39



P-39 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	強	埴壌土	軟	炭化物少量	
2	褐色土	10YR	4/4	強	埴壌土	堅～軟	炭化物少量	
3	褐色土	10YR	4/4	強	埴壌土	軟	炭化物少量	
4	褐色土	10YR	4/4	強	埴壌土	軟		
5	褐色土	10YR	4/4	強	埴壌土	軟	炭化物少量	
6	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	強	埴壌土	軟		
7	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	強	埴壌土	堅		
8	黄褐色土	10YR	5/6	強	埴壌土	堅		
9	褐色土	10YR	4/4	強	埴壌土	軟	炭化物少量	
10	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	強	埴壌土	すこぶる堅		
11	灰白色土	10YR	8/1	強	埴壌土	すこぶる堅		
12	褐色土	10YR	4/4	強	埴壌土	軟		
13	褐色土	10YR	4/4	強	埴壌土	軟		
14	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	強	埴壌土	軟	炭化物少量	

P-50

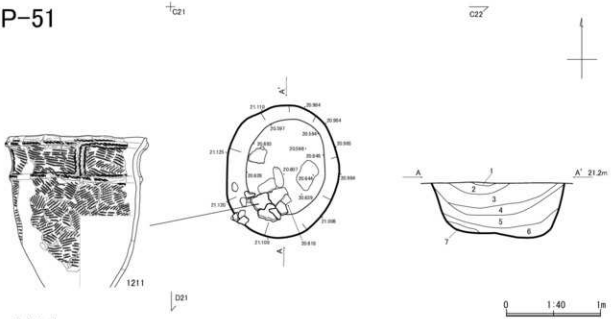


P-50 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	あり	遺物含む	
2	褐色土	10YR	4/4	ややあり	埴壌土	あり	小礫（φ1～5mm）多く含む 10%	1層よりやや硬い

図Ⅵ-160　P-39・P-50

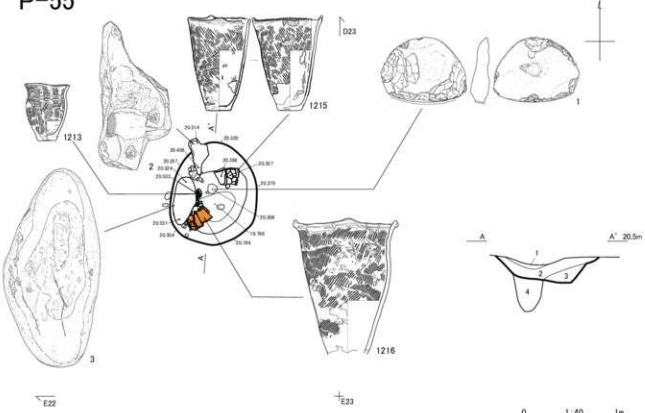
P-51



P-51 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	炭黄褐色土	10YR	5/2	ややしまる	10YR5/2 炭白色の Ⅵ層粒　粒径 2cm以下 2%	Ⅴ層由来の仕屋址層土
2	黒色	10YR	2/1	ややしまる	1211はこの層中に入る。10YR5/2 炭黄褐色土層粒 20%	炭化物層
3	二ぶい褐色土	7.5YR	6/4	ややしまる	炭化物粒径 2cm以下 2%　10YR6/3 二ぶい黄褐色土 Ⅴ層粒径 5cm未満 15%	Ⅴ層由来の仕屋址層土
4	黒褐色土	10YR	3/2	ややしまる	10YR2/1 黒色炭層が 3 枚重なり、間に 10YR5/4 二ぶい黄褐色土層粒 15%混じる	Ⅴ層由来の仕屋址層土と炭化物層互層
5	炭黄褐色土	10YR	5/2	ややしまる	炭化物粒径 2cm以下 2%　炭白色Ⅵ層粒 10%	Ⅴ層由来の仕屋址層土
6	二ぶい黄褐色土	10YR	4/3	ややしまる	炭化物粒径 2cm以下 2%　7.5YR4/4 褐色土粒 5%	Ⅴ層由来の仕屋址層土
7	褐炭色土	10YR	4/1	ややしまる	炭化物粒径 2cm以下 2%　7.5YR4/4 褐色土粒 2%	Ⅴ層由来の仕屋址層土

P-55

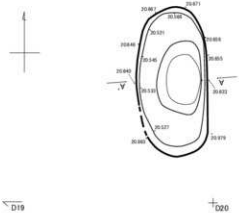


P-55 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	二ぶい黄褐色土	10YR	6/3	ややしまる	炭化物粒径 10mm以下 5%	Ⅴ層土
2	二ぶい黄褐色土	10YR	5/3	ややしまる	1216 の入る層　炭化物粒径 5mm 以下 7%	Ⅴ層由来の仕屋址層土
3	褐炭色土	10YR	5/1	ややしまる	炭化物粒径 2mm以下 2%　10YR7/2 二ぶい黄褐色土 Ⅵ層粒径 5cm未満 20%	Ⅴ層由来の仕屋址層土と Ⅵ層混土
4	黒褐色土	10YR	3/1	ややしまる	炭化物粒径 2mm以下 5%	Ⅱ層土　下に重なる柱穴

図Ⅵ-161　P-51・P-55

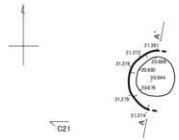
P-61

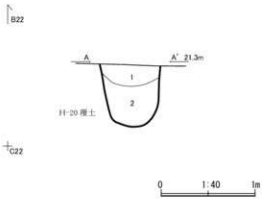


P-61 A-A'

No	土色			堅密度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	ややしまる	炭化物粒径 10 mm以下 1% 灰白色切屑粒 3%	V層由来の住居址覆土
2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	炭化物粒径 5mm 以下 5% 灰白色切屑粒 15%	V層と切屑粒の混土層 下の土坑覆土

P-62

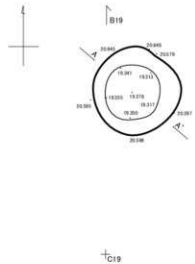


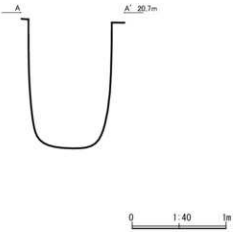


P-62 A-A'

No	土色			堅密度		備考
1	浅黄褐色土	10YR	5/2	ややしまる	炭化物粒径 20 mm以下 2% 灰白色切屑粒 2%	V層由来の住居址覆土
2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	炭化物粒径 5mm 以下 1% 10YR5/4 にぶい黄褐色V層粒 20%	V層由来の住居址覆土とV層の混土

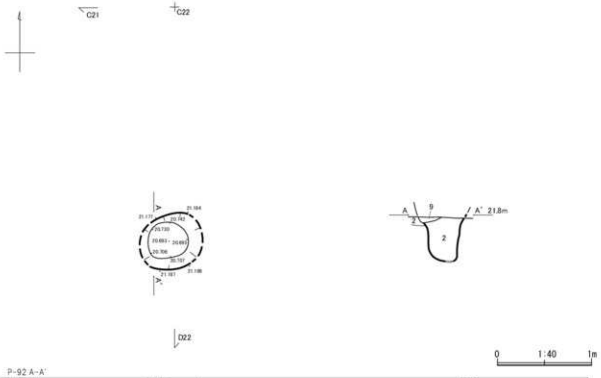
P-90





図Ⅵ-162 P-61・P-62・P-90

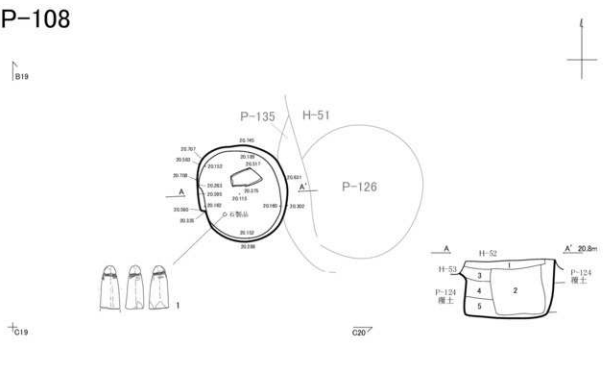
P−92



P−92 A−A'

No.	土色			堅密度		備考
2	褐褐色土	7.5YR	5/8	対象が小粒径で6%混じる，炭化物極小～小粒径で2%混じる		
9	褐赤褐色土	5YR	5/8	しまりあり		

P−108

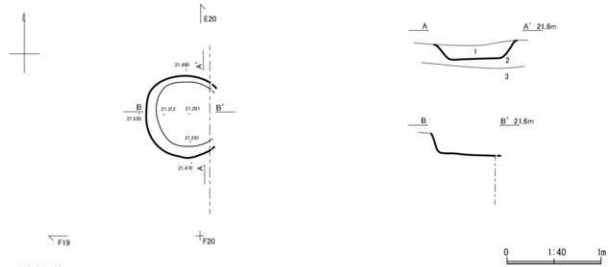


P−108 A−A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	非常に堅		H−52 貼床
2	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	なし		非常にボソボソしている
3	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり	地山土塊を多く含む	掘り方
4	褐色土	10YR	4/4	あり	埴壌土	弱い	地山土塊少量含む	掘り方
5	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり		掘り方

図Ⅵ−163　P−92・P−108

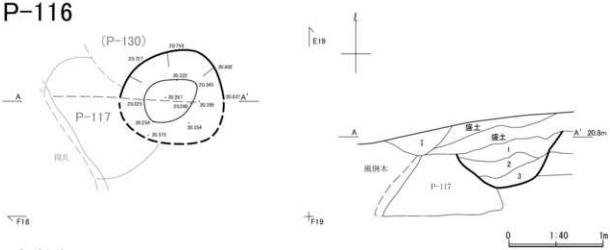
P-110



P-110 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	10YR	3/3	ややしまる	2が小粒径1～2mmで20%混じる。直径2～3cmの棒が1%混じる	
2	灰黄褐色土	10YR	4/2	しまりあり	炭が小粒径1～2mmで2%混じる。直径2～3cmの棒が1%混じる	
3	褐灰色土	10YR	4/1	しまりあり	炭が小粒径1～2mmで2%混じる。直径2～3cmの棒が1%混じる	

P-116



P-116 A-A'

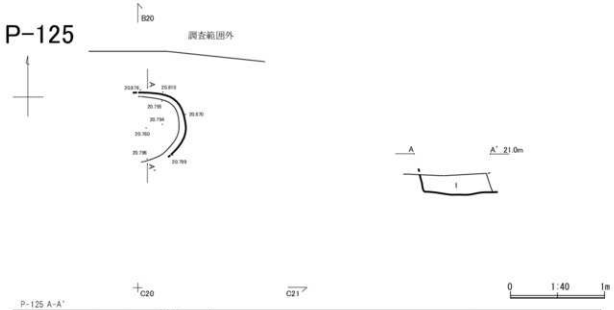
No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/6	ややあり	シルト質埴壌土	堅		
2	褐色土	7.5YR	4/6	あり	シルト質埴壌土	あり		
3	褐色土	10YR	4/6	ややあり	シルト質埴土	あり		

P-118

P-118 A-A'

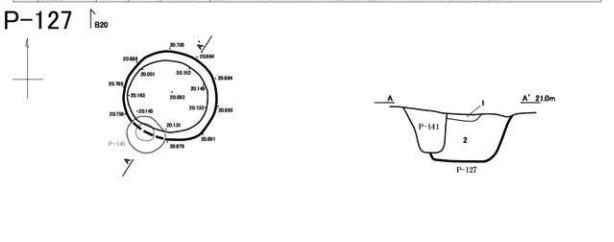
No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/4		粒径1～3cmでV層がブロック状に1%混在する。直径1～3cmの小石2%混じる	
2	にぶい褐色土	7.5YR	5/4		直径1～3cmの小石1%混じる	H-108覆土
3	黒褐色土	2.5YR	4/6		直径1～3cmの小石1%混じる	H-108覆土被熱

図Ⅵ-164 P-110・P-116・P-118



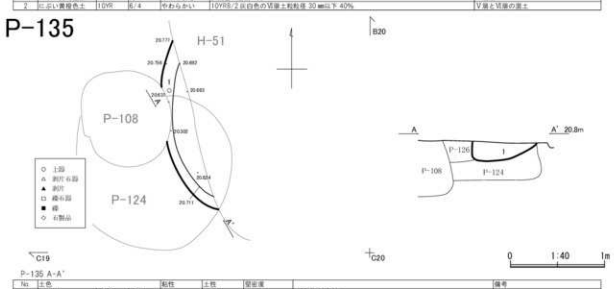
P-125 A-A'

No.	土色			堅密度	
1.	暗褐色土	5YR	3/6	ややしまる	粒径１～3cmでV層がブロック状に7%混在する，粒径１～3cmでIV層がブロック状に3%混在する



P-127 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1.	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	灰白色火山灰土4%	V層土
2.	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	やわらかい	10YR8/2灰白色の火山灰土粒径最大30mm以下40%	V層と火山灰の混土

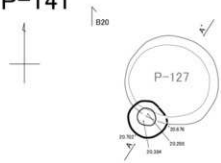


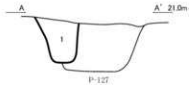
P-135 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1.	褐色土	7.5YR	4/4	あり	埴壌土	あり	炭化物微量含む	

図Ⅵ-165　P-125･P-127･P-135

P-141

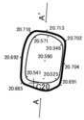




P-141 A-A'

No.	土色		堅密度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	やわらかい	10YR8/2 炭白色の Ⅵ層土粒粒径 10 mm以下 30%	Ⅴ層と Ⅵ層の混土

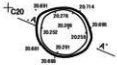
P-152



P-152 A-A'

No.	土色		堅密度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	やわらかい	10YR8/2 炭白色の Ⅵ層土粒粒径 70 mm以下 30% 炭化物粒径 10 mm以下 1%	Ⅴ層と Ⅵ層の混土

P-153

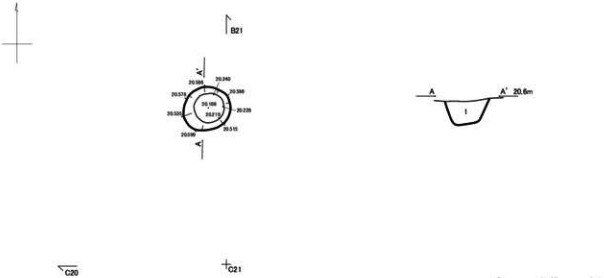


P-153 A-A'

No.	土色		堅密度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	やわらかい	10YR8/2 炭白色の Ⅵ層土粒粒径 50 mm以下 40% 炭化物粒径 10 mm以下 1%	Ⅴ層と Ⅵ層の混土

図Ⅵ-166 P-141・P-152・P-153

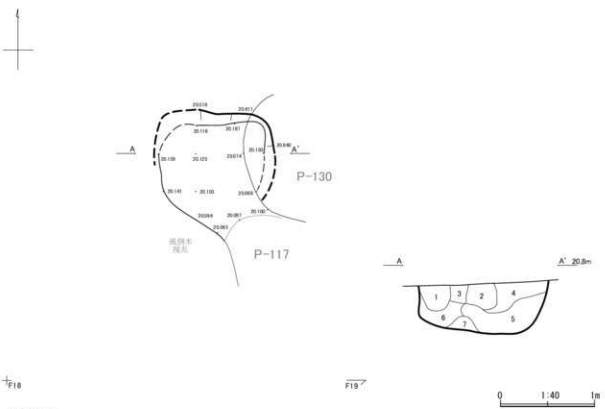
P-154



P-154 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	ややしまる	炭化物粒径 10mm以下 1%　灰白色Ⅵ層粒 5%	Ⅴ層由来の住居址覆土

P-155

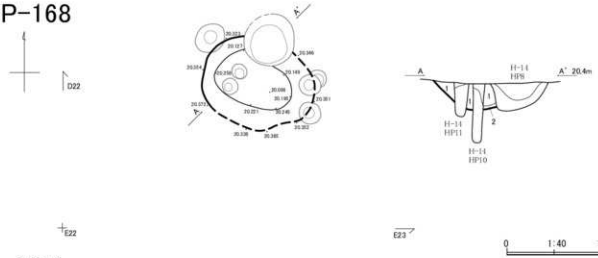


P-155 A-A'

No.	土色			粘性	土性	堅密度		備考
1	褐色土	10YR	4/4	ややあり	シルト質埴壌土	ややあり		風倒木痕の可能性あり
2	褐色土	10YR	4/6	あり	埴壌土	あり		風倒木痕の可能性あり
3	褐色土	10YR	4/6	ややあり	シルト質埴壌土	ややあり		風倒木痕の可能性あり
4	黄褐色土	10YR	5/6	ややあり	シルト質埴壌土	ややあり		
5	黄褐色土	10YR	5/6	あり	埴壌土	あり	小砂利（φ～3mm）炭化材微量含む	
6	褐色土	10YR	4/4	ややあり	シルト質埴壌土	ややあり	小砂利（φ～5mm）少量含む	風倒木痕の可能性あり
7	浅黄色土	2.5Y	7/4	あり	埴壌土	あり		風倒木痕の可能性あり

図Ⅵ-167　P-154・P-155

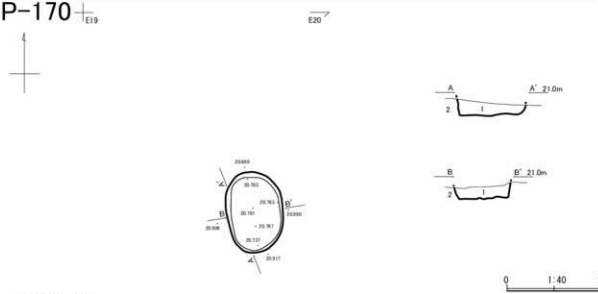
P-168



P-168 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	灰黄褐色	10Y5/2			灰層に切接砂混じる	
2	灰黄褐色	10Y4/2			1層に炭化物混じる	

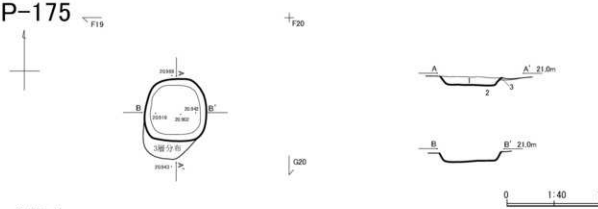
P-170



P-170 A-A'、B-B'

No.	土色			堅密度		備考
1	灰褐色	7.5YR	5/2	しまりなし		灰層の灰棒 盛土1
2	明褐色	7.5YR	5/6			灰層自来か 盛土1

P-175

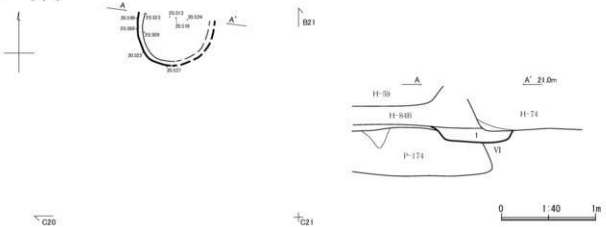


P-175 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい黄褐色	7.5YR	5/3	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭が 1%以下混じる、粒径 1cm の V 層が 1%混じる、 3 が粒径 1～3cm で 2%混じる	
2	にぶい黄褐色	7.5YR	5/3	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭が 1%以下混じる、粒径 1cm の V 層が 1%混じる	
3	褐色	5YR	5/6	しまりあり		鉄分酸化 盛土か

図Ⅵ-168 P-168・P-170・P-175

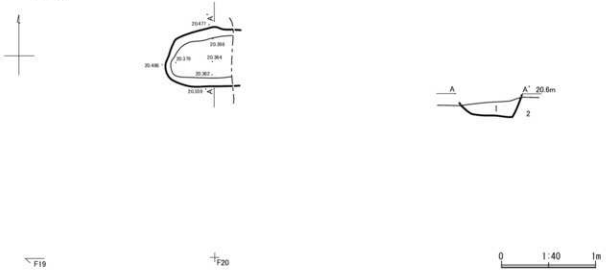
P-177



P-177 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	黄褐色土	10YR	5/8	ややしまる	炭化物粒径 5 mm以下 1%　灰白色切屑粒 30%	V層と切屑の混土
2	褐褐色	7.5YR	5/6			

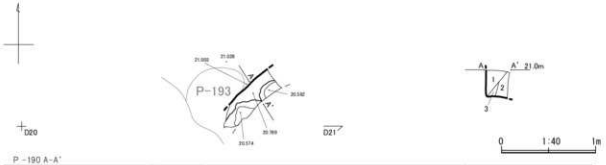
P-178



P-178 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	ややしまる	粒径 1～3cm の炭が 2%混じる。褐色焼土 5YR6/8 が 1%混じる	
2	褐褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる		焼土１に相当。反復ほど赤味が強くない

P-190

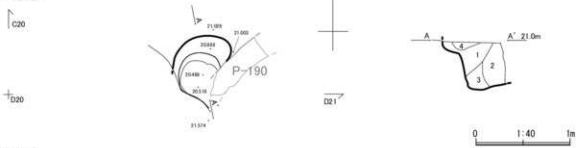


P -190 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	黄褐色土	10YR	8/6	しまりあり	粒径 1～3cm でV層がブロック状に詰まる	
2	褐色土	10YR	4/6	しまりあり		
3	褐色土	10YR	4/6	しまりあり	粒径 1～5cm でV層が 7%混じる	
4	褐褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり		

図Ⅵ-169　P-177・P-178・P-190

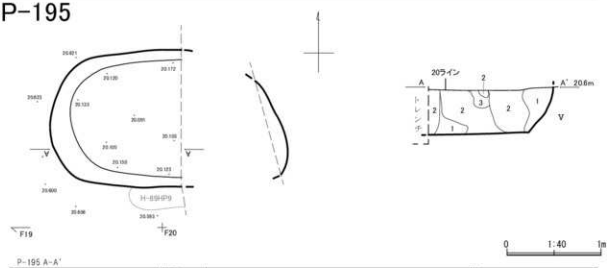
P-193



P-193 A-A'

No.	土色			堆積度		備考
1	黒褐色土	10YR	3/6	しまりあり	粒径1～3cmでV層がブロック状に混ざる	
2	褐色土	10YR	4/6	しまりあり		
3	褐色土	10YR	4/6	しまりあり	粒径1～5cmでV層が7%混じる	
4	明褐色土	7.5YR	4/6	しまりあり		

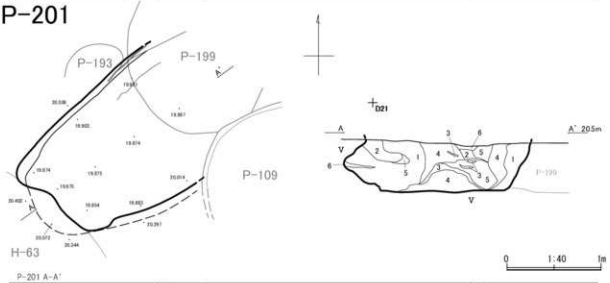
P-195



P-195 A-A'

No.	土色			堆積度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径1～3cmでV層がブロック状に15%混じる。粒径1～3cmで炭が7%混じる	
2	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径1～3cmでV層がブロック状に15%混じる。粒径1～3cmで炭が7%混じる	
3	明褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径1～3cmでV層がブロック状に25%混じる。粒径1～3cmで炭が7%混じる	
V	浅白色土	7.5YR	8/2			

P-201

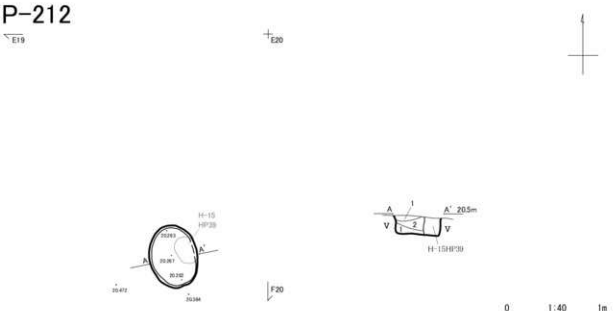


P-201 A-A'

No.	土色			堆積度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり		混じりなし
2	浅白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2	ややしまる		V層ブロック
3	黒色炭	7.5YR	2/1	炭層		
4	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	粒径1～3cmで炭が7%混じり	
5	浅褐色土	7.5YR	4/2	よくしまる	V層ブロックと炭と褐色土が大きな塊5cm前後で混在	
6	浅白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	ややしまる		V層の流入
V	浅白色土	7.5YR	8/2			

図Ⅵ-170 P-193・P-195・P-201

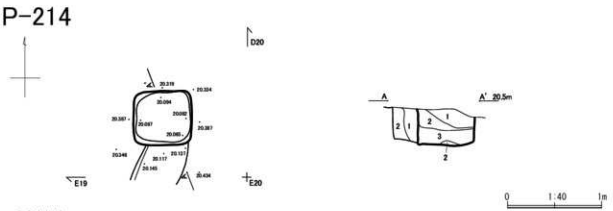
P-212



P-212 A-A'

№	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	3/6	しまりあり	V層（炭白～浅黄褐色：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで7%混じる	
2	暗褐色土	7.5YR	3/6	しまりあり	V層（炭白～浅黄褐色：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで15%混じる	

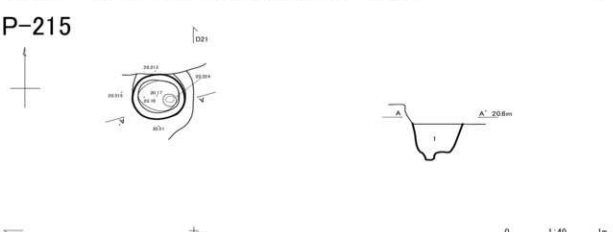
P-214



P-214 A-A'

№	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	3/6	しまりあり	V層（炭白～浅黄褐色：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで7%混じる。粒径 1cmの炭1%混じる	
2	暗褐色土	7.5YR	3/6	しまりあり	V層（炭白～浅黄褐色：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで15%混じる。	
3	暗褐色土	7.5YR	3/6	しまりあり	V層（炭白～浅黄褐色：7.5YR8/2～3）が粒径1～3cmで2%混じる。	

P-215

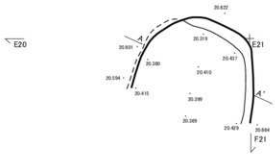


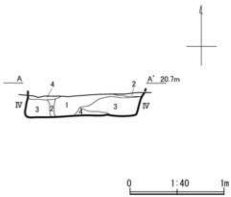
P-215 A-A'

№	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	3/6	ややしまる		

図Ⅵ-171　P-212・P-214・P-215

P-216

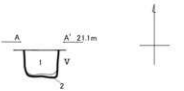




P-216 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり		
2	褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	Ⅴ層（灰白色～浅黄褐色：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm 以下で 15%混じる	
3	暗褐色土	7.5YR	2/3	しまりあり	直径 1～3cm の炭粒が 7%混じり	
4	褐灰色土	7.5YR	4/1	しまりなし	粒径 1cm の炭 2%混じる	Ⅴ層流入
Ⅳ	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	よくしまる		

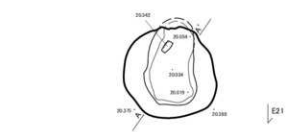
P-219

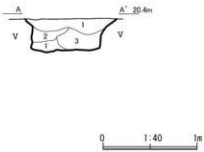


P-219 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	5/4	しまりなし		
2	褐色土	7.5YR	5/4	しまりなし	Ⅴ層（灰白色～浅黄褐色：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm 以下で 1%混じる。	
Ⅴ	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりあり		

P-221



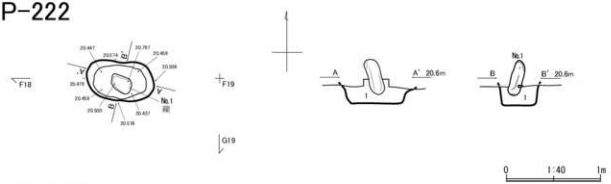


P-221 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりあり		Ⅴ層のブロック状崩落
2	黄橙色土	10YR	6/4	しまりあり	直径 1～3cm の礫 50%混じり	
3	黄橙色土	10YR	6/4	しまりなし	直径 1～3cm の礫 5%混じり	

図Ⅵ-172　P-216・P-219・P-221

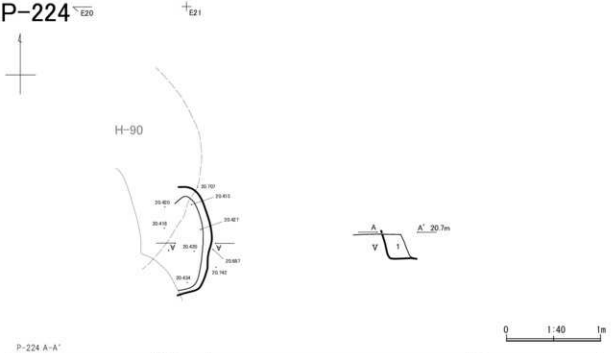
P-222



P-222 A-A', B-B'

No.	土色			堅密度		備考
1	黒褐色土	10YR	5/6	しまりあり	灰層が灰糖したものが主体	
2	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり	灰層はごあくない。盛土１の下位	

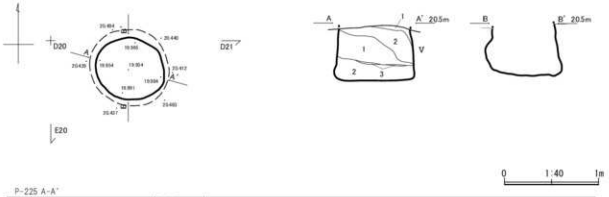
P-224



P-224 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	10YR	4/6	ややしまる		
V	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり		

P-225

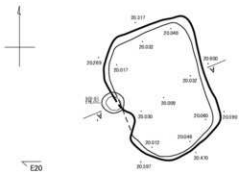


P-225 A-A'

No.	土色			堅密度	
1	褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径１～3cmで5%混じる。粒径1cmの皮2%混じる
2	褐色土	7.5YR	5/4	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径１～3cmで15%混じる。粒径1cmの皮2%混じる
3	明黄褐色土	10YR	7/6	ややしまる	灰層の流入
V	灰白色土	7.5YR	8/2	しまりあり	

図Ⅵ-173　P-222・P-224・P-225

P-230

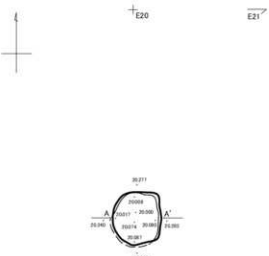


P-230 A-A'

No.	土色			堅密度	
				しまりあり	
1	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で25%混じる
2	明褐色土	7.5YR	5/8	炭化物層	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で25%混じる、粒径 1cm の炭 1%混じる　下位に多い
3	黒色土	7.5YR	2/1	しまりあり	
4	貧粒色土	7.5YR	7/8		V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で15%混じる

※ H-104 調査後 P-230 を検出した

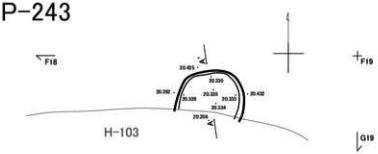
P-236



P-236 A-A'

No.	土色			堅密度	
I	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で15%混じる、粒径 1cm の炭 1%混じる　下位に多い
V	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり	

P-243

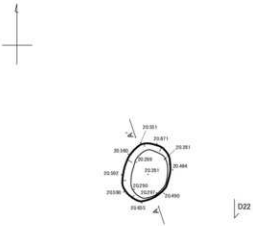


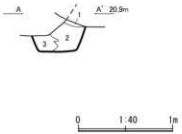
P-243 A-A'

No.	土色			堅密度	
I	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で2%混じる、粒径 1cm の炭 1%混じる　下に多い

図Ⅵ-174　P-230・P-236・P-243

P-260

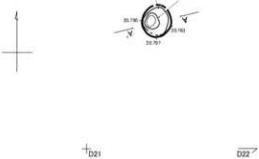


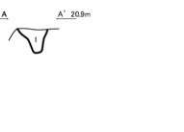


P-260 A-A'

No.	土色			関有度		備考
1	にぶい黄橙色土	10YR	6/3	ややしまる	炭化物粒径 10mm以下 5%	V層土
2	灰白色土	10YR	8/1	ややしまる	にぶい黄橙色V層土 10%	切替土
3	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	10YR8/1灰白色切替粒径 2mm未満 20%　炭化物粒径 5mm以下 1%	V層と切替の混土

P-262

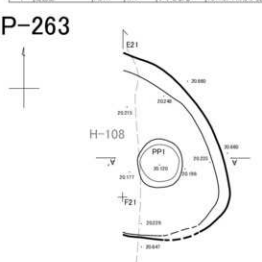


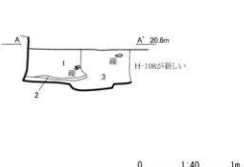


P-262 A-A'

No.	土色			関有度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/4	ややしまる	10YR5/4にぶい黄褐色V層土 10%　7.5YR3/4暗褐色切替粒 40%	褐色の切替と灰白色切替の混土

P-263



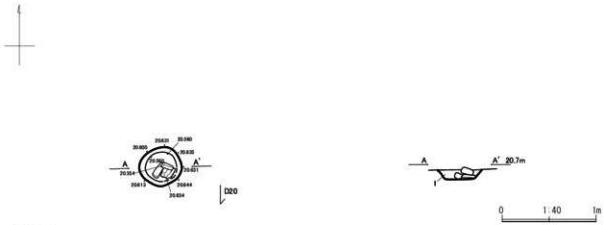


P-263 A-A'

No.	土色			関有度		備考
1	褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cmで 1%混じる，粒径 1cmの炭 1%混じる	
2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cmで 7%混じる壁際に多い，粒径 1cmの炭 1%以下混じる	
3	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cmで 1%混じる，粒径 1cmの炭 1%以下混じる	

図VI-175　P-260・P-262・P-263

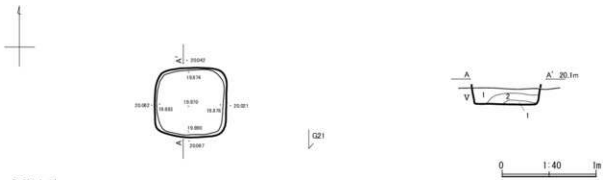
P-269



P-269 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	褐色土	7.5YR	4/6	ややしまる	10YR7/2 に赤い黄褐色粘質粒 10%	V層と粘質の混土

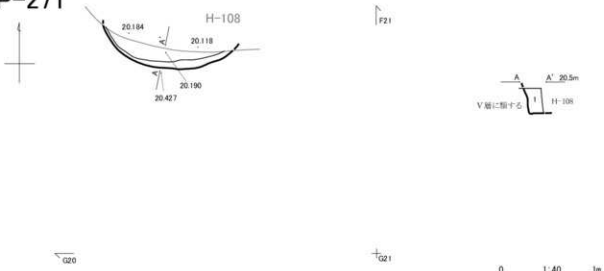
P-270



P-270 A-A'

No.	土色			堅密度		
1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 1%混じる、粒径 1cm 以下の炭 1%混じる	
2	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 25%混じる、粒径 1cm 以下の炭 2%混じる	

P-271

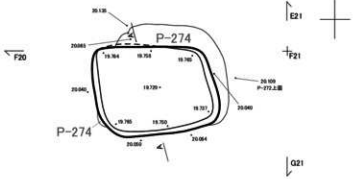


P-271 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 2%混じる、粒径 1cm の炭 7%混じる	
Vに類する明褐色土		7.5YR	5/8	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 7%混じる、粒径 1cm の炭 1%混じる	遺目に炭層を持つ

図Ⅵ-176　P-269・P-270・P-271

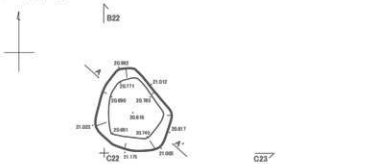
P-272



P-272 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm の炭 1%以下混じる	
2	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が主体	
3	黒褐色土	7.5YR	3/1			

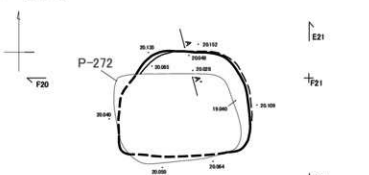
P-273



P-273 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	ややしまる	10YR5/4 にぶい黄褐色 V層土 10%	灰白色砂質土に少量のV層混じる
2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	10YR8/1 灰白色砂質粒径 20 mm未満 20%	V層に少量の砂質が混じる
3	にぶい黄褐色土	10YR	6/3	ややしまる	10YR8/2 灰白色砂質粒径 10YR5/4 にぶい黄褐色 V層土 20%	灰白色砂質塊に少量のV層混じる
4	褐色土	7.5YR	4/4	ややしまる	10YR8/2 灰白色砂質粒径 20 mm未満 20%	褐色の砂質砂に灰白色砂質が混じる

P-274

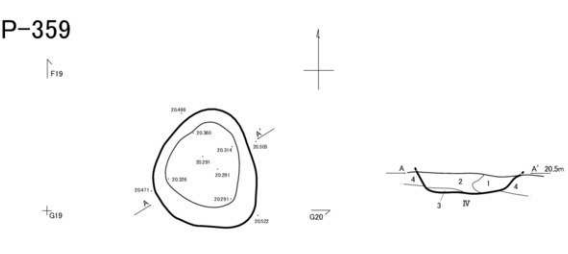


P-274 A-A'

No.	土色			堅密度		
1	暗褐色土	7.5YR	5/6	しまりあり	粒径 1cm の炭 1%以下混じる	
2	暗褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 3cm で 25%混じる。粒径 1cm の炭 1%以下混じる	

図Ⅵ-177　P-272・P-273・P-274

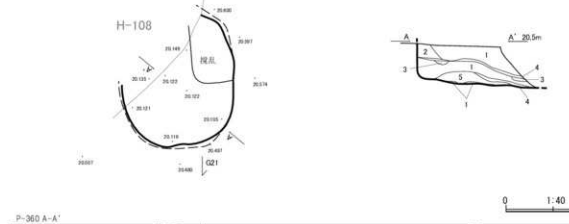
P-359



P-359 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	明黄褐色土	10YR	6/6	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1cm で 1%以下混じる、粒径 1cm の炭 1%以下混じる	
2	明黄褐色土	10YR	6/6	しまりあり	粒径 1cm のV層が 2%混じる、切面の縁が 5%混じる	
3	明褐色土	10YR	6/6	しまりあり		貯蔵主体
4	明黄褐色土	10YR	7/6	しまりあり		盛土流構
Ⅳ	明褐色土	7.5YR	5/8	しまりあり		

P-360

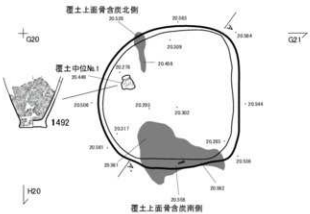


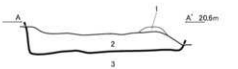
P-360 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	明褐色土	7.5YR	5/8	ややしまる	粒径 1cm の炭 1%以下混じる	
2	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	ややしまる	粒径 1cm の炭 1%以下混じる	V層由来土
3	明褐＋灰白～浅黄褐色土	7.5YR 7.5YR	5/8 8/2～3	ややしまる	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径 1～3cm で 50%混じる、粒径 1cm の炭 1%以下混じる	
4	黒褐色土	7.5YR	3/2	ややしまる	1 に粒径 1cm の炭 25%以下混じる	
5	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		V層がブロック状に崩落

図Ⅵ-178　P-359・P-360

P-376



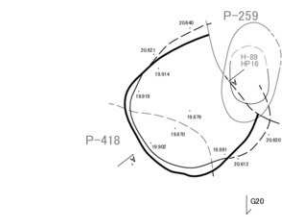


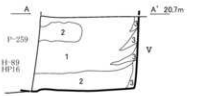
0　1:40　1m

P-376 A-A'

No.	土色			硬軟度		
1	黒褐色土	7.5YR	3/2	ややしまる	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cmで2%混じる，粒径1～3cmの炭15%混じる	
2	褐色土	10YR	4/3	ややしまる	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cmで2%混じる，粒径1cmの炭1%混じる	
3	褐色土	10YR	4/3	しまりあり	V層（灰白色土～浅黄褐色土：7.5YR8/2～3）が粒径1cmで7%混じる，粒径1cmの炭5%混じる	

P-391





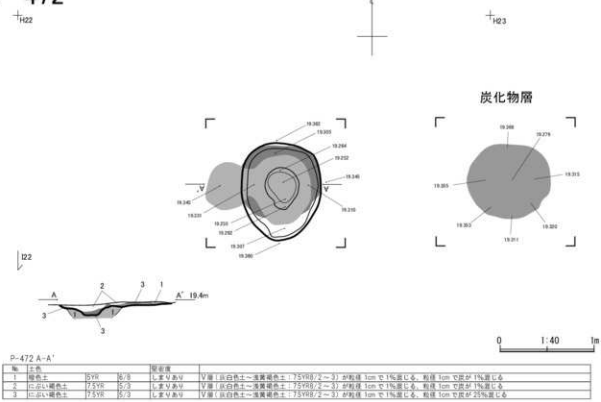
0　1:40　1m

P-391 A-A'

No.	土色			硬軟度		備考
1	褐色土	7.5YR	5/6	ややしまる	粒径1～2cmの炭2%混じる	
2	にぶい褐色土	7.5YR	5/4	ややしまる	粒径1～2cmのV層が25%混じる，粒径1～2cmの炭2%混じる	
3	灰白～浅黄褐色土	7.5YR	8/2～3	しまりあり		V層の流入

図Ⅵ-179　P-376・P-391

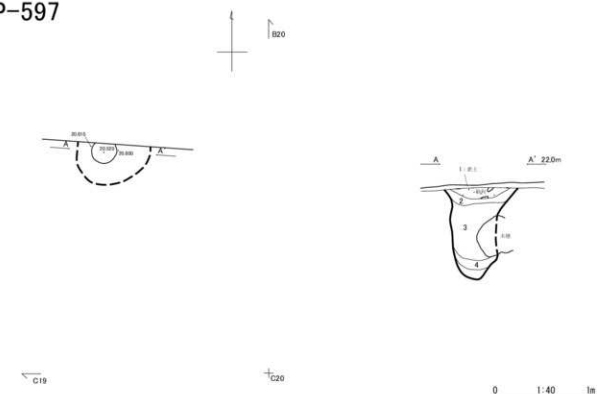
P-472



P-472 A-A'

層	土色			堅密度	
1	暗色土	5YR	6/8	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄橙色土：7.5YR8/2～3)が粒径 1cm で1%混じる、粒径 1cm で炭が1%混じる
2	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄橙色土：7.5YR8/2～3)が粒径 1cm で1%混じる、粒径 1cm で炭が1%混じる
3	にぶい褐色土	7.5YR	5/3	しまりあり	V層(灰白色土～浅黄橙色土：7.5YR8/2～3)が粒径 1cm で1%混じる、粒径 1cm で炭が25%混じる

P-597

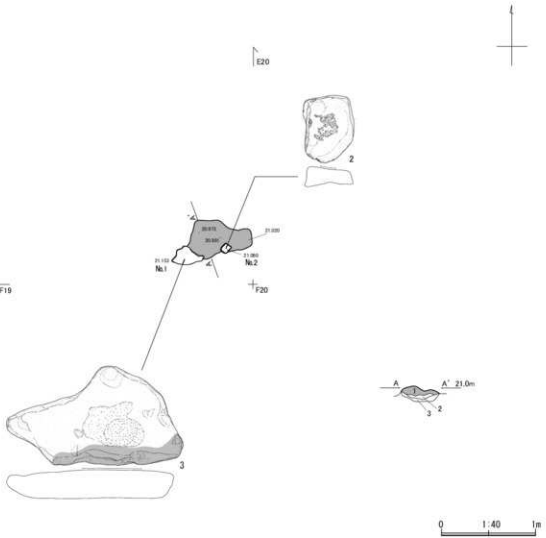


P-597 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	5/3	ややしまる	円礫粒径 10 cm未満 30%	褐土しりのV層由来の盛土層
2	褐色土	10YR	4/4	ややしまる	7.5YR4/4 褐色V層粒 30%	盛土層にV層粒が混じったもの。
3	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	炭化物粒径 2 cm以下 10%　切礫粒 10YR7/2 粒径 10 mm以下 20%	V層由来の住居址覆土に切礫混じる
4	褐色土	10YR	4/4	ややしまる	炭化物粒径 2 cm以下 10%　切礫粒 10YR7/2 粒径 1 cm以下 1%	V層由来の住居址覆土に炭化物が混じる
5	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	10YR8/1 灰白色切礫粒径 2 cm未満 20%　炭化物粒径 1 mm以下 1%	V層由来の住居址覆土

図Ⅵ-180　P-472・P-597

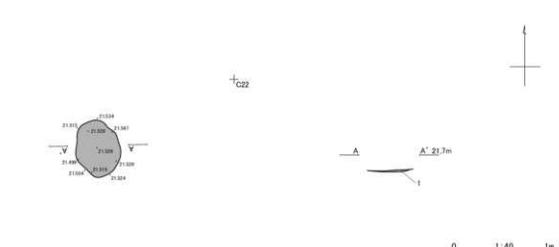
F-5



F-5 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	暗色土	5YR	6/6	しまりあり	F-5 は小骨片 1%以下混じる	微分解化　焼土か
2	にぶい暗色土	5YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm の 1%が 7%混じる、粒径 1～3cm の 1 が 7%混じる	
3	にぶい黄褐色土	7.5YR	5/3	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭が 1%以下混じる、粒径 1cm の 1 が 1%混じる	

F-6

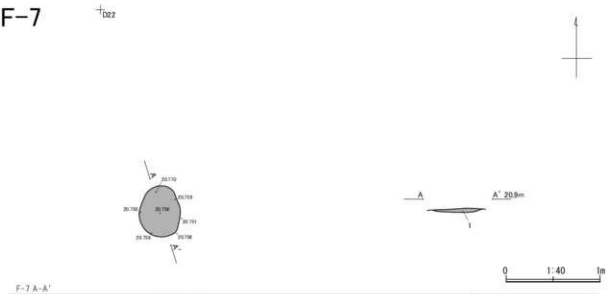


F-6 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい赤褐色土	5YR	5/3	ややしまる	2.5YR5/4 にぶい赤褐色焼土粒径 3cm以下 15%	

図Ⅵ-181　F-5・F-6

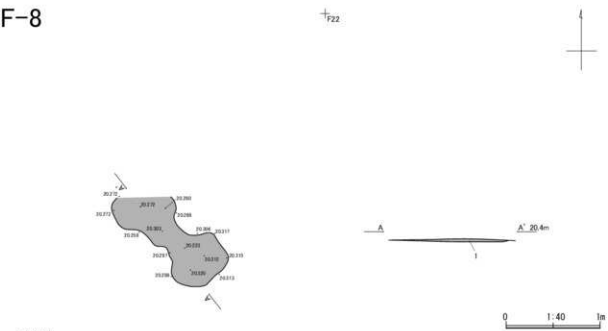
F-7



F-7 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	赤褐色土	5YR	6/2	ややしまる	焼骨 1%、炭化物粒 粒径 5mm 以下 3%	

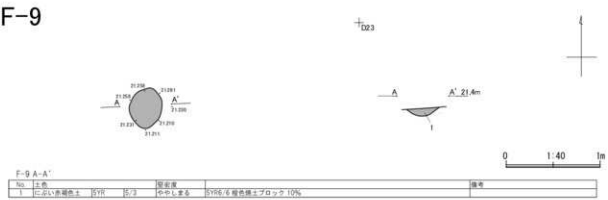
F-8



F-8 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい赤褐色土	5YR	5/3	ややしまる	5YR6/6 褐色焼土ブロック 10%	

F-9

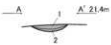


F-9 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい赤褐色土	5YR	5/3	ややしまる	5YR6/6 褐色焼土ブロック 10%	

図Ⅵ-182 F-7～9

F-10

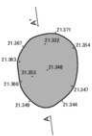


0　1:40　1m

F-10 A-A'

No.	土色			固有度		備考
1	にぶい赤褐色土	5YR	5/4	ややしまる	炭化物粒　粒径 5mm 以下 2%	
2	にぶい赤褐色土	5YR	4/2	ややしまる		

F-11

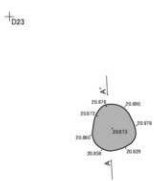


0　1:40　1m

F-11 A-A'

No.	土色			固有度		備考
1	褐色土	5YR	5/6	ややしまる	炭化物粒　粒径 5mm 以下 10%	

F-12



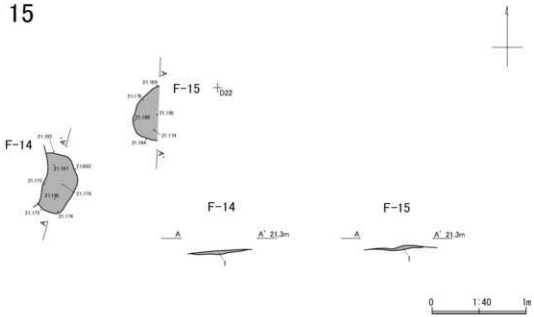
0　1:40　1m

F-12 A-A'

No.	土色			固有度		備考
1	にぶい褐色土	5YR	5/4	ややしまる	炭化物粒　粒径 1mm 以下 2%	

図Ⅵ-183　F-10～12

F-14・15



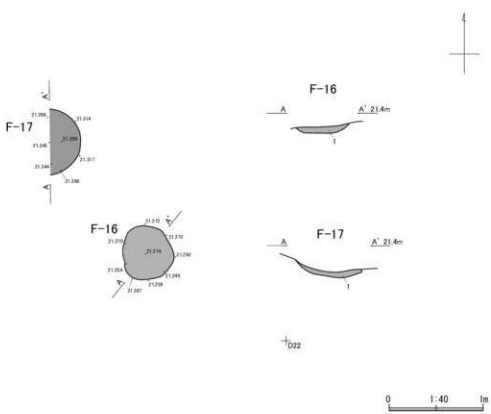
F-14 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい橙色土	5YR	6/4	ややしまる	炭化物粒 粒径 3mm 以下 2%	

F-15 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	にぶい赤褐色土	5YR	5/4	ややしまる	炭化物粒 粒径 10mm 以下 1%	

F-16・17



F-16 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	明赤褐色土	5YR	5/6	ややしまる	炭化物粒 粒径 3mm 以下 1% 7.5Y/R5/3 鎧土層 15%	

F-17 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	明赤褐色土	5YR	5/8	ややしまる	携帯をわずかに含む。 炭化物粒 粒径 10mm 以下 1%	

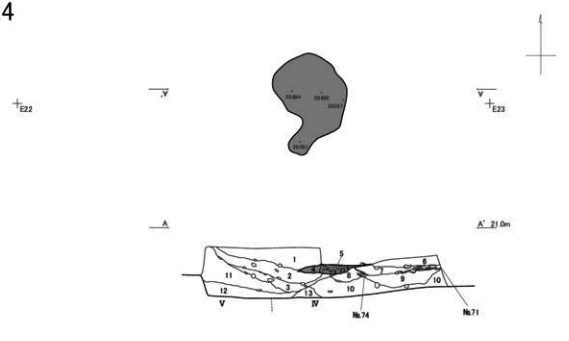
図Ⅵ-184 F-14～17

F-22

F-22 A-A'

No.	土色		堅密度		備考
1	灰褐色土	7.5YR	5/2	ややしまる	炭化物粒　粒径 5mm 以下 10%　7.5YR6/4 盛土層 30%	H-53 検出面より上で検出された。
2	明赤褐色土	2.5YR	5/6	ややしまる		焼土層

F-24

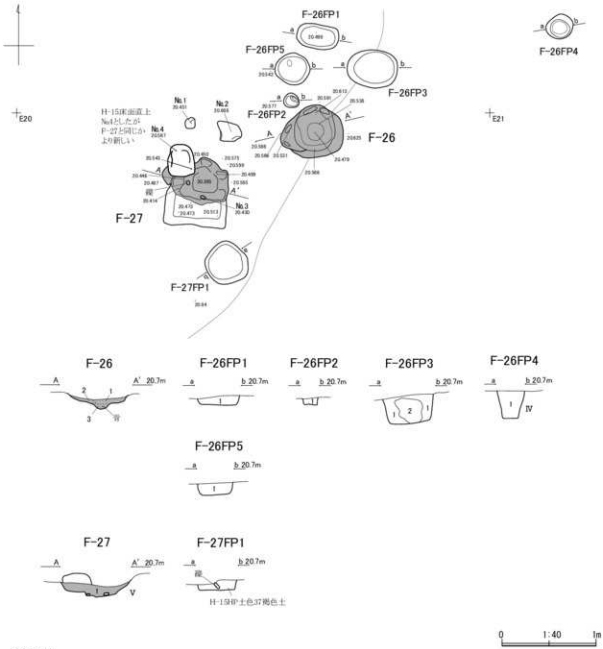


F-24 A-A'

No.	土色		堅密度			備考
1	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 5%混在する。粒径 1cm の炭が 3%混じる	H-14 竪土
2	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 1%混在する。粒径 1cm の炭が 1%混じる	H-14 竪土
3	浅黄褐色土	10YR	4/2	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 2%混在する。粒径 1cm の炭が 10%混じる	H-14 竪土
4	黒褐色土	10YR	3/2	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 1%混在する。粒径 1cm の炭が 10%混じる 焼土（暗色土 5YR6/6）粒径 1cm で 7%混じる	H-14 竪土
5	褐色土	10YR	4/4	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 1%混在する。粒径 1cm の炭が 10%混じる 焼土（暗色土 5YR6/6）粒径 1cm で 15%混じる。粒径 3cm 以下の礫 30%混じる	H-14 竪土
6	にぶい黄褐色土	10YR	6/4	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 5%混在する。粒径 1cm の炭が 3%混じる	H-14 竪土
7	黒褐色土	10YR	3/2	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 1%混在する。粒径 1cm の炭が 10%混じる	H-14 竪土
8	黒褐色土	10YR	3/2	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 1%混在する。粒径 1cm の炭が 1%混じる	H-14 竪土
9	黄褐色土	10YR	5/6	ややしまる	粘土質の地山土	H-14 竪土
10	黒褐色土	10YR	3/2	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 7%混在する。粒径 1cm の炭が 5%混じる	H-14 竪土
11	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	粒径 1cm でⅤ層が 1%混在する。粒径 1cm の炭が 1%混じる	H-14 竪土
12	にぶい黄褐色土	10YR	5/4	ややしまる	3・11 との層境に粒径 1～3cm でⅤ層が 7%混在する	H-14 竪土
13	にぶい黄褐色土	10YR	4/3		粒径 1～2cm の炭が 7%混じる	H-14 竪土
Ⅴ	浅黄褐色土	10YR	6/4	しまりあり	粘土質の地山。粒径 1cm の炭が 5%混じる	
Ⅳ	黄褐色土	10YR	5/6	しまりあり	白いⅤ層が粒径 3cm で 5%混じる	

図Ⅵ-185　F-22・F-24

F-26・27



F-26 A-A'

No.	土色			堅密度		備考
1	明赤褐色土	5YR	5/6	しまりあり	粒径 1～3cm でV層が7%混在する	縦辺に多い
2	褐色土	5YR	7/8	しまりあり	粒径 1～3cm でV層が7%混在する	縦辺に多い
3	赤褐色土	5YR	4/8	しまりあり	炭が25%混在する	

F-26FP a-b

遺構名	No.	土色			堅密度	
FP1	1	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1cm でV層が7%混在する
FP2	1	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	しまりなし	粒径 1～3cm でV層が7%混在する
FP3	1	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1cm でV層が7%混在する
	2	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm でV層が25%混在する
FP4	1	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1cm 以下の炭が1%混じる
FP5	1	にぶい褐色土	7.5YR	6/4	しまりあり	粒径 1～3cm でV層が2%混在する、粒径 1cm の炭が1%混じる

F-27 A-A'

No.	土色			堅密度		
I	黒褐色土	7.5YR	3/2	焼土不明瞭	粒径 1cm の炭 25%混じる	
V	浅黄褐色土	10YR	8/4	粘土質の地山		

F-27FP a-b

遺構名	No.	土色			堅密度	
FP1	1	褐色土	7.5YR	4/3	しまりあり	粒径 1cm 以下でV層が2%混在する、粒径 1cm 以下の炭が1%混じる、灰層 7.5YR6/6 が粒径 1cm 以下で2%混じる

図Ⅵ-186 F-26・F-27

図版Ⅵ-1　東側遺構群俯瞰写真

報告書抄録

ふりがな	きこないちょう　こうれん５いせき　いこうひがしがわへん
書名	木古内町　幸連５遺跡　-遺構（東側）編-
副書名	高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第２分冊
シリーズ名	公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）
シリーズ番号	第３７５集
編著者名	土肥研晶・富永勝也・大泰司統・福井淳一・吉田裕史洋・酒井秀治
編集機関	公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
所在地	〒069－0832　江別市西野幌685－1 TEL(011)386-3231　　E－mail　mail@domaibun.or.jp FAX(011)386-3238　　ホームページ　http://www.domaibun.or.jp
発行機関	公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
発行年月日	令和５(西暦2023)年３月24日

ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
こうれん　いせき 幸連５遺跡	かみいそぐんきこないちょう 上磯郡木古内町 あざこうれん 字幸連206、 209、215、216	01334	B-05-62	E15（STA30000） 41度42分 14.83355秒	140度28分 41.62264秒	・20161021 ～20161109 ・20170511 ～20171117 ・20180509 ～20181026 ・20190510 ～20191024	2,687㎡	高規格幹線道路函館江差自動車道建設に伴う記録保存
				E８ 41度42分 14.83655秒	140度28分 40.10868秒			
				E24 41度42分 14.82968秒	140度28分 43.56915秒			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な報告遺構	主な遺物
幸連５遺跡	集落跡	縄文時代 前期後半～後期前葉	盛土遺構３か所、竪穴住居跡135軒、 土坑588基、石棒ピット１か所、 倒立土器２か所、焼土44か所、 小礫集中４か所、畑跡２か所	土器・土製品、石器・石製品、 骨角器、金属器、繊維製品、 動植物遺存体

要約

遺跡は道南いさりび鉄道（旧江差線）の札苅駅から北東へ約1.2㎞、現海岸線より約350ｍ内陸に位置し、幸連川と無名の沢に挟まれた標高20～22ｍの舌状の海岸段丘上に立地している。

遺跡の調査は平成28～令和元年度の４か年に亘って行われ、縄文時代前期後半～後期前葉を主体とする遺構や遺物を検出している。

段丘上には、中央に南北に貫く遺構のみられない幅約10ｍの削平凹地とそこから東西の斜面際まで続く竪穴住居跡や土坑が重なり合っている遺構集中区がある。竪穴住居跡は縄文時代中期～後期前葉のものを、おもに段丘の東西斜面側で集中して検出している。また、縄文時代前期後半～中期中葉のフラスコ状土坑を中央の削平凹地の東西に密集して検出している。

盛土遺構は段丘中央の削平凹地の東西に並列する２列と東側斜面の３か所に形成されている。段丘上の東西盛土遺構からは縄文時代中期後葉～後期前葉、東側斜面盛土からは縄文時代前期後半～中期前半の遺物がおもに出土している。

遺構と盛土遺構および包含層からは、土器・土製品635,929点、石器・石製品967,444点、骨角器３点、金属器６点、繊維製品１点の合計1,603,383点が出土した。土器はおもに縄文時代前期後半の円筒土器下層式、中期の円筒土器上層式、サイベ沢Ⅷ式、見晴町式、榎林式、大安在Ｂ式、ノダップⅡ式、後期前葉の煉瓦台式、天祐寺式が出土している。土製品はミニチュア土器、土偶、斧状土製品、土製耳飾り、再生土製円盤、三角形土製品などが出土している。石器は石鏃、石槍、石錐、つまみ付ナイフ、スクレイパーなどの剝片石器、石斧、たたき石、扁平打製石器、すり石、台石、石皿などの礫石器が出土している。石製品は異形石器、有孔石製品、岩偶、線刻礫、石冠様石器、側縁有溝石器、石刀、青竜刀形石器、石棒、三角形石製品、板状石器、三脚石器（三角形板状石器）などが出土している。そのほか、骨角器、金属器、繊維製品、クジラ類椎骨、炭化クリ種実などといった遺物も出土している。

特異な遺物として、H-49から出土した三角形石製品は、縄文時代に人の顔が描かれた石製品として日本初の遺物であり、極めて貴重なものである。また、黒曜石原産地同定によって長野県産黒曜石製の石鏃を２点確認し、福島町館崎遺跡に次ぐ北海道２例目の出土となった。

遺跡番号は北海道埋蔵文化財包蔵地周知資料登載番号、経緯度は世界測地系による。

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第375集

木古内町（きこないちょう）　幸連（こうれん）５遺跡

―高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―
第２分冊　遺構（東側）編

発　　行　令和５(2023)年３月24日
編　　集　公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832　江別市西野幌685番地－１
TEL（011)386-3231　FAX（011)386-3238
[E-mail] mail@domaibun.or.jp
[URL] http://www.domaibun.or.jp
印　　刷　岩橋印刷株式会社
〒063-8580　札幌市西区西町南18丁目１番34号
TEL（011)669-2530　FAX（011)671-5551